兵庫県文化財調査報告　第475冊

洲本市

久保ノ向遺跡

－（二）都志川農業構造改善等関連河川事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成27（2015）年３月

兵庫県教育委員会

洲本市

久保ノ向遺跡

－（二）都志川農業構造改善等関連河川事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成27（2015）年３月

兵 庫 県 教 育 委 員 会

調査地点遠景（北上空から）

調査地点全景（俯瞰・東上空から）

巻頭写真図版２

Ⅰ区中央遺構検出状況（南から）

Ⅰ区西建物群柱穴全景（南から）

出土輸入陶磁器（表）

出土輸入陶磁器（裏）

巻頭写真図版４

土坑出土土器（集合）

出土金属器

例　言

1　本書は、洲本市五色町鮎原三野畑に所在する久保ノ向遺跡の発掘調査報告書である。

2　本調査は、(二)都志川農業構造改善等関連河川事業に伴うもので、兵庫県淡路県民局洲本土木事務所の依頼に基づき、兵庫県教育委員会を調査主体として、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部を調査機関として実施した。

3　調査の推移

（発掘調査）

確認調査　　平成13年10月１日～11月19日

実施機関：兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所

本発掘調査　平成19年１月15日～３月20日

実施機関：兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所

工事請負：才花建設株式会社

（出土品整理作業）

平成25年４月１日～平成26年３月31日

実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

平成26年４月１日～平成27年３月25日

実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

4　本書の編集・執筆は、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部　鐵英記と山田清朝が担当した。

5　本調査において出土した遺物や作成した写真・図面類は、兵庫県教育委員会（兵庫県立考古博物館）で保管している。

6　空中写真測量は、株式会社ジャパックスに委託して実施した。

7　遺物写真撮影は、株式会社クレアチオに委託して実施した。

8　本書に用いた方位は座標北を示す。また、標高は東京湾平均海水準を基準とした。

9　発掘調査及び報告書の作成にあたっては以下の機関、および個人にご教示を得た。

洲本市教育委員会　兵庫県立考古博物館

金田　匡史　　岡田　章一

10　遺構番号は調査時のものを踏襲している。

11　土器の断面表現は以下のとおりである。

弥生土器・土師器－白抜き　　須恵器－ベタ塗り

黒色土器・瓦器－同一トーンで濃淡　　白磁／青磁・染付－同一トーンで濃淡

目　　次

第１章　地理的・歴史的環境
第１節　地理的環境……（1）
第２節　歴史的環境……（1）

第２章　調査の経緯
第１節　調査の起因……（8）
第２節　本発掘調査……（8）
第３節　出土品整理作業……（9）

第３章　調査の成果
第１節　遺構……（10）
第２節　遺物……（19）

第４章　総括 ……（34）

巻首写真図版目次

巻首写真図版１　調査地点遠景（北上空から）
調査地点全景（俯瞰・東上空から）
巻首写真図版２　Ⅰ区中央遺構検出状況（南から）
Ⅰ区西建物群柱穴全景（南から）
巻首写真図版３　出土輸入陶磁器（表）
出土輸入陶磁器（裏）
巻首写真図版４　土坑出土土器（集合）
出土金属器

挿　図　目　次

第１図　遺跡の位置　周辺地形図　周辺遺跡図
第２図　遺跡周辺微地形・遺跡分布図
第３図　現地説明会状況
第４図　小学生発掘体験状況

図　版　目　次

図版１　Ⅰ区平面図・断面図
図版２　Ⅱ区平面図・断面図
図版３　Ⅰ区遺構配置図（１）
図版４　Ⅰ区遺構配置図（２）
図版５　SB01　平面図・断面図
図版６　SB02　平面図・断面図
図版７　SB03　平面図・断面図
図版８　SB04　平面図・断面図
図版９　SB05　平面図・断面図
図版10　SB06　平面図・断面図
図版11　SB07　平面図・断面図
図版12　SB08　平面図・断面図
図版13　SB09　平面図・断面図
図版14　SB10　平面図・断面図
図版15　SB11　平面図・断面図
図版16　SB12　平面図・断面図
図版17　SB13　平面図・断面図
図版18　SB14　平面図・断面図
図版19　SB15　平面図・断面図
図版20　SB16　平面図・断面図

図版21　SB17　平面図・断面図
図版22　SB18　平面図・断面図
図版23　SB19　平面図・断面図
図版24　SB20　平面図・断面図
図版25　SB21　平面図・断面図
図版26　SB22　平面図・断面図
図版27　SB23　平面図・断面図
図版28　SB24・SB25　平面図・断面図
図版29　SB26　平面図・断面図
図版30　土坑墓　平面図・断面図
図版31　Ⅰ区　土坑断面図
図版32　Ⅰ区　溝　Ⅱ区　土坑・溝断面図
図版33　出土遺物実測図　土器（1）
図版34　出土遺物実測図　土器（2）
図版35　出土遺物実測図　土器（3）
図版36　出土遺物実測図　土器（4）
図版37　出土遺物実測図　土器（5）
図版38　出土遺物実測図　土器（6）
図版39　出土遺物実測図　土器（7）
図版40　出土遺物実測図　鉄器
図版41　出土遺物実測図　石器・石製品

写真図版目次

写真図版１　遺構
　調査区全景（俯瞰・上が北）
　調査区全景（西から）
写真図版２　遺構
　Ⅰ区全景（西から）
　Ⅰ区全景（東から）
写真図版３　遺構
　Ⅱ区全景（西から）
　Ⅱ区東半部（西から）
写真図版４　遺構
　SB01　東から
　P231（SB01）・P232（SB12）　北から
　P241（SB01）　北から
　P425（SB05）・P426（SB01）　北東から
　P166（SB01）　南から
写真図版５　遺構
　P342（SB01）　南から
　P385（SB01）　南から
　P507（SB01）　西から
　P184（SB01）・P183（SB10）　東から
　P438（SB01）・P437（SB10）　南西から
　P481（SB01）・P482（SB10）　西から
写真図版６　遺構
　SB02　北から
　P852（SB02）　西から
　P549（SB02）　東から
　P517（SB02）　西から
　P845（SB02）　西から
　P884（SB02）　西から
写真図版７　遺構
　SB03　北から
　P545（SB03）・P544　西から
　P516・P515（SB03）　西から
　P509（SB03）　東から
　P881（SB03）　東から
写真図版８　遺構
　P858（SB03）　東から
　P854（SB03）　東から
　P847（SB03）　東から
　P832（SB03）　西から
　SB04　西から
写真図版９　遺構
　P541（SB04）　北から
　P310（SB04）　西から
　P431（SB04）・P430　北西から
　P431（SB04）　土器出土状況　北西から
　SK19（SB04）　南から
　P447（SB04）　北から
　P355（SB04）　南から
　P586（SB04）　西から
写真図版10　遺構
　P581（SB04）　西から
　P554（SB04）　西から
　P519（SB04）　西から

P355（SB04）　南から
P138（SB05）　東から
P266（SB05）　東から
P264（SB05）　西から
P198・P199（SB05）　東から
写真図版11　遺構
P177（SB05）　東から
P467（SB05）　西から
P461（SB05）・P462　西から
P425（SB05）・P426（SB01）　北東から
P308（SB05）・P362（SB06）　北西から
P276（SB05）　北から
P320・P321（SB06）・P322（SB05）　東から
P326（SB05）　南から
写真図版12　遺構
P122（SB06）　東から
P128（SB06）　南から
P132（SB06）　南から
P151（SB06）　南から
P111（SB06）　東から
P60（SB06）　東から
P140（SB06）　東から
P142（SB06）　北から
写真図版13　遺構
P83（SB06）・P84（SB19）　北東から
P217（SB06）　北から
P420（SB06）・P421　北から
SB07　南から
写真図版14　遺構
P207（SB07）　東から
P224（SB07）　北から
P304（SB07）　北から
P407（SB07）　南から
P559（SB07）　西から
P479（SB07）　東から
P490（SB07）・P491（SB10）　西から
P382（SB07）　南から
写真図版15　遺構
P340（SB07）　南から
P346（SB07）　南から
SB08　南から
P253（SB08）　北から
P434（SB12）・P433（SB08）　北から
写真図版16　遺構
P443（SB08）　北から
P580（SB08）　北から
P329（SB08）・P327　東から
P378（SB08）　南から
P526（SB08）土器出土状況　西から
P526（SB08）・P527　西から
写真図版17　遺構
P485（SB08）　南から
P312（SB08）　東から
P555（SB08）　西から
P555（SB08）土器出土状況　西から
SB09　東から
写真図版18　遺構
P76（SB09）　東から
P228（SB09）　東から
P148（SB09）　南から
P148（SB09）土器出土状況　南から
P169（SB09）　南から
P316（SB09）　西から
P338（SB09）・P882　南から
P368（SB09）　南から
写真図版19　遺構
P418・P244（SB09）　北から
SK18（SB09）　南から
SB10　東から
P213（SB10）　南から
P249（SB10）　北から
写真図版20　遺構
P246（SB10）　北から
P571（SB10）　西から
P164・P165（SB10）　南から
P345（SB10）・P344　北から
P375（SB10）　南から
P490・P491（SB10）　西から
P184（SB01）・P183（SB10）　東から
P229（SB10）　東から
写真図版21　遺構
P477（SB10）　東から
SB11　南から
P608（SB11）　西から

P591（SB11）　西から
写真図版22　遺構
P569（SB11）　西から
P630（SB11）　南から
P566（SB11）　南から
SB12　南から
写真図版23　遺構
P231（SB01）・P232（SB12）　北から
P243（SB12）　北から
P434（SB12）・P433（SB08）　北から
P440（SB12）・P441　西から
P227（SB12）　東から
P889（SB12）・P192　南から
P317（SB12）・P318　南西から
P401（SB12）　南から
写真図版24　遺構
P201（SB12）・P203　南西から
P404・P405（SB12）　北西から
P284（SB13）　東から
P473（SB13）　北から
P595（SB13）　西から
P247・P250（SB13）・P251　北から
P424（SB13）　北から
P438（SB01）・P437（SB13）　北から
写真図版25　遺構
P287（SB13）　東から
P588（SB13）・P587　北西から
SB14　東から
P468（SB14）　西から
P431（SB04）・P430（SB14）　北西から
写真図版26　遺構
P306・P307（SB14）　北から
P599（SB14）　西から
P590（SB14）　東から
P575（SB14）　西から
P475（SB14）　東から
P471（SB14）　北から
P402（SB14）　西から
写真図版27　遺構
SB15　南から
P457（SB15）　北西から
P419（SB15）　北から
P313（SB15）　東から
P335（SB15）　南から
写真図版28　遺構
P589（SB15）　西から
P565（SB15）　西から
P538・P539（SB15）　北から
P518（SB15）　西から
P444（SB15）　北から
P384（SB15）・P385　南から
P97（SB16）・P98　南から
P101（SB16）　北から
写真図版29　遺構
P182（SB16）　北から
P196（SB16）　東から
P145（SB16）　南から
P153（SB16）　南から
P121（SB16）　東から
P223（SB16）　西から
SB17　西から
写真図版30　遺構
P50（SB17）　東から
P44（SB17）　西から
P63（SB17）　東から
P53（SB17）　西から
P52（SB17）　西から
P38（SB17）　東から
SB18　東から
写真図版31　遺構
P141（SB18）　東から
P123（SB18）　東から
P234（SB18）　北から
P195（SB18）　東から
P176（SB18）　東から
P152（SB18）　南から
P146（SB18）　南から
P129（SB18）　南から
写真図版32　遺構
SB19　東から
P32（SB19）　東から
P58（SB19）　東から
P117（SB19）・P118　東から
P68（SB19）　東から

写真図版33　遺構
P84（SB19）・P83（SB06）　北から
P103（SB19）　北から
P134（SB19）　東から
P143（SB19）　東から
SB20　北から
P39（SB20）　南から
P34（SB20）　西から
写真図版34　遺構
P26（SB20）　南から
P23（SB20）　南から
P17（SB20）　南から
SB21　南から
写真図版35　遺構
P650（SB21）　東から
P716（SB21）　東から
P683・P682（SB21）　西から
SB22　南から
写真図版36　遺構
P741（SB22）・P742　東から
P745（SB22）　南から
P700（SB22）・P701　南から
P680（SB22）　西から
P665（SB22）　西から
SB23　南東から
写真図版37　遺構
P638（SB23）　東から
P724（SB23）　東から
P735（SB23）　東から
P654（SB23）　西から
P709（SB23）　西から
P705（SB23）　西から
P646（SB23）　南から
写真図版38　遺構
P823（SB24）　北から
P820（SB24）　北から
P815（SB24）　北から
P723・P721（SB25）　東から
P708（SB25）　西から
P799（SB26）　東から
写真図版39　遺構
Ⅰ区　SK04　南から
Ⅰ区　SK04　東から
Ⅰ区　SK04　土器出土状況　東から
写真図版40　遺構
Ⅰ区　SK21　東から
Ⅰ区　SK21　南から
Ⅰ区　SK21　土器出土状況　東から
写真図版41　遺構
Ⅱ区　SK04　東から
Ⅱ区　SK04　南から
Ⅱ区　SK04完掘　南から
写真図版42　遺物　出土土器（1）
写真図版43　遺物　出土土器（2）
写真図版44　遺物　出土土器（3）
写真図版45　遺物　出土土器（4）
写真図版46　遺物　出土土器（5）
写真図版47　遺物　出土土器（6）
写真図版48　遺物　出土土器（7）
写真図版49　遺物　出土土器（8）
写真図版50　遺物　出土土器（9）
写真図版51　遺物　出土土器（10）
写真図版52　遺物　出土土器（11）
写真図版53　遺物　出土土器（12）
写真図版54　遺物　出土土器（13）
写真図版55　遺物　出土土器（14）
写真図版56　遺物　出土土器（15）
写真図版57　遺物　出土土器（16）
写真図版58　遺物　出土石器・石製品
写真図版59　遺物　出土鉄器・スラッグ

表　目　次

出土土器一覧表　1
出土土器一覧表　2
出土土器一覧表　3
出土土器一覧表　4
出土土器一覧表　5
出土土器一覧表　6
出土土器一覧表　7
出土土器一覧表　8

第１章　地理的・歴史的環境

第１節　地理的環境

遺跡の位置

久保ノ向遺跡は洲本市五色町鮎原三野畑に位置する。洲本市は淡路島の中央に位置し、市域の北側は淡路市、南側は南あわじ市と接している。また、東側は大阪湾に面し、西側は播磨灘に面している。

久保ノ向遺跡は平成18年の市町合併で洲本市となった旧津名郡五色町に所在する。旧五色町は洲本市の中でも北西部を占め、播磨灘に面するとともに地域の大半は丘陵地帯となっている。

わずかに、旧町域を東から西へ流れる都志川と鳥飼川により、河口部に小規模な平野部が形成されている。都志川は全長約９㎞の小規模な河川で、この上流部に形成された小規模な盆地が遺跡の所在する鮎原地区である。

地形的環境

淡路島の地形は断層活動により相対的に上昇した山地と、相対的に下降した丘陵と低地で構成されている。地質の面では六甲山地から連続する領家帯の花崗岩類の岩体から構成される北部から中部の山地・丘陵と、和泉山地から連続する和泉層群の花崗岩類の岩体から構成される南部の諭鶴羽山地に分類することができる。そして、これらの岩体を大阪層群に属する砂礫・粘土層が覆っている。

久保ノ向遺跡の所在する旧五色町は中部に位置し、遺跡周辺は特に丘陵の発達した地域で、標高250m以下の低丘陵からなる。丘陵の中でもやや高い部分は花崗岩類からなり、それ以外は大阪層群からなる。そして、この丘陵地帯にはいくつかの小河川があり、これらの小河川を中心に多くの小谷および谷底平野が形成されている。久保ノ向遺跡の基盤層は、上記花崗岩類の開削に由来すると思われる砂礫層となっている。弥生土器が出土していることから、この頃に形成された扇状地であると思われる。

周辺の微地形

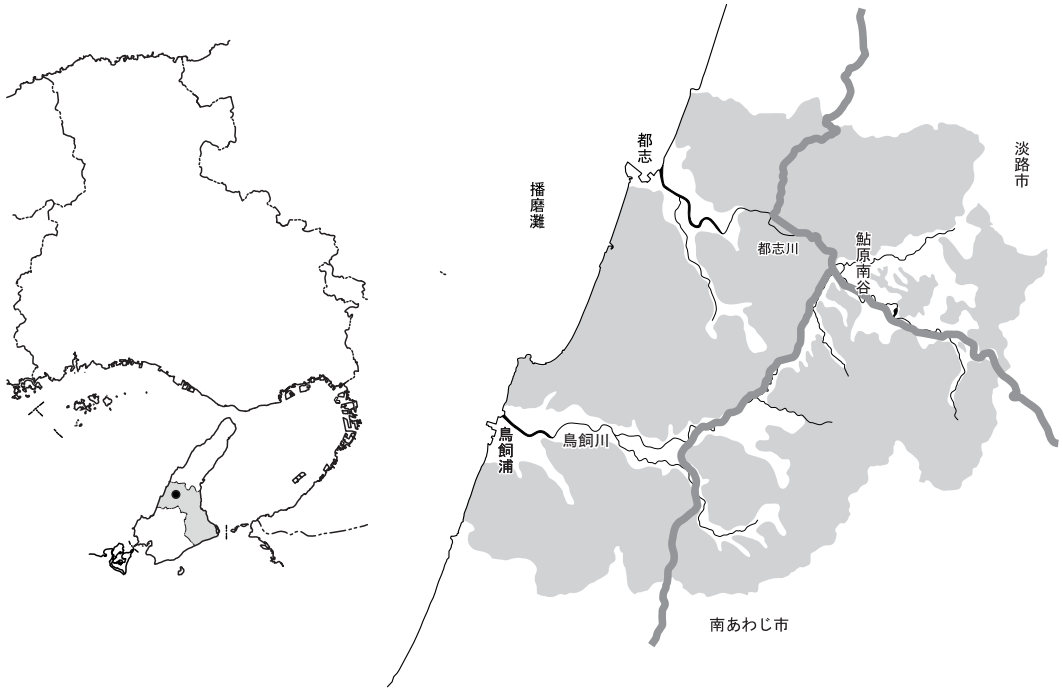
これらの河川のうち、代表的な一つが都志川である。この都志川の中流、大きく蛇行した都志川と搭下川との合流地点に久保ノ向遺跡は所在する。久保ノ向遺跡は川に面した中位段丘面に立地し、搭下川の川床より約６ｍの比高が認められる。

久保ノ向遺跡は中位段丘面に位置するが、その微地形は平坦ではなく、南東から北西に向かっての傾斜地になっており、北西側は都志川によって形成された段丘崖となっている。（鐵）

第２節　歴史的環境

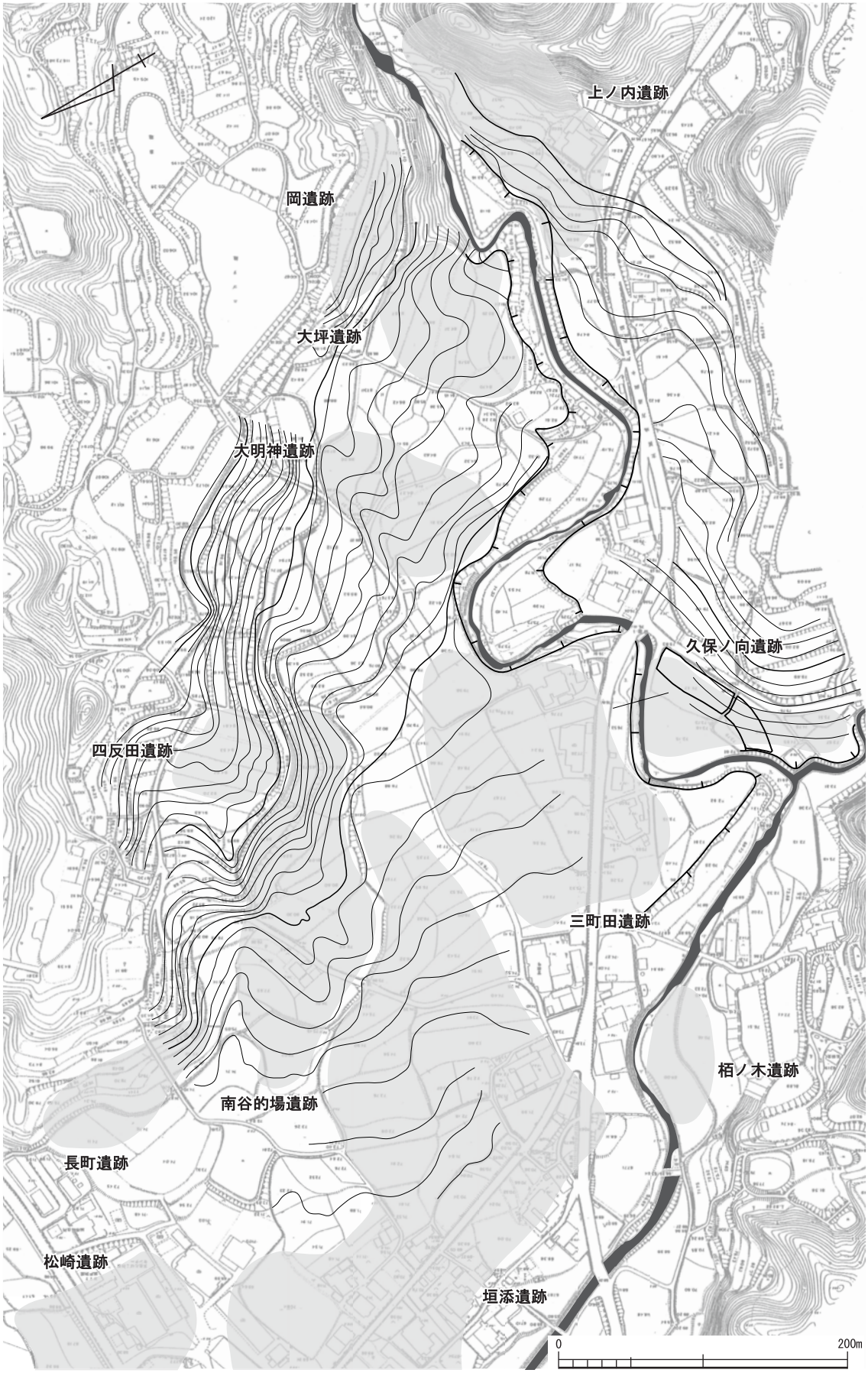
はじめに

当地域は、基盤整備事業に伴う確認調査が行われる以前は、調査が全く行われず、松崎遺跡・垣添遺跡等数遺跡を除いては不明であった。ところが、基盤整備事業に伴い分布調査・確認調査を実施したところ、多くの埋蔵文化財包蔵地が明らかとなった（第１図）。そこで、これら南谷周辺の遺跡について、遺跡ごとにその概要をみていくことにする。



1. 久保ノ向遺跡	2. 大坪遺跡	3. 大明神遺跡	4. 岡遺跡	5. 上ノ内遺跡
6. 上ノ原遺跡	7. 三町田遺跡	8. 栢ノ木遺跡	9. 追手遺跡	10. 垣添遺跡
11. 南谷的場遺跡	12. 四反田遺跡	13. 長町遺跡	14. 松崎遺跡	15. 岩見遺跡
16. 深田遺跡	17. 岡ノ坂遺跡	18. 新遠田遺跡	19. 高田遺跡	20. 観音堂遺跡
21. 治郎ノソリ遺跡	22. 西裏遺跡	23. 岡ノ飼手遺跡	24. 土橋遺跡	25. 竹ノ下遺跡

第１図　遺跡の位置　周辺地形図　周辺遺跡図



第２図　遺跡周辺微地形・遺跡分布図

南谷地区の遺跡

大坪遺跡　平成14年度に調査が行われている。弥生時代の土坑と中世の掘立柱建物跡などが検出されている。[1]

大明神遺跡　大坪遺跡と同時に調査が行われている。調査の結果、弥生時代の竪穴住居、中世の掘立柱建物等が検出されている。

この他、五色町教育委員会（現洲本市教育委員会：以下省略）によって３次におよぶ本発掘調査が行われている。第１次調査は、平成11年度に行われている。調査の結果、中世後期の柱穴や土坑が検出されている。[2] 第２次調査は、平成12年度に行われている。調査の結果、中世後期の掘立柱建物跡が２棟検出されている。[3] 第３次調査（平成14年度）調査は、弥生時代の谷及び、鎌倉時代の掘立柱建物・室町時代の掘立柱建物などが検出されている。[4]

岡遺跡　五色町教育委員会による平成10年度の確認調査で、中世の土坑が確認されている。[5]

上ノ内遺跡　五色町教育委員会による平成10年度の確認調査で、弥生時代の流路状遺構と中世の遺物包含層が確認されている。[6]

上ノ原遺跡　平成11年度に、基盤整備促進事業に伴い、五色町教育委員会により確認調査が行われている。調査の結果、弥生時代と中世の遺構および包含層を確認した。弥生時代では、柱穴・溝・土坑などの遺構を検出し、溝については竪穴住居の可能性も考えられている。出土土器から、後期と考えられている。中世については、柱穴が検出されている。包含層からは、東播系須恵器や瓦器・土師器が出土しており、これらの遺物から13世紀前後と考えられている。[7]

また、平成12年度に第２次調査が行われている。調査の結果、弥生時代後期前半と中世（12世紀後半～13世紀前半）の遺構が検出されている。弥生時代の遺構としては、溝・土坑・柱穴が、中世の遺構としては掘立柱建物跡・溝・土坑・柱穴が、それぞれ検出されている。[8]

久保ノ向遺跡　平成18年度に、兵庫県教育委員会と洲本市教育委員会により、本発掘調査が行われている。兵庫県教育委員会の調査については、本書で報告する。鎌倉時代前半の掘立柱建物群及び土坑墓・土坑等が検出されている。この他、火葬墓と考えられる遺構も検出されている。遺物としては、瓦器・土師器・須恵器等とともに、青磁・白磁が比較的多く出土している。[9] そして、これらの遺構・遺物から、当地が屋敷地であった可能性が考えられている。大坪遺跡・大明神遺跡同様、兵庫県教育委員会と洲本市教育委員会が、隣接した地区を同時に調査を行っている。

三町田遺跡　平成14年度に基盤整備事業に伴い五色町教育委員会によって本発掘調査が行われている。調査の結果、弥生時代の竪穴住居跡・柱穴・土坑・溝、中世の掘立柱建物跡・柱穴・土坑・溝などが検出されている。竪穴住居については、後期初頭に位置付けられている。[10]

栢ノ木遺跡　平成13年度の兵庫県教育委員会による確認調査で、中世の土坑・柱穴・溝が確認されている。[11]

追手遺跡　数次にわたり調査が行われている。[12]

このうち、第２次調査においては、平成12年度に五色町図書館用地整備事業に伴い行わ

れている。調査の結果、弥生時代中期の遺物包含層と14世紀代の柱穴数穴や溝数条が明らかとなっている。

垣添遺跡　基盤整備事業に伴い平成14本年度に本発掘調査が行われている。当該調査では、弥生時代の溝状遺構と、中世の掘立柱建物跡と溝状遺構が検出されている。[13]

平成12年度には第２次調査が行われている。調査の結果、弥生時代後期の竪穴遺構と中世の石組み井戸が検出されている。[14] 井戸内からは、土師器皿・鍋、須恵器、瓦器、瓦質土器などが出土している。

また平成13年度には、第３次～第５次の本発掘調査が行われている。第３次調査では、ほぼ完存する弥生土器の壺が包含層から出土している。第４次調査では、中世の掘立柱建物跡が２棟検出されている。第５次調査では、弥生時代の溝と、中世の柱穴群が、それぞれ検出されている。[15]

南谷的場遺跡　平成12年度に、基盤整備事業に伴い、第１次と第２次の本発掘調査が行われている。第１次調査では、中世の溝と柱穴が、第２次調査では中世を中心とした柱穴・土坑・溝が検出されている。[16]

平成13年度においては、第３次と第４次におよぶ調査が五色町教育委員会により行われている。第３次調査では、弥生時代中期末～後期前半の竪穴住居・土坑、中世の掘立柱建物・土坑・溝等が検出されている。第４次調査では、弥生時代の竪穴住居、中世の土坑等が検出されている。[17]

四反田遺跡　平成11年度に、基盤整備事業に伴い五色町教育委員会により本発掘調査が行われている。調査の結果、弥生時代と中世の遺構・遺物が明らかとなっている。弥生時代の遺構としては円形の竪穴住居跡が２棟検出されている。中世の遺構としては、６棟の掘立柱建物跡が検出され、12世紀～14世紀代と考えられている。特に、４面に庇を有する建物が注目される。[18]

平成12年度には、第１次調査の南側に隣接して、第２次調査が行われている。中世の掘立柱建物群と小溝群・土坑が検出されている。[19]

長町遺跡　平成12年度に基盤整備事業に伴い、五色町教育委員会により本発掘調査が行われている。調査の結果、弥生時代後期の溝、中世の土坑墓が検出されている。土坑墓内からは副葬されたと考えられる青磁碗が完形で出土している。[20]

松崎遺跡　五色町教育委員会による平成10年度の確認調査で、中世の遺物包含層が確認されている。[21]

岩見遺跡　弥生土器・須恵器・土師器・瓦器の散布地として周知されている遺跡である。しかし、平成14年度に、携帯電話用基地局設置工事に伴い五色町教育委員会により確認調査が行われたが、遺構・遺物は確認されていない。[22]

深田遺跡　調査歴はないが、兵庫県遺跡地図によると、中世土器（瓦器・土師器・須恵器）の散布地として周知されている。

岡ノ坂遺跡　調査歴はないが、兵庫県遺跡地図によると、弥生土器の散布地として周知されている。

新遠田遺跡　調査歴はないが、兵庫県遺跡地図によると、弥生土器と中世土器（瓦器・土師器・須恵器）の散布地として周知されている。

高田遺跡　調査歴はないが、兵庫県遺跡地図によると、弥生土器と中世土器（瓦器・土師器・須恵器）の散布地として周知されている。

観音堂遺跡　調査歴はないが、兵庫県遺跡地図によると、中世土器（瓦器・土師器・須恵器）の散布地として周知されている。

治郎ノソリ遺跡　調査歴はないが、兵庫県遺跡地図によると、弥生土器と中世土器（瓦器・土師器・須恵器）の散布地として周知されている。

西裏遺跡　平成９年度に、圃場整備事業に伴い発掘調査が行われている。調査の結果、土坑群からなる近世初頭の鍛冶屋跡が検出されている。このほか、弥生時代以降の遺物が出土していることから、弥生時代から続く複合遺跡と考えられている。[23]

岡ノ飼手遺跡　調査歴はないが、兵庫県遺跡地図によると、弥生土器とサヌカイト製石鏃の散布地として周知されている。

土橋遺跡　調査歴はないが、兵庫県遺跡地図によると、中世土器（瓦器・土師器・須恵器）の散布地として周知されている。

竹ノ下遺跡　調査歴はないが、兵庫県遺跡地図によると、弥生土器の散布地として周知されている。

（山田）

〔註〕

(1) 山田清朝『大坪遺跡・大明神遺跡－(二)都志川農業構造改善等関連河川事業に伴う埋蔵文化財調査報告』兵庫県教育委員会　2014
足立敬介「大坪遺跡」『津名郡埋蔵文化財発掘調査年報Ⅵ－平成14年度　埋蔵文化財発掘調査－』津名郡町村会　2004

(2) 足立敬介「大明神遺跡」『津名郡埋蔵文化財発掘調査年報Ⅲ－平成11年度　埋蔵文化財発掘調査－』津名郡町村会　2001

(3) 足立敬介「大明神遺跡」『津名郡埋蔵文化財発掘調査年報Ⅳ－平成12年度　埋蔵文化財発掘調査－』津名郡町村会　2001

(4) 足立敬介「大明神遺跡－第３次調査－」『津名郡埋蔵文化財発掘調査年報Ⅵ－平成14年度　埋蔵文化財発掘調査－』津名郡町村会　2004

(5) 教育委員会の御教示

(6) 教育委員会の御教示

(7) 大石雅一「上ノ原遺跡」『津名郡埋蔵文化財発掘調査年報Ⅱ－平成10年度　埋蔵文化財発掘調査－』津名郡町村会　2000

(8) 大石雅一「上ノ原遺跡－第２次調査－」『津名郡埋蔵文化財発掘調査年報Ⅳ－平成12年度　埋蔵文化財発掘調査－』津名郡町村会　2001

(9) 山田清朝「久保ノ向遺跡」『平成18年度　兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所年報』兵庫県立考古博物館　2007

(10) 足立敬介「三町田遺跡」『津名郡埋蔵文化財発掘調査年報Ⅵ－平成14年度　埋蔵文化財発掘調査－』津名郡町村会　2004

(11) 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所『平成13年度　年報』2002

(12)教育委員会の御教示

(13)足立敬介「垣添遺跡－第６次調査－」『津名郡埋蔵文化財発掘調査年報Ⅵ－平成14年度　埋蔵文化財発掘調査－』津名郡町村会　2004

(14)足立敬介「垣添遺跡－第２次調査－」『津名郡埋蔵文化財発掘調査年報Ⅳ－平成12年度　埋蔵文化財発掘調査－』津名郡町村会　2001

(15)足立敬介「垣添遺跡－第３～５次調査－」『津名郡埋蔵文化財発掘調査年報Ⅴ－平成13年度　埋蔵文化財発掘調査－』津名郡町村会　2003

(16)足立敬介「南谷的場遺跡－第１・２次調査－」『津名郡埋蔵文化財発掘調査年報Ⅳ－平成12年度　埋蔵文化財発掘調査－』津名郡町村会　2001

(17)足立敬介「南谷的場遺跡－第３・４次調査－」『津名郡埋蔵文化財発掘調査年報Ⅴ－平成13年度　埋蔵文化財発掘調査－』津名郡町村会　2003

(18)足立敬介「四反田遺跡」『津名郡埋蔵文化財発掘調査年報Ⅲ－平成11年度　埋蔵文化財発掘調査－』津名郡町村会　2001

(19)足立敬介「四反田遺跡－第２次調査－」『津名郡埋蔵文化財発掘調査年報Ⅳ－平成12年度　埋蔵文化財発掘調査－』津名郡町村会　2001

(20)足立敬介「長町遺跡」『津名郡埋蔵文化財発掘調査年報Ⅳ－平成12年度　埋蔵文化財発掘調査－』津名郡町村会　2001

(21)教育委員会の御教示

(22)教育委員会の御教示

(23)教育委員会の御教示

第２章　調査の経緯

第１節　調査の起因

当地においては、兵庫県淡路県民局洲本土木事務所が、都志川農業改善等関連河川事業を進めている。当該事業は、鮎原地区で計画されている圃場整備事業と連動するものである。具体的には、当地を大きく蛇行し流れる都志川を、圃場整備に合わせ、直線化するものである。

工事概要

工事は、当地を大きく蛇行する都志川をショートカットするものである。つまり、河川新たに掘削する事業である。その区間は、長さ200m、幅25mにおよぶものである。さらに、新たに河川の両側に側道を付ける予定である。後述するように、確認調査の結果、当該工事予定地内に埋蔵文化財の包蔵地が存在することが明らかとなったため、本発掘調査を実施することとなったものである。今回報告するのは、主要地方道洲本・五色線に架かる美南橋の下流側、久保ノ向遺跡に係る箇所である。

なお、側道部分に関しては、五色町教育委員会（当時）が、本報告の調査と平行して本発掘調査を実施した。

確認調査

当地においては、圃場整備に伴い五色町教育委員会により確認調査が行われていた。この結果を受け、河川改修工事に係る箇所について、改めて兵庫県教育委員会が平成13年度に実施した。この結果、大坪遺跡・大明神遺跡・久保ノ向遺跡・三町田遺跡・栢ノ木遺跡において、事業予定地内に遺構・遺物が存在することが明らかとなった。本書は、その中の、久保ノ向遺跡の調査成果の報告である。

以上の状況のもと、確認調査は、久保ノ向遺跡においては４箇所に２ｍ×４ｍのトレンチを設定して行われた。この結果、３箇所のトレンチで須恵器・土師器・瓦器等が出土し、柱穴・溝などの存在が明らかとなった。以上から、当地には鎌倉時代の遺構・遺物が包蔵されていることが明らかとなった。このため、当地において本発掘調査を行うこととなったものである。

調査体制

確認調査の体制等は以下の通りである。

遺跡調査番号　2001131

調査主体　　兵庫県教育委員会

調査担当　　兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

　　調査第１班　深井明比古・服部　寛

調査期間　　平成13年10月１日～11月19日

第２節　本発掘調査

調査の概要

調査予定地内を南北に水路が横断していたため、調査区をⅠ区・Ⅱ地区にわけて調査を実施した。調

査は遺物包含層上面まで重機により掘削し、以下を人力により掘削していった。調査成果については、３月１日にヘリコプターによる空中写真測量を実施した。

なお、調査中、地元鮎原小学校４年生63名を対象に体験発掘を実施し、３月３日には一般市民を対象にした現地説明会を開催した。

調査体制

遺跡調査番号　2006113

調査主体　　兵庫県教育委員会

調査担当　　兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

調査第３班　山田清朝・鐵　英記

調査期間　　平成19年１月15日～３月20日

第３図　現地説明会状況

第４図　小学生発掘体験状況

第３節　出土品整理作業

平成25年と平成26年の２箇年にわたり、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部で実施した。出土土器の水洗については本発掘調査と併行して実施した。

平成25年度

土器の接合・復元、鉄器の保存処理および遺物全般の実測、写真撮影を行った。

整理体制

整理保存課　深江英憲　長濱誠司　岡本一秀

調査第１課　鐵　英記

嘱　託　員　森本貴子　荻野麻衣　桂　昭子　島村順子　佐々木愛　梶原奈津子　加古千恵子

平成26年度

遺構図の製図、トレース原図の作成・トレース、写真図版の作成を行った。

整理体制

整理保存課　菱田淳子　長濱誠司　岡本一秀

調査第２課　鐵　英記

嘱　託　員　柏原美音　古谷　章子　杉村明美　宮田麻子　寺西梨紗　佐々木誓子　　（鐵）

第３章　遺構と遺物

第１節　遺構

Ⅰ区とⅡ区で掘立柱建物跡、ピット、土坑（墓）、溝を検出した。遺構の密度としてはⅠ区がⅡ区をはるかに上回っている。以下、地区ごとに遺構の概略を報告する。

Ⅰ区の遺構（図版１：写真図版１・２）

基本層序

Ⅰ区は本来南から北に向かって低くなる地形をならして水田を営んでいる。基本的な層序は上から表土・耕作土、次に歴代の旧耕土や床土と考えられる粗砂混じり粘質シルト層があり、その下に遺物を多く含む粘質シルト混じり粗砂層、遺構のベースとなる礫混じり粗砂層が堆積している。これらの堆積層は粗砂を多く含み、ベースも含めて河川の影響を強く受けて形成されたものと考えられる。

掘立柱建物跡

800基以上のピットを検出したが、その中から抽出できた掘立柱建物は26棟である。これらの建物は大きく二つの群に分かれていると考えられる。本報告ではこの二つの群を東建物群、西建物群として記述し、SB01からSB20が東建物群、SB21からSB26が西建物群と捉えている。

なお、建物を構成する以外のピットについては、規模は建物に伴う柱穴と変わらないことから、個別の記述は省略している。

SB01（図版５：写真図版４・５）

梁行２間×桁行４間の側柱建物である。すべての柱穴を検出しており、梁行は柱のとおりが良いが、桁行は若干乱れる。東西棟で、桁行方向を基準にした棟軸はN70° Eである。SB04～10、SB12～16、SB18と平面的に重複する。特にSB07・SB08・SB10とは重なる面積が大きく、棟方向もほぼ同一である。柱穴の間隔は心心間で梁行7.5m、桁行11.5mを測り、それに基づいた面積は約86.3㎡である。なお、東端の１間分については他の柱間より短くなっているが、棟持柱の位置から棟に含めている。

柱穴は円形でその規模は直径20～50cm、検出面からの深さ５～40cmで規模にばらつきがある。P438から土師小皿（１・２）、瓦器小皿（３）、瓦器椀（４・５）が出土している。

SB02（図版６：写真図版６）

梁行２間×桁行２間以上の側柱建物である。南半は調査区外に伸びる。南北棟であり、SB03と一部が平面的に重複する。梁行・桁行とも柱のとおりが良い。桁行方向を基準にした棟軸はN18° Wである。柱穴の間隔は心心間で梁行3.7m、桁行4.2m以上を測る。

柱穴は円形でその規模は直径35cm前後、検出面からの深さ30～40cmである。

SB03（図版７：写真図版７・８）

梁行１間×桁行４間以上の側柱建物である。南端は調査区外となる。南北棟であり、SB02と一部が平面的に重複する。梁行・桁行とも柱の通りは良い。桁行方向を基準にした棟軸はN21° Wである。柱穴の間隔は心心間で梁行4.0m、桁行5.1mを測る。

柱穴は円形でその規模は直径20～40cm、検出面からの深さ20～60cmで規模にばらつきがある。P545から瓦器椀（６）、P515から白磁碗（７）が出土している。

SB04（図版８：写真図版８～10）

梁行２間×桁行３間の側柱建物である。すべての柱穴を検出しており、梁行は少し乱れるが、桁行の柱のとおりは良い。桁行方向を基準にした棟軸はN19° Wである。南北棟であり、SB01・SB07～10・SB11～15と一部が平面的に重複する。柱穴の間隔は心心間で梁行6.5m、桁行8.0mを測り、それに基づいた面積は約52㎡である。

柱穴は円形でその規模は直径20～40cm、検出面からの深さ15～45cmで規模にばらつきがある。

P431から土師器小皿（８）、P581から土師器皿（９）、P451から土師器椀（10・11）、P447から土師器羽釜・甕（12・13）、P310から瓦器小皿・弥生土器（14・16）、P554から瓦器椀（15）が出土している。

SB05（図版９：写真図版10・11）

梁行２間×桁行４間の側柱建物である。すべての柱穴を検出しており、梁行・桁行とも柱のとおりは良い。桁行方向を基準にした棟軸はN22° Wである。南北棟であり、SB01・SB07～10・SB12～15と一部が平面的に重複する。柱穴の間隔は心心間で梁行4.8～4.9m、桁行10.9～11.1mを測り、それに基づいた面積は約53.5㎡である。

柱穴は円形でその規模は直径20～50cm、検出面からの深さ８～55cmで規模にばらつきがある。

P461から土師器皿（17）、P425から土師器小皿・瓦器椀・白磁碗（18・19・20）が出土している。

SB06（図版10：写真図版12・13）

梁行３間×桁行４間の側柱建物である。すべての柱穴を検出しており、梁行は柱のとおりが良いが、桁行は乱れがある。桁行方向を基準にした棟軸はN68° Eである。東西棟であり、SB01・SB05・SB07～10・SB16・SB18・SB19と一部が平面的に重複する。柱穴の間隔は心心間で梁行7.7～7.8m、桁行11.5mを測り、それに基づいた面積は約89.1㎡である。

柱穴は円形でその規模は直径20～40cm、検出面からの深さ15～40cmで規模にばらつきがある。

P132から土師器小皿・瓦器椀（21・24）、P217から土師器小皿・土師器椀（22・23）が出土している。

SB07（図版11：写真図版13～15）

梁行２間×桁行４間の側柱建物である。すべての柱穴を検出しており、梁行・桁行とも柱のとおりは良い。桁行方向を基準にした棟軸はN75° Eである。東西棟であり、SB01・SB05・SB06・SB08～10・SB12・SB14～16・SB18・SB19と一部が平面的に重複する。

柱穴の心心間で梁行5.0m、桁行9.2～9.4mを測り、それに基づいた面積は約46.5㎡である。

柱穴は円形でその規模は直径20～40cm、検出面からの深さ８～40cmで規模にばらつきがある。

P346から土師器小皿（25・27）、P304から土師器小皿・白磁碗（26・30）、P224から土師器小皿（28）、P407から土師器脚付皿（29）が出土している。

SB08（図版12：写真図版15～17）

梁行２間×桁行４間の側柱建物である。すべての柱穴を検出しており、梁行・桁行とも柱のとおりは良い。桁行方向を基準にした棟軸はN72° Eである。東西棟であり、SB01・SB04～07・SB09・SB10・SB12～15と一部が平面的に重複する。柱穴の間隔は心心間で梁行6.1m、桁行8.2～8.4mを測り、それに基づいた面積は約50.6㎡である。

柱穴は円形でその規模は直径30～60cm、検出面からの深さ18～40cmで規模にばらつきがある。P443から土師器小皿・瓦器椀（31・37・38）、P433から瓦器椀・青磁碗（34～36・42）、P526から土師器皿（33）・P555から土師器皿・瓦器椀・青磁碗（32・39・43）が出土している。

SB09（図版13：写真図版17～19）

梁行２間×桁行４間の側柱建物である。すべての柱穴を検出しており、梁行・桁行とも柱のとおりは良い。桁行方向を基準にした棟軸はN17° Wである。南北棟であり、SB01・SB05～08・SB10・SB12～16・SB18と一部が平面的に重複する。柱穴の間隔は心心間で梁行6.1m、桁行8.5mを測り、それに基づいた面積は約51.9㎡である。

柱穴は円形でその規模は直径20～40cm、検出面からの深さ20～40cmで規模にばらつきがある。P316から土師器小皿（44・45）、SK18から土師器小皿（46）、P301から土師器小皿（47）、P203から土師器羽釜（48）、P148から瓦器小皿・瓦器椀（49・50・51）が出土している。

SB10（図版14：写真図版19～21）

梁行３間×桁行３間以上の側柱建物である。すべての柱穴を検出しており、梁行・桁行とも柱のとおりは良い。桁行方向を基準にした棟軸はN74° Eである。東西棟であり、SB01・SB04～09・SB12～16・SB18と一部が平面的に重複する。柱穴の間隔は心心間で梁行6.2～6.4m、桁行10.0～10.2mを測り、それに基づいた面積は約63.6㎡である。

柱穴は円形でその規模は直径20～40cm、検出面からの深さ10～42cmで規模にばらつきがある。P229から土師器小皿・瓦器椀（52・56・58・60・62）、P477から土師器小皿（53）、P571から土師器小皿・瓦器椀（54・55・57・59）、P249から瓦器椀（61）、P486から瓦器椀（63）、P491から瓦器椀（64）が出土した。

SB11（図版15：写真図版21・22）

梁行２間×桁行２間以上の側柱建物である。北半は調査区外に延びており、梁行・桁行とも柱のとおりは良い。桁行方向を基準にした棟軸はN18° Wである。南北棟であり、SB04・SB15と一部が平面的に重複する。柱穴の間隔は心心間で梁行4.8m、桁行7.0m以上を測る。

柱穴は円形でその規模は直径20～40cm、検出面からの深さ10～34cmで規模にばらつきがある。P566から瓦器椀（65）が出土している。

SB12（図版16：写真図版22～24）

梁行２間×桁行３間の側柱建物である。すべての柱穴を検出しており、梁行・桁行とも柱のとおりは良い。桁行方向を基準にした棟軸はN73° Eである。東西棟であり、SB01・SB04～10・SB13～16・SB18と一部が平面的に重複する。柱穴の間隔は心心間で梁行4.8～5.0m、桁行8.6～8.8mを測り、それに基づいた面積は約42.6㎡である。

柱穴は円形でその規模は直径20～40cm、検出面からの深さ６～36cmで規模にばらつきがある。P405から瓦器椀（66）、P440から瓦器椀（67）、P232から瓦器椀（68）、P434から瓦器椀（69・70）が出土している。

SB13（図版17：写真図版24・25）

梁行２間×桁行３間以上の側柱建物である。北側桁行の１本以外は柱穴を検出しており、梁行は柱のとおりがよいが、南側桁行は南西隅が内側に折れる。桁行方向を基準にした棟軸はN73° Eである。東西棟であり、SB01・SB04・SB05・SB09・SB12・SB14と一部が平面的に重複する。柱穴の間隔は心心間で梁行4.0～4.6m、桁行7.6～7.9mを測り、それに基づいた面積は約33.3㎡である。

柱穴は円形でその規模は直径20～40cm、検出面からの深さ10～42cmで規模にばらつきがある。P250から土師器小皿・青磁碗（71・74）、P588からは瓦器椀（72）、P284から瓦器椀（73）が出土している。

SB14（図版18：写真図版25・26）

梁行２間×桁行３間の側柱建物である。すべての柱穴を検出しており、梁行・桁行とも柱のとおりは良いが南側梁の棟持柱がやや外に出る。桁行方向を基準にした棟軸はN21° Wである。南北棟であり、SB01・SB04・SB07～10・SB12・SB13と一部が平面的に重複する。柱穴の間隔は心心間で梁行4.6～4.9m、桁行8.3～8.6mを測り、それに基づいた面積は約40.1㎡である。

柱穴は円形でその規模は直径30～40cm、検出面からの深さ８～34cmで規模にばらつきがある。P475から土師器小皿（75）が出土している。

SB15（図版19：写真図版27・28）

梁行２間×桁行３間の側柱建物である。すべての柱穴を検出しており、梁行・桁行とも柱のとおりは良い。桁行方向を基準にした棟軸はN21° Wである。南北棟であり、SB01・SB04～14と一部が平面的に重複する。柱穴の間隔は心心間で梁行8.1m、桁行7.2mを測り、それに基づいた面積は約58.3㎡である。

柱穴は円形でその規模は直径30～50cm、検出面からの深さ６～40cmで規模にばらつきがある。

P335から土師器皿（76）が出土している。

SB16（図版20：写真図版28・29）

梁行２間×桁行４間の側柱建物である。南側桁行の東から二つ目と南西隅の柱穴を欠くが梁行・桁行とも柱のとおりは良い。桁行方向を基準にした棟軸はN72° Eである。東西棟であり、SB01・SB05～07・SB09・SB10・SB12・SB18・SB19と一部が平面的に重複する。柱穴の間隔は心心間で梁行5.6m、桁行7.8mを測り、それに基づいた面積は約43.7㎡である。

柱穴は円形でその規模は直径20～40cm、検出面からの深さ20～40cmで規模にばらつきがある。P153から土師器小皿・土師器椀（77・78）、P101から土師器皿（79）、P97から土師器脚部（80）、P331から瓦器小皿（81）が出土している。

SB17（図版21：写真図版29・30）

梁行１間×桁行２間の側柱建物である。すべての柱穴を検出しており、梁行・桁行とも柱のとおりは良い。桁行方向を基準にした棟軸はN13° Wである。調査区北東隅に位置し、南北棟であり、他の建物との重なりはない。柱穴の間隔は心心間で梁行3.0～3.3m、桁行4.4～4.6mを測り、それに基づいた面積は約14.2㎡である。

柱穴は円形でその規模は直径20～35cm、検出面からの深さ28～52cmで規模にばらつきがある。P53から土師器羽釜（82）が出土した。

SB18（図版22：写真図版30・31）

梁行３間×桁行３間の側柱建物である。すべての柱穴を検出しており、梁行・桁行とも柱のとおりが少し乱れる。桁行方向を基準にした棟軸はN14° Wである。南北棟であり、SB01・SB05～07・SB09・SB10・SB16・SB19と一部が平面的に重複する。柱穴の間隔は心心間で梁行6.6～6.8m、桁行8.1～8.3mを測り、それに基づいた面積は約54.9㎡である。

柱穴は円形でその規模は直径20～40cm、検出面からの深さ10～34cmで規模にばらつきがある。　P80から土師器小皿・瓦器椀（83・84）が出土した。

SB19（図版23：写真図版32・33）

梁行２間×桁行３間の側柱建物である。北側梁行の中央１穴と東側桁行の１穴を欠くが、柱のとおりは良い。桁行方向を基準にした棟軸はN18° Wである。南北棟であり、SB06・SB16・SB18と一部が平面

的に重複する。柱穴の間隔は心心間で梁行4.6～4.8m、桁行7.4mを測り、それに基づいた面積は約34.8㎡である。

柱穴は円形でその規模は直径20～40cm、検出面からの深さcmで規模にばらつきがある。P134から土師器小皿・瓦器小皿・瓦器椀（85・86・87・88・89・90・91・92・93・94）が出土している。

SB20（図版24：写真図版33・34）

梁行２間×桁行３間と思われる側柱建物である。東側梁行の中央１穴と南北桁行の東から２穴目を欠いており、総柱であった可能性もある。梁行・桁行とも外周の柱はとおりが良い。桁行方向を基準にした棟軸はN74° Eである。調査区東端に位置し、東西棟であり、他の建物との重なりはないが南西隅がSK04と平面的に重複する。柱穴の間隔は心心間で梁行3.4～3.6m、桁行6.9～7.0mを測り、それに基づいた面積は約24.3㎡である。

柱穴は円形でその規模は直径20～40cm、検出面からの深さ14～18cmで規模にばらつきがある。

SB21（図版25：写真図版34・35）

梁行２間×桁行１間以上の側柱建物である。北半が調査区外に延びる。梁行・桁行とも柱のとおりは良い。桁行方向を基準にした棟軸はN23° Wである。南北棟であり、SB22・SB23・SB25と一部が平面的に重複する。柱穴の間隔は心心間で梁行4.7m、桁行3.0m以上を測る。

柱穴は円形でその規模は直径30～45cm、検出面からの深さ16～36cmで規模にばらつきがある。

SB22（図版26：写真図版35・36）

梁行３間×桁行１間以上の側柱建物である。北半が調査区外に延びる。梁行・桁行とも柱のとおりは良い。桁行方向を基準にした棟軸はN26° Wである。南北棟であり、SB22・SB23・SB25と一部が平面的に重複する。柱穴の間隔は心心間で梁行7.3m、桁行3.9m以上を測る。

柱穴は円形でその規模は直径30～35cm、検出面からの深さ14～28cmで規模にばらつきがある。

SB23（図版27：写真図版36・37）

梁行２間×桁行３間の側柱建物である。南側梁行で１穴、東側桁行で１穴を欠くが、柱のとおりは良い。桁行方向を基準にした棟軸はN23° Wである。南北棟であり、SB21・SB22・SB25と一部が平面的に重複する。柱穴の間隔は心心間で梁行5.1～5.2m、桁行5.2～5.5mを測り、それに基づいた面積は約27.6㎡である。

柱穴は円形でその規模は直径30～40cm、検出面からの深さ10～42cmで規模にばらつきがある。P638から瓦器椀（95）、P654から瓦器椀（96）が出土している。

SB24（図版28：写真図版38）

梁行１間以上×桁行４間以上の側柱建物である。東側梁行と北側桁行の一部を検出し、柱のとおりは良い。桁行方向を基準にした棟軸はN66° Eである。おそらく東西棟であり、SB26と一部が平面的に重複している。柱穴の間隔は心心間で梁行2.5m、桁行6.9m以上を測る。

柱穴は円形でその規模は直径25cm程度で揃っており、検出面からの深さ６～18cmである。

SB25（図版28：写真図版38）

梁行１間以上×桁行３間の側柱建物である。東側梁行の一部と北側桁行を検出し、柱のとおりは良い。桁行方向を基準にした棟軸はN70° Eである。おそらく東西棟であり、SB21～23と一部が平面的に重複している。柱穴の間隔は心心間で梁行2.1m以上、桁行9.4m以上を測る。

柱穴は円形でその規模は直径30～35cm、検出面からの深さ16～40cmである。

SB26（図版29：写真図版38）

梁行２間×桁行３間の総柱建物である。東側に庇が付く。すべての柱穴を検出しており、庇柱列がやや東に膨らむ。梁行・桁行とも柱のとおりは良い。桁行方向を基準にした棟軸はN19° Wである。南北棟であり、SB24と一部が平面的に重複する。柱穴の間隔は心心間で梁行3.0～3.2m、桁行5.5mを測り、それに基づいた面積は約17.1㎡である。庇も含めた場合、面積は25.3㎡となる。

柱穴は円形でその規模は直径25～35cm、検出面からの深さ10～50cmである。P759から瓦器椀（97）が出土した。

土坑（墓）

SK04（図版30：写真図版39）

調査区東端付近に位置する。SB20と一部平面的に重複する。平面形は西辺が幅1.0m、東辺が幅0.6m、長さが２mを測る隅丸台形で、検出面からの深さは20㎝、底面はほぼ水平である。

埋土は暗灰色極細砂質シルトを主体とし、黄褐色砂質シルトとブロック状になった黒褐色シルトが混じる。一気に埋めたと思われる。

底面西側から土師器皿３枚（184・185・186）がかたまって出土し、東側から土師器小皿（183）と瓦器椀片（187）が出土した。木棺墓ではないかと考えられる。

SK21（図版30：写真図版40）

調査区中央北端付近に位置する。SB13・14と平面的に重複する。平面形は南北１m、東西0.9mを測る隅丸方形で、検出面からの深さは約16㎝である。埋土は下層に炭片を多く含む暗褐色シルト交じり細砂が流れ込んだような状態で堆積し、その上に埋め土と考えられる焼土と炭を含んだ黒褐色中砂混じりシルト層が堆積している。

東南隅から土師器小皿２枚（188・189）が並んで裏向きで出土した。これらは下層と上層の境界で出土しているため、土坑内で火葬後、小皿を副葬し、全体を埋めた可能性が考えられる。

土坑（図版31）

SK01

調査区東端で検出した。SB20と一部重複する。南北1.85m、東西1.5m、検出面からの深さ30㎝を測る楕円形の土坑である。瓦器・土師器の細片が出土している。

SK02

調査区東端で検出した。SB17・SK03と一部重複する。東西40㎝、南北60㎝、検出面からの深さ17㎝を測る。瓦器・土師器の細片が出土している。

SK03

調査区東端で検出した。SB17・SK03と一部重複する。東西70㎝、南北40㎝、検出面からの深さ25㎝を測る。土師器・須恵器の細片が出土している。

SK05

調査区北東で検出した。P135と一部重複する。東西1.65m、南北1.15m、検出面からの深さ30㎝。東播系須恵器片、無文の青磁片、土師皿片が出土している。

SK06

東建物群中に位置する。東西1.9m、南北1.8m、検出面からの深さ46㎝を測る隅丸三角形の土坑である。東播系須恵器片、瓦器片、土師皿片が出土している。

SK08

東建物群中に位置する。東西1.1m、南北60㎝、検出面からの深さ６㎝を測る長方形の土坑である。土師器皿（190）が出土している。

SK10

東建物群中に位置する。東西35㎝、南北80㎝、検出面からの深さ20㎝を測る。土師器小皿（191）、瓦器椀（192）のほか、土師器鍋片が出土している。

SK11

東建物群中に位置する。東西40㎝、南北60㎝、検出面からの深さ31㎝を測る。瓦器椀（193）、須恵器鉢（194）が出土している。

SK13

調査区北端に接している。東西80㎝、南北50㎝、検出面からの深さ17㎝を測る。土師器小皿（195）が出土している。

SK15

東建物群中に位置する。東西30㎝、南北65㎝、検出面からの深さ19㎝を測る。瓦器椀（196）が出土している。

SK23

東建物群中に位置する。径1.0m、検出面からの深さ24㎝を測る円形の土坑である。土師器小皿（197・198）ほか、土師器皿片、瓦器椀片が出土している。

SK24

東建物群中の西端に位置する。東西50㎝、南北70㎝、検出面からの深さ15㎝を測る。土師器皿・椀の破片が出土している。

SK25

東建物群中の西端に位置する。東西70㎝、南北85㎝、検出面からの深さ25㎝を測る。土師器小皿（199）のほか、土師器皿・甕片、瓦器椀片、須恵器片が出土している。

SK27

東建物群中の西端近くに位置する。東西90㎝、南北1.6m、検出面からの深さ14㎝を測る。土師器片、瓦器片が出土している。

SK28

西建物群の東隣に位置する。東西2.7m、南北1.25m、検出面からの深さ20㎝を測る。土師器鍋（200）のほか、土師器小皿片・皿片が出土している。

SK29

SB11と平面的に重複する。東西40㎝、南北1.2m、検出面からの深さ５㎝を測る。土師器、瓦器、須恵器の細片が出土している。

SK30

SB11と平面的に重複する。東西、南北、検出面からの深さ10㎝を測る。土師器甕片・瓦器椀片が出土している。

SK31

東西建物群の間に位置する。東西60㎝、南北75㎝、検出面からの深さ８㎝を測る。遺物は出土してい

ない。

SK32

東西建物群の間に位置する。東西1.7m、南北35㎝、検出面からの深さ５㎝を測る溝状の土坑である。遺物は出土していない。

SK33

東西建物群の間に位置する。東西45㎝、南北65㎝、検出面からの深さ12㎝を測る。遺物は出土していない。

SK34

東西建物群の間に位置する。東西70㎝、南北50㎝、検出面からの深さ８㎝を測る。遺物は出土していない。

SK35

東西建物群の間に位置する。東西30㎝、南北75㎝、検出面からの深さ12㎝を測る。遺物は出土していない。

SK36

西建物群中に位置する。東西1.85m、南北60㎝、検出面からの深さ24㎝を測る。土師器細片が出土している。

SK37

西建物群中に位置する。東西1.25m、南北70㎝、検出面からの深さ14㎝を測る。土師器小皿・甕片、瓦器片などが出土している。

SK38

西建物群中に位置する。東西75㎝、南北2.15m、検出面からの深さ30㎝を測る。土師器細片が出土している。

SK39

西建物群中に位置する。東西1.5m、南北1.15m、検出面からの深さ30㎝を測る。黒色土器（201）、瓦器（202）のほか、土師器小皿片、瓦器椀片が出土している。

SK40

西建物群の西側に位置する。東西1.6m、南北90㎝、検出面からの深さ35㎝を測る。土師器片が出土している。

溝状遺構（図版32）

SD01

調査区東端に位置する。検出長1.8m、最大幅35㎝、検出面からの深さ13㎝を測る。土師器皿・小皿片が出土している。

SD03

東建物群中の東南隅に位置する。検出長4.2m、最大幅1.15m、検出面からの深さ７㎝を測る。土師器杯、須恵器鉢、瓦器の細片が出土している。

Ⅱ区の遺構（図版３：写真図版３）

基本層序

Ⅱ区もⅠ区と同様、南から北に向かって緩やかに低くなると同時に都志川の下流である西に向かっても下がっていく地形である。基本的な層序は上から表土・耕作土、次に歴代の旧耕土や床土と考えられる明橙色粗砂混じり粘質シルトから細砂層があり、その下に遺物を含む淡灰褐色粗砂混じり粘質シルト～細砂層あり、遺構のベースは東側がⅠ区と同じく礫混じり粗砂層、西側では明黄褐色シルト層が堆積している。これらの堆積層もベースも含めて河川の影響を強く受けて形成されたものと考えられる。

柱穴

40基程度のピットが検出された。建物と捉えられる規則性はなく、２基で土師器と瓦器椀の細片が出土した以外は遺物が出土していないため、性格は不明である。

土坑（墓）

SK04（図版30：写真図版41）

調査区東端で検出した。平面形は南北1.52m、東西1.4mの楕円形で、検出面からの深さは20㎝を測る。断面形は皿状で、底面はほぼ水平である。底には10～20㎝大で厚さ８㎝前後の扁平な亜円礫が面をそろえて敷き詰められており、その表面には二次焼成の痕跡が顕著に認められた。また、毎度も黒色を呈する粗砂で炭化物を含んでいた。火葬墓の可能性が高い。副葬品や埋納品と思われる遺物は検出されなかった。

土坑（図版32）

SK01

調査区西部南端に位置する。東西45㎝、南北55㎝、検出面からの深さ25㎝を測る。土師器片、瓦器片が出土している

SK02

調査区中央南端に位置する。東西70㎝、南北45㎝、検出面からの深さ55㎝を測る。埋土に炭化物・焼土ブロック含む。遺物は出土していない。

SK03

調査区中央北端に位置する。東西75㎝、南北１m、検出面からの深さ25㎝を測る。こぶし大の亜角礫を大量に詰め込む。土師器甕の体部片が出土している。

SK05

調査区東部北半に位置する。東西50㎝、南北40㎝、検出面からの深さ25㎝を測る。埋土に炭化物少量含む。遺物は出土していない。

SK06

調査区東部北半に位置する。東西50㎝、南北55㎝、検出面からの深さ15㎝を測る。遺物は出土していない。

SK07

調査区北東隅で断面のみを確認した。幅1.7m、切込み面からの深さは50㎝である。上層に炭化木の塊

を多く含む。遺物は出土していない。

溝（図版32）

SD01

調査区西部北端に位置する。検出長6.5m、最大幅85㎝、検出面からの深さは15㎝を測る。土師器細片が出土している。

SD02

調査区中央北端に位置する。検出長2.3m、最大幅55㎝、検出面からの深さは10㎝を測る。土師器甕口縁部片が出土している。

SD03

調査区南東隅に位置する。検出長2.5m、最大幅25㎝、検出面からの深さは８㎝を測る。遺物は出土していない。

第２節　出土遺物

掘立柱建物出土土器（図版33～35：写真図版42～49）

１～５はSB01のP438から出土した。１・２は土師器小皿である。１は底部が回転ヘラ切り、２は指オサエの後ナデ調整を行う。３は瓦器小皿で胎土は精良だが調整は摩滅が著しく不明である。４・５は瓦器椀である。いずれも和泉型で、炭素の吸着が悪く、摩滅のため暗文等は不明である。

６・７はSB03を構成する柱穴から出土した。６は瓦器椀で残りが悪いため、調整等は不明。和泉型と思われ、P545から出土した。７は龍泉窯系の青磁椀で高台内は釉を掻き取っている。P515から出土した。

８～15はSB04を構成する柱穴から出土している。８は土師器小皿で摩滅のため調整が不明瞭だが、底部はヘラ切りと思われる。P431から出土した。９は土師器皿で摩滅のため調整が不明瞭だが、底部は糸切りと思われる。P581から出土した。10・11はP451から出土した土師器椀である。いずれも底部は回転糸切りである。12・13はP447から出土した。12は土師器羽釜で外面はナデ調整、内面は刷毛調整を施す。13は土師器甕の口縁部片でナデ調整を施している。14・16はP310から出土した。14は瓦器小皿で炭素の吸着は不充分である。外面に指押さえの痕跡があり、内面に粗い横方向のヘラ磨きを施している。16は弥生土器の高杯の口縁部片である。基盤層のものが混入したと考えられる。15はP554から出土した瓦器椀である。磨滅しているが和泉型のものと思われる。

17～20はSB05を構成する柱穴から出土した。17は土師器皿でP461から出土した。底部は回転糸切りである。18～20はP425から出土した。18は土師器小皿で磨滅しているが、手づくねのものと思われる。19は瓦器椀で炭素の吸着は不充分である。和泉型でⅢ期にあたると考えられる。20はⅣ類の白磁碗で口縁部は分厚い玉縁、体部下半は露胎である。体部中位に沈線１条を施す。

21～24はSB06を構成する柱穴から出土した。21はほぼ完形の土師器小皿で、P132から出土した。底部は回転ヘラ切りである。22・23はP217から出土した。22は土師器小皿、23は土師器椀である。いずれも磨滅が著しい。24は瓦器椀である。外面は磨滅が著しいが、内面上半はやや疎らな平行ミガキ、見込み部の平行暗文もまばらになっており、和泉型のⅢ期にあたるものである。P132から出土した。

25～30はSB07を構成する柱穴から出土した。25・27は土師器小皿でP346から出土した。25は底部が指オサエの後ナデ調整である。27は調整不明だが、ロクロ作りであろう。26は土師器小皿で底部は回転

糸切りである。28は土師器小皿でP224から出土した。29は土師器の脚付皿でP407から出土した。底部は指押さえで成形後、脚を貼り付けている。30はⅣ類の白磁碗でP304から出土した。口縁は分厚い玉縁、底部付近は露胎となっている。

31～43、229はSB08を構成する柱穴から出土した。31は土師器小皿で底部は回転糸切りである。P443から出土した。32・33は土師器の皿である。全体にナデ調整を行う。32はP555、33はP526から出土した。34～40は和泉型の瓦器椀である。磨滅のため、調整は不明であるが浅くなる傾向が認められ、Ⅲ期にあたるものと考えられる。34～38はP433、39はP555、40はP580から出土した。41は須恵器椀である。形態が瓦器椀に似るが、後円部に重ね焼き痕跡があるため、須恵器とした。P526から出土した。42・43は同安窯系の青磁碗である。42は内面に櫛描文、43は内外面とも櫛描文が認められる。42はP433から、43はP555から出土した。229は器種不明の土製品である。二次焼成を受けており、風炉、火鉢の一部かもしれない。P378から出土した。

44～51はSB09を構成する柱穴から出土した。なお、SK18については、検出時の遺構名称をそのまま用いている。44～47は土師器小皿である。44・45はP316から出土した。いずれも底部は回転ヘラ切りである。46・47も磨滅はしているが底部調整は回転ヘラきりではないかと思われる。46はSK18から、47はP301から出土した。48は土師器の羽釜である。口縁部は内傾する。磨滅のため調整不明でP203から出土した。49は瓦器小皿である。磨滅のため調整は不明瞭だが、指オサエとナデの可能性がある。50・51は和泉型の瓦器椀である。50は体部上半のナデが強く、中位にわずかに段ができるⅢ期のものと思われる。50は内湾しながら立ち上がる体部ではあるが、器高が低くなっていることから、同じくⅢ期に属すると考えられる。49～51はP148から出土した。

52～64はSB10を構成する柱穴から出土した。52～55は土師器の小皿で、52・53は底部ナデ調整のもので、54・55は底部回転ヘラ切りのものである。52はP229、53がP477、54・55はP571から出土した。56・57は瓦器の小皿である。いずれも口縁部を強くなで、体部中位に段を持つ。56はP229、57がP571から出土した。58～64は瓦器椀である。炭素の吸着が悪く、残りも悪いものがほとんどをしめるが、59は内面のヘラミガキが残っている。58・60・62はP229、59がP571、61はP249、63がP486、64はP491から出土した。おおむね和泉型Ⅲ期の範疇に収まるものと考えられる。

65はSB11のP566から出土した瓦器椀である。磨滅のため調整は不明瞭だがしっかりした高台がつく。

66～70はSB12を構成する柱穴から出土した。すべて和泉型の瓦器椀である。全形をうかがえる67の内面に疎らなヘラミガキが認められるほかは調整の残る資料は少ないが、他の瓦器椀に比べ、器高の低いもので占められており、Ⅳ期に下る可能性がある。66はP405、67がP440、68はP232、69・70がP434から出土した。

71～74はSB13を構成する柱穴から出土した。71は土師器の小皿で磨滅しているがロクロ成形のものと考えられる。72・73は瓦器椀で残りはよくないが和泉型Ⅲ期と捉えられる。74は青磁の小皿で底部は露胎、体部の釉も薄い。ロクロづくりの粗製である。71・74はP250、72がP588、73はP284から出土した。

75は土師器の小皿である。SB14のP475から出土した。底部は回転糸切りである。

76は土師器の皿である。SB15のP335から出土した。磨滅しているが、ロクロづくりではないようである。

77～81はSB16を構成する柱穴から出土した。77は土師器小皿で底部は回転糸切りの後ナデている。78は土師器椀としたが、焼きの極めて悪い瓦器椀の可能性もある。79は土師器の皿である。底部は回転糸切りである。P101から出土した。80は器種不明ながら土師質土器の脚部と考えられる。P97から出

土した。81は瓦器の小皿である。外面は指押さえとナデの痕跡があり、内面にヘラ磨きが認められる。P331から出土した。

82は土師器の羽釜である。口縁部は屈曲して内傾し、端部は内側に面を持つ。SB17のP53から出土した。

83は土師器小皿である。底部は回転ヘラ切りである。84は瓦器椀である。底部片でしっかりした高台が付く。いずれもSB18のP80から出土した。

85～94はすべてSB19のP134から出土した。85・86は土師器の小皿である。磨滅のため底部調整は不明だが、後円部は横ナデで仕上げる。87・88は瓦器の小皿である。いずれも磨滅のため調整は不明で、88は底部中央で厚みが増す形態である。89～94は和泉型の瓦器椀である。92の見込み部には平行する暗文の痕跡が認められる。いずれも残存状況が悪いため、調整は不明だが、強いナデにより体部中位に段を持つことからⅢ期のものと考えられる。

95・96は和泉型の瓦器椀でSB23を構成する柱穴から出土した。95は口縁部を横ナデし、内面にはやや乱れた疎らな平行ヘラミガキを施す。96は低平化した器形で見込み部には不規則な暗文を施している。Ⅲ期に収まるものと思われる。95はP638、96はP635から出土した。

97は和泉型の瓦器椀である。磨滅のため調整は不明だが、体部にナデによると思われる段が認められる。SB26のP759から出土している。

柱穴群出土土器（図版35～38：写真図版49～53）

柱穴群から出土した遺物を東建物群の範囲にある柱穴の出土遺物、西建物群の範囲にある柱穴の出土遺物に分けて記述する。

98～156までが東建物群の範囲にある柱穴から出土したものである。

98・99はP75から出土したものである。98は土師器小皿で底部は回転ヘラ切りである。99は瓦器椀でヘラ磨きが残存しているが、方向に乱れがあり、疎らである。和泉型Ⅲ期のものと考えられる。

100は瓦器椀で内面に口縁に平行するヘラ磨きが残る。和泉型Ⅲ期のものと考えられ、P77から出土した。

101～103はP82から出土した。101は土師器小皿で磨滅が著しい。102は土師器の椀と思われる底部片で底部は回転ヘラ切りである。103は瓦器椀の底部で、断面三角形の高台がつく。

104～108はP91から出土した。104は土師器小皿で体部は回転ナデで成形されているが、底部を欠く。105は土師器椀で底部は回転糸切りである。106～108は瓦器椀である。106は口縁端部内面に段を持っており、大和型の可能性がある。107は体部上半を強くなで、内面上半に口縁に平行したヘラミガキが残る。108は体部内面に平行するヘラミガキが残り、見込み部に平行する暗文が施される。いずれも和泉型Ⅲ期に属する。

109は瓦器小皿である。底部付近には指押さえが残る。P98から出土した。

110は瓦器椀である。緩やかに内湾して立ち上がる体部を持つ。体部調整が残っていないが、楠葉型の可能性もある。P99から出土した。

111は土師器小皿である。底部は回転糸切りで、P105から出土した。

112は瓦器椀である。磨滅しているが、和泉型Ⅲ期のものと考えられる。P110から出土した。

113は瓦器椀である。磨滅しているが、和泉型Ⅲ期のものと考えられる。P120から出土した。

114は土師器小皿である。底部は回転ヘラ切りの後ナデで仕上げている。P127から出土した。

115は瓦器椀である。炭素の吸着が認められず、内面には疎らな平行ヘラミガキが残る。和泉型Ⅲ期の

ものと思われ、P149から出土した。

116は土師器小皿である。磨滅のため調整は不明。P164から出土した。

117は土師器小皿である。底部は回転ヘラ切りで、P171から出土した。

118は土師器小皿である。磨滅のため調整は不明。P172から出土した。

119・120はP173から出土した。119は土師器小皿で底部は回転ヘラ切りである。120は瓦器椀で体部には指押さえが明瞭に残る。

121は土師器小皿である。底部は指押さえの後ナデで仕上げる。P174から出土した。

122は瓦器椀である。内外面に口縁と並行する疎らなヘラ磨きが残る。和泉型でP175から出土した。

123・124はP186から出土した。123は土師器椀で磨滅が著しいがロクロづくりと思われる。124は直線的に開く体部を持つ須恵器椀である。

125は土師器小皿である。磨滅が著しいが手づくねと思われる。P187から出土した。

126は土師器小皿である。磨滅が著しいが手づくねと思われる。P190から出土した。

127・128はP193から出土した。127は土師器小皿で底部は回転ヘラ切りの後ナデである。128は土師器皿で磨滅が著しいが、ロクロづくりと思われる。

129は土師器羽釜である。口縁部は内傾し、端部は内側に面を持つ。P212から出土した。

130・131はP226から出土した。130は瓦器小皿で外面にはヘラミガキの痕跡が認められる。131は瓦器椀で外面は炭素の吸着がほとんどなく、内面にヘラミガキの痕跡がある。和泉型Ⅲ期と思われる。

132・133はP237から出土した。132は土師器小皿で底部は回転ヘラ切りである。133は瓦器椀である。体部外面上半と内面に口縁に平行するヘラ磨きが残る。和泉型Ⅲ期でも古いところに属すると思われる。

134はⅣ類の白磁碗である。後円部は分厚い玉縁、体部外面下半は露胎で高台内部の削り出しも浅い。底部内面に沈線を施す。P251から出土した。

135は土師器小皿である。底部は回転ヘラ切りでP252から出土した。

136・137はP257から出土した瓦器椀である。いずれも口縁部に強いナデを施す。136には内面に後円部に平行するヘラ磨きが残る。和泉型Ⅲ期のものと思われる。

138は瓦器椀である。体部上半にナデによる軽い屈曲がある。和泉型Ⅲ期のものと思われる。P299から出土した。

139は土師器小皿である。底部は回転ヘラ切りである。P300から出土した。

140・141はP315から出土した。140は土師器小皿で磨滅が著しいが、底部は回転糸切りと思われる。141はⅣ類の白磁碗で口縁は肉厚の玉縁、体部下半は露胎である。底部内面に沈線を巡らせる。

142は土師器小皿で磨滅が著しいが、底部は回転ヘラ切りと思われる。P318から出土した。

143は瓦器椀である。体部上半に強いナデを施す。和泉型Ⅲ期のものと思われる。P325から出土した。

144・145はP330から出土した。144は土師器小皿で、底部は回転糸切りである。145は土師器皿で全体に指押さえとナデで成形する。内面に煤が付着し、灯火具の可能性がある。

146は瓦器椀である。体部上半にナデによる軽い屈曲がある。和泉型Ⅲ期のものと思われる。P347から出土した。

147は土師器の小皿である。磨滅が著しく調整は不明で、P349から出土した。

148は瓦器小皿である。口縁部を横ナデし、底部は指押さえの後ナデで仕上げる。内面には口縁に平行するヘラミガキが残る。P351から出土した。

149・150はP385から出土した。149は土師器小皿で、磨滅のため調整不明だが、手づくねの可能性がある。150は瓦器椀で磨滅が著しく調整は不明だが、器形から見て和泉型Ⅲ期のものと考えらえる。

151～153はP397から出土した。151・152は土師器小皿で、151の底部は回転ヘラ切りの後ナデ、152は回転糸切りと思われる。152には灯心の痕跡がある。153は龍泉窯系の青磁碗である。見込み部に劃花文の陰刻がある。外面は高台も施釉されており、高台内側は釉を掻き取っている。

154・155はP399から出土した。154は須恵器椀である。口縁端部が肥厚し、重ね焼きによる帯状の変色部分が認められる。155は土師器小皿で底部はヘラ切りの後ナデていると思われる。

156は瓦器椀である。磨滅しているが体部上半にナデによる軽い屈曲がある。内面に疎らな横方向のヘラミガキが残る。和泉型Ⅲ期のものであろう。

157～182は西建物群の範囲に位置する柱穴から出土したものである。

157は土師器小皿である。磨滅が著しいが手づくねのものと考えられる。P410から出土した。

158は瓦器小皿である。磨滅のため調整は不明である。P412から出土した。

159～162はP421から出土した。159～161は土師器小皿である、159は磨滅のため調整は不明だが、160・161は底部回転糸切りである。162は土師器皿で磨滅のため調整は不明である。

163～166はP441から出土した。163～165は土師器小皿である。163・165は底部回転ヘラ切り、164はナデ調整。166は瓦器小皿で底部は指押さえの後ナデている。

167は瓦器椀で体部外面は指押さえの後ナデ、内面には口縁部と平行のヘラミガキを施す。和泉型Ⅲ期に属する。P452から出土した。

168は土師器小皿である。底部は回転糸切りである。P462から出土した。

169は瓦質土器の鍋である。屈曲して受口状になる口縁部を持つ。いわゆる京都型の範疇に入るものである。14世紀ころのものと思われる。P463から出土した。

170～173はP495から出土した。170～172は土師器小皿である。170は底部の回転ヘラ切りをナデで消している可能性がある。171は底部回転糸切り、172は磨滅のため調整不明である。173は土師器皿で磨滅のため調整は不明である。

174は土師器椀で底部のみの破片である。輪高台を貼り付けている。P5 30から出土した。

175は瓦器の小皿である。底部には指押さえの痕跡が残る。内面に横方向のヘラ磨きが残る。P570から出土した。

176は土師器小皿である。磨滅が著しいが、底部は回転糸切りの可能性がある。P574から出土した。

177は土師器である。直立する後円部を持った大型のもので、鉢としておく。磨滅のため調整は不明である。P578から出土した。

178は土師器の脚部である。脚付皿の一部と思われる。P850から出土した。

179は土師器の杯である。磨滅が著しいが底部は糸切りの可能性がある。P726から出土した。

180は土師器小皿である。底部は指押さえの後ナデで仕上げる。P696から出土した。

181は瓦器椀である。口縁部のナデが強く、内面には疎らな圏線状のヘラミガキと見込み部に渦状あるいは連結輪状の暗文を施す。和泉型Ⅲ期と考えられる。P655から出土した。

182は瓦器椀である。内面には疎らな圏線状のヘラミガキと見込み部に連結輪状の暗文を施す。和泉型Ⅲ期と考えられる。P742から出土した。

土坑墓出土土器（図版38：写真図版53・54）

土坑墓は３基検出し、うち２基から遺物が出土した。

183～187はⅠ区SK04から出土したものである。183は土師器小皿で底部は回転ヘラ切りである。184～186は土師器皿である。いずれも底部は回転糸切りである。187は瓦器椀である。内外面とも磨滅している。和泉型Ⅲ期ではないかと考えられる。

188・189はⅠ区SK21から出土した。土師器の小皿である。188は磨滅が著しいが底部は回転ヘラ切りの可能性がある。189の底部は指押さえの後ナデである。

土坑出土土器（図版38：写真図版55）

190は土師器皿である。底部は回転糸切りである。SK08から出土した。

191・192はSK10から出土した。191は土師器小皿で底部は回転糸切りである。192は瓦器椀である。外面に指押さえの痕跡が残る。重ね焼きをしており、和泉型Ⅲ期に含まれると思われる。

193・194はSK11から出土した。193は瓦器椀である。大きくゆがみ、焼成も甘い。口縁部付近のナデが強く、高台もやや低くなっている。和泉型Ⅲ期のものと考えられる。194は須恵器こね鉢である。口縁端部を上方に拡張する。森田編年のⅡ期２段階のものと思われる。

195は土師器小皿である。底部は回転ヘラ切りである。SK13から出土した。

196は瓦器椀である。磨滅のため調整は不明。和泉型Ⅲ期のものと思われる。SK15から出土した。

197・198はSK23から出土した。いずれも土師器小皿である。197は底部回転糸切りで二次焼成を受けている。198は磨滅のため調整不明で、灯芯の痕跡がある。

199は土師器小皿である。磨滅のため調整不明で、SK25から出土した。

200は土師器の鍋である。体部内外面は横方向のハケ調整を行う。SK28から出土した。

201・202はSK39から出土した。201は黒色土器Ⅴ類に似る椀で内湾する深い体部とハの字形に開くと思われる高台を持つ。磨滅しているが内外面とも炭素を吸着されていたと思われる。202は瓦器椀である。磨滅が著しく、形状もゆがんでいる。高台もつぶれて低く、体部外面に指押さえが残る。和泉型Ⅲ期と思われる。

包含層ほか出土土器（図版39：写真図版56・57）

203～205は鎌倉時代の遺構が営まれたベース面から出土した。203は弥生土器の甕である。外反する口縁部を持ち、底部は平底である。外面に連続らせん叩き、内面に刷毛目が残る。204は鉢または甕の底部である。外面に連続たたきが残る。いずれも弥生時代後期後半のものと思われる。205は土師器の小型丸底壺と考えられる。磨滅が著しく、調整は不明である。古墳時代前期のものと思われる。

207～212はⅠ区包含層から出土した土師器小皿である。207は底部を指押さえとナデで仕上げる。208から211は底部が回転ヘラ切りと考えられるものである。212は底部が回転糸切りである。213はⅠ区包含層から出土した土師器皿である。底部は回転糸切りである。214はⅠ区包含層から出土した土師器羽釜である。内湾する口縁部と下方に延びる鍔部を持つ。磨滅のため調整は不明である。

215は瓦器小皿である、口縁部は横ナデ、底部はユビオサエの後ナデで仕上げる、内面にはナデの後圏線状のヘラミガキを加えている。

216～219は瓦器椀である。216は口縁端部内側に浅い沈線状の凹みが巡る。大和型の可能性がある。

217は体部上半を横ナデののちヘラケズリに近い太い単位のヘラミガキを施し、下半にはユビオサエが残る。内面には乱れた圏線状のヘラミガキを施す。和泉型Ⅲ期のものであろう。218は磨滅のため調整は不明であるが、和泉型Ⅲ期のものと思われる。219は口縁部をナデ、体部下半はユビオサエの後ナデで仕上げる。内面は圏線状のヘラミガキと見込み部に連続輪状暗文を施す。和泉型Ⅲ期のものである。216・218・219はⅠ区包含層、217はⅡ区包含層から出土した。

220は東播系の須恵器こね鉢である。口縁端部を上下に拡張する。Ⅰ区包含層から出土した。

221・222は白磁碗である。221は口縁端部を薄く仕上げるもので体部はヘラケズリ、釉も薄い。222は口縁部を強くナデて外側に面を作る。体部は口縁直下まで削り、体部下半は露胎である。釉の発色が悪い。221は２区、222はⅠ区包含層から出土した。223は白磁皿の底部である。底部外面は内に凹み、全面に施釉している。Ⅰ区包含層から出土した。

224・225は青磁碗である。224は口縁端部が外反し、体部に細弁の連弁文を施す。龍泉窯系青磁碗Ⅲ類であると思われる。225は口縁端部が肥厚して終わり、無文であるいずれもⅠ区包含層から出土した。226は小片であるため実測ができなかったが、龍泉窯系青磁盤の口縁部である。胎土が精良で釉も厚い。いわゆる天龍寺青磁と呼称されるものである。Ⅰ区包含層から出土した。

227は染付皿である。いわゆる碁笥底で底部畳付の釉は掻き取られている。外面には鋸歯状の連続文、内面には草花文を施す。Ⅱ区包含層から出土した。

石器・石製品（図版40：写真図版58）

S1はサヌカイトの縦長剥片である。両面ともかなり風化が進んでいる。Ⅰ区包含層から出土した。S2もサヌカイトの縦長剥片である。一部に自然面を残す。Ⅰ区包含層から出土した。

S3は短冊形砥石の破片である。表裏両面を使用している。Ⅱ区包含層から出土した。

金属器（図版41：写真図版59）

M1は端部を折り曲げて頭部を形成する角釘である。先端部が欠損するものの、木質がわずかに遺存する。Ⅰ区SK13から出土した。M2は端部を巻き込んで頭部を形成する角釘である。先端部を欠く。Ⅰ区P438から出土した。M3は端部を折り曲げて頭部を形成する角釘である。先端部をわずかに欠く。Ⅰ区P565から出土した。M4は端部を打ち延ばして頭部を形成する角釘である。先端部を欠く。Ⅰ区P378から出土した。M5は端部を折り曲げて、環状の頭部を形作る金具である。先端部を欠く。Ⅰ区P555から出土した。M6は身部の断面が円形で、基部の断面が四角形の鉄製品である。両端を欠く。鉄鏃の可能性もあるが、不明鉄製品としておく。Ⅰ区P871から出土した。M7は長頸鏃の頸部から茎部の破片である。先端部を欠くため、形式は不明である。Ⅰ区P315から出土した。M8は雁又鏃の刃部である。鏃身部以下を欠く。M7と同じくⅠ区P315から出土した。M9は薄い板状鉄片の片端を打ち延ばして折り曲げている。鎌状の鉄器とも考えたが、刃部らしきものは認められず、不明鉄製品である。M7・M8と同じくⅠ区P315から出土した。なお、金属関係遺物としてはほかにもスラッグが出土している。M10はⅠ区P438、M11はⅡ区包含層から出土した。（鐵）

報告番号	図版	写真図版	種別	器種	遺構名	法量(cm) 口径	器高	最大径	底径	残存状況	色調	焼成	胎土	調整	備考
1	33	42	土師器	小皿	P438(SB01)	7.2	1.6		6.0	口縁部1/6、底部1/4	暗灰黄～浅黄	普通	極細砂をごく少量含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ、底部は回転ヘラキリ 内面：口縁部から体部は回転ナデ、見込部はナデ	
2	33	42	土師器	小皿	P438(SB01)	7.6	1.55		4.05	口縁部1/6、底部1/4	にぶい橙～灰黄	普通	径1㎜以下の石英・長石・チャートを中量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部下半から底部はユビオサエの後ナデ 内面：口縁部から体部はヨコナデ、見込部はナデ	
3	33	42	瓦器	小皿	P438(SB01)	8.75	1.45		7.6	口縁部1/4、底部1/6	灰	普通	精良	磨滅のため調整不明	
4	33	42	瓦器	椀	P438(SB01)	14.8	3.1			口縁部1/9	淡黄～灰黄	やや不良	極細砂を少量含む	磨滅のため調整不明	和泉型、炭素吸着不十分
5	33	42	瓦器	椀	P438(SB01)		1.9		4.7	底部のみ	灰～灰白	やや不良	精良	外面：ナデ、高台は貼り付けナデ 内面：ナデ、暗文	和泉型、見込部は炭素吸着不十分
6	33	42	瓦器	椀	P545(SB03)	14.7	4.4			口縁部1/6	浅黄～灰白	やや不良	2㎜以下の砂粒を少量含む	磨滅のため調整不明	和泉型？
7	33	42	青磁	碗	P515(SB03)		2.35		6.4	底部1/8	明緑灰	良	精良	高台内の釉、掻き取り	龍泉窯系
8	33	43	土師器	小皿	P431(SB04)	9.1	1.8		7.4	口縁部1/7、底部1/3	橙	やや不良	極細砂をごく少量含む	磨滅のため調整不明(回転ナデ＋底部ヘラ切り？)	
9	33	43	土師器	皿	P581(SB04)	14.55	2.9		11.4	口縁部1/4、底部1/8	橙	普通	4㎜以下の砂粒を多く含む	磨滅のため調整不明(回転ナデ＋底部糸切り？)	
10	33	43	土師器	椀	P451(SB04)	11.9	3.85		7.0	口縁部・体部5/3、底部完存	にぶい黄褐～明赤褐色	やや不良	3㎜以下の長石・石英・チャートを多量に含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ、底部は回転糸切り 内面：回転ナデ	
11	33	43	土師器	椀	P451(SB04)	11.7	3.75		6.35	口縁部1/4、体部2/3、底部完存	橙	やや不良	3㎜以下のチャート・石英・長石を多量に含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ、底部は回転糸切り 内面：回転ナデ	
12	33	43	土師器	羽釜	P447(SB04)		3.3			口縁部小片	灰黄褐～にぶい褐	普通	極細砂を多量に含む	外面：ヨコナデ、鍔の貼り付けナデ 内面：横方向のハケ目	
13	33	43	土師器	甕	P447(SB04)	29	2.3			口縁部小片	橙～黄灰	普通	極細砂を少量含む	回転ナデ。口唇部内面と外面に沈線	
14	33	43	瓦器	小皿	P310(SB04)	8.5	1.85			口縁部1/4	灰～灰白	やや不良	極細砂をごく少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエの後ナデ 内面：横方向のヘラミガキ	炭素吸着不十分
15	33	43	瓦器	椀	P554(SB04)	15.7	3.85			口縁部1/12	灰白	不良	2㎜以下のチャートをごく少量含む	磨滅のため調整不明	和泉型
16	33		弥生土器	高坏	P310(SB04)	24.0	2.8			口縁部小片	橙	普通	細さを多く含む	外面：口縁部ヨコナデの後、凹線、受部ヘラミガキ 内面：横方向のヘラミガキ	後期初頭
17	33	42	土師器	皿	P461(SB05)		1.0		7.5	底部1/4	橙	普通	粗砂～極細砂を多く含む	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：見込み部回転ナデ	
18	33	42	土師器	小皿	P425(SB05)	8.6	1.7			口縁部1/6	淡黄	普通	赤色粒多く含む	磨滅のため調整不明	非ロクロ
19	33	42	瓦器	椀	P425(SB05)	15.8	4.2			口縁部1/3	灰白	やや不良	1㎜以下の砂粒をごく少量含む	磨滅のため調整不明	和泉型、炭素吸着不十分
20	33	42	白磁	碗	P425(SB05)	16.0	4.95			口縁部1/4	灰白	普通	精良	体部外面下半は露胎	
21	33	44	土師器	小皿	P132(SB06)	7.85	1.2		6.6	ほぼ完形	浅黄橙～橙	普通	2㎜以下の砂粒、赤色粒を多く含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ、底部は回転ヘラ切り 内面：回転ナデ	
22	33	43	土師器	小皿	P217(SB06)		0.7		7.5	底部1/4	にぶい黄橙～灰黄	普通	細砂をごく少量、雲母含む	磨滅のため調整不明	
23	33	43	土師器	椀	P217(SB06)	15.1	3.1			口縁部1/5	橙	普通	細砂、赤色粒を少量含む	磨滅のため調整不明	
24	33	43	瓦器	椀	P132(SB06)	15.8	4.1			口縁部1/12	灰	良	極細砂をごく少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエの後ナデ 内面：横方向のヘラミガキ＋見込み部に縦方向の暗文	和泉型
25	33	44	土師器	小皿	P346(SB07)	7.65	1.2		6.6	口縁部1/6、底部7/8	にぶい橙～にぶい黄橙	普通	径1.5㎜以下の石英・長石をごく少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ユビオサエの後ナデ 内面：口縁部～体部ヨコナデ、見込部ナデ	
26	33	44	土師器	小皿	P304(SB07)	8.6	1.4		7.6	口縁部1/2弱、底部1/3	にぶい黄橙	普通	径1㎜以下の長石・石英を中量含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ、底部は回転糸切り 内面：口縁部から体部は回転ナデ、見込み部はナデ	
27	33	44	土師器	小皿	P346(SB07)	9.4	0.95		7.65	口縁部1/5、底部1/4	橙	普通	径1㎜以下の石英・長石を中量含む	磨滅のため調整不明	おそらくロクロ
28	33		土師器	小皿	P224(SB07)	7.8	1.35		6.3	口縁部1/4、底部若干	にぶい黄橙	普通	細砂をごく少量含む	内外面とも磨滅のため調整不明(回転ナデ)	
29	33	44	土師器	脚付皿	P407(SB07)	14.6	4.35			口縁部から底部1/2、脚部若干	橙～にぶい橙	普通	径1㎜以下の長石を少量、赤色粒を多量に含む	外面：口縁部ヨコナデ、皿部下半はユビオサエの後ナデ、接合部貼り付けナデ、脚部ヨコナデ。	

報告番号	図版	写真図版	種別	器種	遺構名	法量(cm)				残存状況	色調	焼成	胎土	調整	備考
						口径	器高	最大径	底径						
30	33	巻頭1 44	白磁	碗	P304(SB07)	16.5	5.75			口縁部1/9	灰白	良	精良	底部は露胎	
31	33	45	土師器	小皿	P443(SB08)	8.4	1.2		6.0	口縁部～底部1/3	浅黄橙	普通	径1.5㎜以下の石英・長石・チャートを多量に含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ、底部は回転糸切り 内面：磨滅のため調整不明	
32	33	44	土師器	皿	P555(SB08)	13.2	2.5		9.2	完形	にぶい黄橙～にぶい黄	普通	径5㎜以下の砂粒数個、極細砂を大量に含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ユビオサエの後ナデ 内面：口縁部～体部ヨコナデ、見込部ナデ	灯芯痕跡
33	33	45	土師器	皿	P526(SB08)	13.85	2.85		8.8	完形	にぶい黄橙～褐灰	普通	細砂、極細砂を少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ユビオサエの後ナデ 内面：口縁部～体部ヨコナデ、見込部ナデ	灯芯痕跡らしきものあり
34	34	45	瓦器	椀	P433(SB08)	15.1	4.55		4.0	口縁部～体部若干、底部完存	灰白	やや不良	極細砂をごく少量含む	磨滅のため調整不明	和泉型
35	34	45	瓦器	椀	P433(SB08)	14.9	3.9			口縁部1/9	灰白～灰	やや不良	極細砂をごく少量含む	磨滅のため調整不明(内面横方向のヘラミガキか？)	和泉型
36	34	45	瓦器	椀	P433(SB08)	15.5	4.2			口縁部1/9	灰白	やや不良	細砂、極細砂を多く含む	磨滅のため調整不明	和泉型
37	34	45	瓦器	椀	P443(SB08)	15.4	4.15			口縁部1/12	暗灰～灰白	やや不良	極細砂を少量含む	磨滅のため調整不明	和泉型
38	34	45	瓦器	椀	P443(SB08)	13.5	3.8			口縁部1/12	灰白～灰	やや不良	極細砂を少量含む	磨滅のため調整不明(内面横方向のヘラミガキか？)	和泉型
39	34	45	瓦器	椀	P555(SB08)	15.6	3.55			口縁部1/12	灰白～灰	やや不良	極細砂をごく少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエの後ナデ 内面：ヘラミガキ	和泉型
40	34	45	瓦器	椀	P580(SB08)		2.25		4.3	底部1/2	灰白	不良	精良	磨滅のため調整不明	和泉型
41	34	45	須恵器	椀	P526(SB08)	13.4	2.9			口縁部1/9	灰白～灰	やや不良	細砂をごく少量含む	外面：口縁部回転ナデ、体部ユビオサエの後ナデ 内面：ミガキ	在地系or備前系
42	34	巻頭1 45	青磁	碗	P433(SB08)		3.1			口縁部小片	灰オリーブ(釉)、灰	良	精良	全面施釉、内面に櫛描文	同安窯系
43	34	巻頭1 45	青磁	碗	P555(SB08)	15.8	3.85			口縁部小片	明オリーブ灰	良	精良	全面に施釉。櫛描文	碗Ⅰ1b、同安窯系
44	34	44	土師器	小皿	P316(SB09)	7.95	1.0		6.35	口縁部1/4、底部1/3	にぶい黄褐	普通	径1㎜以下の石英・長石・チャートを中量含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ、底部は回転ヘラキリの後ナデ 内面：回転ナデ	
45	34	44	土師器	小皿	P316(SB09)	10.2	1.35		8.0	口縁部1/7、底部1/6	橙	普通	径1.5㎜以下のチャート・石英・長石を多量に含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ、底部は回転ヘラキリの後ナデ 内面：回転ナデ	
46	34	44	土師器	小皿	SK18(SB09)	8.95	1.7		7.0	口縁部～底部1/6	橙	普通	径3㎜以下の長石・石英・チャートを多く含む	磨滅のため調整不明	おそらくロクロ
47	34		土師器	小皿	P301(SB09)	8.4	1.3		6.65	口縁部1/4弱、底部2/3	にぶい黄橙～橙	普通	径4㎜以下の砂粒を少量含む	内外面とも磨滅のため調整不明。底部外面はヘラ切りか	
48	34	44	土師器	羽釜	P203(SB09)	19.5	3.2			口縁部1/12	にぶい褐	普通	径1㎜以下の石英・長石・チャートを多量に含む	磨滅のため調整不明	
49	34	46	瓦器	小皿	P148(SB09)	8.95	1.8		7.7	ほぼ完形	灰～灰白	やや不良	極細砂を多量に含む	磨滅のため調整不明(手捏ねとナデか)	
50	34	44	瓦器	椀	P148(SB09)	13.8	3.8			口縁部1/5	灰	普通	精良	外面：口縁部ヨコナデ、体部はユビオサエの後ナデ 内面：横方向のヘラミガキ	和泉型
51	34	44	瓦器	椀	P148(SB09)		3.9			口縁部小片	灰～灰白	やや不良	極細砂をごく少量含む	磨滅のため調整不明	和泉型、炭素吸着不十分
52	34	45	土師器	小皿	P229(SB10)	7.85	1.1		6.75	完形	浅黄～にぶい黄褐	普通	極細砂をごく少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、底部ユビオサエの後ナデ 内面：煤付着により不明瞭。	
53	34	47	土師器	小皿	P477(SB10)	8.55	1.15		7.3	口縁部1/4、底部1/6	橙～にぶい橙	普通	赤色粒多量に含む	磨滅のため調整不明(口縁部、強いヨコナデ、底部ユビオサエの後ナデ)	
54	34	46	土師器	小皿	P571(SB10)	8.4	1.3		6.7	口縁部3/4、底部完存	橙	普通	赤色粒多く含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ、底部は回転ヘラキリの後ナデ 内面：回転ナデ	
55	34	46	土師器	小皿	P571(SB10)	8.35	1.2		7.0	口縁部6/7、底部完存	橙	普通	雲母、赤色粒多く含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ、底部は回転ヘラキリ 内面：回転ナデ	
56	34	47	瓦器	小皿	P229(SB10)	8.6	1.9		7.3	口縁部1/9、底部1/6	灰白～黒褐	普通	細砂、極細砂を多量に含む	磨滅のため調整不明(口縁部、強いヨコナデ)	
57	34	47	瓦器	小皿	P571(SB10)	7.9	1.5		6.0	口縁部～底部1/4	暗灰～灰白	普通	極細砂を多く含む	磨滅のため調整不明	
58	34	47	瓦器	椀	P229(SB10)		0.95		3.7	底部1/3	灰白～黄灰	やや不良	極細砂を多量に含む	磨滅のため調整不明	和泉型、炭素吸着不十分

報告番号	図版	写真図版	種別	器種	遺構名	法量(cm)				残存状況	色　調	焼成	胎　土	調　整	備　考
						口径	器高	最大径	底径						
59	34	47	瓦器	椀	P571(SB10)	14.4	4.3			口縁部1/4	灰～灰白	やや不良	精良	外面：口縁部ヨコナデ、体部はユビオサエの後ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部は横方向のヘラミガキ	和泉型、炭素吸着不十分
60	34	47	瓦器	椀	P229(SB10)	14.7	3.3			口縁部1/8	灰白～黄灰	やや不良	細砂、極細砂を多量に含む	磨滅のため調整不明	和泉型、炭素吸着不十分
61	34	47	瓦器	椀	P249(SB10)	14.8	3.9			口縁部1/7	灰	やや不良	細砂、極細砂を少量含む	磨滅のため調整不明瞭、内面は横方向のヘラミガキ	和泉型
62	34	47	瓦器	椀	P229(SB10)	14.8	3.8			口縁部1/10	灰白～白	やや不良	精良	磨滅のため調整不明	和泉型、炭素吸着不十分
63	34	47	瓦器	椀	P486(SB10)	13.9	3.15			口縁部1/6	灰白～暗灰	やや不良	細砂、極細砂を多量に含む	磨滅のため調整不明	和泉型、内面炭素吸着不十分
64	34	47	瓦器	椀	P491(SB10)	13.8	3.35			口縁部1/12	灰～灰白	やや不良	極細砂を多量に含む	磨滅のため調整不明	和泉型、炭素吸着不十分
65	34	47	瓦器	椀	P566(SB11)		2.35		6.0	高台1/5	にぶい黄～灰	やや不良	細砂、極細砂を多く含む	磨滅のため調整不明	高台はしっかり
66	34	47	瓦器	椀	P405(SB12)	15.4	4.05		4.7	口縁部1/4弱、底部完存	灰白	不良	細砂を少量含む	磨滅のため調整不明	和泉型
67	34	47	瓦器	椀	P440(SB12)	15.3	3.15			口縁部1/6	灰白	やや不良	径4㎜以下の砂粒をごく少量含む	外面：磨滅のため調整不明 内面：横方向のヘラミガキ	和泉型
68	34	47	瓦器	椀	P232(SB12)	15.8	2.9			口縁部1/5	灰白	やや不良	極細砂を多く含む	磨滅のため調整不明	
69	34	47	瓦器	椀	P434(SB12)	14.8	3.3			口縁部1/9	灰	やや不良	極細砂をごく少量含む	磨滅のため調整不明	和泉型
70	34	47	瓦器	椀	P434(SB12)	13.9	3.25			口縁部小片	灰	普通	極細砂をごく少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部はユビオサエの後ナデ 内面：横方向のヘラミガキ	和泉型
71	35		土師器	小皿	P250(SB13)	7.8	1.25		6.05	口縁部～底部1/4	にぶい黄橙、淡黄	普通	極細砂をごく少量含む。	磨滅のため調整不明	ロクロ土師器
72	35	47	瓦器	椀	P588(SB13)		0.8		4.8	底部1/2弱	灰、灰白	不良	精良	磨滅のため調整不明	高台断面三角
73	35	47	瓦器	椀	P284(SB13)	15.3	4.65			口縁部1/12	灰白、浅黄	不良	極細砂をごく少量含む。	磨滅のため調整不明	和泉型
74	35	巻頭1 47	青磁	小皿	P250(SB13)	9.8	2.9		2.9	口縁部1/3、底部3/4	灰オリーブ、灰白	良好	精良	外面：底部露胎　内面：施釉(薄い)	ロクロ成形
75	35	46	土師器	小皿	P475(SB14)	7.7	1.65		5.8	口縁部1/7、底部完存	にぶい橙、浅黄橙	普通	極細砂、赤色粒を多く含む	外面：口縁から体部は回転ナデ、底部は回転糸切り 内面：回転ナデ	
76	35	48	土師器	皿	P335(SB15)	14.8	2.7			口縁部1/12	橙	普通	径1㎜以下の石英・長石・チャートを多量に含む	磨滅のため調整不明	手捏ね
77	35	48	土師器	小皿	P153(SB16)	7.6	1.2		5.6	口縁部2/5、底部1/3	にぶい黄橙、橙	普通	径3㎜以下の砂粒を少量含む	外面：体部は回転ナデ、底部は回転糸切りの後ナデ 内面：回転ナデ	
78	35	48	土師器	椀	P153(SB16)	13.8	2.9			口縁部1/12	にぶい黄橙、橙	普通	極細砂をごく少量含む。	磨滅のため調整不明	瓦器？
79	35	48	土師器	皿	P101(SB16)	15.25	3.1		10.2	口縁部1/4、底部1/8	にぶい黄橙、橙	普通	径4㎜以下の長石・石英・チャートを少量含む	外面：体部は回転ナデ、底部は回転糸切り 内面：回転ナデ	
80	35	48	土師器	脚	P097(SB16)		2.3		13	脚台1/7	にぶい黄橙	普通	極細砂、赤色粒を多量に含む	磨滅のため調整不明	器種不明
81	35	48	瓦器	小皿	P331(SB16)	8.8	2.05		7.6	口縁部1/5、底部1/4	灰白	やや不良	極細砂を多く含む。	外面：口縁部ヨコナデ、体部はユビオサエの後、ナデ 内面：横方向のヘラミガキ	
82	35	48	土師器	羽釜	P053(SB17)	18.7	3.45			口縁部1/12	灰黄褐、橙	普通	極細砂を多量に含む	外面：口縁部ヨコナデ、羽部貼付けナデ、体部タタキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部は横j方向のヘラケズリ	
83	35	48	土師器	小皿	P080(SB18)	8.9	1.3		7.8	口縁部1/4、底部1/3	にぶい黄橙	普通	細砂を少量含む	外面：体部は回転ナデ、底部は回転ヘラキリ 内面：回転ナデ	ロクロ
84	35	48	瓦器	椀	P080(SB18)		1.6		5.4	底部1/2	暗灰	普通	極細砂を多量に含む	磨滅のため調整不明	和泉型
85	35	48	土師器	小皿	P134(SB19)	8.8	1.4		6.9	口縁部～底部1/4	灰黄、灰白	やや不良	極細砂をごく少量含む。	外面：口縁部ヨコナデ、底部は摩滅のため不明 内面：口縁部ヨコナデ、底部はナデ	
86	35	48	土師器	小皿	P134(SB19)	8.8	1.1		6.55	口縁部～底部1/4	浅黄	やや不良	極細砂をごく少量含む。	外面：口縁部ヨコナデ、底部は剥離のため不明 内面：口縁部ヨコナデ、底部はナデ	
87	35	48	瓦器	小皿	P134(SB19)	8.7	1.1		7.2	口縁部1/7、底部1/8	灰白、灰	不良	細砂をごく少量含む	磨滅のため調整不明	

報告番号	図版	写真図版	種別	器種	遺構名	法量(cm)				残存状況	色調	焼成	胎土	調整	備考
						口径	器高	最大径	底径						
88	35	48	瓦器	小皿	P134(SB19)	9.1	1.1		8.0	口縁部1/12	灰白、灰	やや不良	極細砂をごく少量含む。	磨滅のため調整不明	
89	35	48	瓦器	椀	P134(SB19)	13.8	3.55			口縁部1/4	灰白	不良	極細砂を少量含む	磨滅のため調整不明	和泉型
90	35	48	瓦器	椀	P134(SB19)	14.7	3.65			口縁部1/4	灰白	不良	極細砂を少量含む	磨滅のため調整不明	和泉型
91	35	48	瓦器	椀	P134(SB19)	14.9	4.05			口縁部1/12	灰白、灰黄	不良	細砂をごく少量含む	磨滅のため調整不明	和泉型
92	35	48	瓦器	椀	P134(SB19)	16.1	4.25			口縁部1/5	灰白、灰	やや不良	極細砂を少量含む	磨滅のため調整不明	和泉型
93	35	49	瓦器	椀	P134(SB19)		2.1		6.0	高台1/5	橙、暗灰	やや不良	極細砂を少量、赤色粒を多く含む	磨滅のため調整不明	和泉型
94	35	49	瓦器	椀	P134(SB19)		2.9		5.8	底部1/2	灰白、灰	不良	極細砂をごく少量含む。	磨滅のため調整不明	和泉型
95	35	49	瓦器	椀	P638(SB23)	13.8	4.4			口縁部1/7	暗灰、灰黄	普通	極細砂を少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部はユビオサエの後ナデ 内面：横方向のヘラミガキ	和泉型
96	35	49	瓦器	椀	P654(SB23)	16.8	4.45		4.5	口縁部若干、底部1/2	暗灰	普通	粗砂をごく少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部はユビオサエの後ナデ、高台は貼付けナデ 内面：ナデ、上から横方向のヘラミガキ	和泉型
97	35		瓦器	椀	P759(SB26)	15.7	3.95			口縁部1/6	灰白～灰	やや不良	精良	内外面とも磨滅のため調整不明	和泉型
98	36	46	土師器	小皿	P075	8.3	1.7		6.2	口縁部・底部1/2	にぶい黄橙～橙、見込部褐灰	普通	径3㎜以下の石英・長石・チャートを多量に含む	外面：口縁部から体部は磨滅のため調整不明、底部は回転ヘラ切り 内面：磨滅のため調整不明	底部外面に籾跡
99	36		瓦器	椀	P075	14.7	3.65			口縁部1/7	灰	普通	精良、極細砂を少量含む	外面：ユビオサエの後ナデ、上からヘラミガキ 内面：ヨコナデの上からヘラミガキ	和泉型
100	36		瓦器	椀	P077	15.8	3.9			口縁部1/6	灰から灰白	やや不良	精良、極細砂を少量含む	外面：ユビオサエの後ナデ 内面：横方向のヘラミガキ	和泉型
101	36	49	土師器	小皿	P082	8.5	1.35		6.0	口縁部1/7、底部1/4	にぶい黄橙	普通	径2㎜以下の石英・長石・チャートを多量に含む	内外面とも磨滅のため調整不明	
102	36	49	土師器	椀？(底部)	P082		1.9		7.0	底部のみ	にぶい黄橙	普通	径4㎜以下の石英・長石・チャートを多量に含む	外面：体部はナデ、底部は回転ヘラ切り 内面：回転ナデ	
103	36	49	瓦器	椀	P082		1.8		5.1	底部のみ	にぶい黄橙～暗灰	不良	精良、極細砂を少量含む	内外面とも磨滅のため調整不明	和泉型
104	36	49	土師器	小皿	P091	8.0	1.7		6.3	口縁部1/7、底部1/12	にぶい黄橙	普通	径2㎜以下のチャート・石英・長石を少量含む	外面：回転ナデ、底部付近はナデ 内面：回転ナデ	
105	36	49	土師器	椀	P091	14.6	4.55		10.4	口縁部1/6、底部1/8	浅黄	普通	径1㎜以下のチャート・石英・長石を少量含む	外面：口縁から体部は回転ナデ、底部は回転糸切り 内面：回転ナデ	
106	36	49	瓦器	椀	P091		3.7			口縁部小片	灰白～黒	不良	精良、極細砂をごく少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部はユビオサエの後ナデ 内面：横方向のヘラミガキ	大和型？
107	36	49	瓦器	椀	P091	14.7	4.0			口縁部1/6	灰白	やや不良	精良、極細砂をごく少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部はユビオサエの後ナデ、高台は貼り付けてナデ 内面：横方向のヘラミガキ	和泉型
108	36	49	瓦器	椀	P091	14.7	3.9		5.1	口縁部1/4、底部1/2	灰白	不良	径1㎜以下の石英・長石を少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部はユビオサエの後ナデ、高台は貼り付けてナデ 内面：横方向のヘラミガキ、見込部に暗文	和泉型
109	36		瓦器	小皿	P098	8.6	1.7		7.4	口縁部1/3、底部1/2弱	灰白～灰	やや不良	精良、極細砂をごく少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部から底部はユビオサエの後ナデ 内面：磨滅のため不明	
110	36		瓦器	椀	P099	14.2	4.5		4.4	口縁若干、底部2/3	浅黄	やや不良	径3㎜以下の石英・長石を中量含む	内外面とも磨滅のため調整不明	楠葉型？
111	36		土師器	小皿	P105	9.25	1.45		5.9	口縁若干、底部1/2	橙～にぶい黄橙	普通	径3㎜以下の石英・長石・チャートを中量含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ、底部は回転糸切り 内面：回転ナデ	
112	36		瓦器	椀	P110	14.6	4.1			口縁部1/4	浅黄～暗灰	やや不良	径1㎜以下の石英・長石を少量含む	内外面とも磨滅のため調整不明	和泉型
113	36		瓦器	椀	P120	14.5	4.0			口縁部1/9	浅黄～暗灰	不良	径2.5㎜以下の石英・長石を少量含む	内外面とも磨滅のため調整不明	和泉型
114	36	50	土師器	小皿	P127	8.7	1.6		7.5	口縁部1/2、底部1/4	にぶい橙～にぶい黄橙	普通	径1㎜以下の石英・長石・チャートを少量含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ、底部は回転ヘラ切りの後ナデ 内面：回転ナデ	
115	36		瓦器	椀	P149	13.7	3.7			口縁部1/6	灰白～灰	普通	精良、極細砂をごく少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部はユビオサエの後ナデ 内面：横方向のヘラミガキ	和泉型、炭素吸着見られず
116	36		土師器	小皿	P164	7.8	1.1		6.5	口縁部1/9、底部1/4	浅黄～にぶい黄橙	普通	径1㎜以下の石英・長石・チャートを多量に含む	外面：口縁から体部はヨコナデ、底部は不定方向の強いナデ 内面：回転ナデ	

報告番号	図版	写真図版	種別	器種	遺構名	法量(cm)				残存状況	色調	焼成	胎土	調整	備考
						口径	器高	最大径	底径						
117	36	50	土師器	小皿	P171	8.25	1.45		6.55	ほぼ完形	にぶい黄橙	普通	径3㎜以下の石英・長石・チャートを多く含む	外面：口縁部から体部は磨滅のため不明瞭だが、回転ナデ、底部は回転ヘラ切り 内面＊磨滅のため不明瞭だが回転ナデ	
118	36		土師器	小皿	P172	7.0	1.75		6.1	口縁部1/9、底部1/3	浅黄	普通	精良、極細砂をごく少量含む	内外面とも磨滅のため調整不明	
119	36		土師器	小皿	P173	8.2	1.5		7.1	口縁部1/7、底部1/8	橙	普通	径1㎜以下の石英・長石・チャートを多く含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ、底部は回転ヘラ切りの後ナデ 内面：回転ナデ	
120	36		瓦器	椀	P173		2.5		4.4	底部1/5	灰白～灰	やや不良	精良、極細砂をごく少量含む	外面：体部はユビオサエの後ナデ、高台は貼り付けナデ 内面：ヘラミガキ(残存状況は不良)	炭素吸着不十分
121	36		土師器	小皿	P174	7.6	1.4		7.4	口縁部から底部1/4	灰黄～にぶい黄橙	普通	精良、極細砂をごく少量含む	外面：口縁部から体部はヨコナデ、底部はユビオサエの後ナデ 内面：口縁部はヨコナデ、見込部はナデ	
122	36		瓦器	椀	P175	13.8	3.2			口縁部1/9	灰	普通	精良	外面：ユビオサエの後ナデ、上から横方向のヘラミガキ 内面：横方向のヘラミガキ(残存状況は不良)	和泉型
123	36		土師器	椀	P186	12.8	3.45		8.75	口縁部1/5、底部若干	橙	普通	径1㎜以下の石英・長石を中量含む	内外面とも磨滅のため調整不明	ロクロ土師器
124	36		須恵器	椀	P186	15.8	3.6			口縁部1/7	灰白～灰	やや不良	精良、極細砂を多量に含む	内外面とも回転ナデ	
125	36		土師器	小皿	P187	8.3	1.65		7.1	口縁部から底部1/2弱	橙	普通	極細砂をごく少量、赤色粒を多量に含む	内外面とも磨滅のため調整不明	おそらく手づくね
126	36		土師器	小皿	P190	9.5	1.6		7.8	口縁部1/4、底部1/6	にぶい橙	普通	赤色粒を多量に含む	内外面とも磨滅のため調整不明	おそらく手づくね
127	36		土師器	小皿	P193	7.3	1.2		5.5	口縁部1/6、底部1/2弱	浅黄橙	普通	極細砂をごく少量含む	外面：口縁部は回転ナデ、底部は回転ヘラ切りの後ナデ 内面：回転ナデ	
128	36		土師器	皿	P193	15.1	2.85		11.6	口縁部1/12、底部1/8	浅黄橙	普通	極細砂を多く含む	内外面とも磨滅のため調整不明(回転ナデ)	
129	36		土師器	羽釜	P212		4.7			口縁部小片	橙～褐灰	普通	径2㎜以下の石英・長石・チャートを多量に含む	外面：磨滅のため調整不明 内面：横方向のナデ	
130	36		瓦器	小皿	P226柱痕	8.7	1.4		6.4	口縁部から底部1/6	オリーブ黒	普通	精良	外面：口縁部から体部はヘラミガキの痕跡。底部はユビオサエの後ナデ。 内面：ヘラミガキの痕跡。	
131	36		瓦器	椀	P226	13.8	3.5			口縁部1/9	灰～暗灰	やや不良	径1㎜以下のチャートをごく少量含む	内外面とも磨滅のため調整不明。内面に横方向のヘラミガキ残存。	外面炭素吸着がほぼなし
132	36	50	土師器	小皿	P237	7.9	1.3		6.0	ほぼ完形	浅黄橙～橙	普通	極細砂を少量含む	体部外面および内面は磨滅のため調整不明(おそらく回転ナデ)、底部外面は回転ヘラ切り	
133	36		瓦器	椀	P237	14.6	4.55			口縁部1/12	灰白～灰	普通	精良	外面：口縁端部ヨコナデ、体部上半横方向のヘラミガキ、下半はユビオサエの後ナデ 内面：横方向のヘラミガキ	和泉型
134	36	50	白磁	碗	P251	15.9	6.2		7.4	口縁部1/7、底部完存	灰白	普通	精良	内面から外面体部下まで施釉。底部外面は露胎、ケズリ出し高台、接地面はナデ。	
135	36	51	土師器	小皿	P252	8.9	1.55		7.65	口縁部4/5、底部完存	にぶい橙～にぶい黄橙	普通	径3㎜以下の石英・長石・チャートを多量に含む	外面：体部は回転ナデ、底部は回転ヘラ切り 内面：回転ナデ	
136	36		瓦器	椀	P257	14.6	2.8			口縁部1/4弱	灰	普通	細砂をごく少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエの後ナデ 内面：横方向のヘラミガキ	大和型
137	36		瓦器	椀	P257	15.3	4.05			口縁部1/7	灰白～灰	やや不良	極細砂を多く含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエの後ナデ 内面：横方向のヘラミガキ	和泉型
138	36		瓦器	椀	P299	13.8	3.5			口縁部1/7	灰	やや不良	細砂を少量含む	内外面とも磨滅のため調整不明	和泉型
139	36		土師器	小皿	P300	8.5	1.45		7.1	口縁部1/4、底部1/3	浅黄	普通	径2㎜以下の石英・長石・チャートを少量含む	外面：体部は回転ナデ、底部は回転ヘラ切り 内面：回転ナデ	
140	36	50	土師器	小皿	P315	8.75	1.65		7.2	口縁部1/4、底部1/3	にぶい橙～にぶい黄橙	普通	径2㎜以下の石英・長石・チャートを多量に含む	内外面とも磨滅のため調整不明。内面に回転ナデ、底部外面は回転糸切りか	
141	36	50	白磁	碗	P315	16.5	4.45			口縁部1/4	灰白	普通	精良	内面から外面口縁部下まで施釉。体部下半は露胎。	
142	37	51	土師器	小皿	P318	8.3	1.45		7.3	ほぼ完形	にぶい黄橙～黄灰	普通	径1㎜以下の石英・長石・赤色粒を少量含む	内外面とも磨滅のため調整不明。底部外面はヘラ切りか	
143	37		瓦器	椀	P325	13.8	3.2			口縁部1/7	灰～浅黄～灰白	やや不良	精良	外面：口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエの後ナデ 内面：磨滅のため調整不明	和泉型
144	37	50	土師器	小皿	P330	8.2	1.25		6.0	口縁部1/7、底部1/4	橙	普通	極細砂を中量含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ、底部は回転糸切り 内面：回転ナデ	
145	37	50	土師器	皿	P330	15.5	3.5		9.8	口縁部1/4、底部若干	浅黄橙	普通	径2㎜以下の石英・長石を少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部から底部はユビオサエの後ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部から底部はナデ	煤付着、燈明皿か？

報告番号	図版	写真図版	種別	器種	遺構名	法量(cm)				残存状況	色調	焼成	胎土	調整	備考
						口径	器高	最大径	底径						
146	37		瓦器	椀	P347	13.7	3.65			口縁部1/6	灰	やや不良	精良	内外面とも磨滅のため調整不明	和泉型
147	37		土師器	小皿	P349	8.85	1.7		7.7	口縁部から底部1/4	橙	普通	径2㎜以下の石英・長石を中量含む	内外面とも磨滅のため調整不明	
148	37		瓦器	小皿	P351	7.8	1.85		6.4	口縁部から底部1/4	灰白	やや不良	極細砂を少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、底部はユビオサエの後ナデ 内面：横方向のヘラミガキ	
149	37	50	土師器	小皿	P385	8.1	1.05		6.6	口縁部1/4、底部1/3	にぶい橙～にぶい黄橙	普通	極細砂を少量含む	内外面とも磨滅のため調整不明。手づくねか。	
150	37	50	瓦器	椀	P385	14.8	4.5		4.7	口縁部1/5、底部1/2	灰白～灰	やや不良	極細砂を多く含む	内外面とも磨滅のため調整不明	和泉型、炭素吸着不十分
151	37	51	土師器	小皿	P397	8.0	1.2		6.1	口縁部1/4、底部1/2	浅黄橙～灰白	普通	径1㎜以下のチャートをごく少量含む	内面から外面体部は磨滅のため調整不明。底部外面は回転ヘラ切りの後ナデ。	
152	37	51	土師器	小皿	P397	9.7	1.55		7.6	口縁部1/4、底部1/3	橙～にぶい橙～にぶい黄橙	普通	極細砂を少量含む	内外面とも磨滅のため調整不明。回転糸切りか。	灯芯痕跡あり
153	37	51	青磁	碗	P397		3.8		6.2	底部1/2	灰オリーブ(釉)、灰	良	精良	外面：体部から高台にかけて施釉、高台内側は掻き取り 内面：施釉、劃花文陰刻。	龍泉窯系
154	37	51	須恵器	椀	P399(P400)	16.45	4.45			口縁部1/5	灰白～暗灰	やや不良	径2㎜以下のチャート・石英・長石を中量含む	内外面とも回転ナデ、口縁部に重ね焼きの痕跡	P400から同一個体出土
155	37	51	土師器	小皿	P399(P400)	7.9	1.05		6.2	口縁部から底部1/2弱	橙～灰黄褐	普通	極細砂を多く含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ,底部は磨滅のため調整不明(ヘラ切り後ナデか) 内面：回転ナデ、見込部は磨滅のため調整不明	
156	37	51	瓦器	椀	P400	15.3	4.45			口縁部1/4	灰白～灰	不良	径2㎜以下のチャート・石英をごく少量含む	内外面とも磨滅のため調整不明。内面の一部にヘラミガキ残存。	和泉型、炭素吸着不十分
157	37		土師器	小皿	P410	8.4	1.7		7.1	口縁部1/9、底部1/2	浅黄橙	やや不良	極細砂をごく少量含む	内外面とも磨滅のため調整不明。手づくねか。	
158	37		瓦器	小皿	P412柱痕	8.3	1.35		7.1	口縁部から底部1/4	灰～灰白	やや不良	極細砂を多量に含む	内外面とも磨滅のため調整不明	
159	37	52	土師器	小皿	P421	6.7	1.3		5.6	口縁部1/6、底部1/2	橙	普通	径3㎜以下の砂粒(石英・赤色粒など)を多量に含む	内外面とも磨滅のため調整不明	ロクロ土師器
160	37	52	土師器	小皿	P421	6.9	1.5		5.6	口縁部1/4、底部1/3	橙	普通	径1㎜以下の長石・チャートを少量含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ、底部は回転糸切り 内面：回転ナデ	
161	37	52	土師器	小皿	P421	7.2	1.7		5.4	口縁部1/7、底部1/2	にぶい黄橙	普通	径1㎜以下の石英・長石・チャートを多量に含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ、底部は回転糸切り 内面：回転ナデ	
162	37	52	土師器	皿	P421	13.9	2.45			口縁部1/6	浅黄橙	普通	径1㎜以下の石英・長石・チャートを多量に含む	内外面とも磨滅のため調整不明	
163	37	51	土師器	小皿	P441	7.8	1.3		6.45	口縁部1/2、底部1/2強	にぶい黄橙～浅黄～橙	普通	精良、1㎜以下の粗砂をごく少量含む	外面：口縁部は磨滅のため調整不明、底部は回転ヘラ切り 内面：磨滅のため調整不明	
164	37	52	土師器	小皿	P441	7.4	1.35		6.3	口縁部1/4、底部1/3	にぶい黄橙	普通	径1㎜以下の砂粒(石英など)を多くに含む	外面：口縁部はヨコナデ、底部はユビオサエの後ナデ 内面：ヨコナデ	
165	37	52	土師器	小皿	P441		1.3		6.0	底部1/2	橙	普通	径3㎜以下の砂粒(石英・赤色粒など)を多量に含む	外面：口縁部は磨滅のため調整不明、底部は回転ヘラ切り　内面：磨滅のため調整不明	
166	37	52	瓦器	小皿	P441	8.4	1.7		7.05	完形	灰	普通	精良	外面：口縁部はヨコナデ、底部はユビオサエの後ナデ　内面：口縁部ヨコナデ、見込部は不定方向のナデ	
167	37		瓦器	椀	P452	14.7	3.95		5.1	口縁部1/4、底部1/2	灰白～黄灰	やや不良	細砂を少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部はユビオサエの後ナデ、底部はナデ、高台は貼り付け　内面は横方向のヘラミガキ	和泉型
168	37		土師器	小皿	P462	7.9	1.2		6.0	口縁部1/4、底部1/2	橙	普通	径1㎜以下の石英・長石・赤色粒を多量に含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ、底部は回転糸切り 内面：回転ナデ、見込部は磨滅のため調整不明	
169	37		瓦質土器	鍋	P463	25.1	3.7			口縁部1/9	オリーブ黒～灰黄	やや不良	微細な雲母を多量に含む	外面：口縁部回転ナデ、体部はユビオサエの後ナデ 内面：磨滅のため調整不明	
170	37	52	土師器	小皿	P495	7.6	1.4		6.3	ほぼ完形	にぶい黄橙～橙	普通	径2㎜以下の石英・長石・チャートを中量含む	外面：口縁部回転ナデ、底部はナデ(回転ヘラ切り？) 内面：口縁部回転ナデ、見込部は磨滅のため調整不明	
171	37	53	土師器	小皿	P495	7.9	1.75		5.9	口縁部1/4、底部3/4	橙～灰白～浅黄橙	普通	細砂をごく少量含む	外面：口縁部は磨滅のため調整不明、底部は回転糸切り 内面：磨滅のため調整不明	
172	37	52	土師器	小皿	P495		1.3		5.95	底部1/3	にぶい黄橙～浅黄	普通	細砂をごく少量含む	内外面とも磨滅のため調整不明	
173	37	52	土師器	皿	P495	13.7	2.6		9.55	口縁部1/2、底部完存	浅黄橙	普通	細砂をごく少量、赤色粒を多く含む	内外面とも磨滅のため調整不明	ロクロ土師器
174	37		土師器	椀	P530		1.7		7.7	底1/2、高台1/4	橙～暗灰黄	普通	細砂をごく少量、赤色粒を少量含む	内外面とも磨滅のため調整不明	ロクロ土師器

報告番号	図版	写真図版	種別	器種	遺構名	法量(cm) 口径	器高	最大径	底径	残存状況	色調	焼成	胎土	調整	備考
175	37	52	瓦器	小皿	P570	9.0	1.7		7.9	口縁2/3、底部1/3	灰白～灰	やや不良	精良	外面：口縁部ヨコナデ、底部はユビオサエの後ナデ 内面：磨滅しているがごく一部にヘラミガキ残る	
176	37	53	土師器	小皿	P574	8.8	1.6		6.6	口縁部1/4、底部完存	橙	普通	極細砂を少量含む	内外面とも磨滅のため調整不明(底部は回転糸切りか)	ロクロ土師器
177	37		土師器	鉢	P578	40.8	8.35			口縁部1/9	橙	普通	径5㎜以下の石英・長石・チャートを多量に含む	磨滅のため調整不明	器種不明
178	37		土師器	脚付皿	P850		3.15		8.4	脚1/4	橙	普通	径1㎜以下の石英・長石・チャートを少量含む	内外面とも磨滅のため調整不明	
179	37	52	土師器	杯	P726	13.6	3.55		10.2	口縁部1/5、底部1/7	橙	普通	径1.5㎜以下の石英・長石・チャートを多く含む	外面：口縁部から体部は磨滅のため調整不明、底部は糸切り(静止か) 内面：磨滅のため調整不明	
180	37	53	土師器	小皿	P696	8.25	1.4		6.7	口縁部～底部3/4	淡橙	普通	精良	外面：口縁部から体部はヨコナデ、底部はユビオサエの後ナデ 内面：口縁部から体部はヨコナデ、底部は一方向の仕上げナデ	京都系
181	38	53	瓦器	椀	P655	13.5	3.65		3.5	口縁部1/2、底部1/4	灰白～灰	やや不良	細砂をごく少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部はユビオサエの後ナデ、底部はナデ、高台は貼り付け 内面：口縁部はヨコナデの上から暗文	楠葉型？、炭素吸着不十分
182	38		瓦器	椀	P742	16.2	4.8		4.5	口縁部1/3、底部1/2弱	灰～青灰	普通	細砂をごく少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部はユビオサエの後ナデ、底部は高台貼り付けナデ 内面：ナデの上から暗文	和泉型
183	38	巻頭2 53	土師器	小皿	SK04	8.35	1.35		6.8	口縁部1/3、底部2/3	灰白	普通	径1㎜以下の石英・長石・チャートを少量含む	外面：口縁部回転ナデ、底部は回転ヘラ切り 内面：回転ナデ	
184	38	巻頭2 53	土師器	皿	SK04	12.9	2.5		6.85	口縁部4/5、底部完存	浅黄橙	普通	径3㎜以下の石英・長石・赤色粒を中量含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ、底部は回転糸切り 内面：口縁部から体部は回転ナデ、見込部は仕上げナデ	大きくゆがむ
185	38	巻頭2 54	土師器	皿	SK04	12.9	2.3		6.8	ほぼ完形	浅黄橙	普通	径3㎜以下の石英・長石・赤色粒を中量含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ、底部は回転糸切り 内面：口縁部から体部は回転ナデ、見込部はナデ	大きくゆがむ
186	38	巻頭2 54	土師器	皿	SK04	12.85	2.4		6.5	ほぼ完形	浅黄橙	普通	径3㎜以下の石英・長石・赤色粒を中量含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ、底部は回転糸切り 内面：口縁部から体部は回転ナデ、見込部はナデ	
187	38	巻頭2 55	瓦器	椀	SK04	15.6	4.9			口縁部1/6	灰白	やや不良	極細砂を少量含む	内外面とも磨滅のため調整不明。内面にヘラミガキがわずかに残る	和泉型
188	38	巻頭2 54	土師器	小皿	SK21	8.0	1.0		7.0	ほぼ完形	にぶい黄橙～暗灰黄	普通	径3㎜以下の石英・長石・チャートを大量に含む	磨滅のため調整不明(底部ヘラ切り？)	
189	38	54	土師器	小皿	SK21	7.75	1.0		7.0	ほぼ完形	にぶい黄橙～橙	普通	細砂をごく少量、雲母を多く含む	外面：口縁部ヨコナデ、底部はユビオサエの後ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、見込み部ナデ	
190	38	巻頭2 55	土師器	皿	SK08	14.2	2.55		10.0	口縁部若干、底部1/5	にぶい黄橙～浅黄橙～橙	普通	径3㎜以下の砂粒を多量に含む。	外面：口縁部から体部は磨滅のため調整不明、底部は回転糸切り 内面：磨滅のため調整不明	
191	38	巻頭2 54	土師器	小皿	SK10	7.3	1.2		6.6	口縁部1/3、底部1/2弱	にぶい黄橙～灰黄褐	普通	極細砂を多く含む	外面：口縁部は回転ナデ、底部は回転糸切り 内面：口縁部は回転ナデ、見込部はナデ	
192	38	巻頭2 55	瓦器	椀	SK10	15.6	4.2			口縁部1/6	灰白～灰	不良	精良	外面：口縁部ヨコナデ、体部部はユビオサエの後ナデ 内面：ヨコナデ	和泉型、重ね焼き
193	38	巻頭2 54	瓦器	椀	SK11	14.65	5.65		4.1	口縁部4/5、底部5/6	橙～灰	不良	細砂多く含む	磨滅のため調整不明	和泉型
194	38	巻頭2 55	須恵器	こね鉢	SK11	29.6	8.25			口縁部1/12	灰	良	径2㎜以下の石英・長石を少量含む	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
195	38		土師器	小皿	SK13	8.5	1.85		6.0	口縁部1/12、底部1/4	橙	普通	径1㎜以下の石英・長石を少量含む	外面：口縁部回転ナデ、底部は回転ヘラ切り、ヘラおこし 内面：回転ナデ、見込み部はナデ	
196	38	55	瓦器	椀	SK15	15.8	4.05			口縁部1/6	淡黄～暗灰	不良	細砂を少量含む	磨滅のため調整不明	和泉型
197	38	55	土師器	小皿	SK23	6.9	1.3		5.8	口縁部1/3、底部3/4	暗灰黄～灰黄褐	普通	径2㎜以下の石英・長石を大量に含む	外面：口縁部回転ナデ、底部は回転糸切り 内面：回転ナデ、見込み部は磨滅	二次焼成
198	38	55	土師器	小皿	SK23	8.2	1.75		6.6	口縁～底部1/2	にぶい黄橙	普通	径3.5㎜以下の砂粒を少量含む。	磨滅のため調整不明	灯心痕跡あり
199	38	55	土師器	小皿	SK25	6.9	1.3		5.9	口縁部1/2、底部完存	浅黄橙	やや不良	赤色粒を多量に含む	磨滅のため調整不明	
200	38	55	土師器	鍋	SK28	27.3	6.4			口縁部1/5	灰黄褐、にぶい黄橙	普通	径1㎜以下の砂粒を少量含む。	外面：口縁部ヨコナデ、体部は横方向のハケ目 内面：口縁部ヨコナデ、体部は横方向のハケ目	外面に煤付着
201	38	巻頭2 55	黒色土器	椀	SK39	13.7	5.85		8.4	口縁部1/4、底部7/8	橙～暗灰	普通	径2㎜以下の石英・長石をごく少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエの後ナデ、高台貼り付けナデ 内面：横・縦方向のヘラミガキ	炭素吸着不十分、内外面黒色
202	38	55	瓦器	椀	SK39	16.8	4.2		4.8	口縁部1/12、底部1/3	灰	不良	細砂をごく少量含む	磨滅のため調整不明瞭、外面にユビオサエ。	和泉型
203	39		弥生土器	甕	下層包含層(土壌層から下)	14.2	18.3	16.6	3.8	口縁部～体部1/2、底部完存	にぶい黄橙～灰黄褐	普通	径2㎜以下の長石・石英を少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部は斜め方向の連続タタキの後、下半部はナデ。底部はナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部は頸部下2/3が横方向のハケ目の後ナデ、1/3が縦方向のヘラケズリの後ナデ	全体にゆがみ

報告番号	図版	写真図版	種別	器種	遺構名	法量(cm)				残存状況	色調	焼成	胎土	調整	備考
						口径	器高	最大径	底径						
204	39		弥生土器	鉢	基盤層		3.6		4.1	底部1/2	にぶい黄橙～灰黄褐	普通	2㎜以下の砂粒を多量に含む	外面：斜め方向のたたき、底部側面はユビオサエ、底部外面はナデ 内面：磨滅のため調整不明	
205	39		古式土師器	小型丸底壺	基盤層						橙		極細砂をごく少量含む。	磨滅のため調整不明	
206	39		土師器	甕	基盤層 P37付近	22.2	6.1			口縁部1/4弱	橙	普通	径4㎜以下の石英・長石・チャートを多量に含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部は縦方向のハケ目？ 内面：口縁部は横方向のハケ目、体部は横方向のヘラケズリの後ナデ	
207	39	56	土師器	小皿	Ⅰ区　包含層（北半部）	7.95	1.15		6.5	完形	灰白、淡黄	やや不良	径3㎜以下の石英・長石・チャートを少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、底部はユビオサエの後ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、見込み部ナデ	少し歪む
208	39	56	土師器	小皿	Ⅰ区　包含層（北半部）	7.95	1.2		6.35	口縁部9/10、底部7/8	浅黄橙～にぶい黄橙	やや不良	極細砂をごく少量含む	外面：口縁部回転ナデ、底部は回転ヘラ切り 内面：回転ナデ、見込み部ユビオサエ	
209	39	56	土師器	小皿	Ⅰ区　包含層（南半部）	8.1	1.85		6.9	口縁部1/2、底部完存	橙～にぶい黄橙	普通	径2㎜以下の石英・長石・チャートを大量に含む	外面：口縁部回転ナデ、底部は回転ヘラ切り 内面：回転ナデ	煤付着、燈明皿か？
210	39	56	土師器	小皿	Ⅰ区　包含層（北半部）	8.3	1.75		6.25	ほぼ完形	浅黄橙～にぶい黄橙	普通	径3㎜以下の石英・長石・チャートを大量に含む	外面：口縁部回転ナデ、底部は回転ヘラ切りの後ナデ 内面：回転ナデ、見込み部ナデ	
211	39	56	土師器	小皿	Ⅰ区　包含層（南半部）	9.2	1.8		7.5	口縁部1/4、底部9/10	灰黄褐、、にぶい黄橙、橙	普通	径3㎜以下の石英・長石・チャートを大量に含む	磨滅のため調整不明、底部外面はヘラ切りか	二次焼成？
212	39	56	土師器	小皿	Ⅰ区　包含層	8.15	1.25		6.8	完形	浅黄橙～にぶい黄橙	普通	径2㎜以下の石英・長石・チャートを中量含む	外面：口縁部回転ナデ、底部は回転糸切り 内面：回転ナデ	
213	39		土師器	皿	下層包含層（土壌層から下）	14.95	2.3		10.8	口縁部1/7、底部3/4	浅黄橙～橙	やや不良	赤色粒を多量に含む	外面：口縁部から体部は回転ナデ、底部は回転糸切り 内面：口縁部から体部は回転ナデ、見込み部はナデ。	焼成時の割れ
214	39		土師器	羽釜	Ⅰ区　包含層（南半部）	21.8	6.05			口縁部小片	明黄褐	普通	径1㎜以下の石英・長石・チャートを中量含む	磨滅のため調整不明	
215	39	57	瓦器	小皿	Ⅰ区　包含層（土壌層）	8.4	1.65		7.25	口縁部1/2、底部3/4	灰白～灰	普通	精良	外面：口縁部ヨコナデ、底部はユビオサエの後ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、ナデの上に暗文	
216	39		瓦器	椀	Ⅰ区　包含層（南半部）	16.5	3.2			口縁部1/8	灰白～灰	やや不良	極細砂をごく少量含む	磨滅のため調整不明	大和型Ⅲ？
217	39		瓦器	椀	Ⅱ区　包含層（土壌層より上）	14.9	4.25			口縁部1/3	灰白	普通	極細砂を少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部上半は横方向のヘラミガキ、下半はユビオサエの後ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、乱れた圏線状のヘラミガキ	和泉型
218	39	57	瓦器	椀	Ⅰ区　包含層（土壌層）	14.4	4.6		4.6	口縁部1/2弱、底部11/12	明黄褐～灰	やや不良	極細砂を少量含む	磨滅のため調整不明	和泉型
219	39	57	瓦器	椀	Ⅰ区　包含層（土壌層）	14.7	4.8		4.4	口縁部2/3、底部完存	灰～灰白	普通	細さをごく少量含む	外面：口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエの後ナデ、高台貼り付けナデ 内面：ほぼ全面に暗文	和泉型
220	39		須恵器	こね鉢	Ⅰ区　包含層（南半部）					口縁部小片	灰白～灰	普通	極細砂を多く含む	回転ナデ	東播系
221	39		白磁	碗	Ⅱ区　包含層	14.8	3.65			口縁部小片	灰白	普通	密	内外綿とも施釉。	
222	39		白磁	碗	下層包含層（土壌層から下）	15.0	4.05			口縁部1/7	灰白	やや不良	密	体部外面下半は露胎	釉の発色悪い。型式チェック（Ⅴ類の系統）
223	39		白磁	皿	Ⅰ区　包含層（北半部）		0.8		5.6	底部1/2	灰白、明緑灰	良好	密	全面に施釉。	
224	39		青磁	碗	Ⅰ区　包含層（南半部）	11.1	3.3			口縁部1/6	オリーブ灰	良好	精良	全面に施釉、釉は厚め。鎬連弁文	龍泉窯系
225	39		青磁	碗	Ⅰ区　包含層（北半部）	15.6	4.4			口縁部1/8	オリーブ灰	普通	密	内外面とも施釉。釉は薄目。	
226		57	青磁	盤	側溝										写真のみ
227	39		染付	皿	Ⅱ区　包含層（土壌層より上）		2.55		3.3	底部	淡い水色、濃紺	普通	精良	碁笥底、畳付け部釉掻き取り。	上田A－Ⅰ類
228	39		土師質	羽口	Ⅰ区　包含層（南半部）					一部	灰白、橙、にぶい赤褐色	普通	極細砂を多く含む		
229		55	土製品	不明	P378（SB08）										写真のみ

第４章　総括

前章に記述したように、当遺跡では800基以上の柱穴が検出され、そこから26棟の建物と３基の墓を抽出した。ただ、26棟という数字は柱穴の数と比較して著しく少ないものであり、本来存在した建物の数はより多数に上るものと思われる。

検出された建物跡は大きく二つの群として把握できる。それぞれの群には面積の異なる建物が含まれていた。面積の違いが機能に由来するとすれば、機能の異なる建物が組み合わされて、それぞれの建物群が営まれていたと考えられる。

建物の方向は東西棟、南北等の違いはあるにせよおおむね揃っていることから、建物の建て替えには連続性が認められる。これは柱穴から出土した遺物が13世紀前半を中心としたもので、時期的にまとまっていることとも合わせ、当遺跡では建物の更新頻度が高かったことが推測される。

建物の更新頻度が高い理由として考えられるのは都志川の氾濫である。遺構が営まれている面が粗砂層を中心とした河川堆積物であること、あくまでも調査当時の状況であるが、遺跡が大きく蛇行した都志川の攻撃斜面に面して立地していることからみて、上記の推測は可能性が高いものと思われる。

前述のように、当遺跡出土遺物は13世紀前半（鎌倉時代前期）を中心としている。その中で目立つのが瓦器椀である。残存状況がよくないものがほとんどで、器形や調整の状況が不明瞭であるため、詳細な分析はできなかったが、いわゆる和泉型の瓦器椀でⅢ期の範疇に収まるものがほとんどであると考えている。しかし、これらの瓦器椀が和泉産のものであるのか、それとも和泉産を模倣したものであるのかについては判断できなかった。見込み部の暗文も含め典型的な資料があまりないこと、炭素吸着が不十分で焼成の甘い個体が多くを占めていること、重ね焼きをして炭素を吸着させない個体があることなどからみて、在地産である可能性も浮かび上がってくる。

また、輸入陶磁器も量的には多いといえないが、瓦器などと同時期のものとして龍泉窯系の青磁椀、同安窯系青磁皿、Ⅳ類の白磁碗が出土している。この中で数としてはⅣ類白磁碗が多く、今回の調査でも残りの良い破片が出土しているほか、隣接する洲本市教育委員会による調査でも完形品が出土している。また、これら以外にも遺構は見つかっていないもののⅨ類白磁碗や細片のみの出土であるが天龍寺様と考えられる龍泉窯系青磁盤といった14世紀まで下る製品も出土しており、輸入陶磁器の優品を所有できた階層が鎌倉時代から室町時代にいたるまで居住していたことを示している。

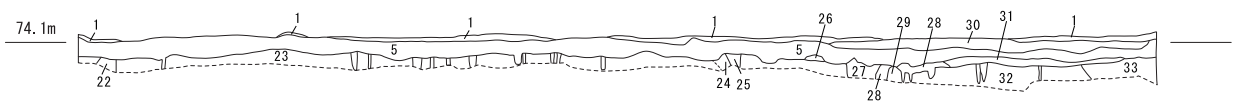
文献資料によれば、当地は鮎原庄に含まれる。当初、菅原氏が建立した吉祥院の荘園であった鮎原庄は、13世紀前半（貞応二年の淡路国大田文）によると京都北野社を本家と仰ぐ荘園になっており、国衙からの影響を排除しつつ、開発が進んでいたものと考えられ、久保ノ向遺跡は荘園を管理する在地勢力の実態を考古学的に示すものと考えられる。（鐵）

参考文献

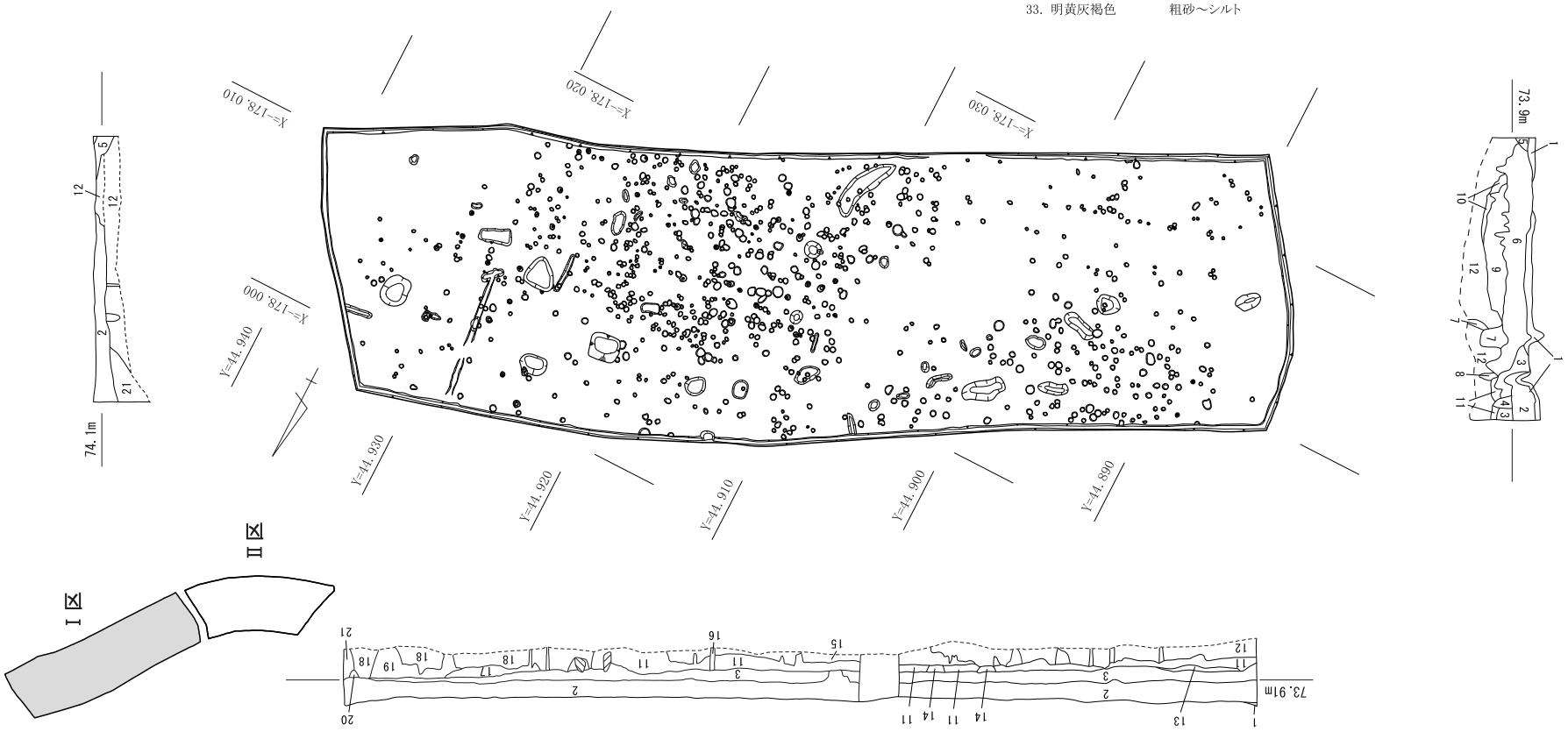
森島康雄「畿内産瓦器椀の併行関係と暦年代」『大和の中世土器Ⅱ』大和古中近研究会（1992）
太宰府市教育委員会『太宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』（2000）
兵庫県教育委員会・淡路市教育委員会『山田地区遺跡Ⅰ』（2009）
兵庫県教育委員会『大坪遺跡　大明神遺跡』（2014）
今井林太郎監修『日本歴史地形体系29Ⅱ　兵庫県の地名Ⅱ』（1999）平凡社

図　　版

図版 1

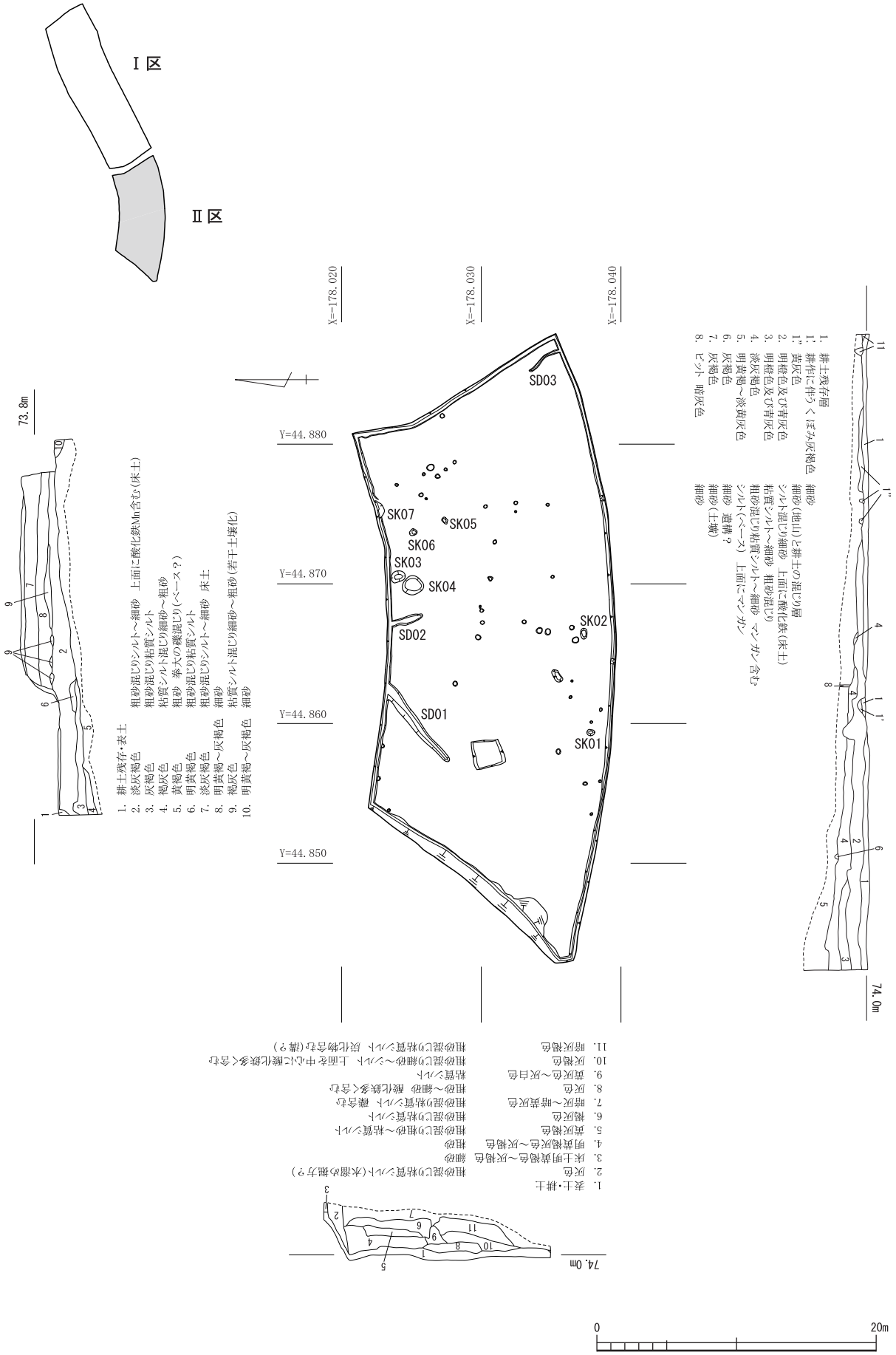


1. 表土、耕作土
2. 灰褐色　シルト混じり粗砂　下半を中心に酸化鉄含む
3. 灰～灰褐色　粗砂混じり粘質シルト　酸化鉄含む
4. 灰褐色　粗砂混じり粘質シルト　φ5～15cmの礫含む（暗渠？）
5. 濁青褐色　粗砂混じりシルト
6. 灰黄褐色　粗砂～シルト　φ5～15cmの礫多く 含む（洪水由来層か）
7. 灰黄褐～暗褐色　粘質シルト混じり粗砂　φ10cm程度の礫含む
8. 灰褐色　細砂～粗砂混じり粘質シルト
9. 暗褐灰色　細砂～粗砂混じり粘質シルト
10. 青灰褐色　粗砂混じり粘質シルト（溝埋土？）
11. 灰黄褐～暗灰黄褐色　粘質シルト混じり粗砂（12の土壌化層）
12. 褐灰～灰黄褐色　粗砂　礫含む（ベース）
12'. 灰黄褐色　粗砂混じりシルト
13. 灰色　粗砂混じり粘質シルト
14. 灰白色　粗砂混じりシルト（溝、新しい）
15. 暗褐色　粘質シルト混じり粗砂
16. 暗灰色　粗砂混じり細砂
17. 灰褐色　粗砂混じりシルトMn含む（18が少し土壌化したもの か）
18. 黄褐色　粗砂混じりシルト～粘質シルト
19. 灰褐色　シルト混じり粗砂　拳大の礫含む
20. 暗灰褐色　粗砂混じりシルト
21. 褐灰色　粗砂　拳大～人頭大の礫含む
22. 明黄褐色～青灰色　粘土ブロック
23. 褐灰色　粗砂　拳大礫含む（南東から流れ込んだもの）
24. 明黄灰褐色　粘質シルト混り　粗砂～細砂
25. 濁黄褐色　粗砂混じり粘質シルト　酸化鉄小塊・炭化物・焼土含む
26. 褐灰色　粘質シルト混じり　細砂～粗砂（少し土壌化）
27. 濁褐灰色　粗砂混じり粘質シルト
28. 濁黄灰色　粗砂混じり粘質シルト
29. 明黄灰褐色　粗砂～シルト（よく しまっている）
30. 明黄褐色～灰褐色　粗砂　全体に酸化鉄含む
31. 濁褐灰色　細砂混じり粘質シルト（土壌化）　下層に酸化鉄多く 含む
32. 灰褐色　粗砂～細砂　上面にマンガン 含む（東から西に向かって堆積か）
33. 明黄灰褐色　粗砂～シルト

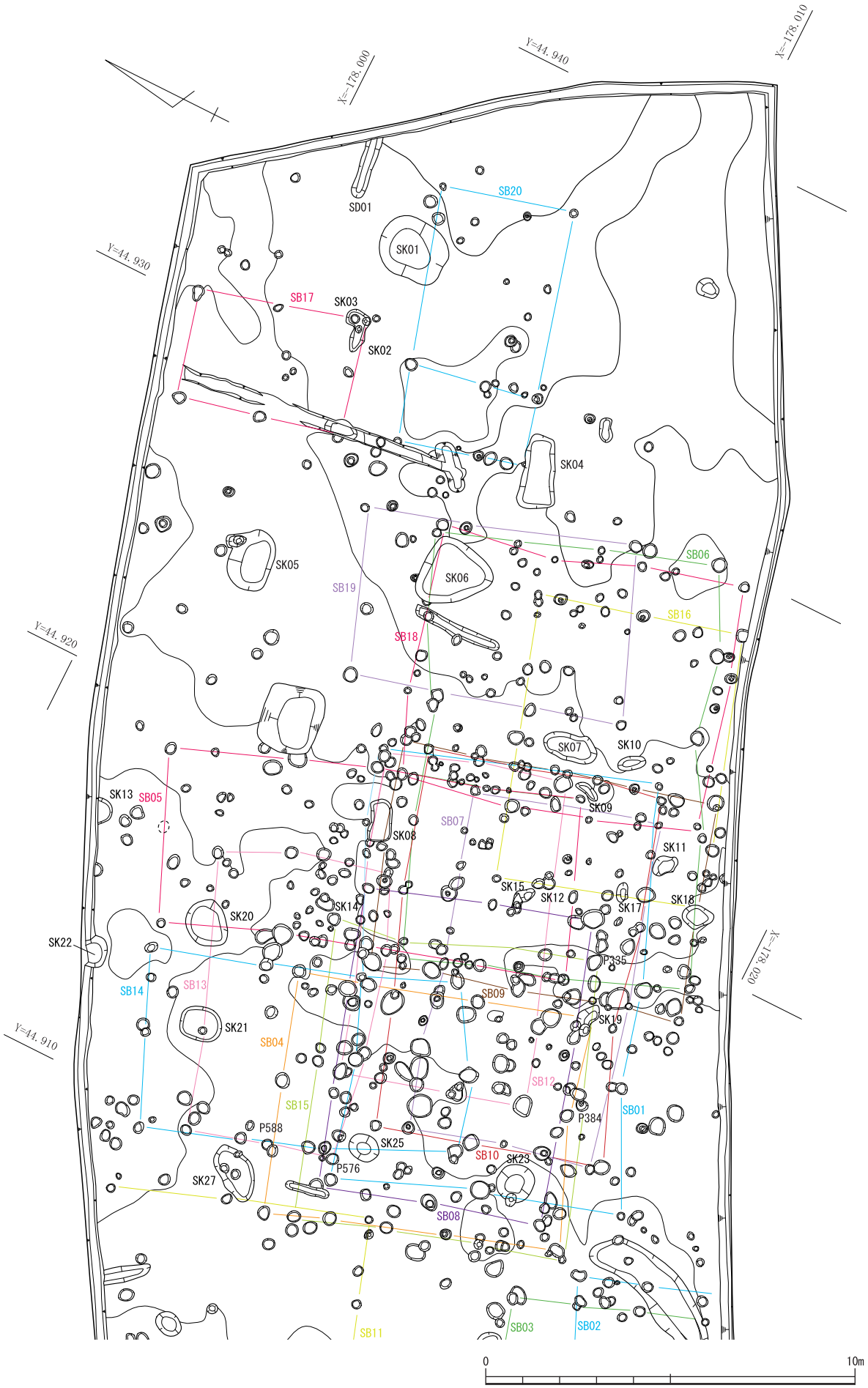


Ⅰ区平面図・断面図

図版２

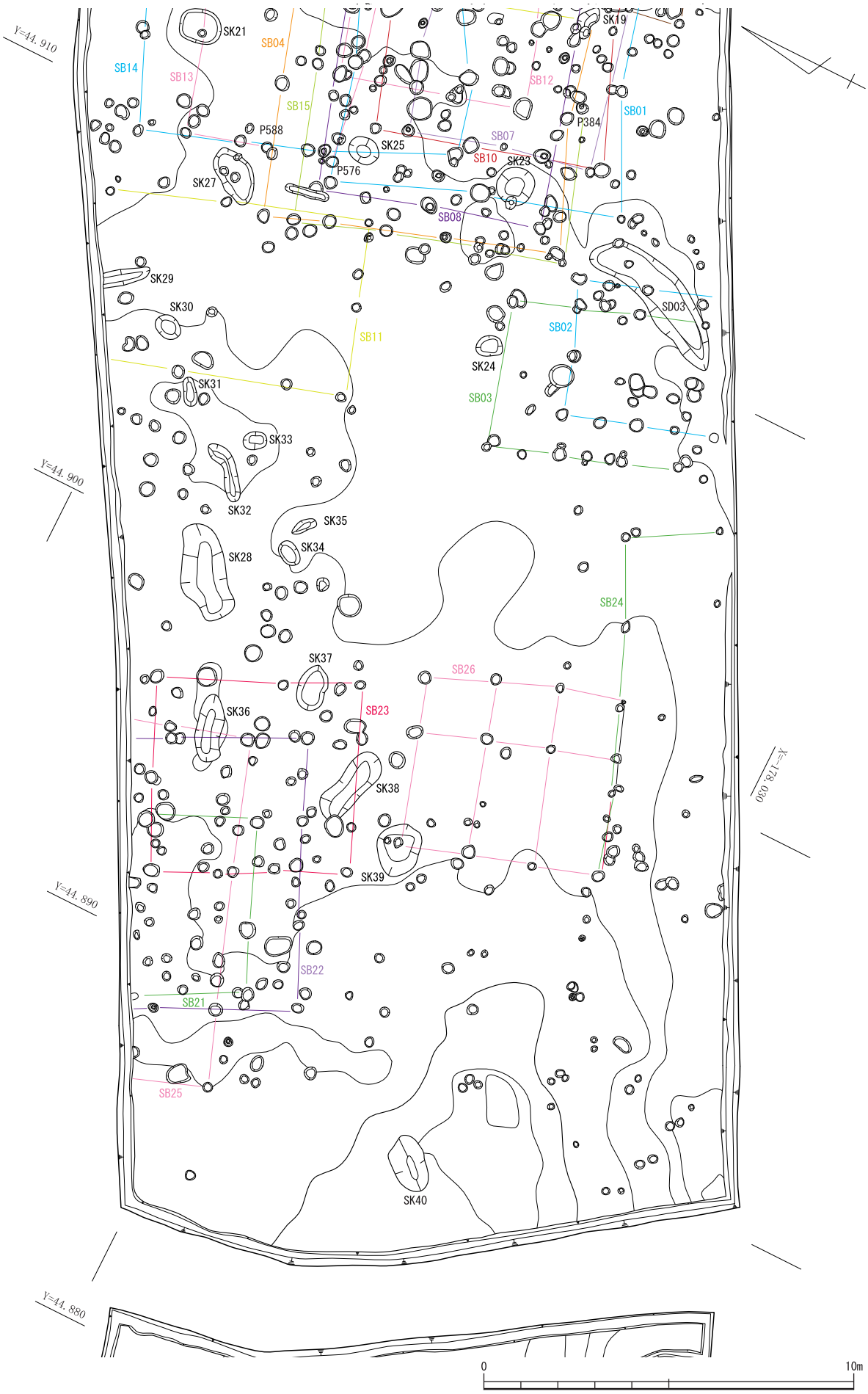


Ⅱ区平面図・断面図

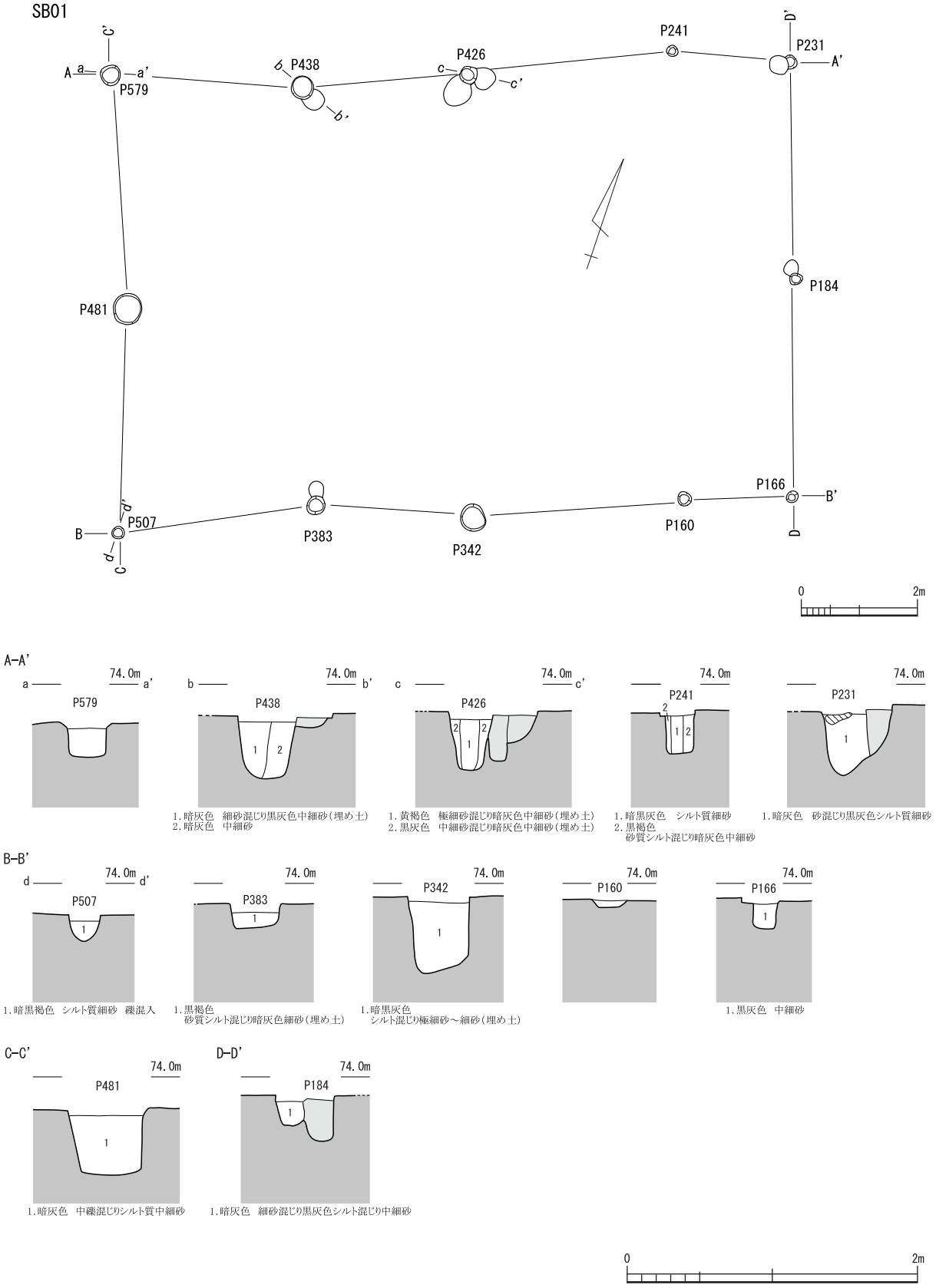

X=178.000
Y=44.940
X=178.010
Y=44.930
Y=44.920
Y=44.910
X=178.020
SD01
SB20
SK01
SB17
SK03
SK02
SK04
SK05
SB19
SK06
SB06
SB16
SB18
SK07
SK10
SK13
SB05
SK09
SB07
SK08
SK11
SK15
SK12
SK17
SK18
SK14
SK20
SK22
P335
SB14
SB13
SB09
SK19
SK21
SB04
SB12
SB15
P384
SB01
P588
SK25
SB10
SK23
P576
SK27
SB08
SB11
SB03
SB02
0
10m

Ⅰ区遺構配置図（1）

図版４

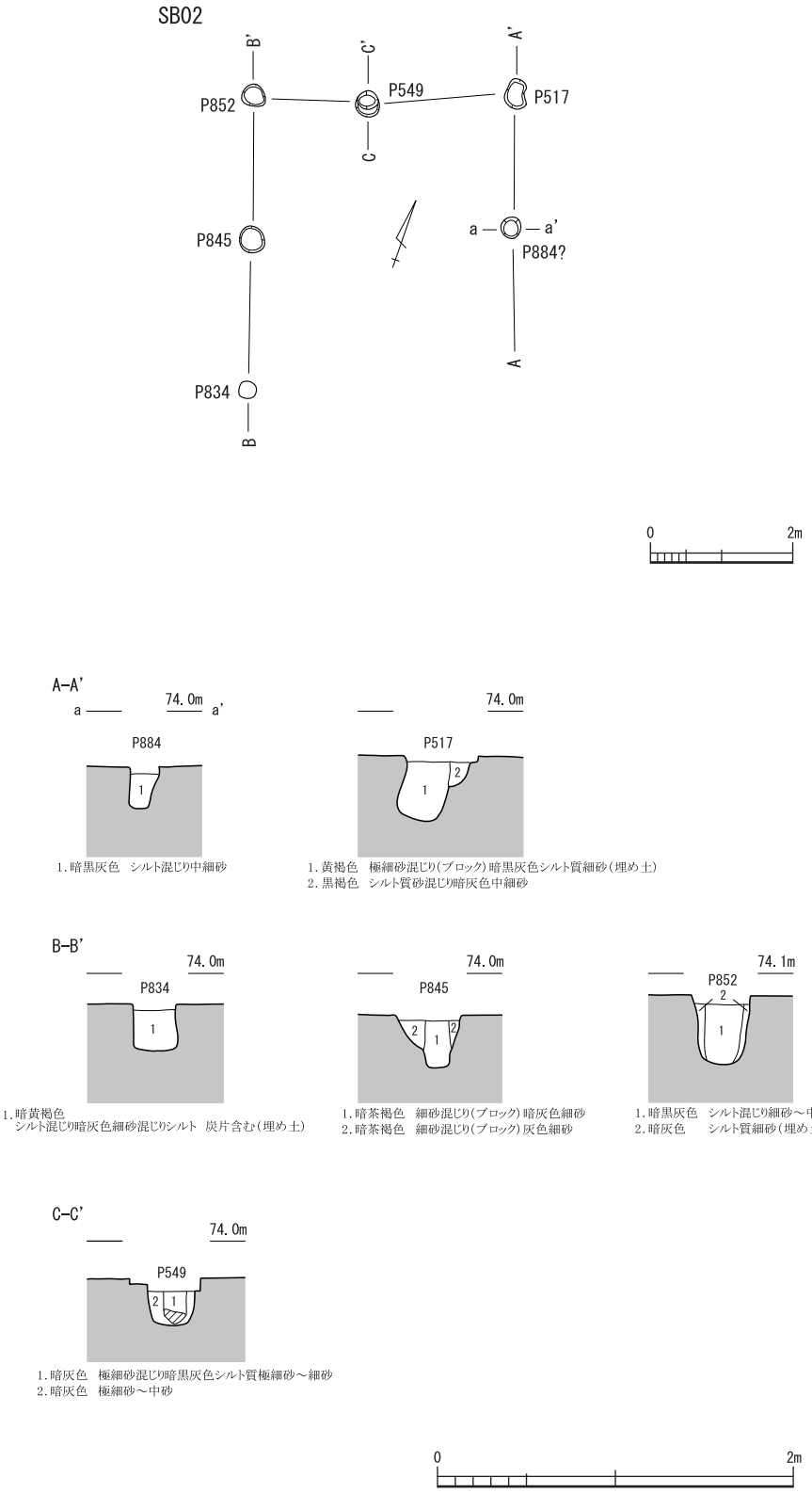


Ⅰ区遺構配置図（2）


SB01
P579
P438
P426
P241
P231
P481
P184
P507
P383
P342
P160
P166
A-A'
B-B'
C-C'
D-D'
74.0m
1.暗灰色　細砂混じり黒灰色中細砂(埋め土)
2.暗灰色　中細砂
1.黄褐色　極細砂混じり暗灰色中細砂(埋め土)
2.黒灰色　中細砂混じり暗灰色中細砂(埋め土)
1.暗黒灰色　シルト質細砂
2.黒褐色
砂質シルト混じり暗灰色中細砂
1.暗灰色　砂混じり黒灰色シルト質細砂
1.暗黒褐色　シルト質細砂　礫混入
1.黒褐色
砂質シルト混じり暗灰色細砂(埋め土)
1.暗黒灰色
シルト混じり極細砂～細砂(埋め土)
1.黒灰色　中細砂
1.暗灰色　中礫混じりシルト質中細砂
1.暗灰色　細砂混じり黒灰色シルト混じり中細砂
0
2m

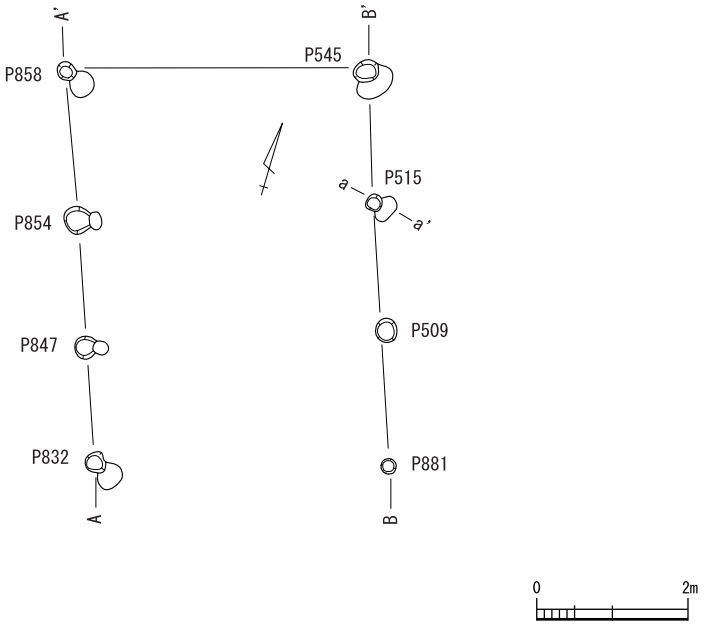
SB01　平面図・断面図

図版６

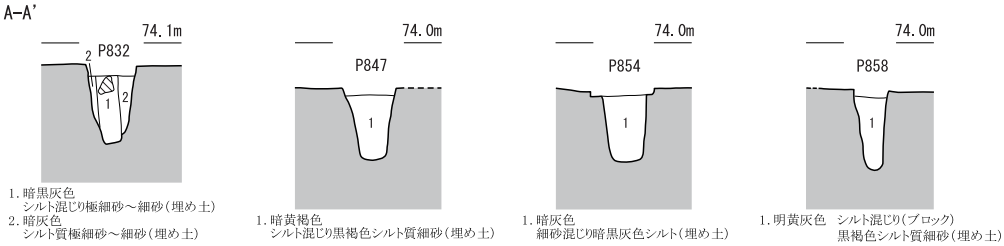


SB02　平面図・断面図

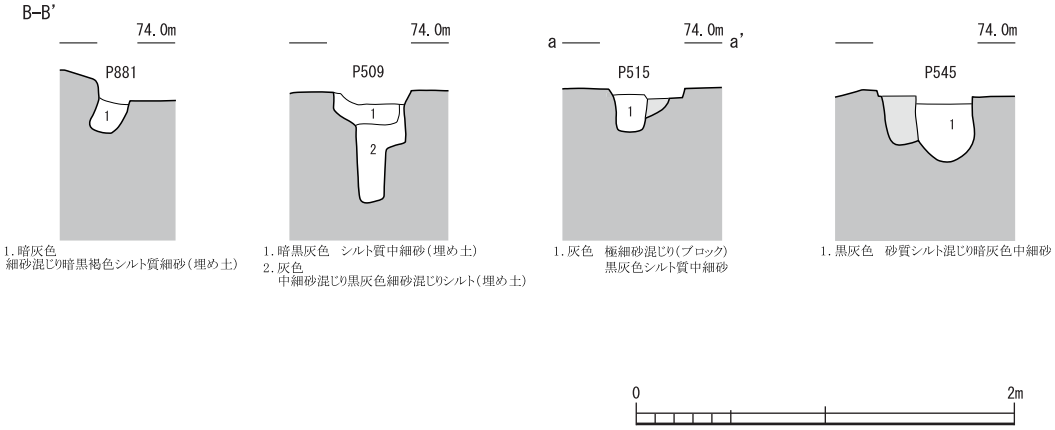
SB03



A–A'

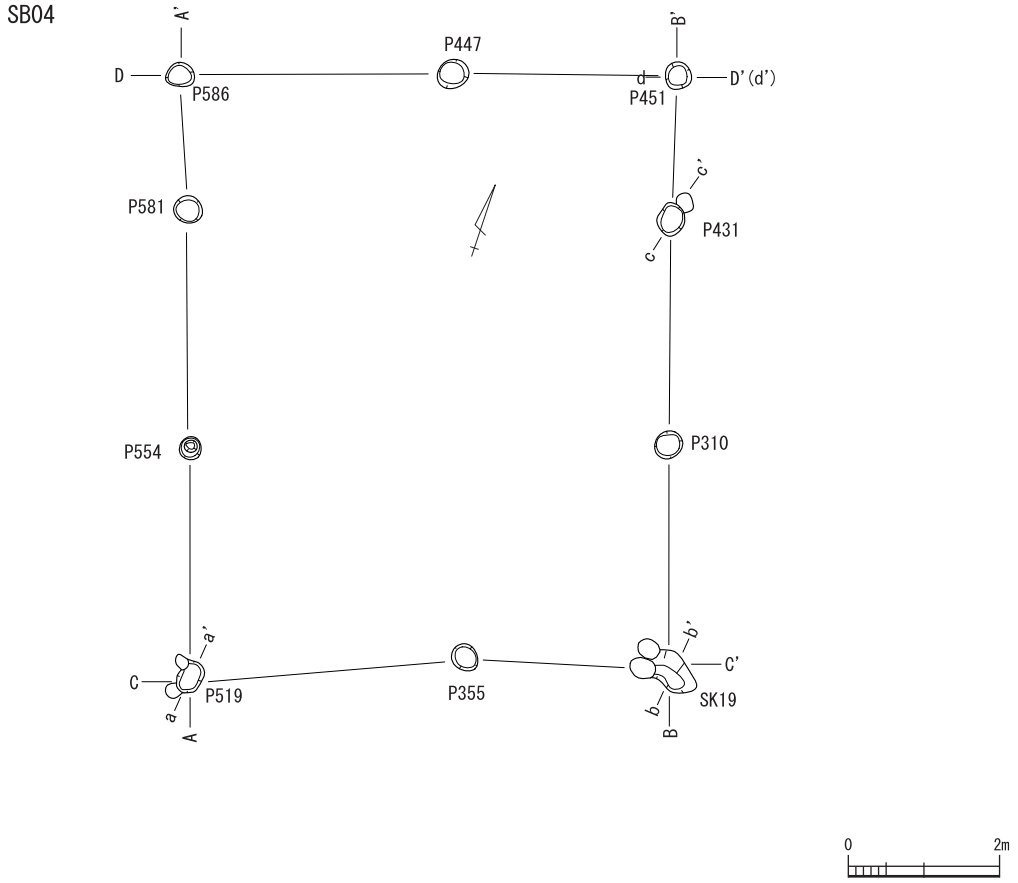


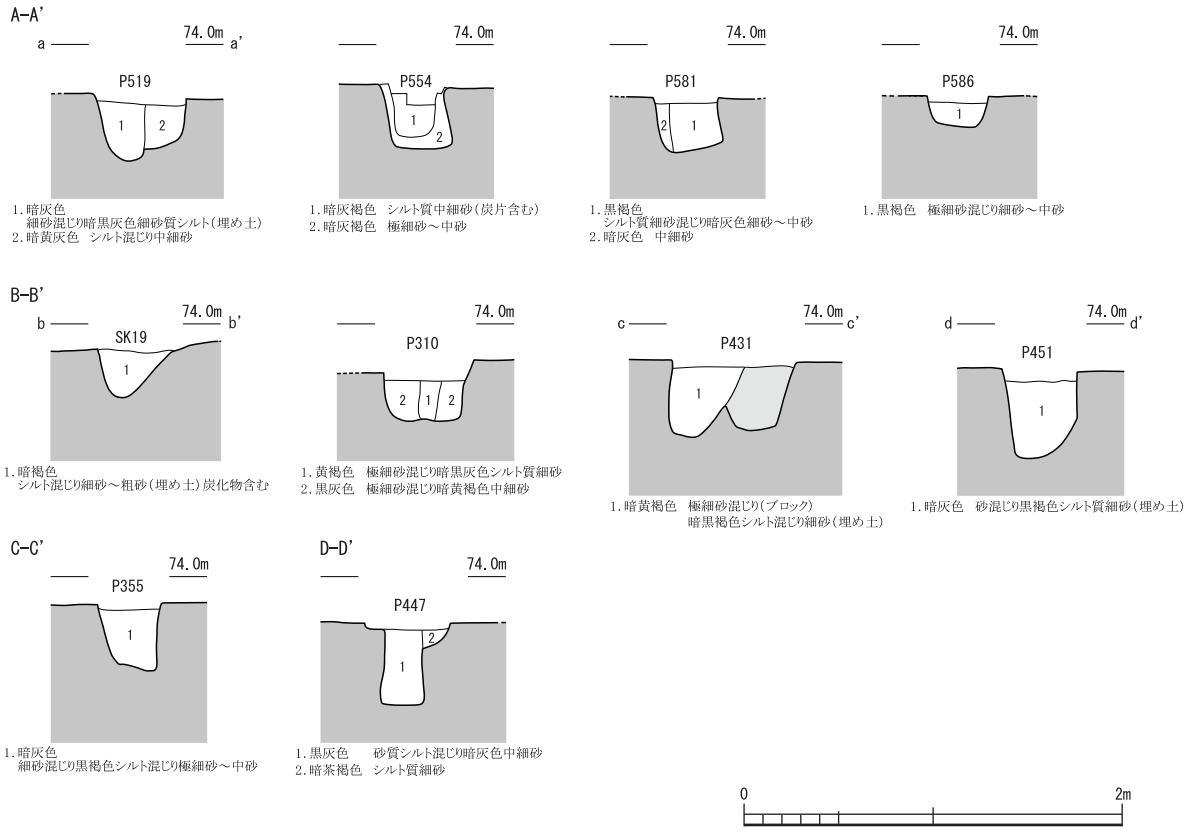
B–B'



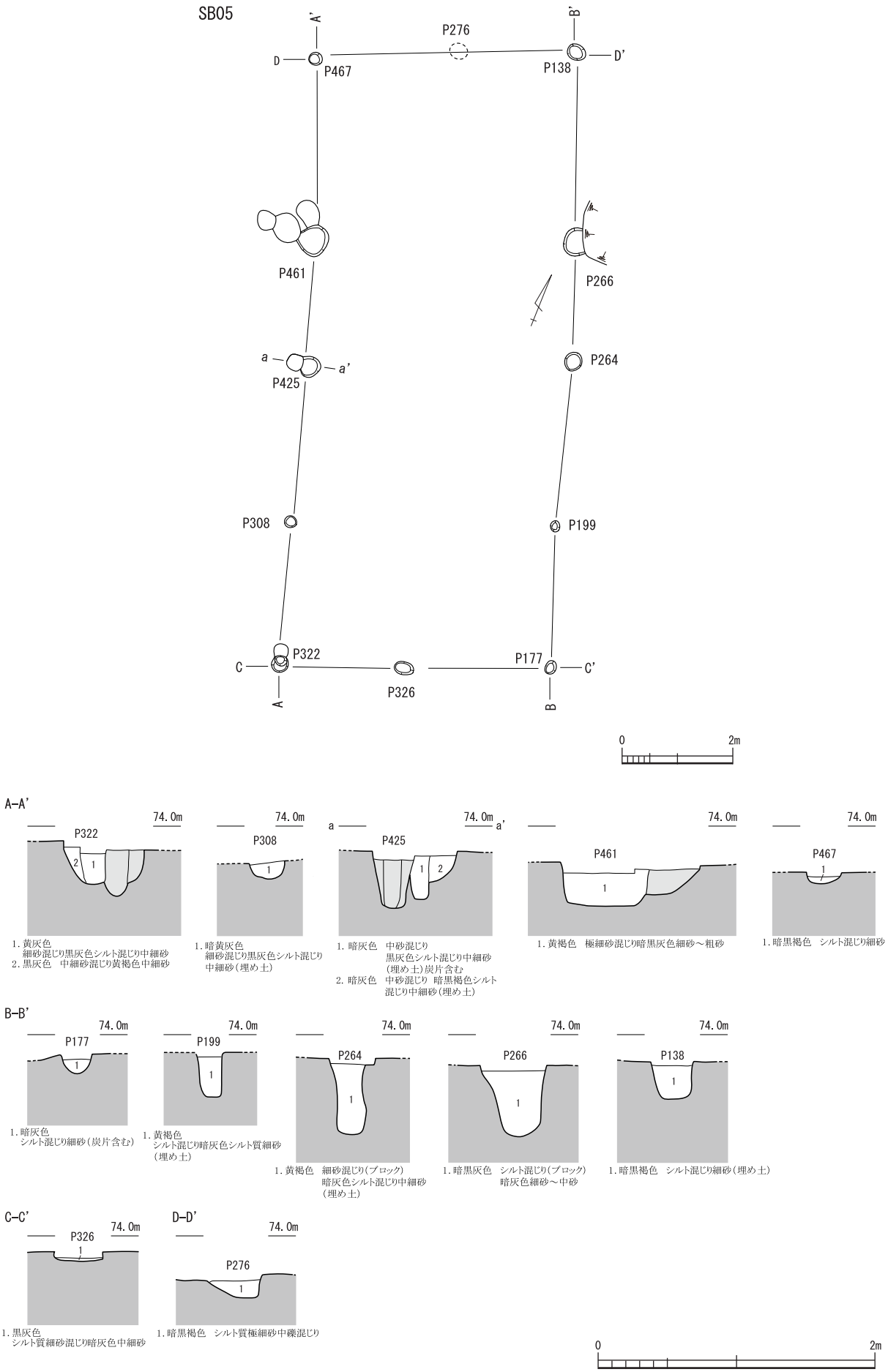
SB03　平面図・断面図

図版８



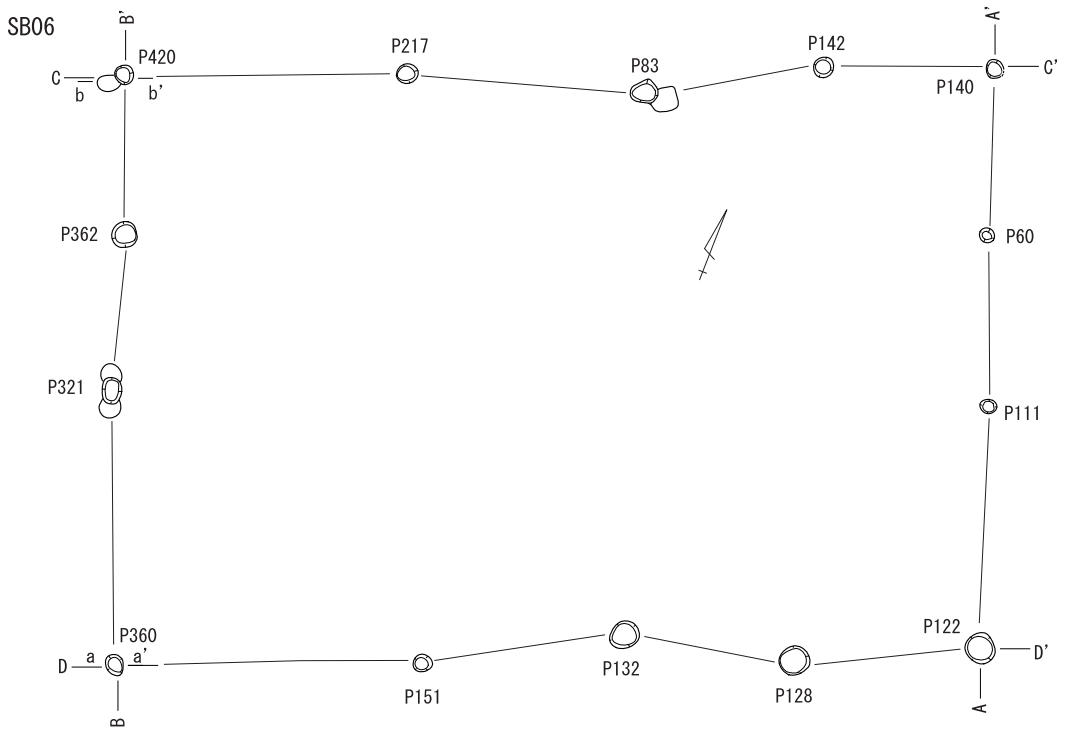


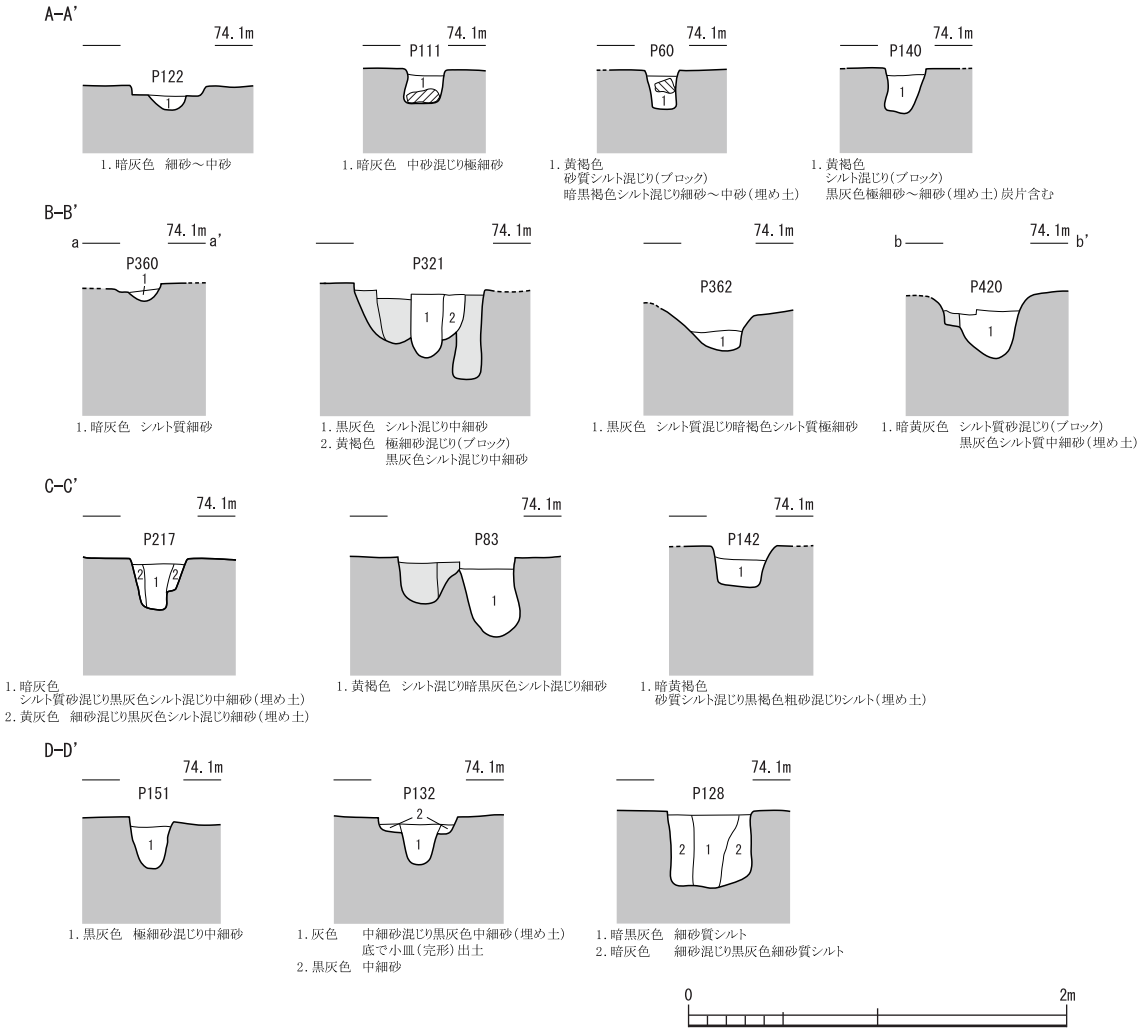
SB04　平面図・断面図


SB05
A'
B'
P276
D
D'
P467
P138
P461
P266
a
a'
P425
P264
P308
P199
P322
C
P177
C'
P326
A
B
0
2m
A-A'
74.0m
P322
P308
P425
P461
P467
1. 黄灰色
細砂混じり黒灰色シルト混じり中細砂
2. 黒灰色　中細砂混じり黄褐色中細砂
1. 暗黄灰色
細砂混じり黒灰色シルト混じり
中細砂(埋め土)
1. 暗灰色　中砂混じり
黒灰色シルト混じり中細砂
(埋め土)炭片含む
2. 暗灰色　中砂混じり　暗黒褐色シルト
混じり中細砂(埋め土)
1. 黄褐色　極細砂混じり暗黒灰色細砂～粗砂
1. 暗黒褐色　シルト混じり細砂
B-B'
P177
P199
P264
P266
P138
1. 暗灰色
シルト混じり細砂(炭片含む)
1. 黄褐色
シルト混じり暗灰色シルト質細砂
(埋め土)
1. 黄褐色　細砂混じり(ブロック)
暗灰色シルト混じり中細砂
(埋め土)
1. 暗黒灰色　シルト混じり(ブロック)
暗灰色細砂～中砂
1. 暗黒褐色　シルト混じり細砂(埋め土)
C-C'
P326
1. 黒灰色
シルト質細砂混じり暗灰色中細砂
D-D'
P276
1. 暗黒褐色　シルト質極細砂中礫混じり
0
2m

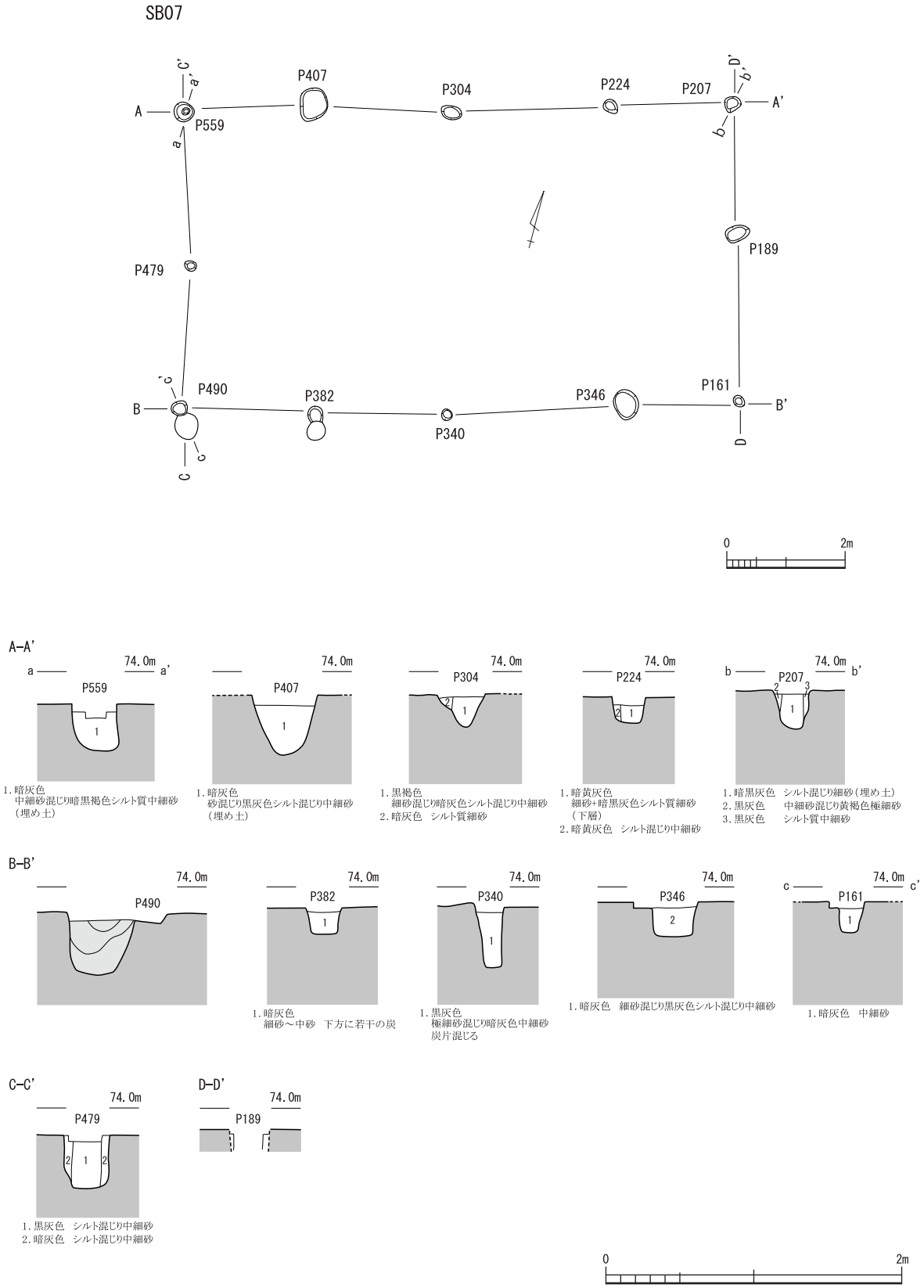
SB05　平面図・断面図

図版10





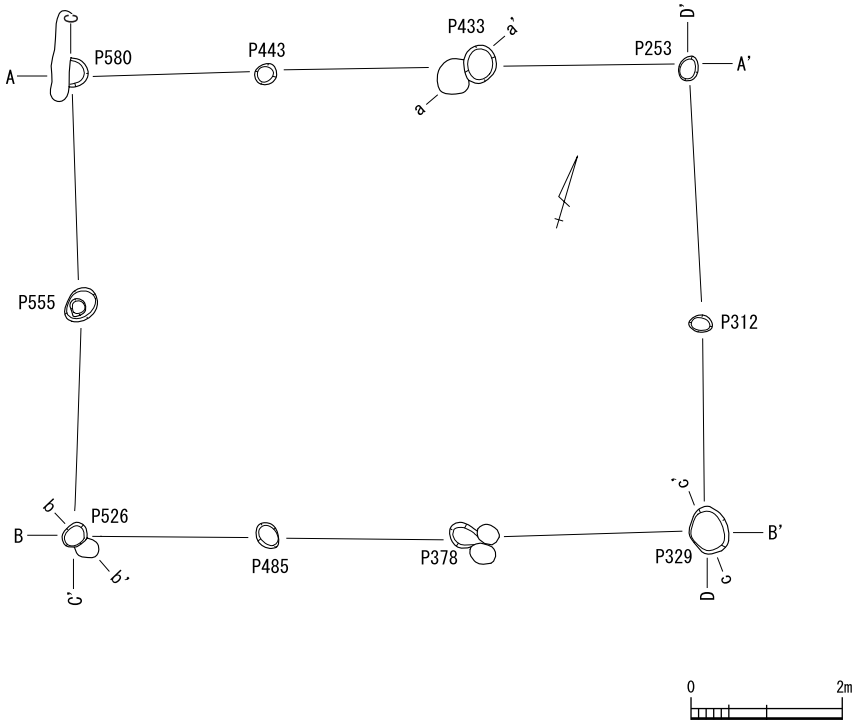
SB06　平面図・断面図

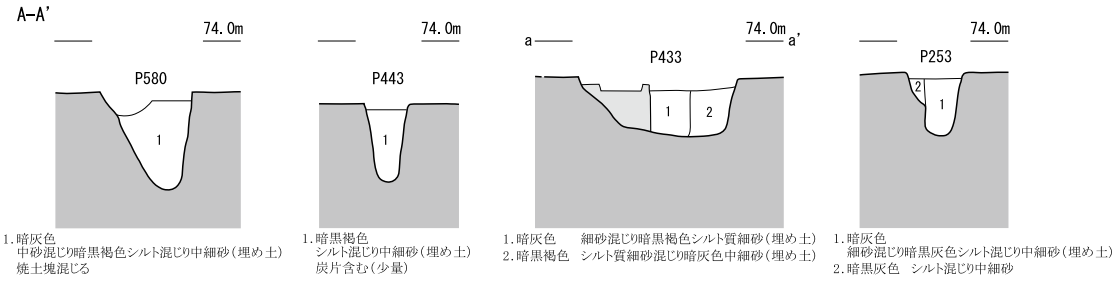

SB07
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
P559
P407
P304
P224
P207
P189
P479
P490
P382
P340
P346
P161
0
2m
A-A'
74.0m
P559
P407
P304
P224
P207
1.暗灰色
中細砂混じり暗黒褐色シルト質中細砂
(埋め土)
1.暗灰色
砂混じり黒灰色シルト混じり中細砂
(埋め土)
1.黒褐色
細砂混じり暗灰色シルト混じり中細砂
2.暗灰色　シルト質細砂
1.暗黄灰色
細砂+暗黒灰色シルト質細砂
(下層)
2.暗黄灰色　シルト混じり中細砂
1.暗黒灰色　シルト混じり細砂(埋め土)
2.黒灰色　中細砂混じり黄褐色極細砂
3.黒灰色　シルト質中細砂
B-B'
P490
P382
P340
P346
P161
1.暗灰色
細砂～中砂　下方に若干の炭
1.黒灰色
極細砂混じり暗灰色中細砂
炭片混じる
1.暗灰色　細砂混じり黒灰色シルト混じり中細砂
1.暗灰色　中細砂
C-C'
P479
1.黒灰色　シルト混じり中細砂
2.暗灰色　シルト混じり中細砂
D-D'
P189

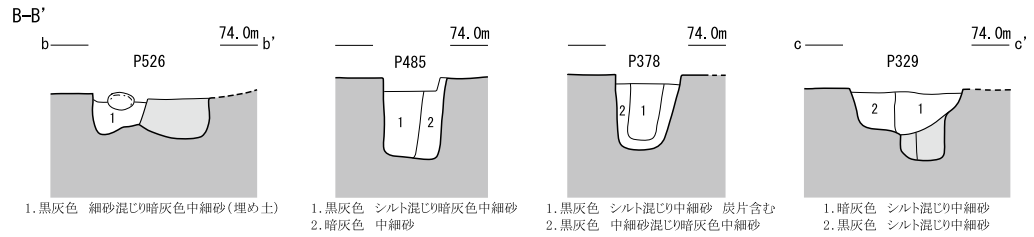
SB07　平面図・断面図

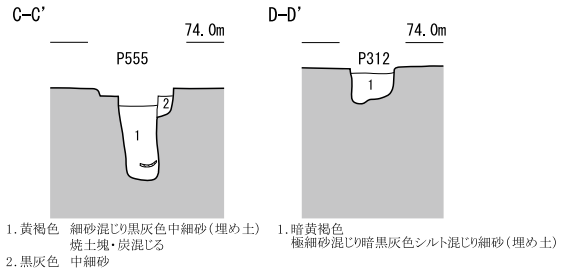
図版12

SB08



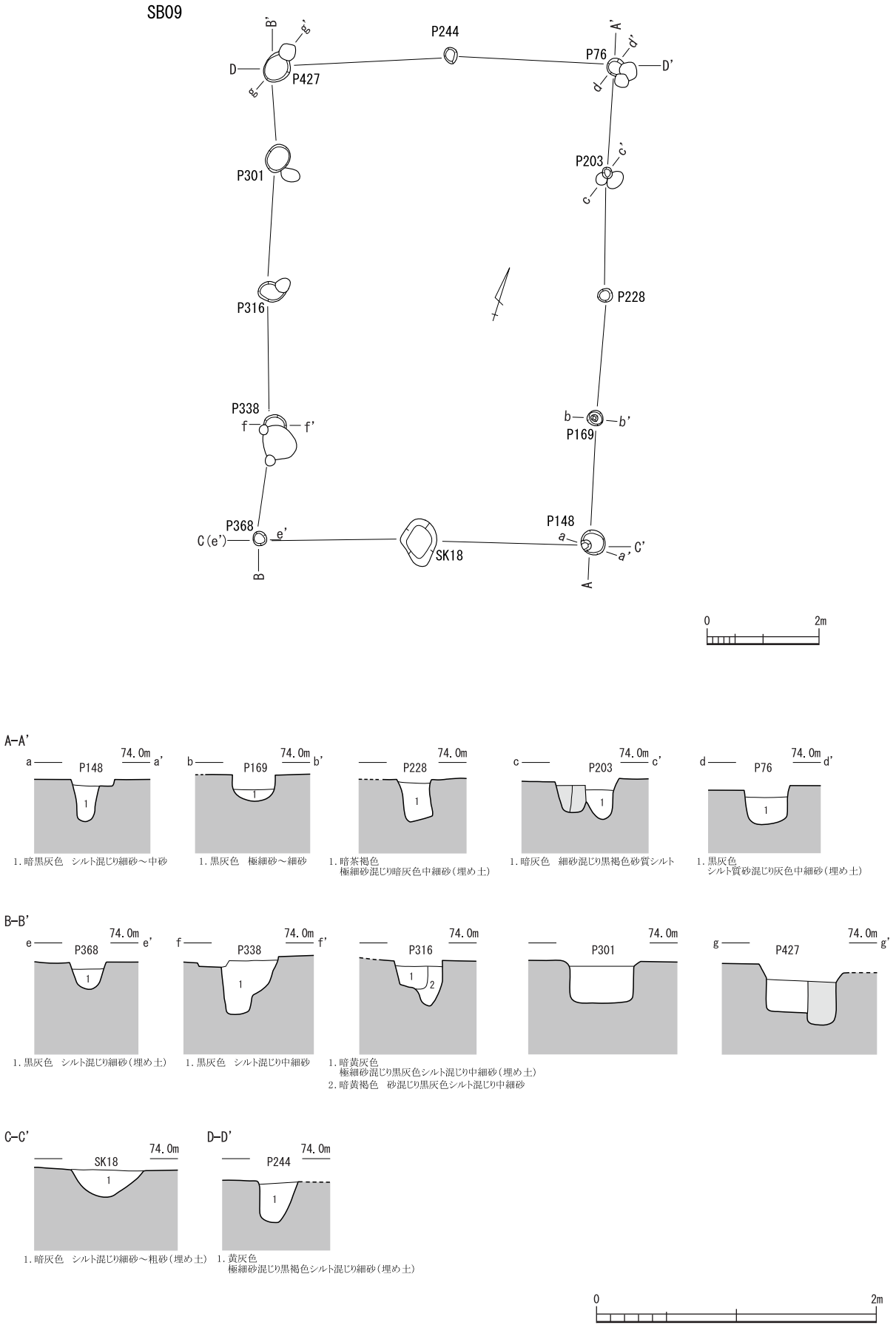






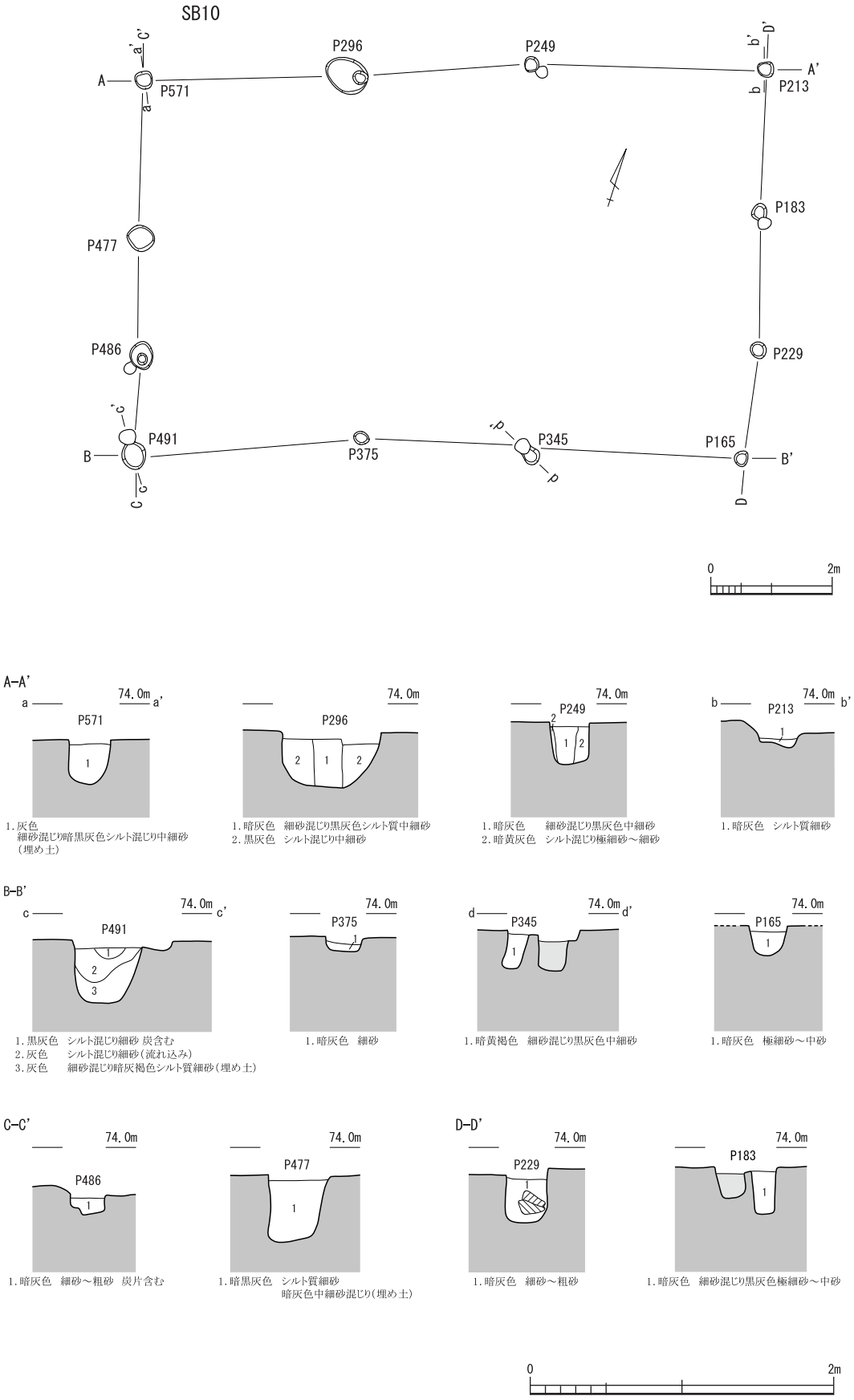
0　2m

SB08　平面図・断面図

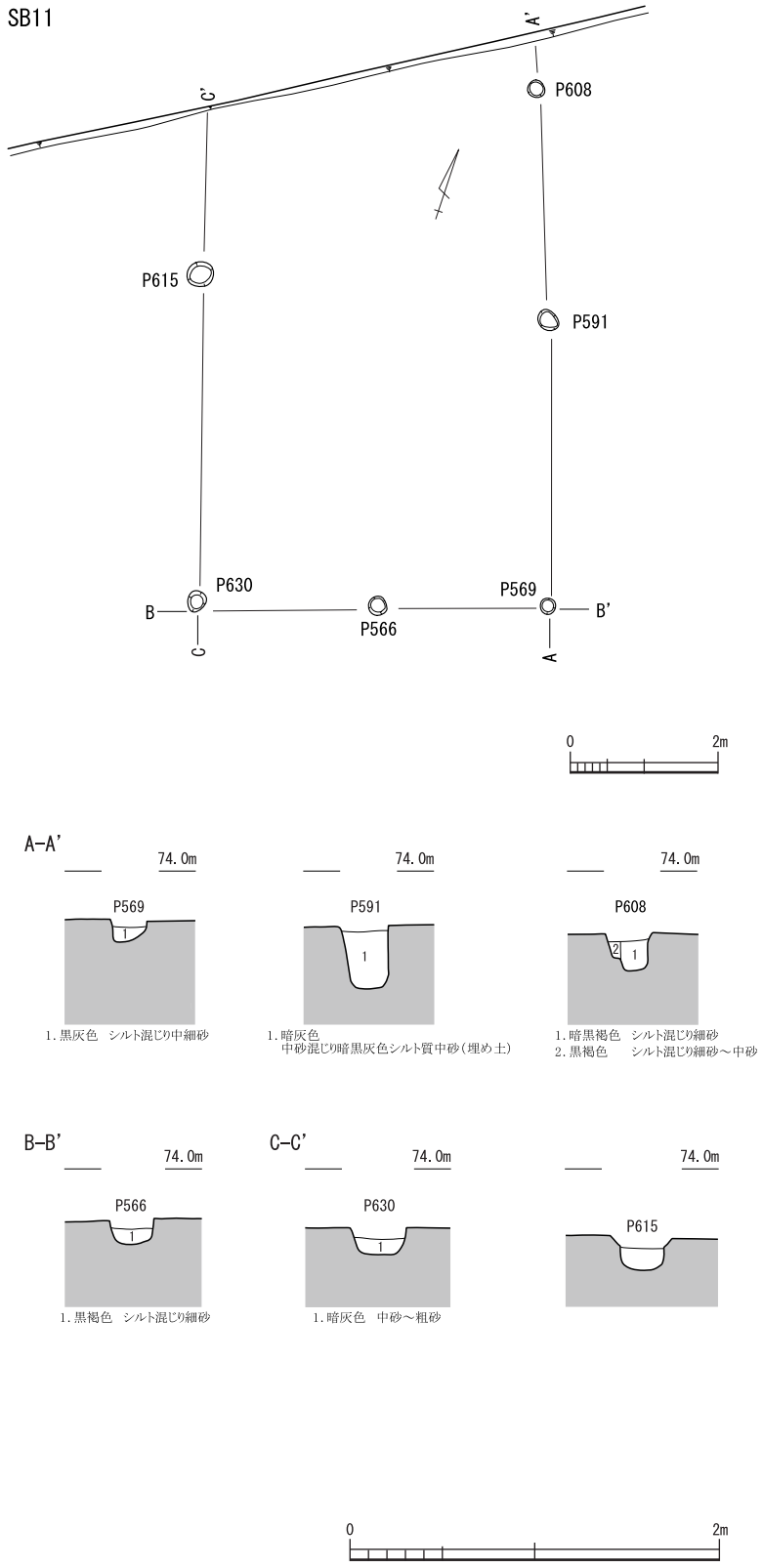

SB09
P244
P76
P427
P301
P203
P316
P228
P338
P169
P368
P148
SK18
A-A'
74.0m
P148
P169
P228
P203
P76
1.暗黒灰色　シルト混じり細砂～中砂
1.黒灰色　極細砂～細砂
1.暗茶褐色
極細砂混じり暗灰色中細砂(埋め土)
1.暗灰色　細砂混じり黒褐色砂質シルト
1.黒灰色
シルト質砂混じり灰色中細砂(埋め土)
B-B'
P368
P338
P316
P301
P427
1.黒灰色　シルト混じり細砂(埋め土)
1.黒灰色　シルト混じり中細砂
1.暗黄灰色
極細砂混じり黒灰色シルト混じり中細砂(埋め土)
2.暗黄褐色　砂混じり黒灰色シルト混じり中細砂
C-C'
SK18
1.暗灰色　シルト混じり細砂～粗砂(埋め土)
D-D'
P244
1.黄灰色
極細砂混じり黒褐色シルト混じり細砂(埋め土)
0
2m

SB09　平面図・断面図

図版14

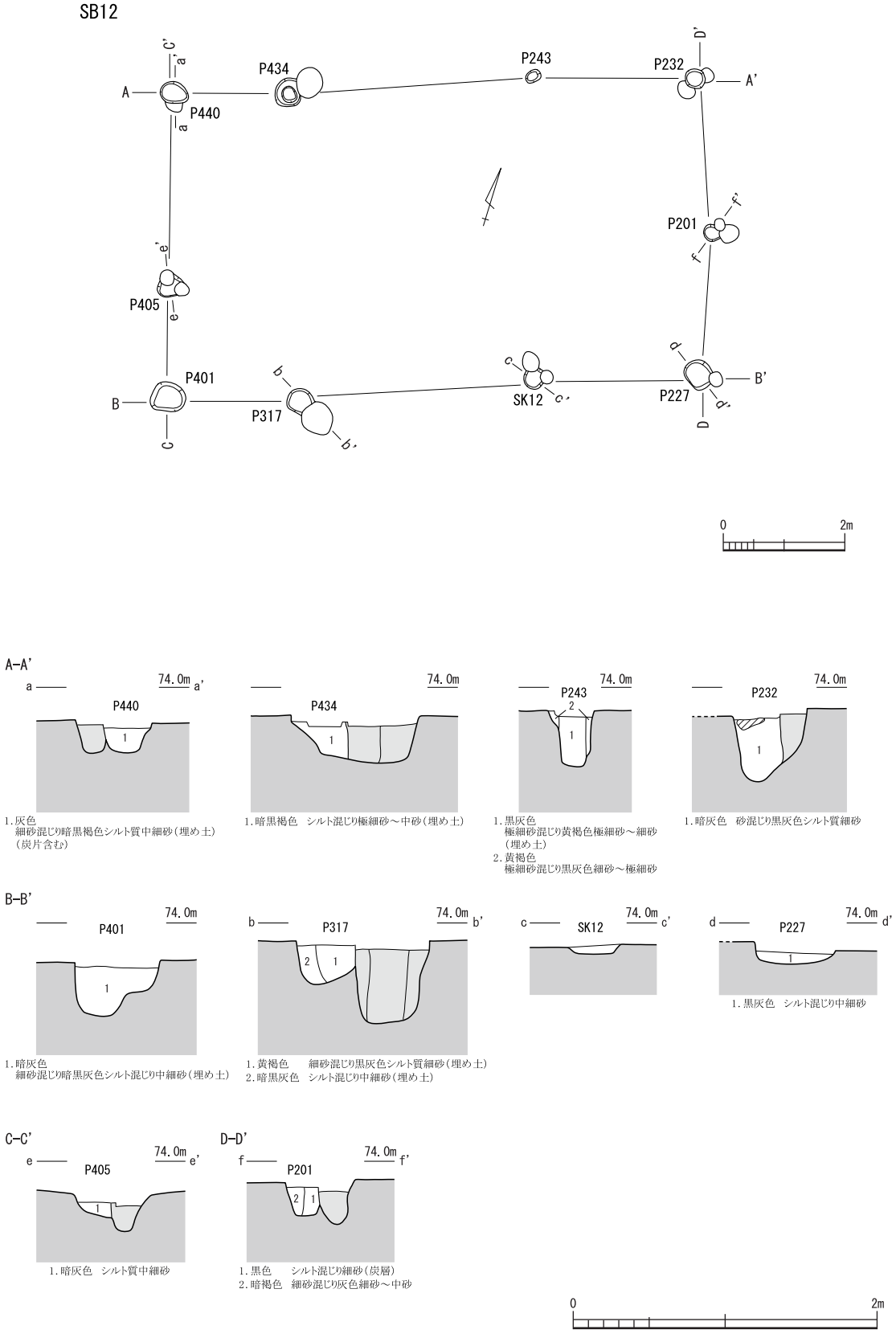


SB10　平面図・断面図

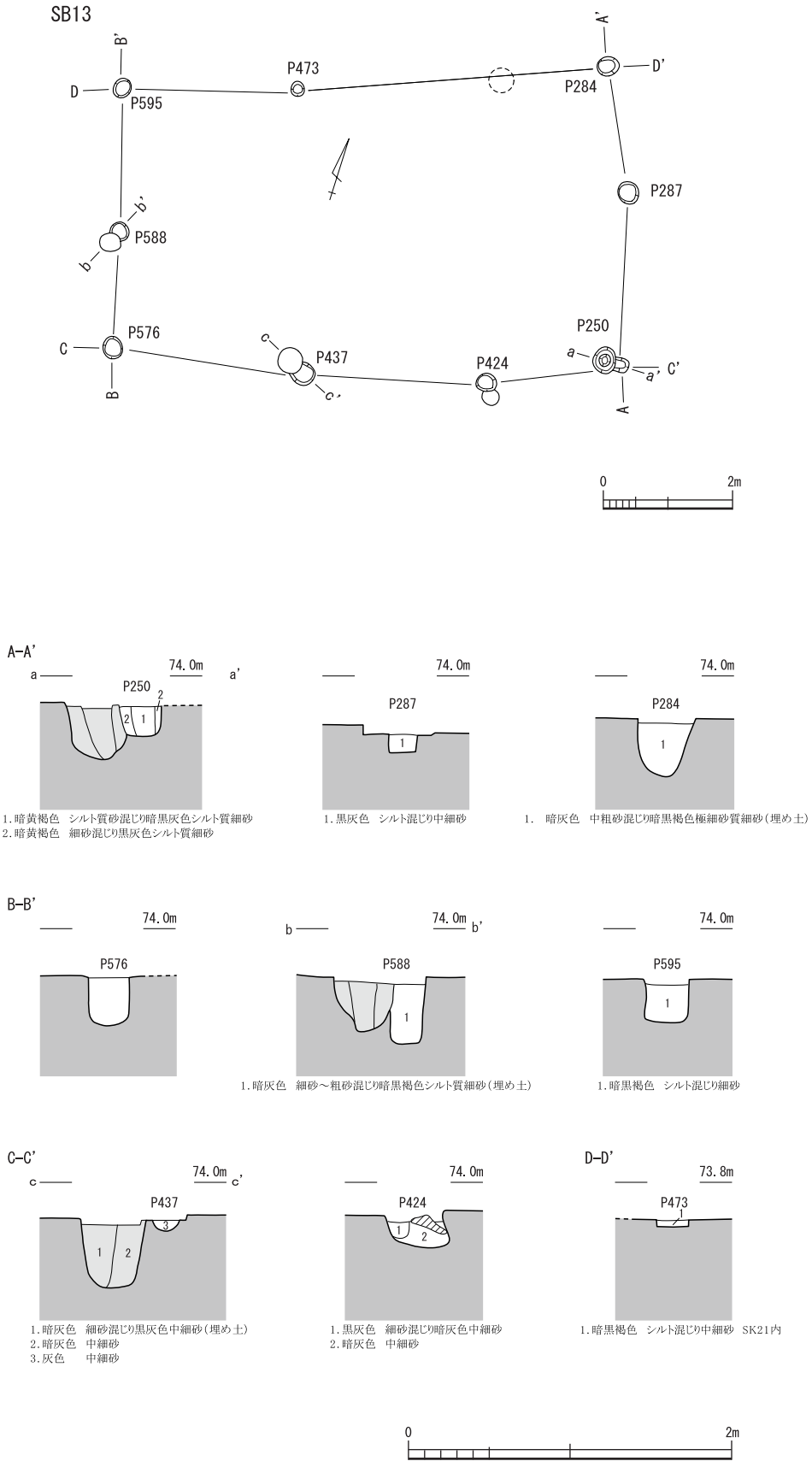

SB11
A'
C'
P608
P615
P591
P630
P569
B
B'
P566
C
A
0
2m
A-A'
74.0m
P569
1
1.黒灰色　シルト混じり中細砂
74.0m
P591
1
1.暗灰色
中砂混じり暗黒灰色シルト質中砂(埋め土)
74.0m
P608
2
1
1.暗黒褐色　シルト混じり細砂
2.黒褐色　シルト混じり細砂～中砂
B-B'
74.0m
P566
1
1.黒褐色　シルト混じり細砂
C-C'
74.0m
P630
1
1.暗灰色　中砂～粗砂
74.0m
P615
0
2m

SB11　平面図・断面図

図版16

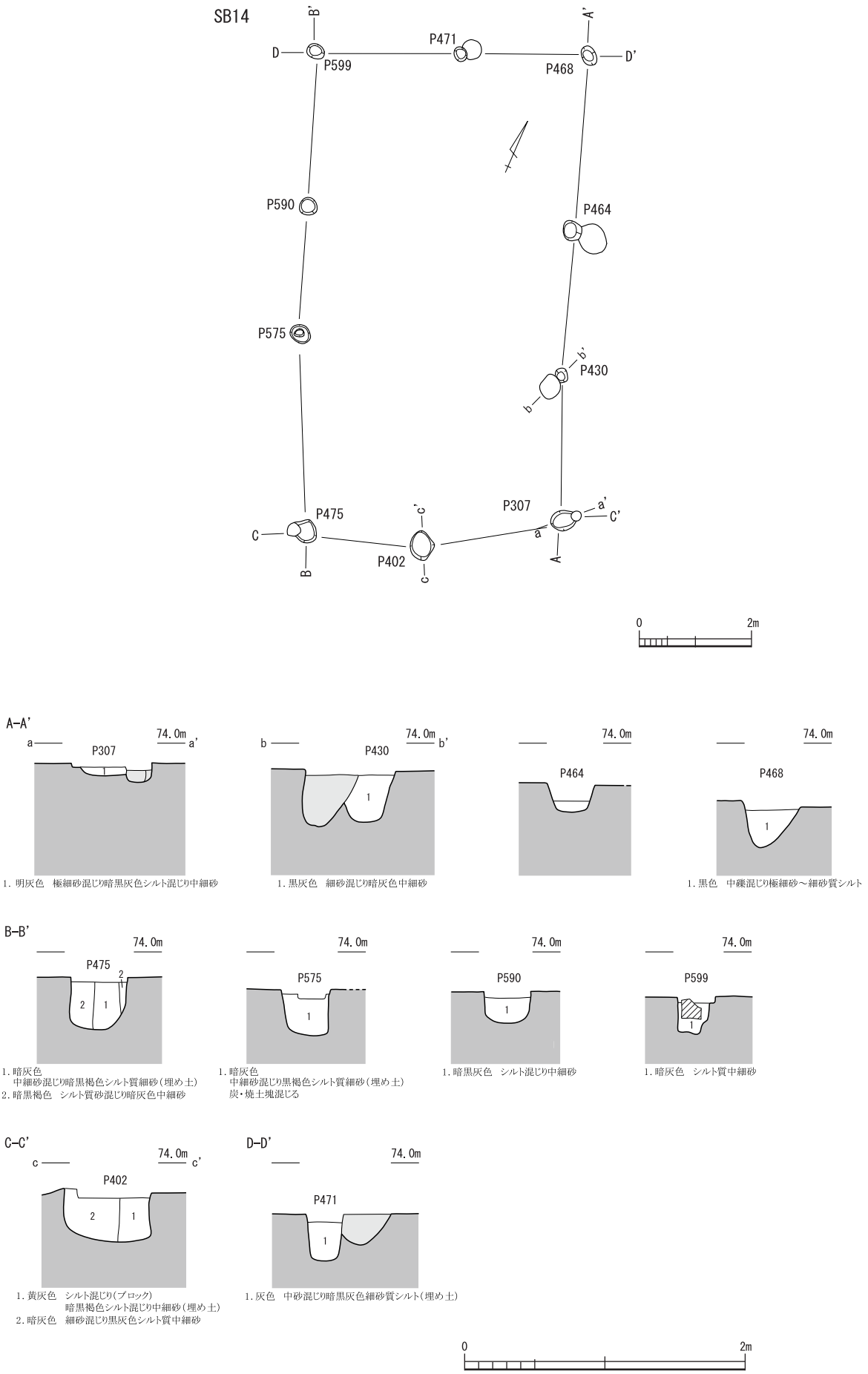


SB12　平面図・断面図

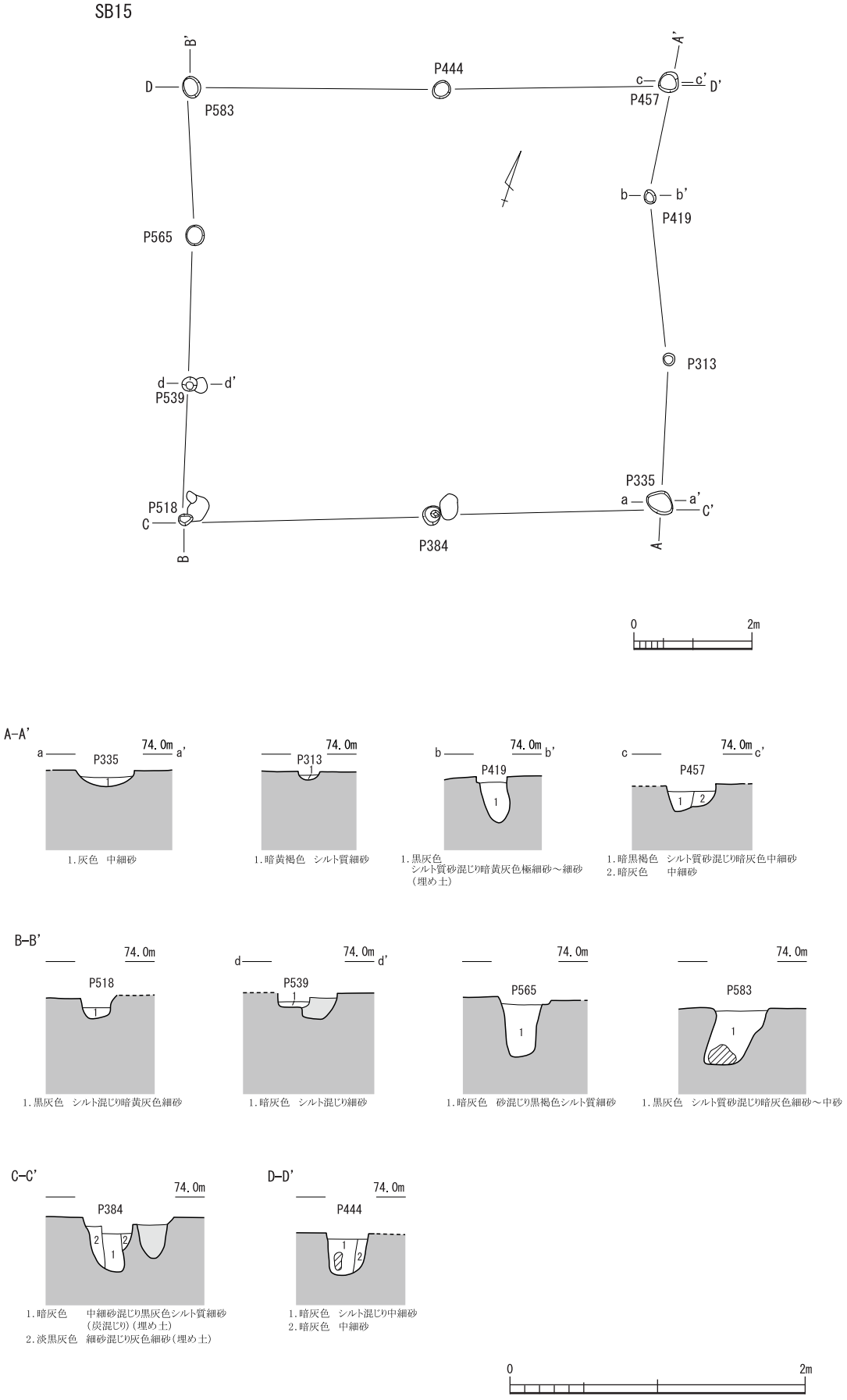

SB13
P473
P284
P287
P595
P588
P576
P437
P424
P250
A-A'
74.0m
P250
P287
P284
1.暗黄褐色　シルト質砂混じり暗黒灰色シルト質細砂
2.暗黄褐色　細砂混じり黒灰色シルト質細砂
1.黒灰色　シルト混じり中細砂
1.　暗灰色　中粗砂混じり暗黒褐色極細砂質細砂(埋め土)
B-B'
74.0m
P576
P588
P595
1.暗灰色　細砂～粗砂混じり暗黒褐色シルト質細砂(埋め土)
1.暗黒褐色　シルト混じり細砂
C-C'
74.0m
P437
P424
D-D'
73.8m
P473
1.暗灰色　細砂混じり黒灰色中細砂(埋め土)
2.暗灰色　中細砂
3.灰色　　中細砂
1.黒灰色　細砂混じり暗灰色中細砂
2.暗灰色　中細砂
1.暗黒褐色　シルト混じり中細砂　SK21内
0
2m

SB13　平面図・断面図

図版18

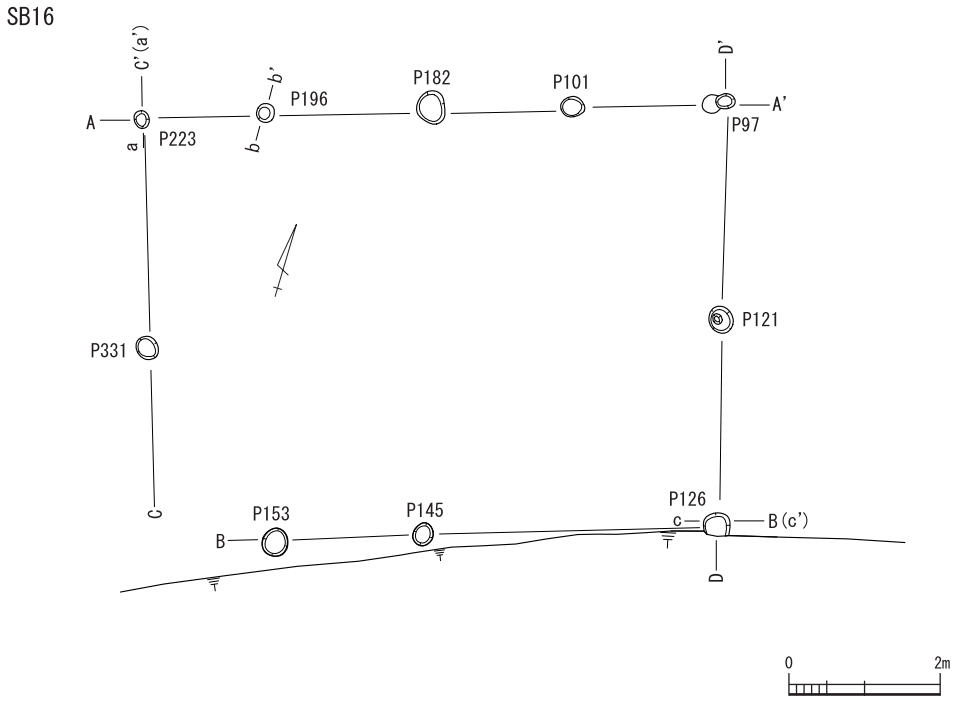


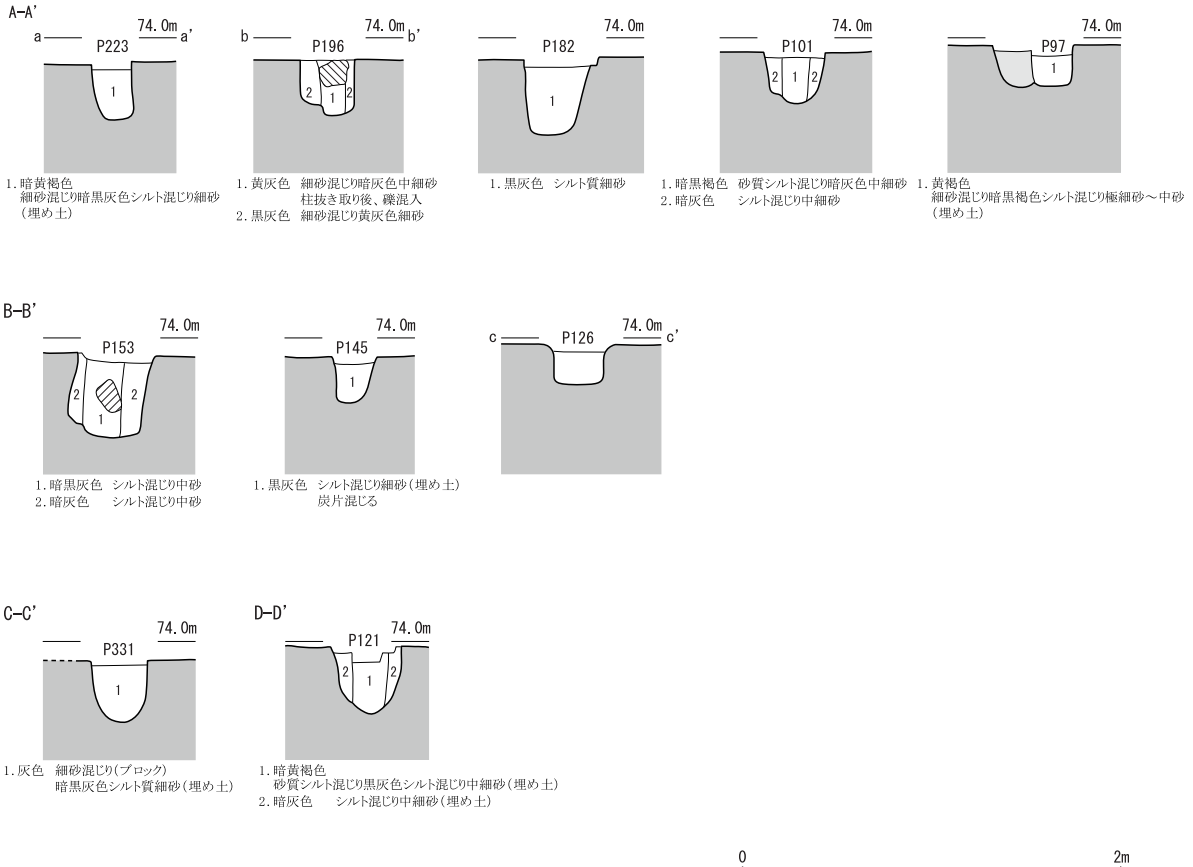
SB14　平面図・断面図


SB15
B'
D
P583
P444
c
c'
D'
P457
A'
b
b'
P419
P565
P313
d
d'
P539
P335
a
a'
C'
P518
C
B
P384
A
0
2m
A-A'
a
P335
74.0m
a'
1.灰色　中細砂
P313
74.0m
1.暗黄褐色　シルト質細砂
b
P419
74.0m
b'
1.黒灰色
シルト質砂混じり暗黄灰色極細砂～細砂
（埋め土）
c
P457
74.0m
c'
1.暗黒褐色　シルト質砂混じり暗灰色中細砂
2.暗灰色　中細砂
B-B'
74.0m
P518
1.黒灰色　シルト混じり暗黄灰色細砂
d
74.0m
d'
P539
1.暗灰色　シルト混じり細砂
74.0m
P565
1.暗灰色　砂混じり黒褐色シルト質細砂
74.0m
P583
1.黒灰色　シルト質砂混じり暗灰色細砂～中砂
C-C'
74.0m
P384
1.暗灰色　中細砂混じり黒灰色シルト質細砂
（炭混じり）（埋め土）
2.淡黒灰色　細砂混じり灰色細砂（埋め土）
D-D'
74.0m
P444
1.暗灰色　シルト混じり中細砂
2.暗灰色　中細砂
0
2m

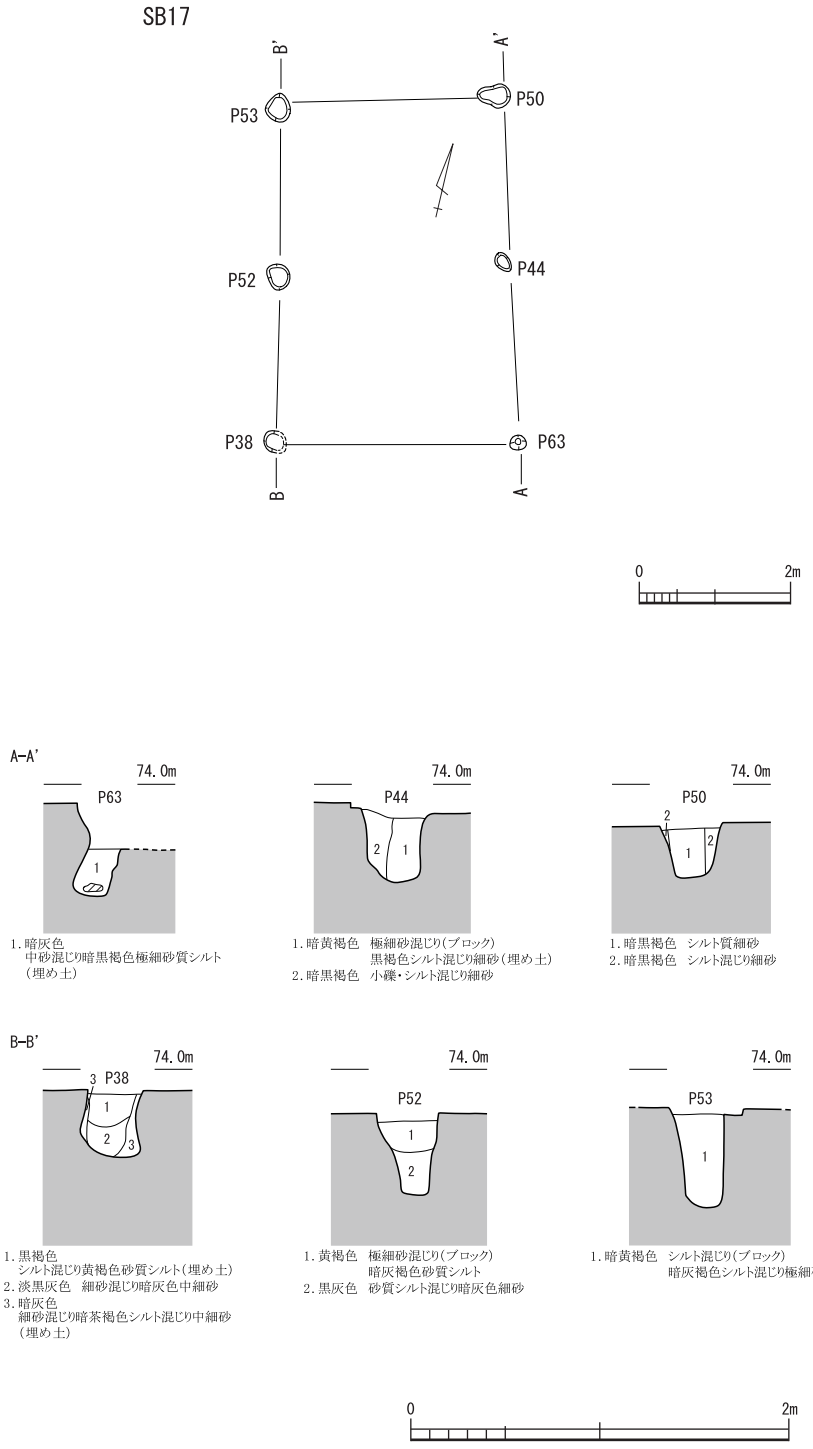
SB15　平面図・断面図

図版20

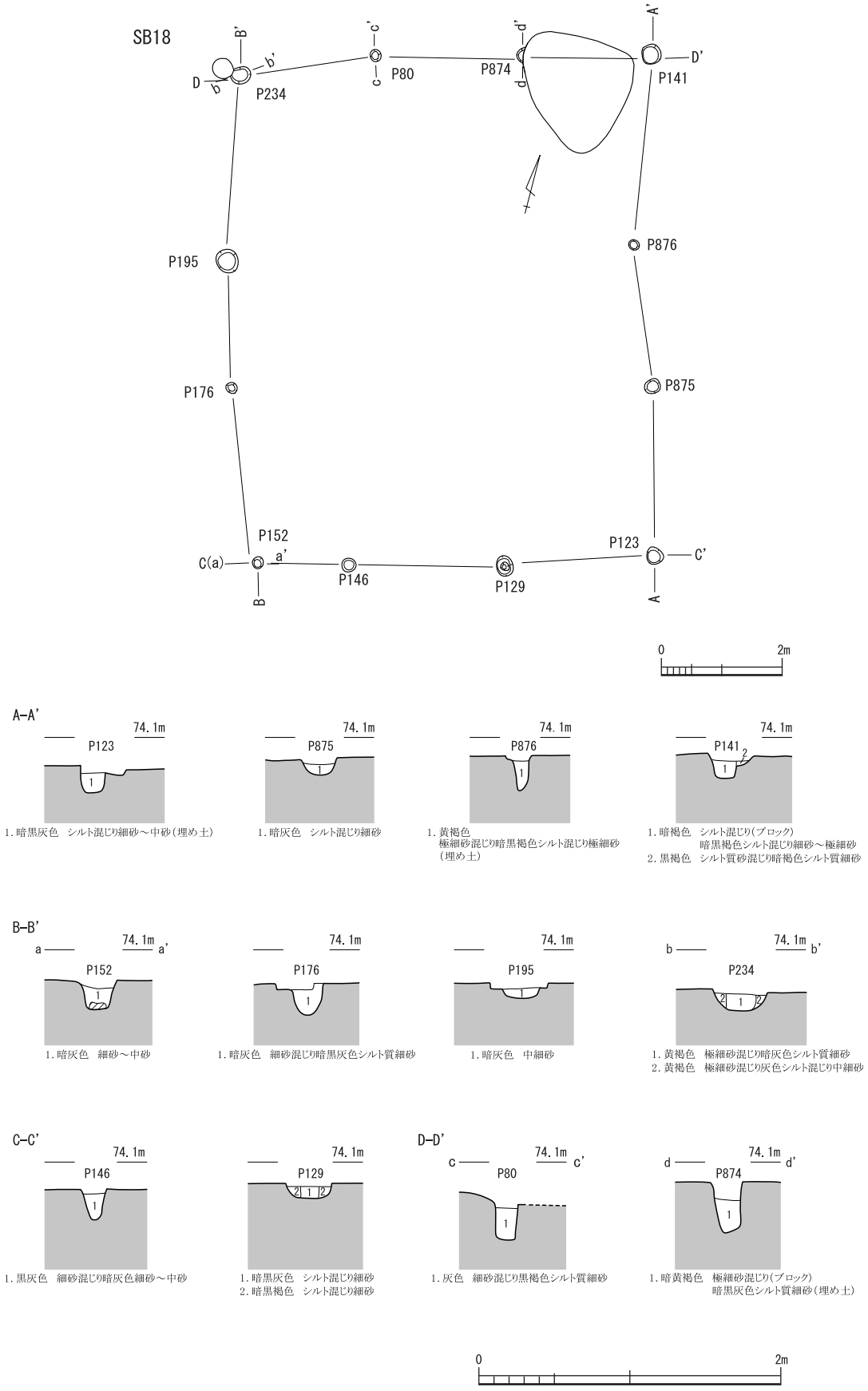




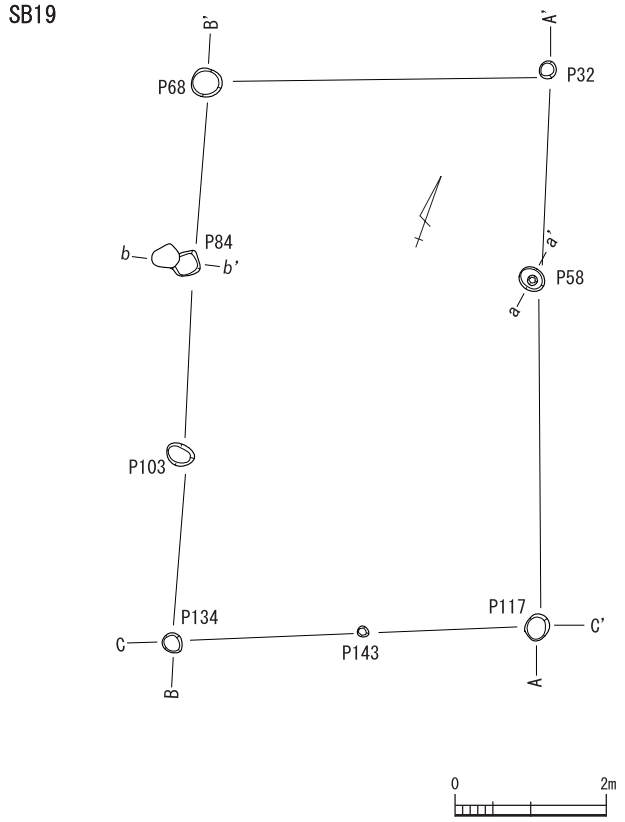
SB16　平面図・断面図

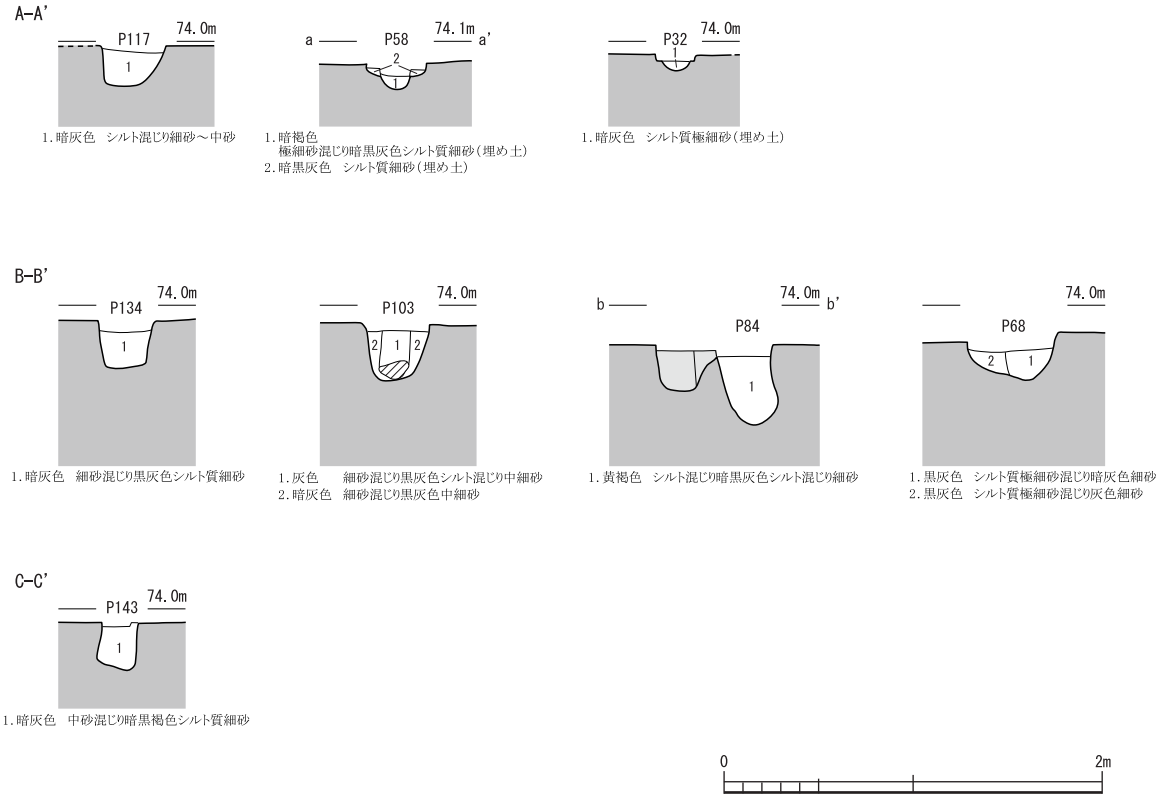

SB17
B'
A'
P53
P50
P52
P44
P38
P63
B
A
0
2m
A-A'
74.0m
P63
1
1.暗灰色
中砂混じり暗黒褐色極細砂質シルト
(埋め土)
74.0m
P44
2
1
1.暗黄褐色　極細砂混じり(ブロック)
黒褐色シルト混じり細砂(埋め土)
2.暗黒褐色　小礫・シルト混じり細砂
74.0m
P50
2
1
2
1.暗黒褐色　シルト質細砂
2.暗黒褐色　シルト混じり細砂
B-B'
74.0m
3
P38
1
2
3
1.黒褐色
シルト混じり黄褐色砂質シルト(埋め土)
2.淡黒灰色　細砂混じり暗灰色中細砂
3.暗灰色
細砂混じり暗茶褐色シルト混じり中細砂
(埋め土)
74.0m
P52
1
2
1.黄褐色　極細砂混じり(ブロック)
暗灰褐色砂質シルト
2.黒灰色　砂質シルト混じり暗灰色細砂
74.0m
P53
1
1.暗黄褐色　シルト混じり(ブロック)
暗灰褐色シルト混じり極細砂～細砂
0
2m

SB17　平面図・断面図


SB18
P234
P80
P874
P141
P195
P876
P176
P875
P152
P146
P129
P123
A-A'
74.1m
P123
1.暗黒灰色　シルト混じり細砂～中砂(埋め土)
P875
1.暗灰色　シルト混じり細砂
P876
1.黄褐色
極細砂混じり暗黒褐色シルト混じり極細砂
(埋め土)
P141
1.暗褐色　シルト混じり(ブロック)
暗黒褐色シルト混じり細砂～極細砂
2.黒褐色　シルト質砂混じり暗褐色シルト質細砂
B-B'
P152
1.暗灰色　細砂～中砂
P176
1.暗灰色　細砂混じり暗黒灰色シルト質細砂
P195
1.暗灰色　中細砂
P234
1.黄褐色　極細砂混じり暗灰色シルト質細砂
2.黄褐色　極細砂混じり灰色シルト混じり中細砂
C-C'
P146
1.黒灰色　細砂混じり暗灰色細砂～中砂
P129
1.暗黒灰色　シルト混じり細砂
2.暗黒褐色　シルト混じり細砂
D-D'
P80
1.灰色　細砂混じり黒褐色シルト質細砂
P874
1.暗黄褐色　極細砂混じり(ブロック)
暗黒灰色シルト質細砂(埋め土)
0
2m

SB18　平面図・断面図

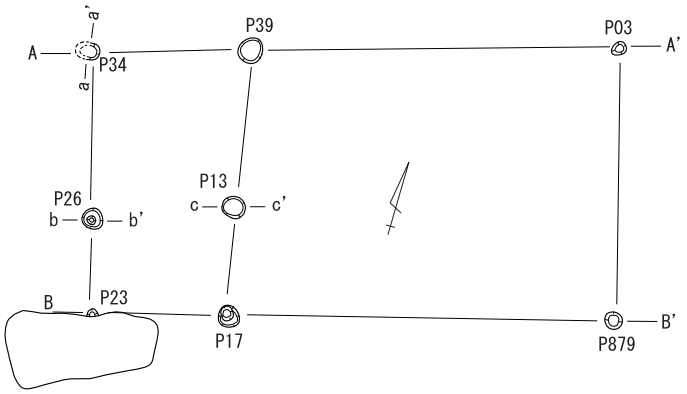

SB19
B'
A'
P68
P32
P84
b
b'
a'
P58
a
P103
P134
P117
C
C'
P143
B
A
0
2m

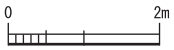

A-A'
P117
74.0m
1
1.暗灰色　シルト混じり細砂～中砂
a
P58
74.1m
a'
2
1
1.暗褐色
極細砂混じり暗黒灰色シルト質細砂(埋め土)
2.暗黒灰色　シルト質細砂(埋め土)
P32
74.0m
1
1.暗灰色　シルト質極細砂(埋め土)
B-B'
P134
74.0m
1
1.暗灰色　細砂混じり黒灰色シルト質細砂
P103
74.0m
2
1
2
1.灰色　細砂混じり黒灰色シルト混じり中細砂
2.暗灰色　細砂混じり黒灰色中細砂
b
74.0m
b'
P84
1
1.黄褐色　シルト混じり暗黒灰色シルト混じり細砂
P68
74.0m
2
1
1.黒灰色　シルト質極細砂混じり暗灰色細砂
2.黒灰色　シルト質極細砂混じり灰色細砂
C-C'
P143
74.0m
1
1.暗灰色　中砂混じり暗黒褐色シルト質細砂
0
2m

SB19　平面図・断面図

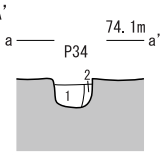
図版24

SB20

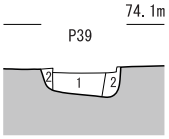




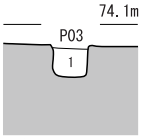
A-A'



1.黒灰色
極細砂混じり暗灰色シルト混じり細砂
2.灰色　極細砂～細砂

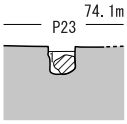


1.黄茶褐色
極細砂混じり暗灰色シルト混じり細砂(埋め土)
2.黒褐色　極細砂混じり暗灰色細砂(埋め土)

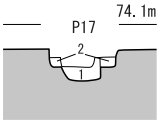


1.暗褐灰色　シルト混じり中細砂(埋め土)

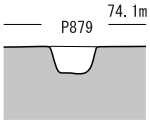
B-B'

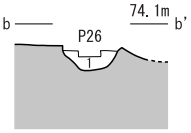


1.黒褐色　シルト混じり極細砂～細砂

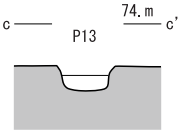


1.暗灰色　極細砂(黒灰色シルト質砂混じり)
2.暗灰色　シルト質極細砂

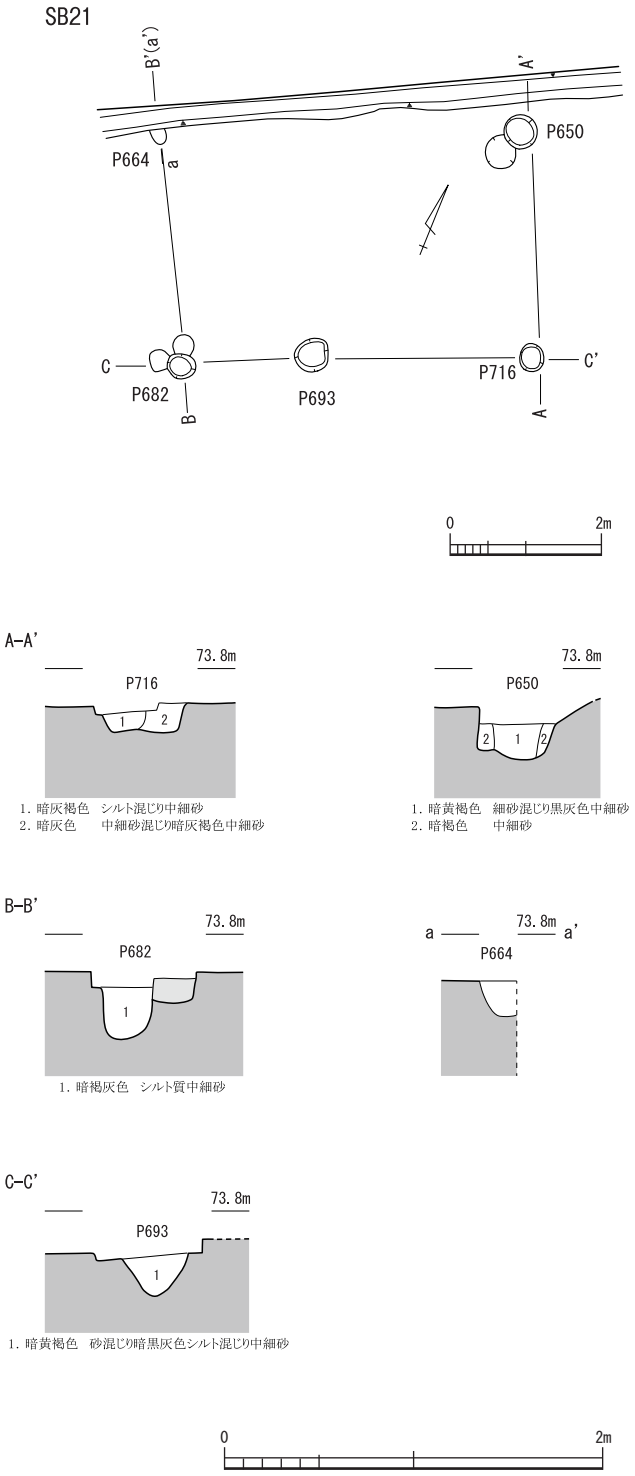




1.黒灰色　シルト混じり暗灰色極細砂



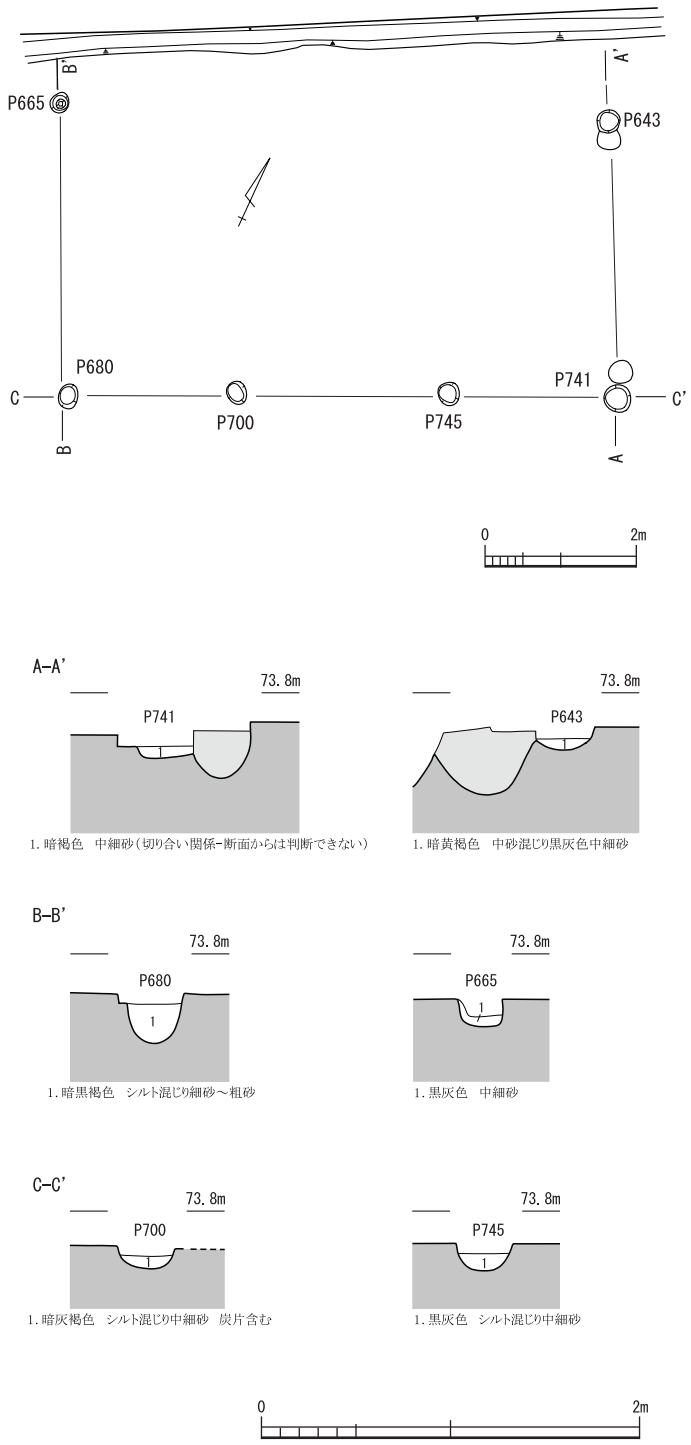
SB20　平面図・断面図


SB21
B'(a')
A'
P650
P664
a
C
P682
B
P693
P716
C'
A
0
2m
A-A'
73.8m
P716
1
2
1. 暗灰褐色　シルト混じり中細砂
2. 暗灰色　　中細砂混じり暗灰褐色中細砂
73.8m
P650
2
1
2
1. 暗黄褐色　細砂混じり黒灰色中細砂
2. 暗褐色　　中細砂
B-B'
73.8m
P682
1
1. 暗褐灰色　シルト質中細砂
a
73.8m
a'
P664
C-C'
73.8m
P693
1
1. 暗黄褐色　砂混じり暗黒灰色シルト混じり中細砂
0
2m

SB21　平面図・断面図

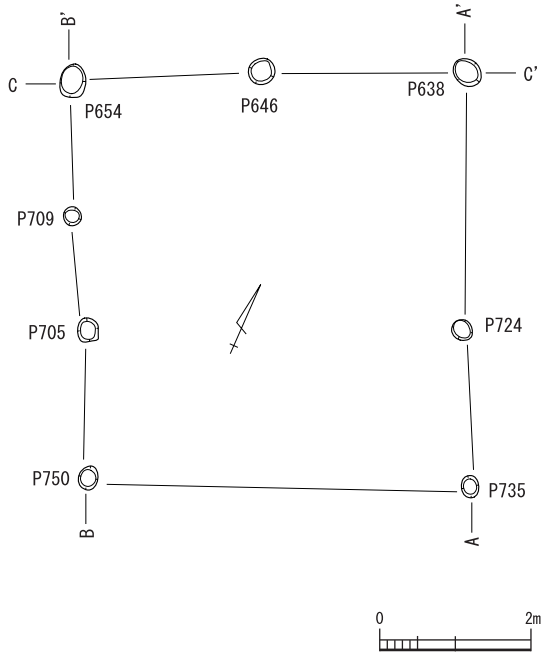
図版26

SB22

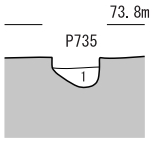


SB22　平面図・断面図

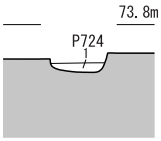
SB23



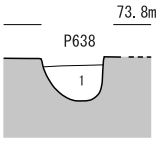
A-A'



1. 黒灰色　シルト質細砂～粗砂

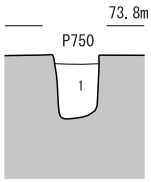


1. 暗灰色　中細砂

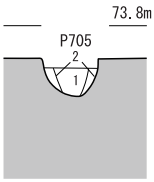


1. 黄褐色　細砂混じり(ブロック)
暗黒褐色シルト混じり細砂～中砂

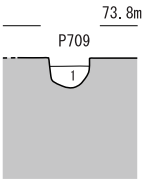
B-B'



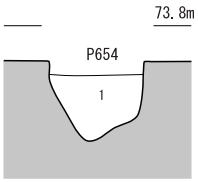
1. 黒灰色　粗砂混じりシルト質中細砂(埋め土)



1. 暗褐灰色　シルト混じり中細砂
2. 暗黄褐色　中細砂

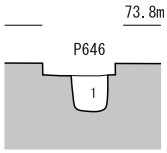


1. 暗黄褐色　中砂混じり黒灰色シルト混じり中細砂

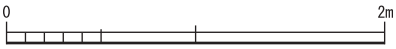


1. 暗褐色　極細砂～中砂

C-C'



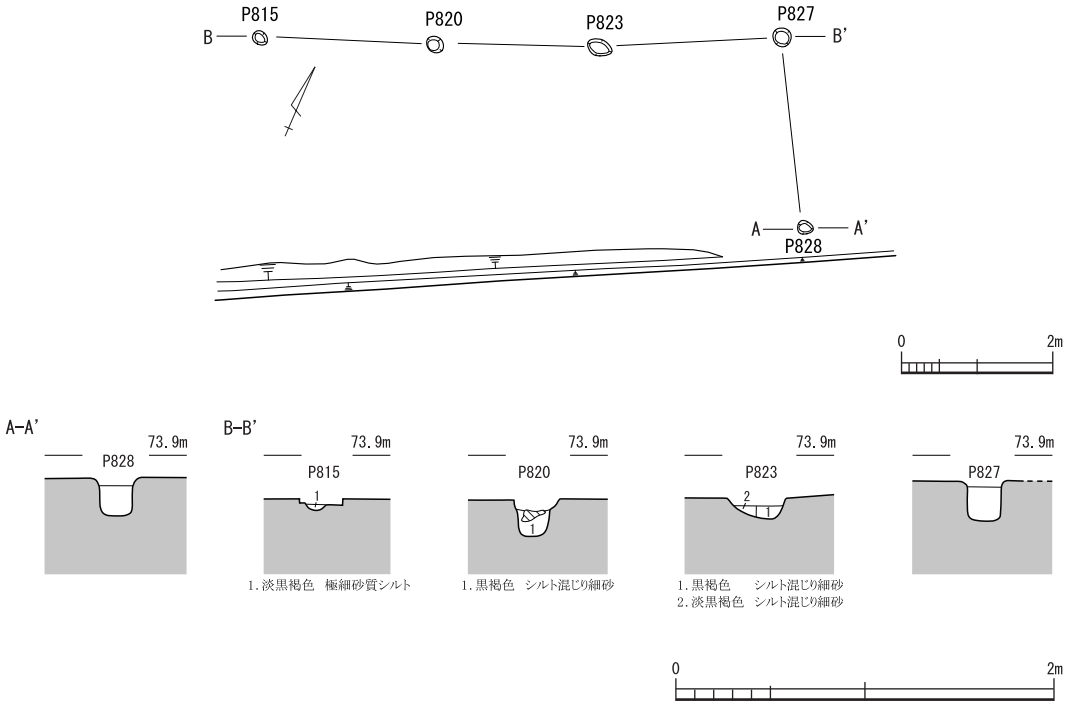
1. 黒灰色　中細砂



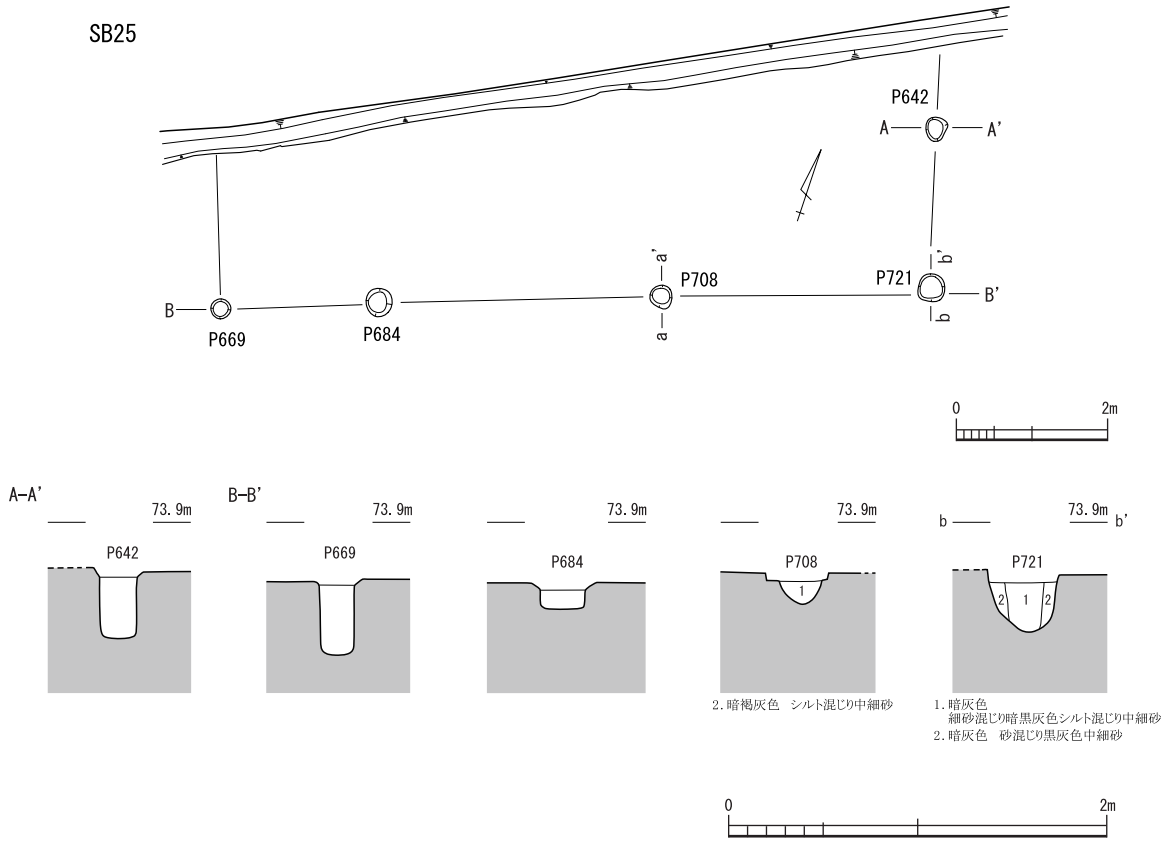
SB23　平面図・断面図

図版28

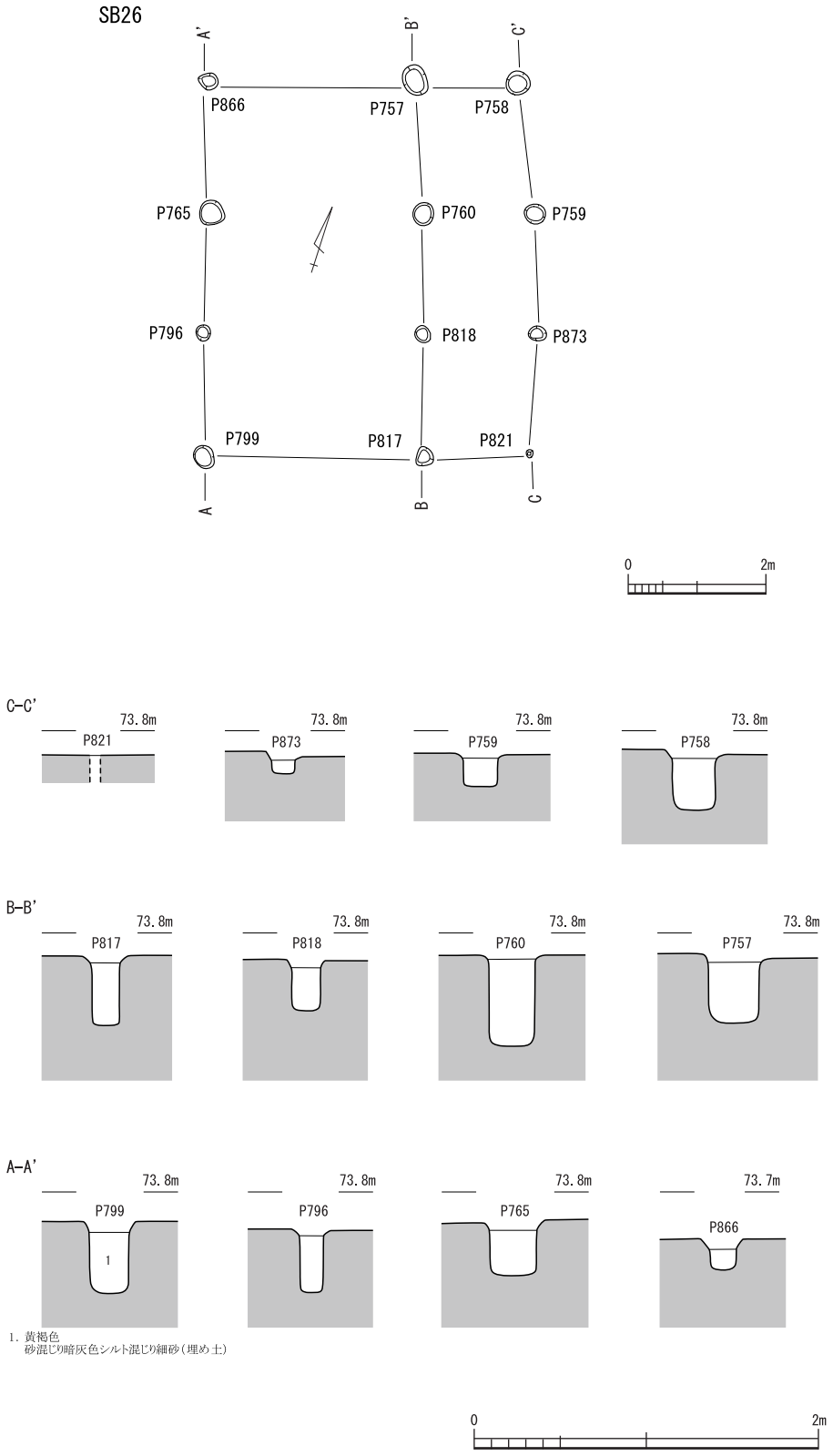
SB24



SB25



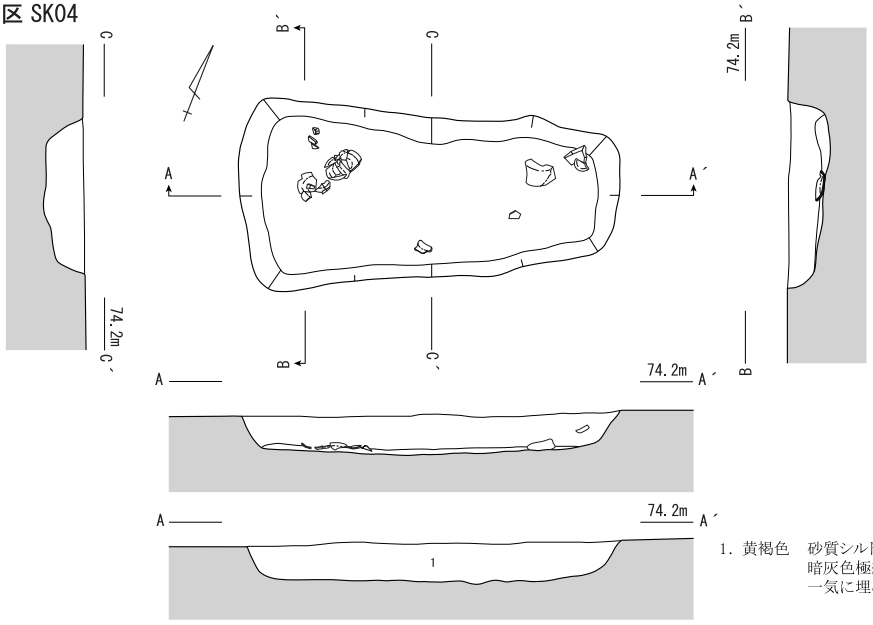
SB24・SB25　平面図・断面図


SB26
A'
B'
C'
P866
P757
P758
P765
P760
P759
P796
P818
P873
P799
P817
P821
A
B
C
0
2m
C-C'
73.8m
P821
P873
P759
P758
B-B'
P817
P818
P760
P757
A-A'
P799
P796
P765
P866
73.7m
1
1. 黄褐色
砂混じり暗灰色シルト混じり細砂(埋め土)

SB26　平面図・断面図

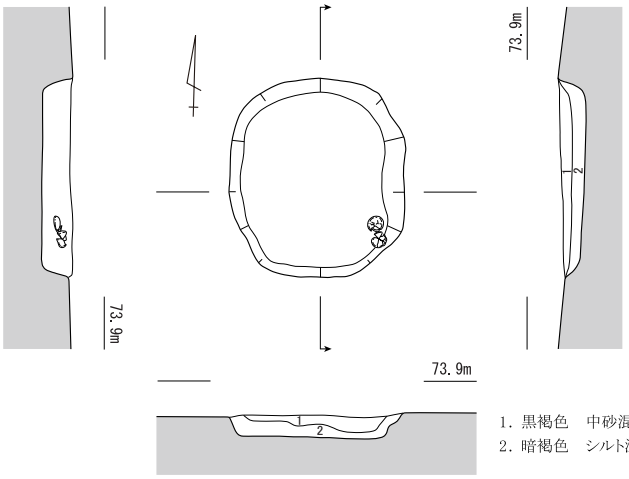
図版30

Ⅰ区 SK04



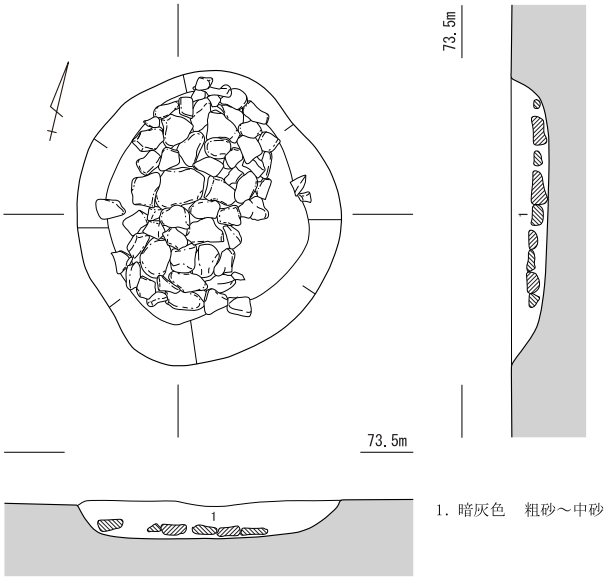
1．黄褐色　砂質シルト・黒褐色シルト混じり(ブロック)
暗灰色極細砂質シルト(埋め土)－
一気に埋めている

Ⅰ区 SK21



1．黒褐色　中砂混じりシルト　焼土・炭含む(埋め土)
2．暗褐色　シルト混じり細砂～中砂(流れ込み)　炭片多く 含む

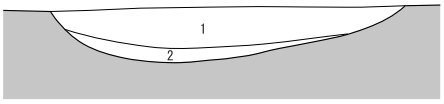
Ⅱ区 SK04



1．暗灰色　粗砂～中砂　炭化物を含む

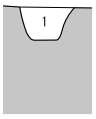
土坑墓　平面図・断面図

SK01 74.2m



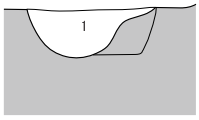
1. 黄褐色　砂質シルト混じり(ブロック)　暗灰色極細砂～中砂(埋め土)
2. 黒灰色　シルト質細砂～中砂

SK02 74.1m



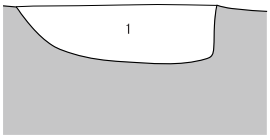
1. 黄褐色　細砂混じり(ブロック)
暗褐灰色シルト混じり
細砂～中砂(埋め土)

SK03 74.1m



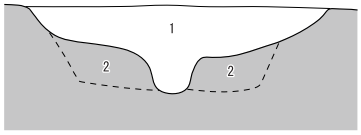
1. 黄褐色　砂質シルトブロック混じり
暗灰色シルト混じり細砂、炭化物、
焼土ブロック含む

SK05 74.1m



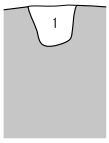
1. 黄褐色　砂質シルト+黒褐色砂質シルト+暗灰色シルト混じり細砂
埋土(一括)

SK06 74.3m



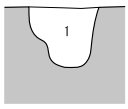
1. 黄褐色　砂質シルト混じり(ブロック)
暗灰色シルト質細砂(埋め土)
2. 灰色　細砂～粗砂(ベース？)

SK10 74.1m



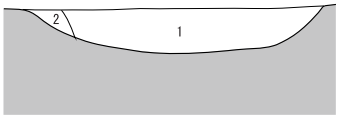
1. 暗灰色　小礫混じり　細砂～粗砂(埋め土)

SK11 74.1m



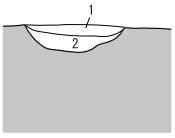
1. 暗灰色　シルト混じり
細砂～粗砂(埋め土)

SK23 73.9m



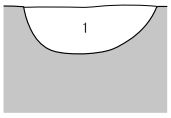
1. 黒褐色　砂質シルト混じり　暗灰色細砂～中砂(埋め土)
2. 暗灰色　細砂混じり　黒褐色砂質シルト(埋め土)
炭片やや多く 含む

SK24 73.9m



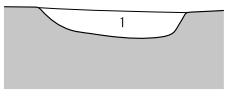
1. 灰褐色　粗砂混じりシルト(埋め土)
2. 灰褐色　シルト混じり　中砂～粗砂

SK25 73.8m



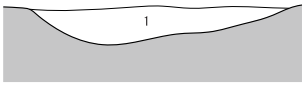
1. 暗褐色　シルト混じり
粗砂φ2～5cmの
小礫含む(埋め土)

SK27 73.9m



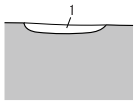
1. 黒灰色　シルト混じり　細砂～中砂(埋め土)

SK28 73.8m



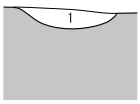
1. 暗灰色　シルト混じり　細砂～粗砂礫混じり
(埋め土)

SK29 73.9m



1. 暗黒灰色　細砂混じりシルト
(埋め土)

SK30 73.8m

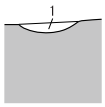


1. 暗黒灰色　シルト混じり細砂
～粗砂(埋め土)

SK31 73.8m

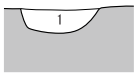
1. 黒灰色　シルト混じり
細砂～粗砂(埋め土)

SK32 73.8m



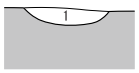
1. 暗褐色　細砂～粗砂(埋め土)

SK33 73.8m



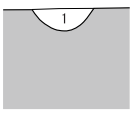
1. 暗褐色　シルト混じり
細砂～中砂(埋め土)

SK34 73.9m



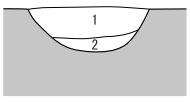
1. 暗褐色　シルト混じり
細砂～中砂(埋め土)

SK35 73.8m



1. 暗黒灰色　シルト混じり　細砂～中砂
中礫混じり(埋め土)

SK36 73.8m

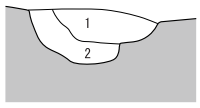


1. 黒褐色　粗砂混じりシルト
炭化物含む(埋め土)
2. 暗灰褐色　粗砂(埋め土)

SK37 73.9m

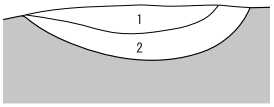
1. 暗黒褐色　シルト混じり　細砂～粗砂
中礫混じり(埋め土)

SK38 73.8m



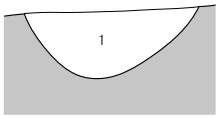
1. 暗黒灰色　シルト混じり　細砂～中砂(埋め土)
2. 暗褐色　シルト混じり　細砂～粗砂(埋め土)

SK39 73.9m



1. 黒灰茶色　シルト混じり(ブロック)
暗黒褐色シルト混じり細砂～中砂(埋め土)
2. 黒灰色　シルト混じり　細砂～粗砂(埋め土)

SK40 73.6m

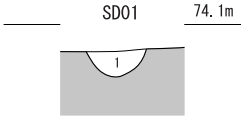


1. 暗黒灰色　シルト混じり　細砂～中砂　中礫混じり
炭片(3cm大)やや多く 含む(埋め土)

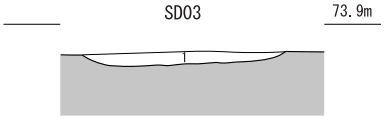
Ⅰ区　土坑断面図

図版32

Ⅰ区

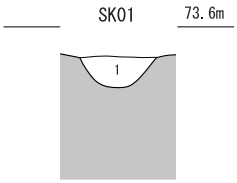


1. 暗灰色　シルト質混じり細砂～中砂(埋土)

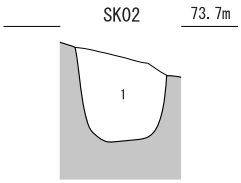


1. 暗黒灰色　細砂混り　極細砂質シルト(埋め土)炭含む

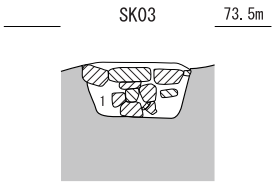
Ⅱ区



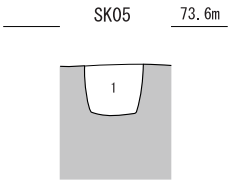
1. 褐灰色　砂質シルト混じり　細砂



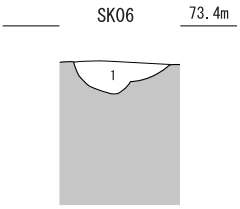
1. 暗褐色　粗砂混じり粘質シルトに灰褐色、
粗砂～シルトが混じる
暗褐色粘質シルトに炭化物、
焼土ブロック含む



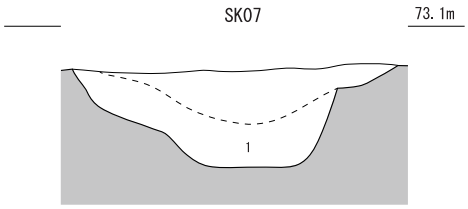
1. 黒褐色～黄褐色　シルト混じり　粗砂(埋め土)
礫を多量に含む



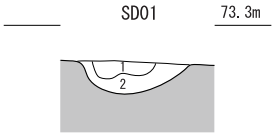
1. 褐灰色～暗灰色　中砂～粗砂
炭化物少量含む



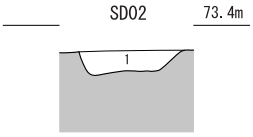
1. 暗灰黄褐色　シルト混じり　粗砂



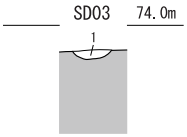
1. 濃褐色　粗砂混じり細砂　上層に炭化木の塊多く 含む



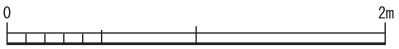
1. 暗褐色　粘質シルト混じり　粗砂
2. 褐灰色～暗灰色　粗砂　小礫含む



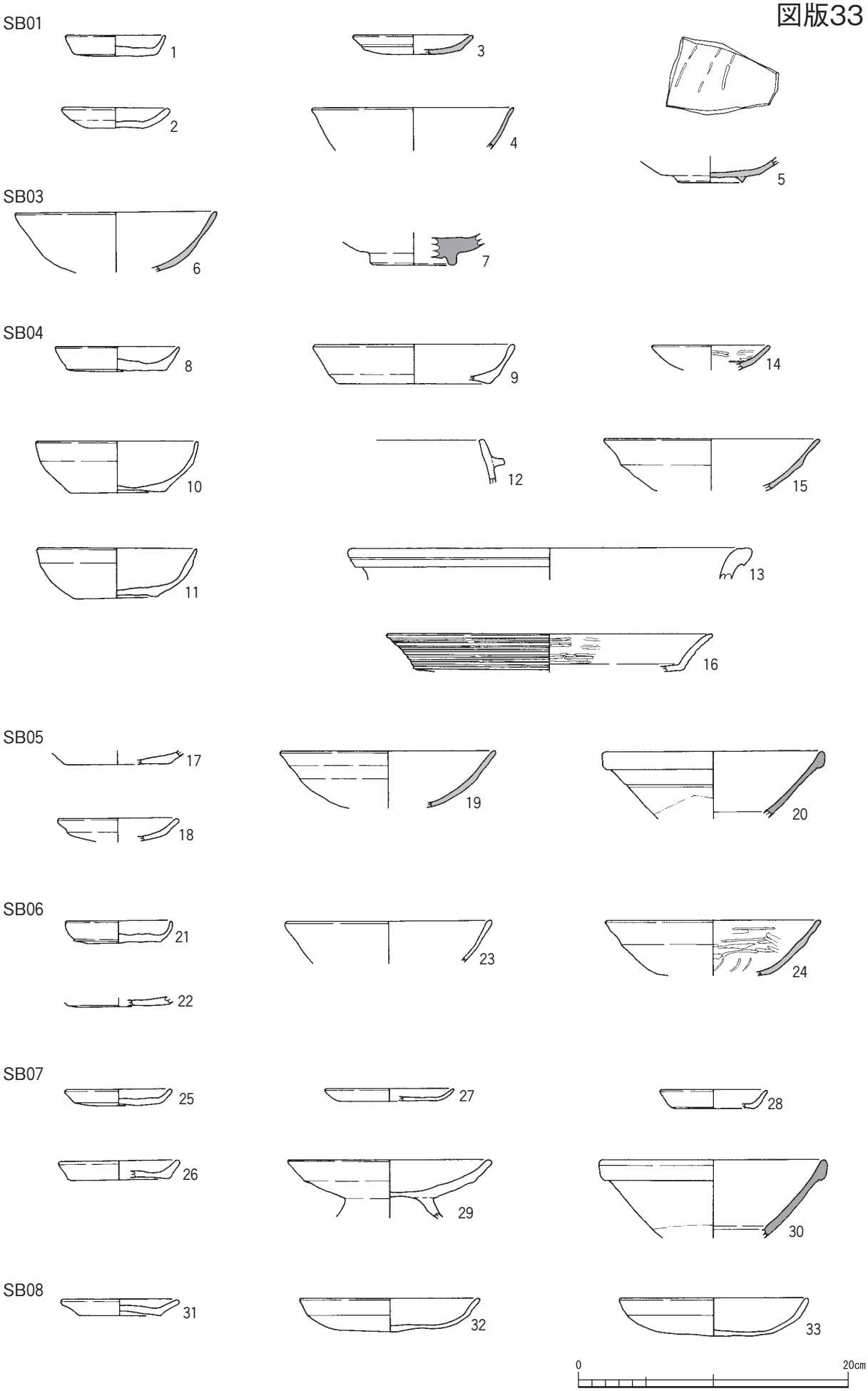
1. 暗黄褐色～灰黄褐色　粗砂



1. 明灰色　粗砂混じり細砂



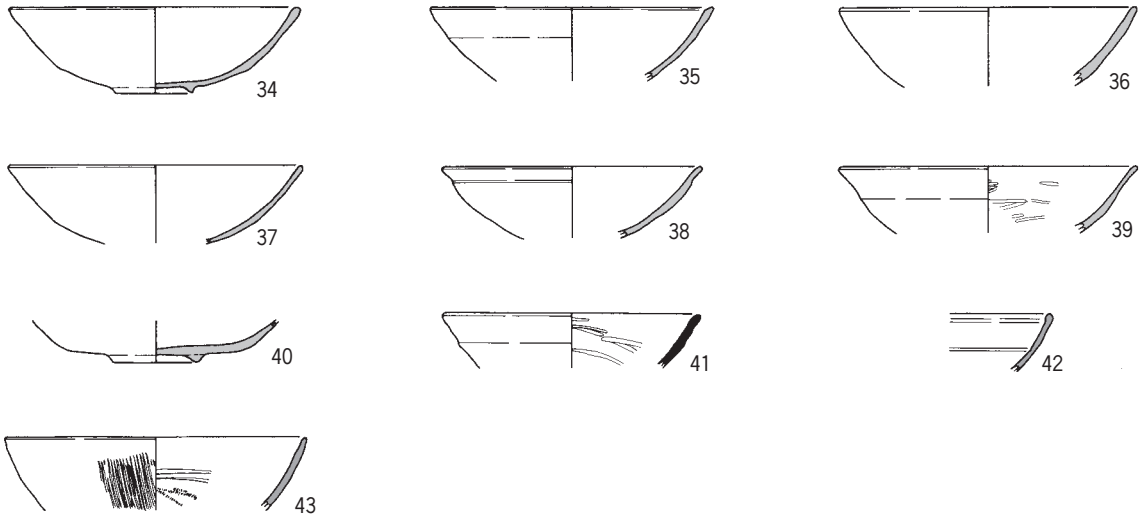
Ⅰ区　溝　Ⅱ区　土坑・溝断面図


SB01
1
2
3
4
5
SB03
6
7
SB04
8
9
10
11
12
13
14
15
16
SB05
17
18
19
20
SB06
21
22
23
24
SB07
25
26
27
28
29
30
SB08
31
32
33
0
20cm

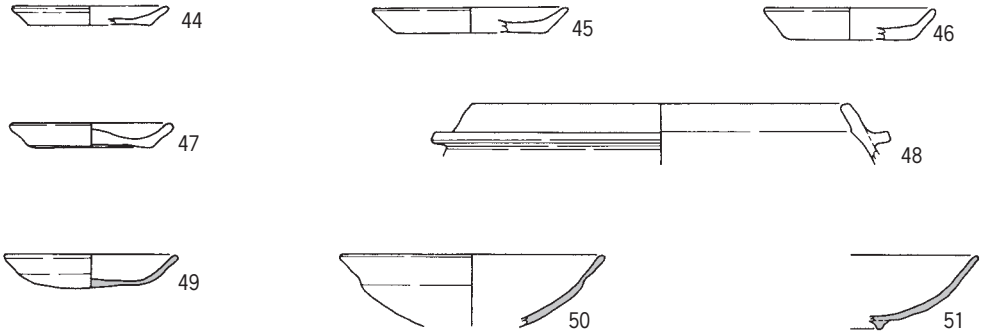
出土遺物実測図　土器（1）

図版34

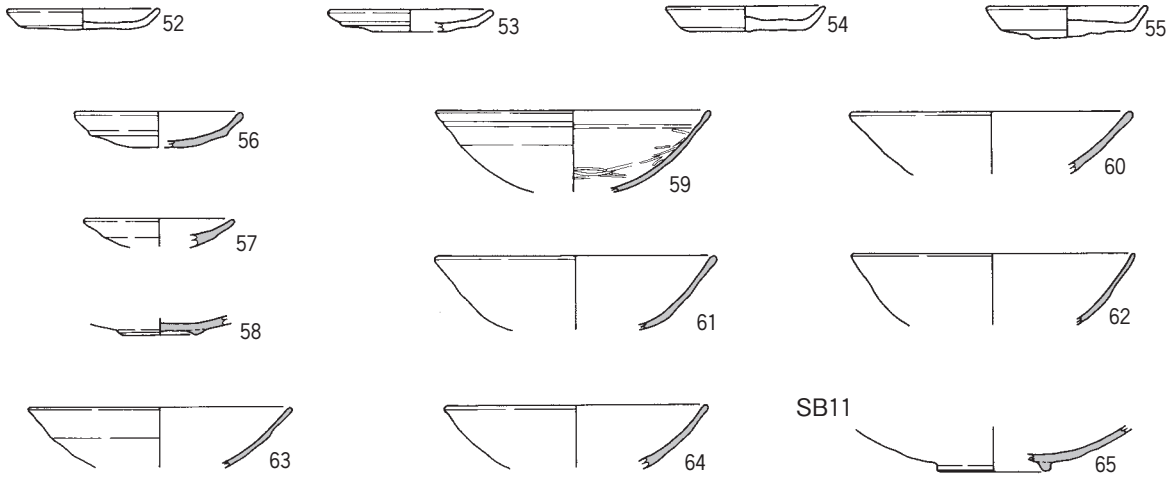
SB08



SB09

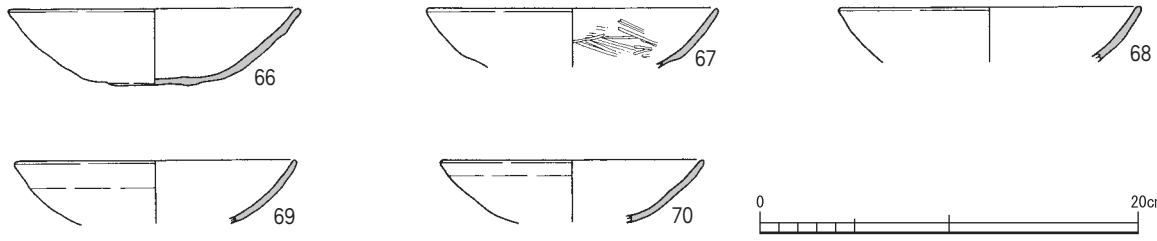


SB10

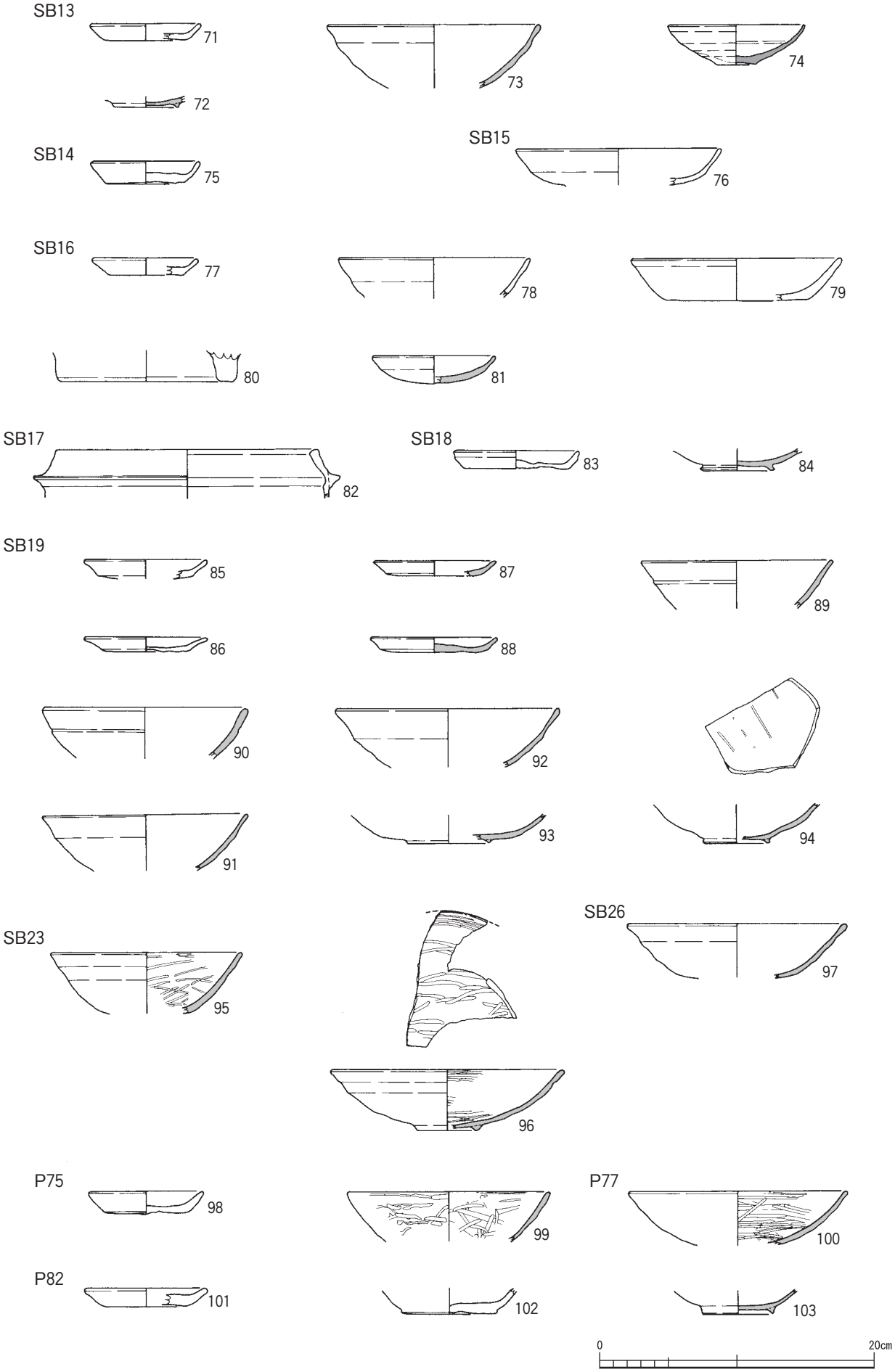


SB11

SB12

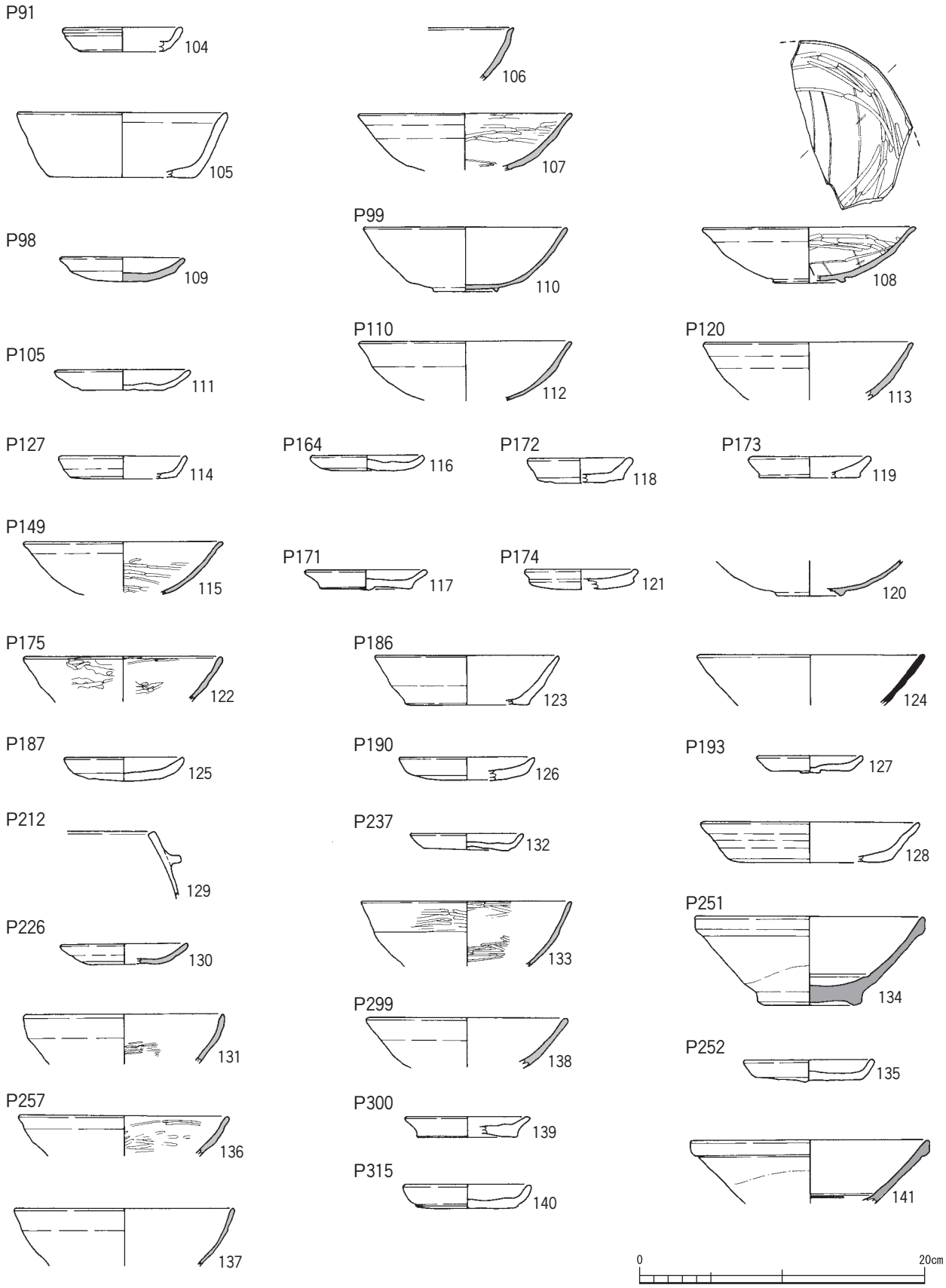


出土遺物実測図　土器（2）

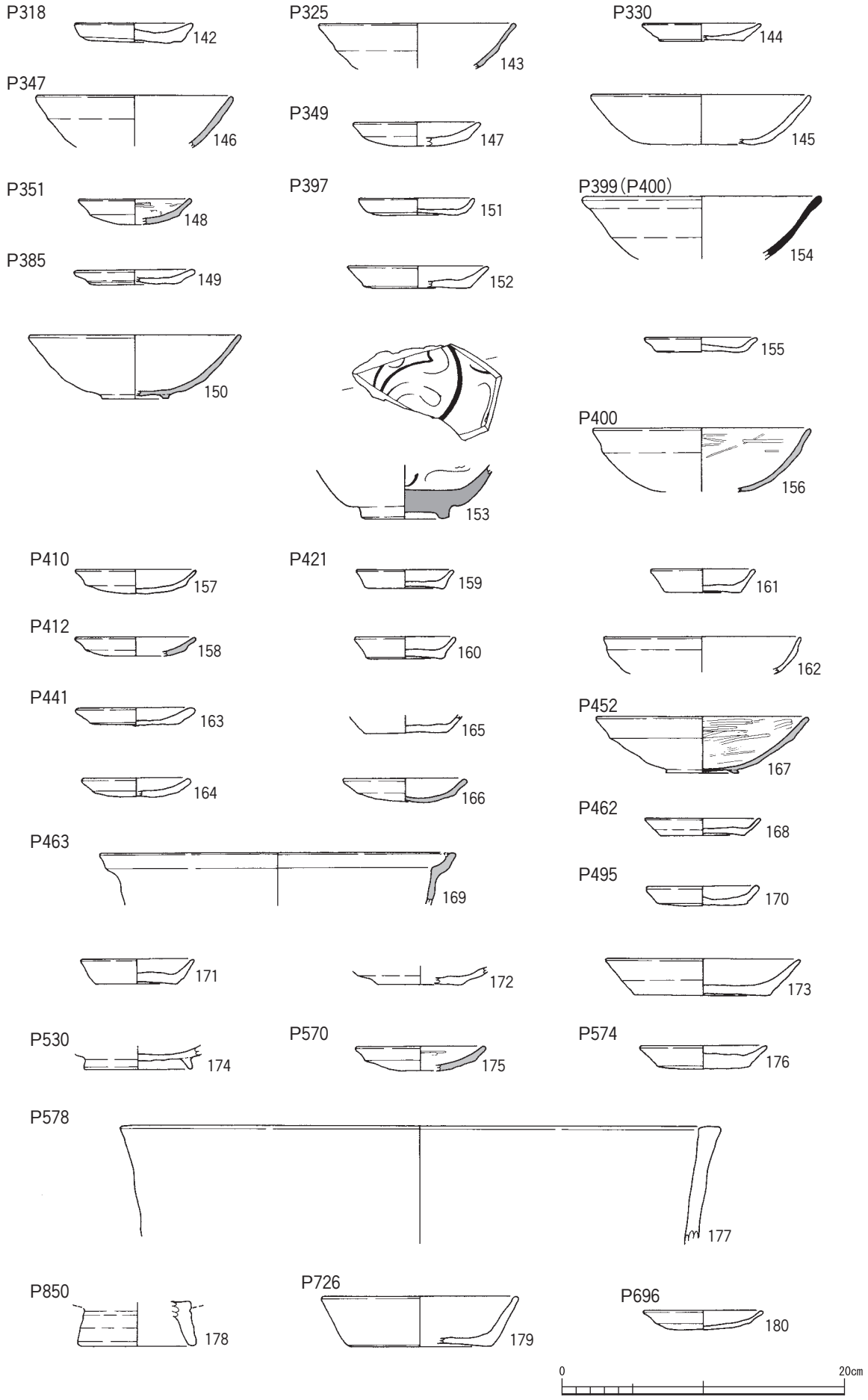

SB13
71
72
73
74
SB14
75
SB15
76
SB16
77
78
79
80
81
SB17
82
SB18
83
84
SB19
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
SB23
95
96
SB26
97
P75
98
99
P77
100
P82
101
102
103
0
20cm

出土遺物実測図　土器（3）

図版36

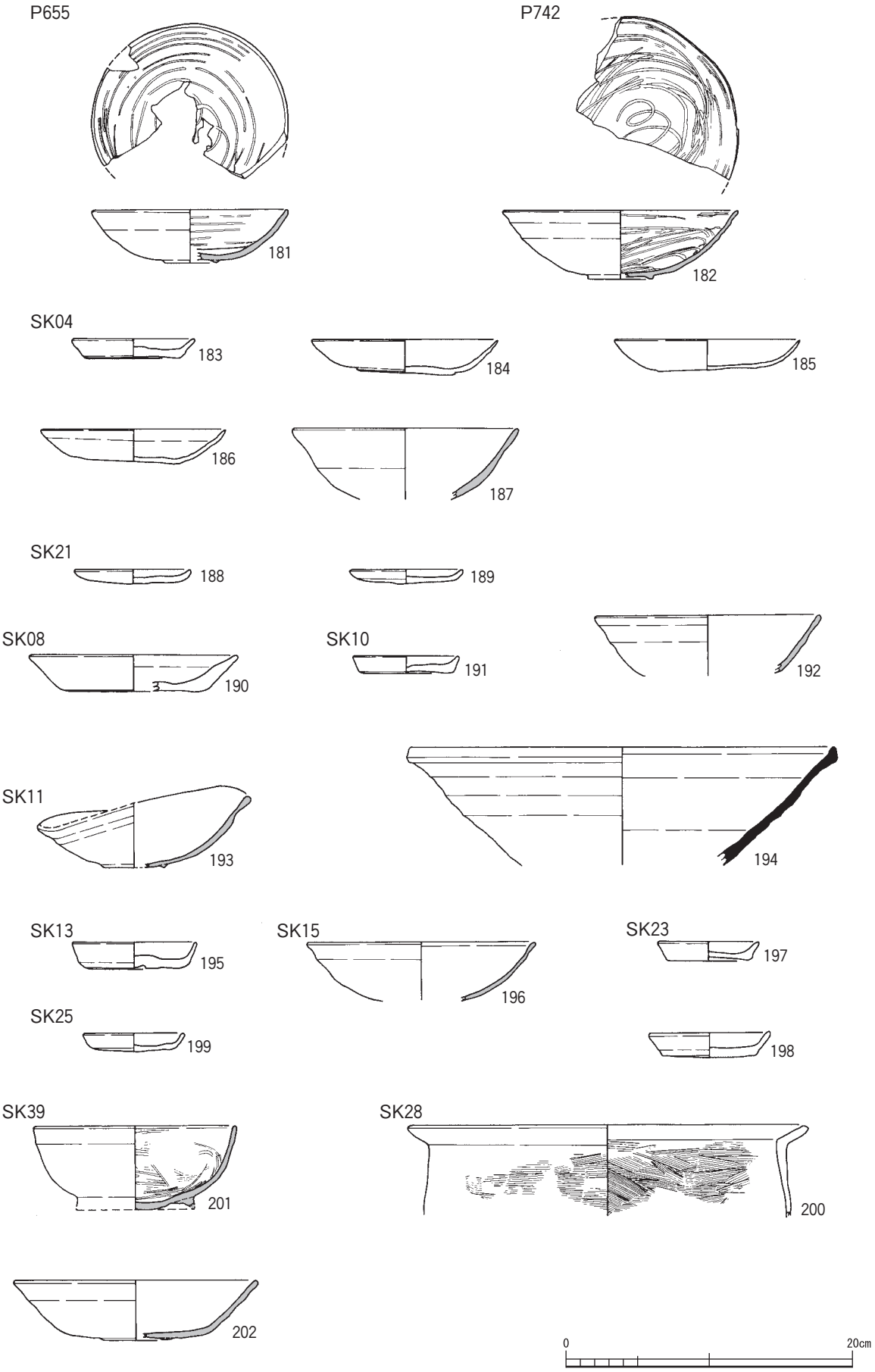


出土遺物実測図　土器（4）


P318
142
P325
143
P330
144
P347
146
P349
147
145
P351
148
P397
151
P399(P400)
154
P385
149
152
150
155
153
P400
156
P410
157
P421
159
161
P412
158
160
162
P441
163
165
P452
167
164
166
P462
168
P463
169
P495
170
171
172
173
P530
174
P570
175
P574
176
P578
177
P850
178
P726
179
P696
180
0
20cm

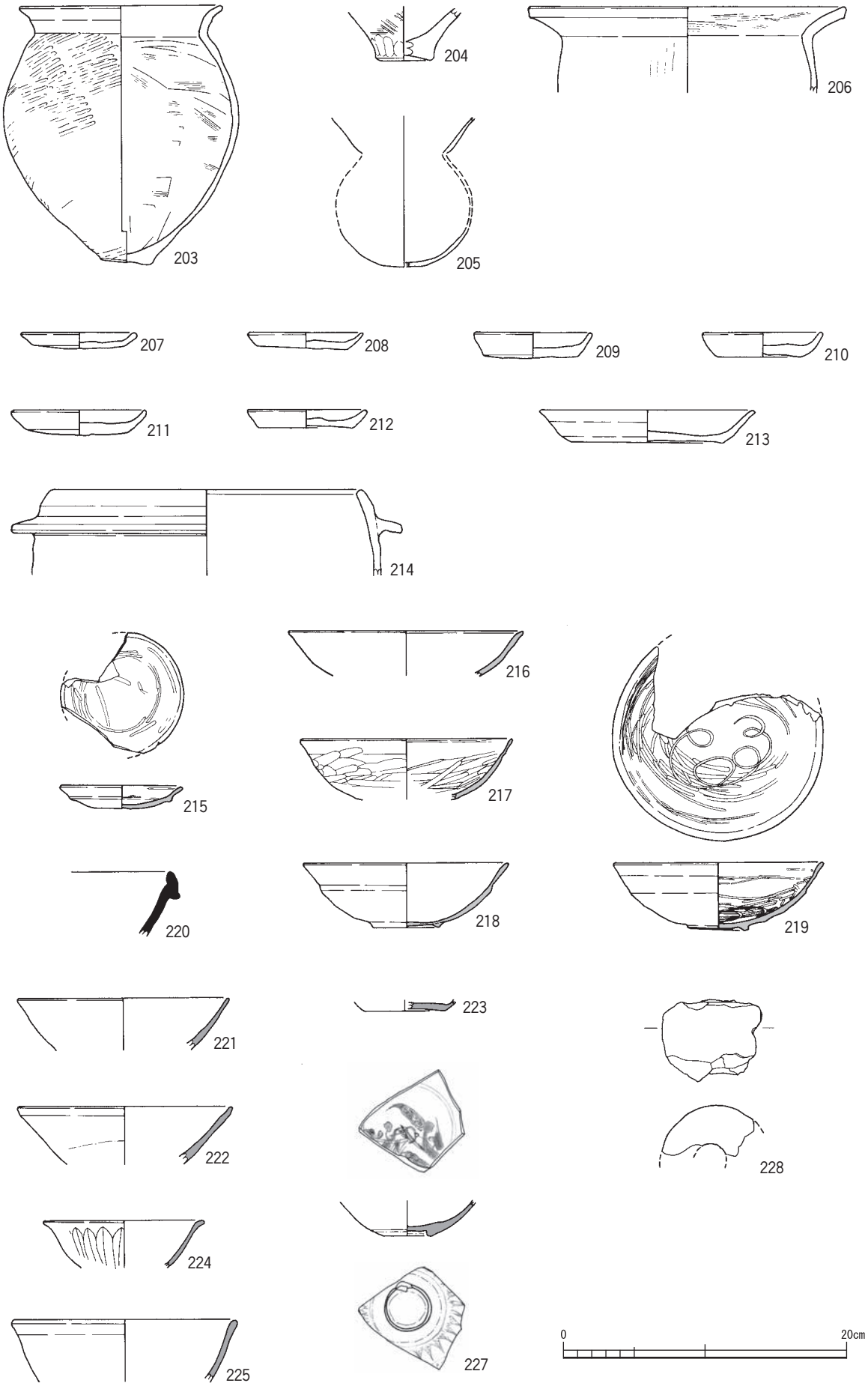
出土遺物実測図　土器（5）

図版38



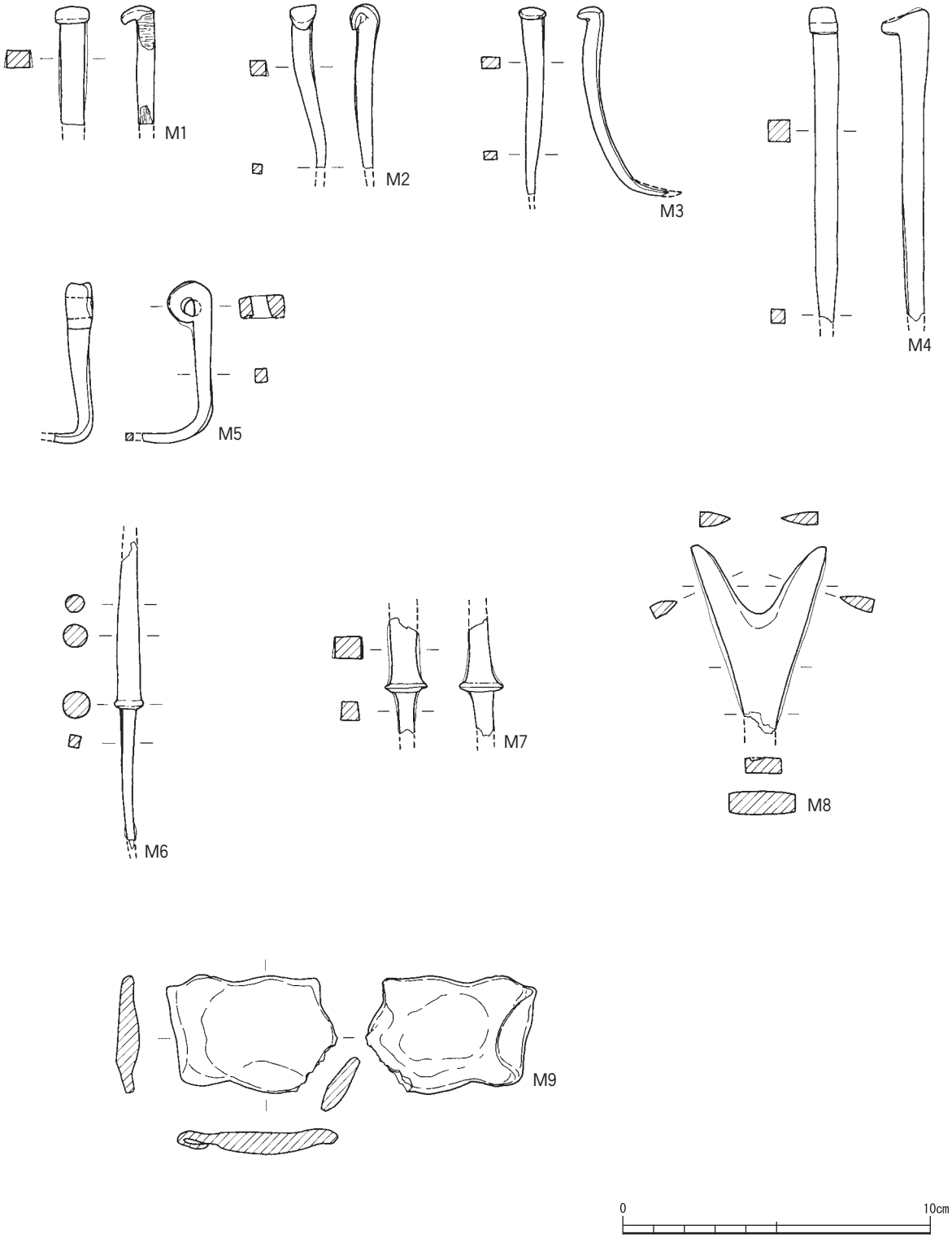
出土遺物実測図　土器（6）

包含層

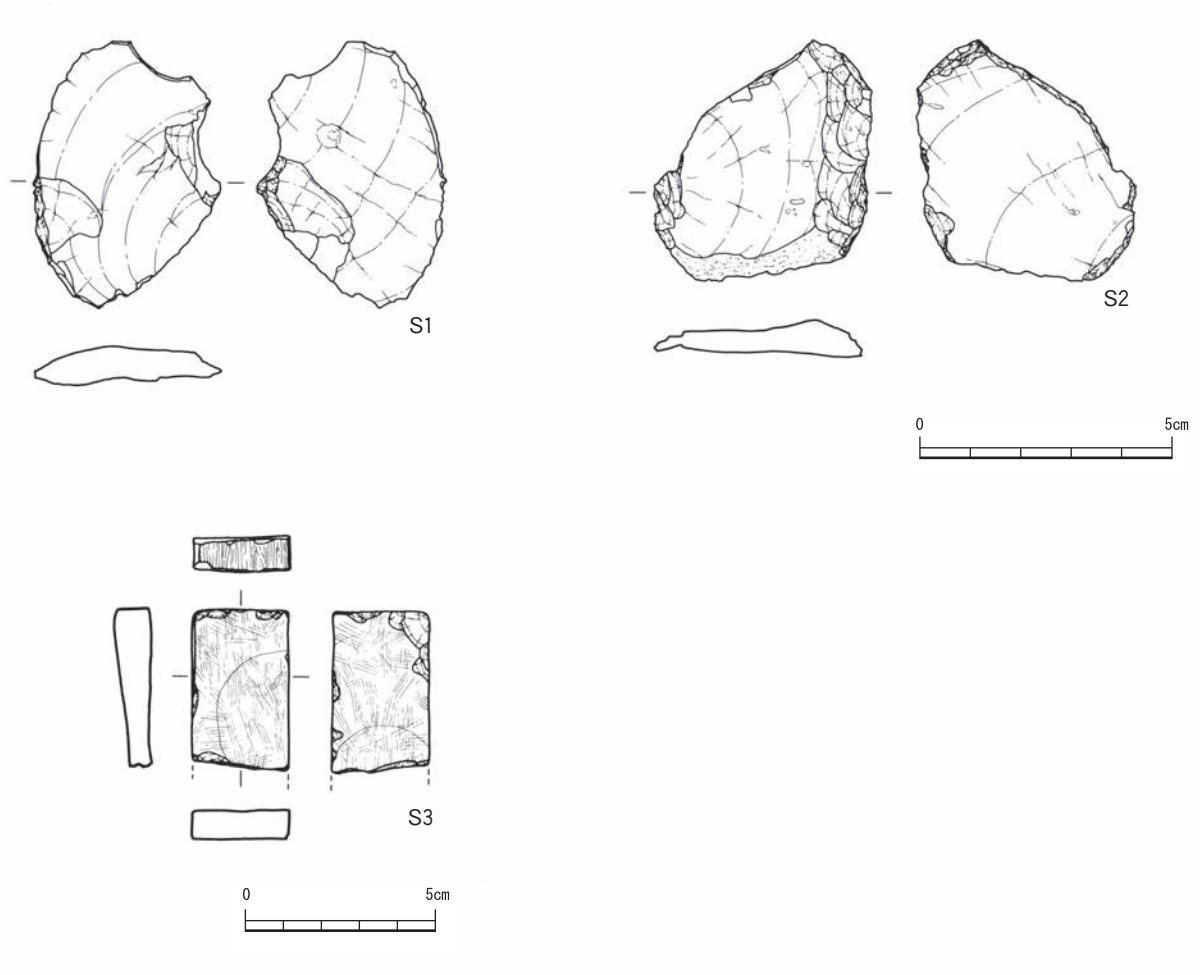


出土遺物実測図　土器（7）

図版40



出土遺物実測図　鉄器



出土遺物実測図　石器・石製品

写真図版

調査区全景（俯瞰・上が北）

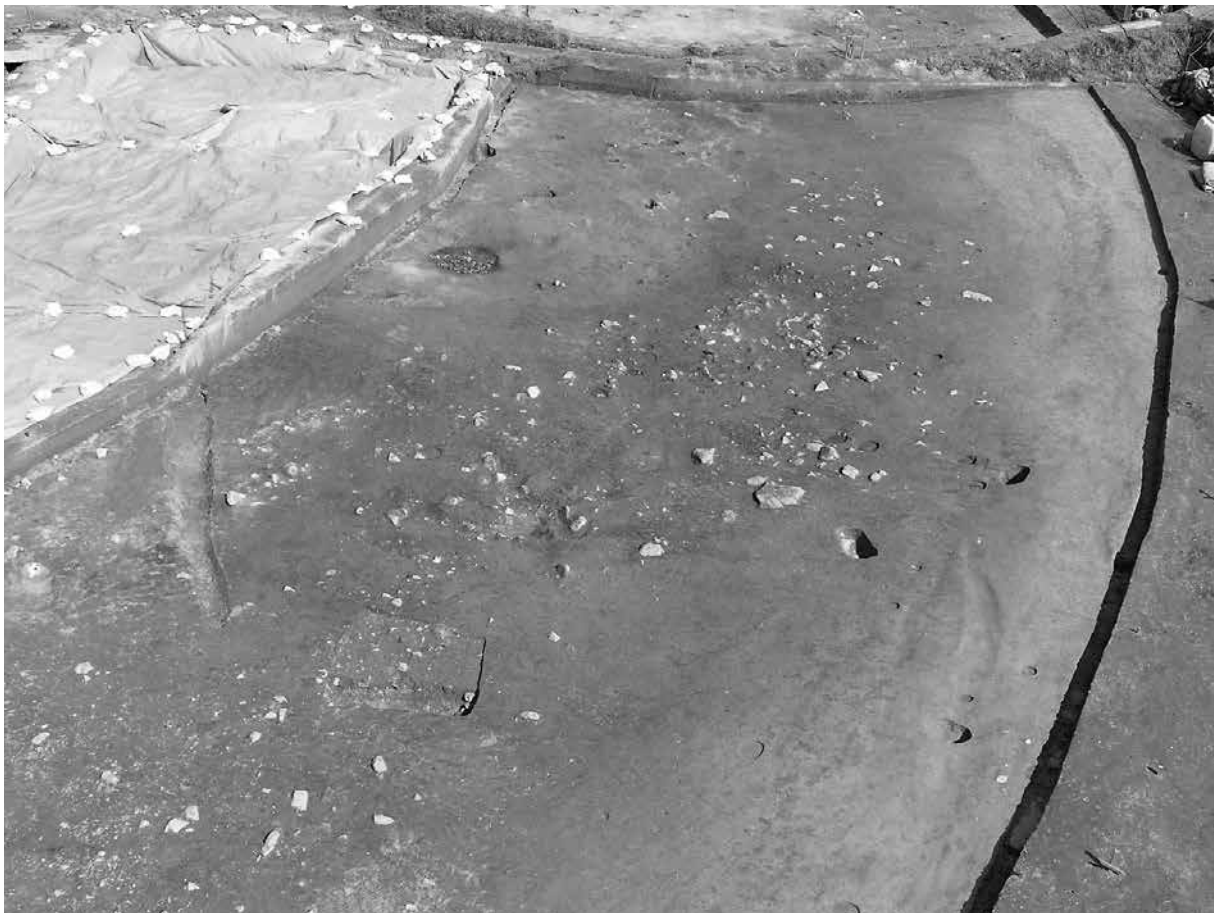
調査区全景（西から）

写真図版２　遺構

Ⅰ区全景（西から）

Ⅰ区全景（東から）

Ⅱ区全景（西から）



Ⅱ区東半部（西から）

写真図版４　遺構

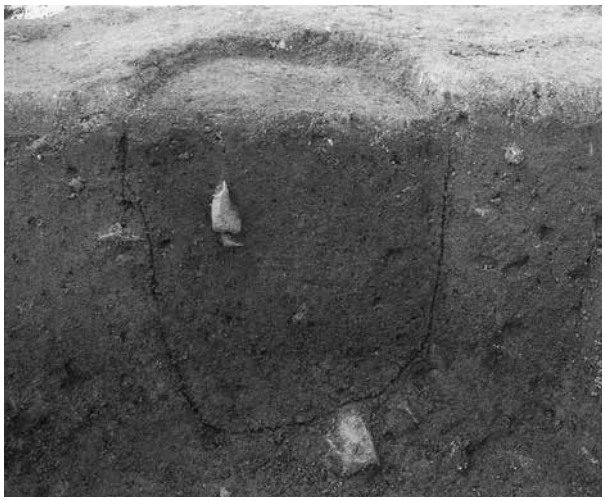
SB01　東から

P231（SB01）・P232（SB12）　北から

P241（SB01）　北から

P425（SB05）・P426（SB01）　北東から

P166（SB01）　南から



P342（SB01）　南から

P385（SB01）　南から

P507（SB01）　西から

P184（SB01）・P183（SB10）　東から

P438（SB01）・P437（SB10）　南西から

P481（SB01）・P482（SB10）　西から

写真図版６　遺構

SB02　北から

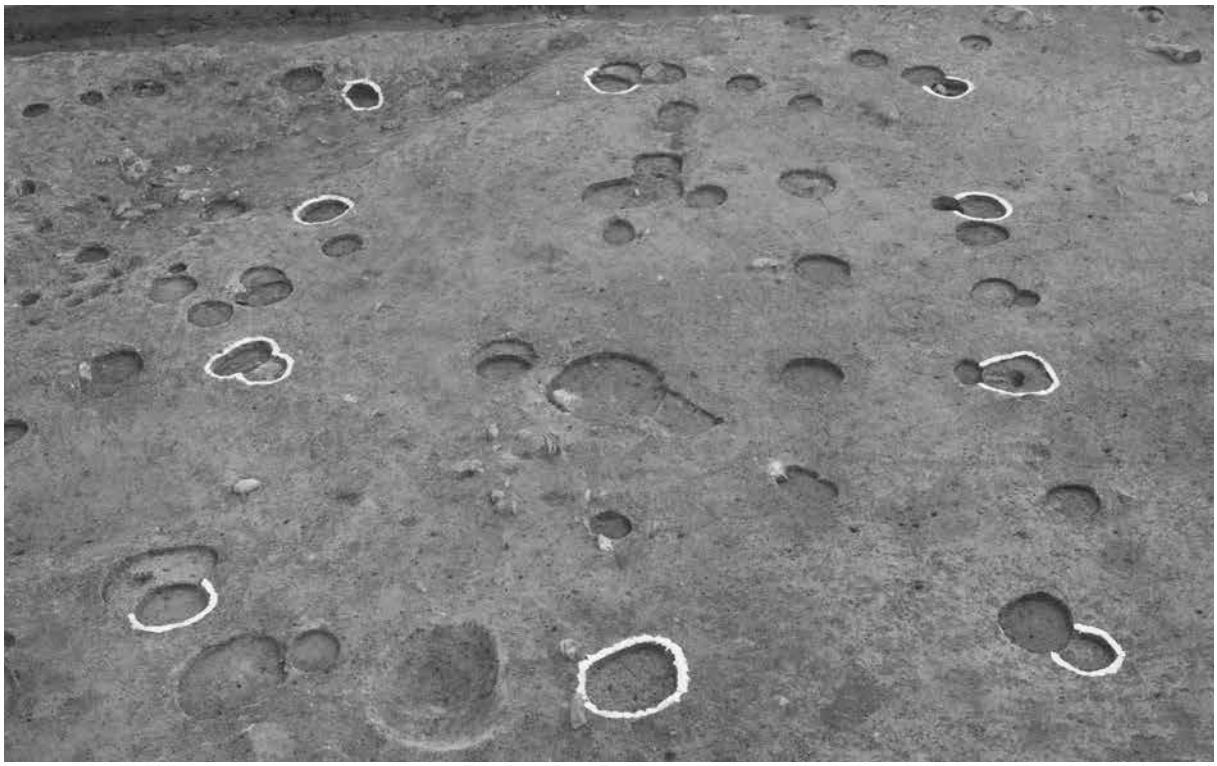
P852（SB02）　西から

P549（SB02）　東から

P517（SB02）　西から

P845（SB02）　西から

P884（SB02）　西から



SB03　北から

P545（SB03）・P544　西から

P516・P515（SB03）　西から

P509（SB03）　東から

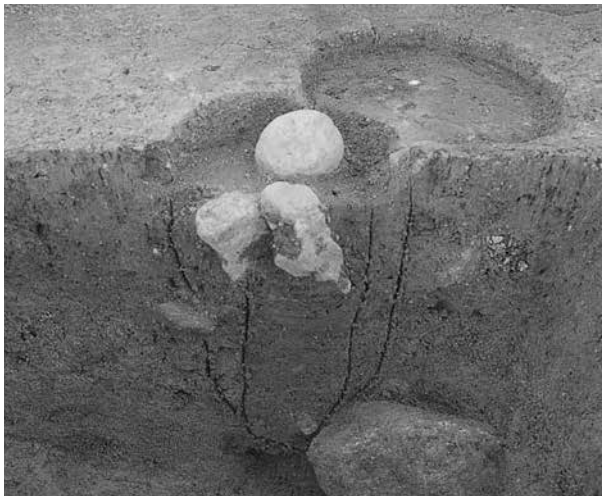
P881（SB03）　東から

写真図版８　遺構

P858（SB03）　東から

P854（SB03）　東から

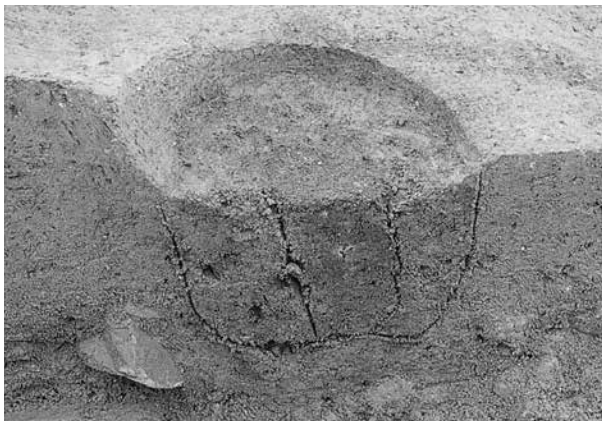
P847（SB03）　東から



P832（SB03）　西から

SB04　西から

P541（SB04）　北から



P310（SB04）　西から

P431（SB04）・P430　北西から

P431（SB04）　土器出土状況　北西から

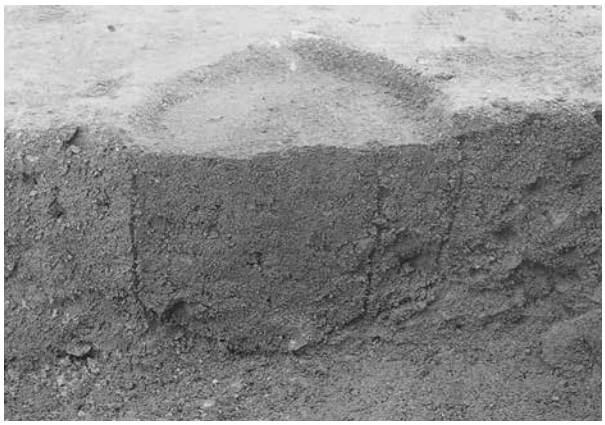
SK19（SB04）　南から

P447（SB04）　北から

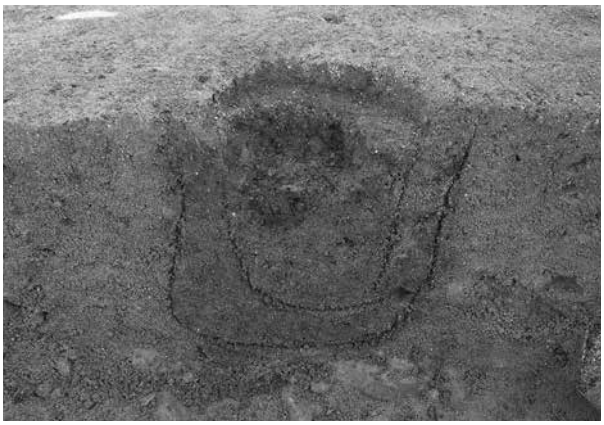
P355（SB04）　南から

P586（SB04）　西から

写真図版10　遺構



P581（SB04）　西から



P554（SB04）　西から

P519（SB04）　西から

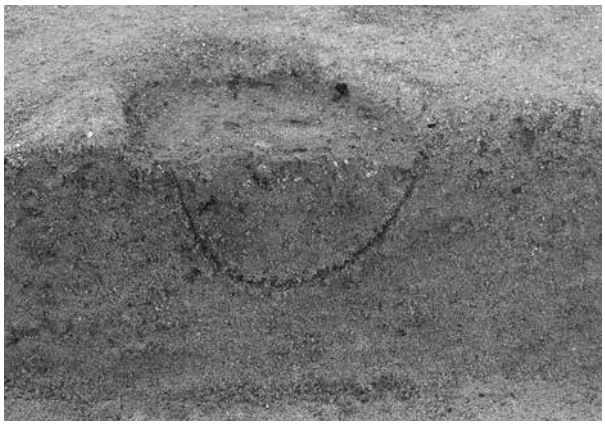
P355（SB04）　南から

P138（SB05）　東から

P266（SB05）　東から

P264（SB05）　西から

P198・P199（SB05）　東から

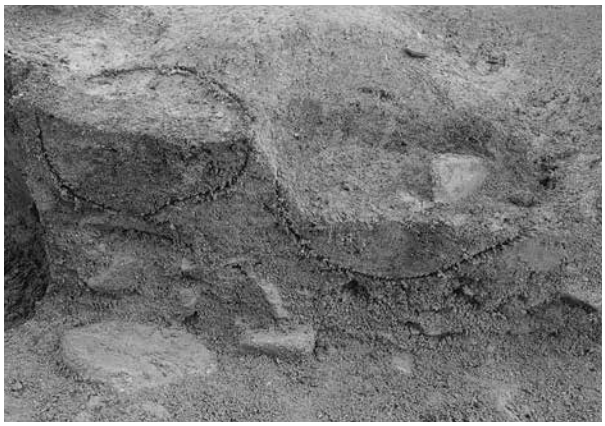


P177（SB05）　東から

P467（SB05）　西から

P461（SB05）・P462　西から

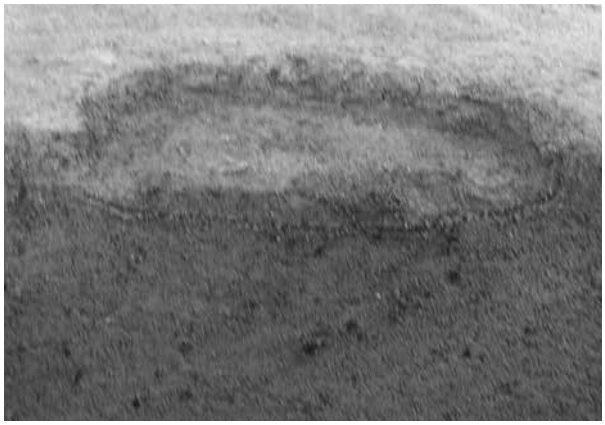
P425（SB05）・P426（SB01）　北東から



P308（SB05）・P362（SB06）　北西から

P276（SB05）　北から

P320・P321（SB06）・P322（SB05）　東から

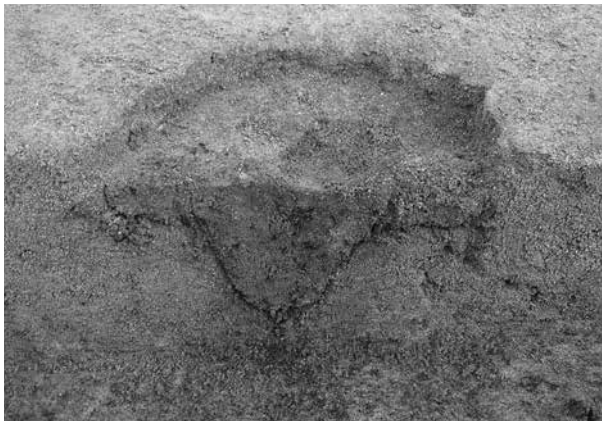


P326（SB05）　南から

写真図版12　遺構

P122（SB06）　東から

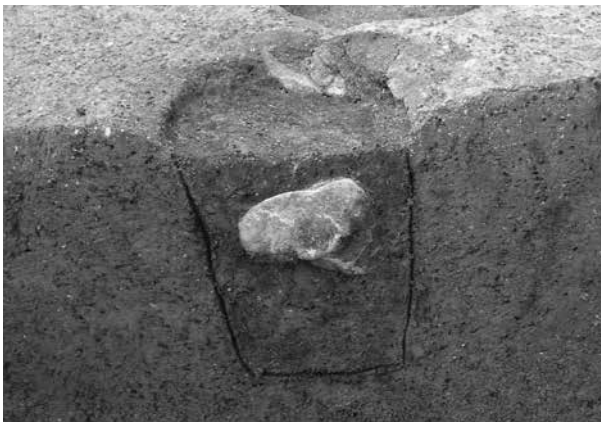
P128（SB06）　南から



P132（SB06）　南から

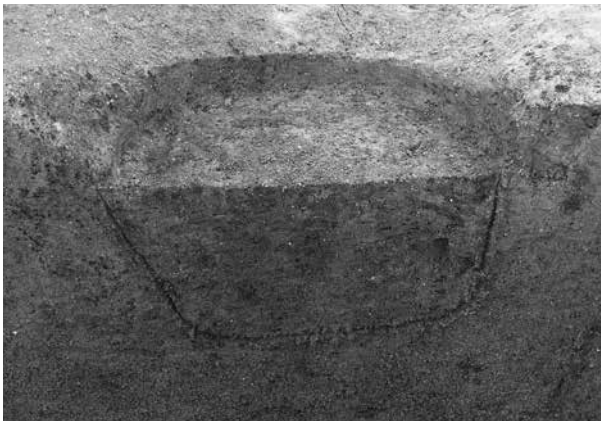
P151（SB06）　南から

P111（SB06）　東から



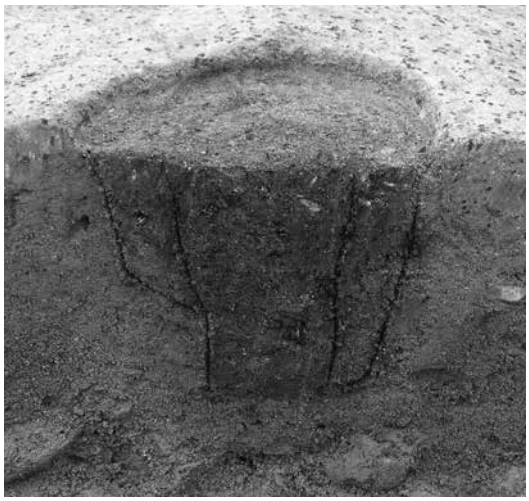
P60（SB06）　東から

P140（SB06）　東から

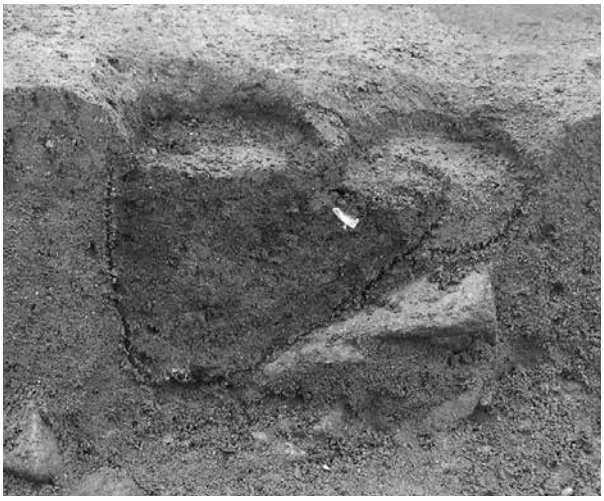


P142（SB06）　北から

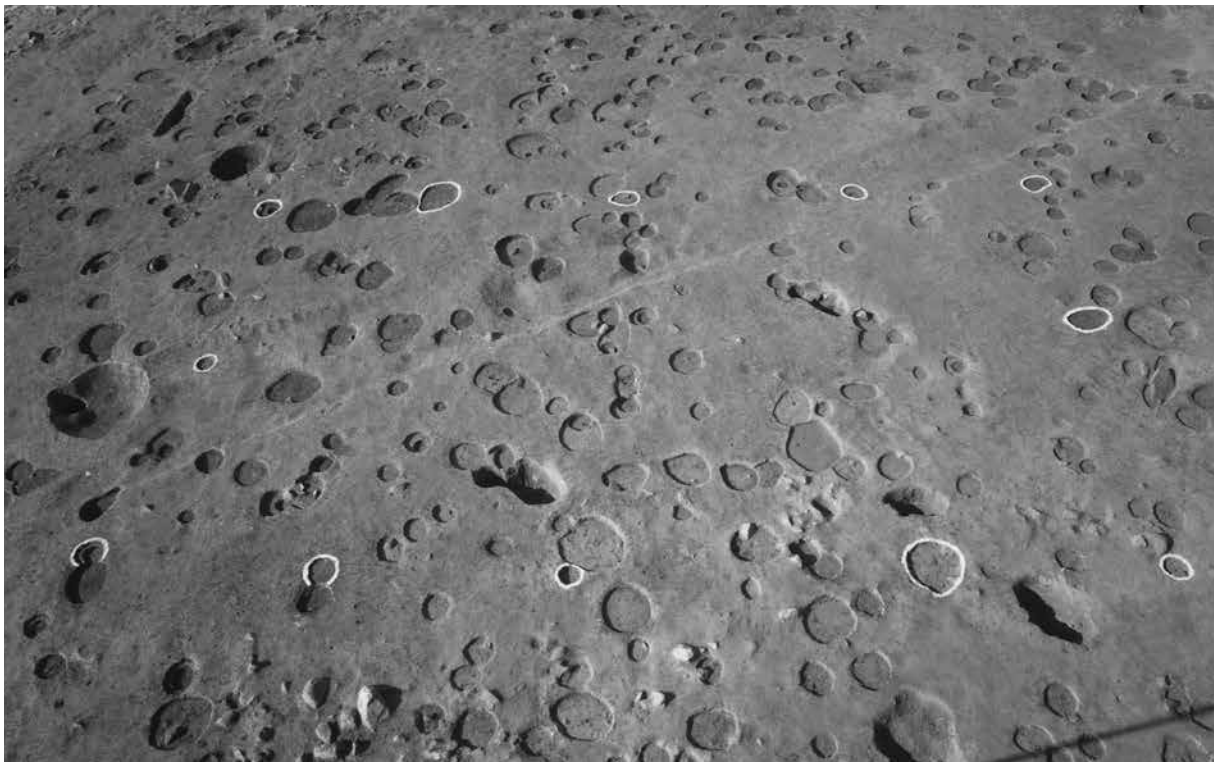
P83（SB06）・P84（SB19）　北東から



P217（SB06）　北から



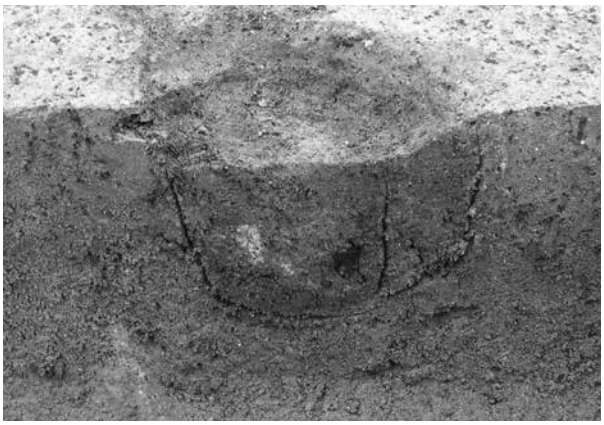
P420（SB06）・P421　北から



SB07　南から

写真図版14　遺構

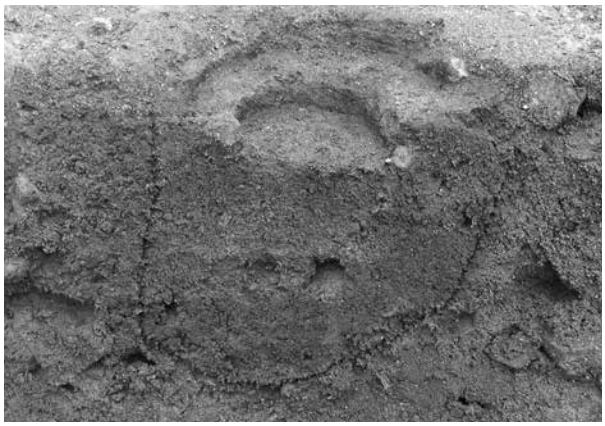
P207（SB07）　東から



P224（SB07）　北から

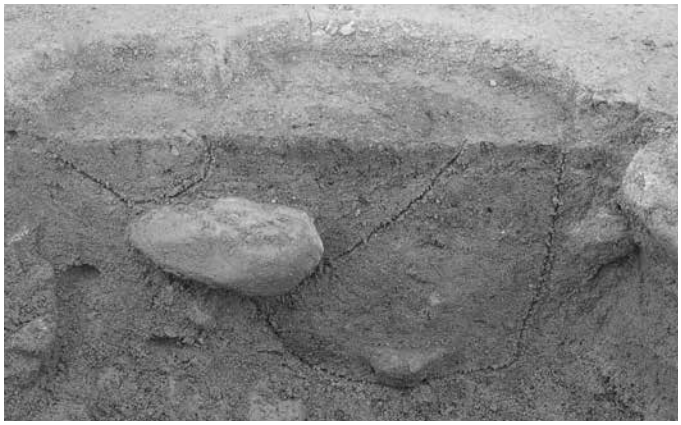
P304（SB07）　北から

P407（SB07）　南から

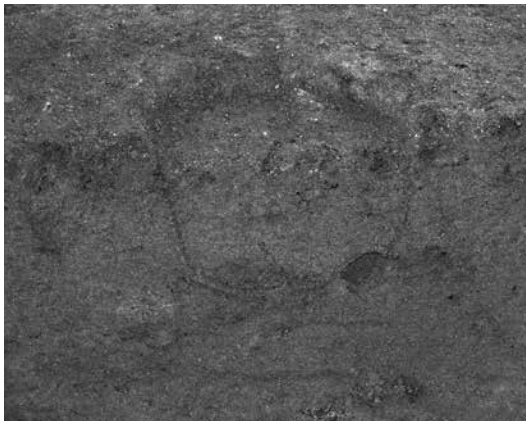


P559（SB07）　西から

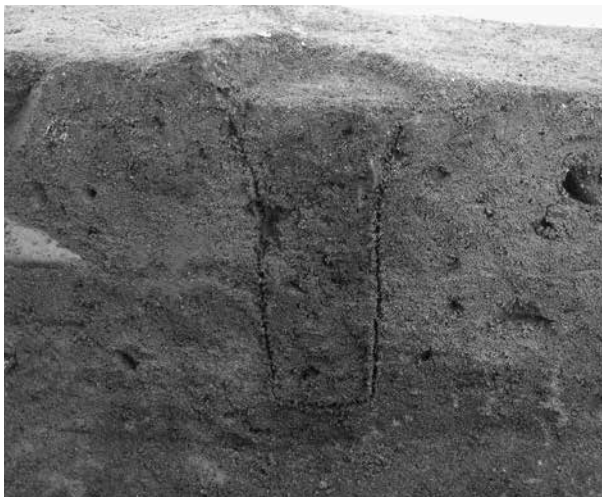
P479（SB07）　東から



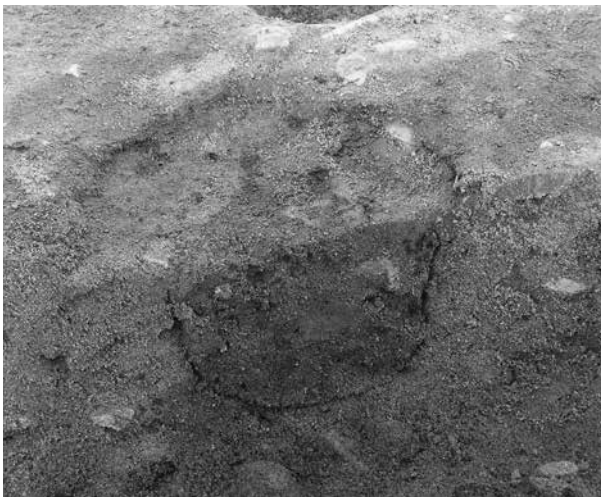
P490（SB07）・P491（SB10）　西から



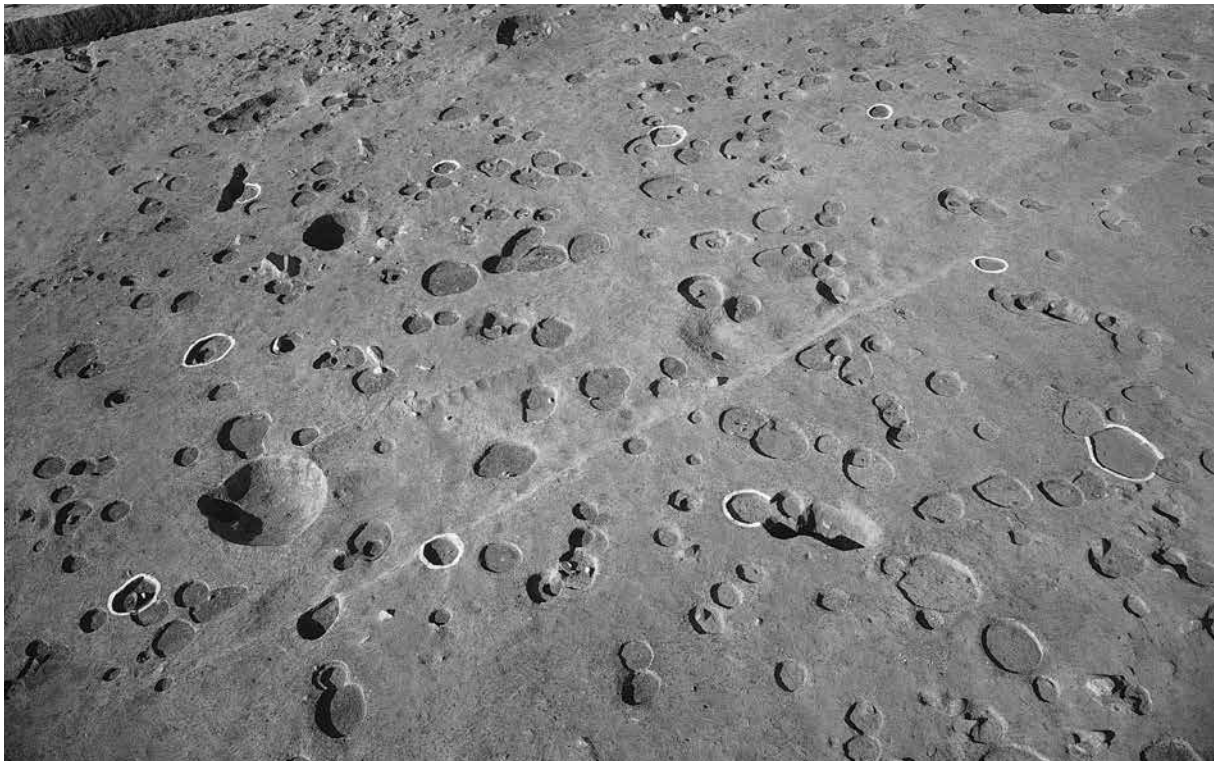
P382（SB07）　南から



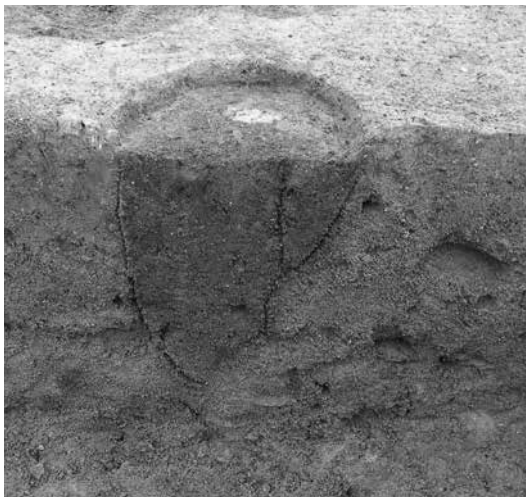
P340（SB07）　南から



P346（SB07）　南から



SB08　南から



P253（SB08）　北から

P434（SB12）・P433（SB08）　北から

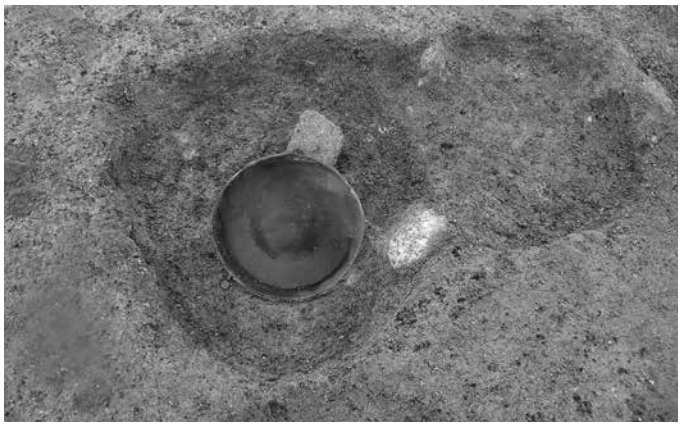
写真図版16　遺構

P443（SB08）　北から

P580（SB08）　北から

P329（SB08）・P327　東から

P378（SB08）　南から



P526（SB08）土器出土状況　西から

P526（SB08）・P527　西から

P485（SB08）　南から

P312（SB08）　東から

P555（SB08）　西から

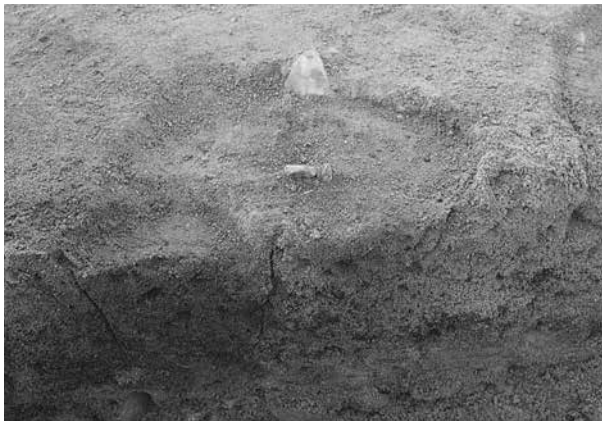
P555（SB08）土器出土状況　西から

SB09　東から

写真図版18　遺構

P76（SB09）　東から

P228（SB09）　東から



P148（SB09）　南から

P148（SB09）土器出土状況　南から

P169（SB09）　南から

P316（SB09）　西から

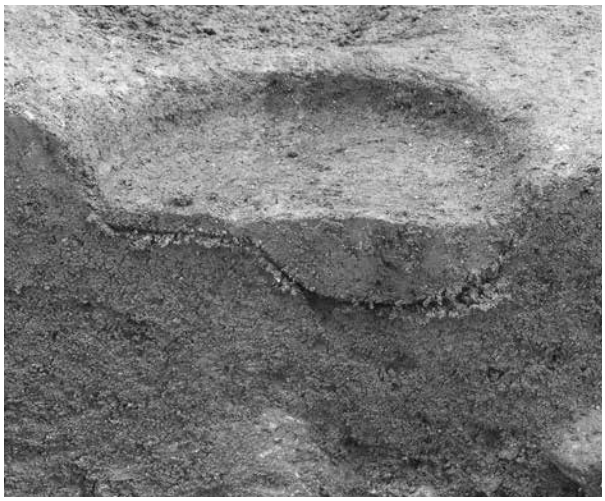
P338（SB09）・P882　南から

P368（SB09）　南から

P418・P244（SB09）　北から

SK18（SB09）　南から

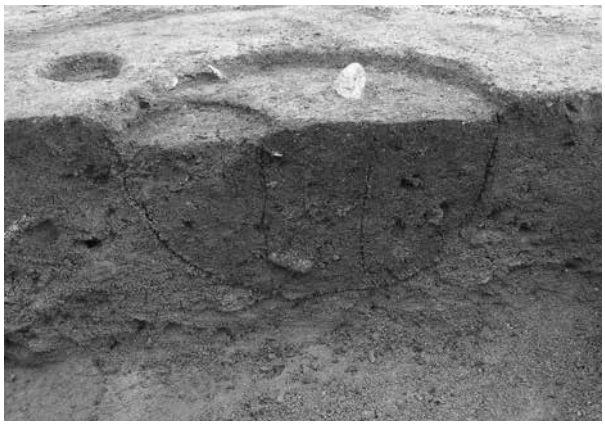
SB10　東から



P213（SB10）　南から

P249（SB10）　北から

写真図版20　遺構

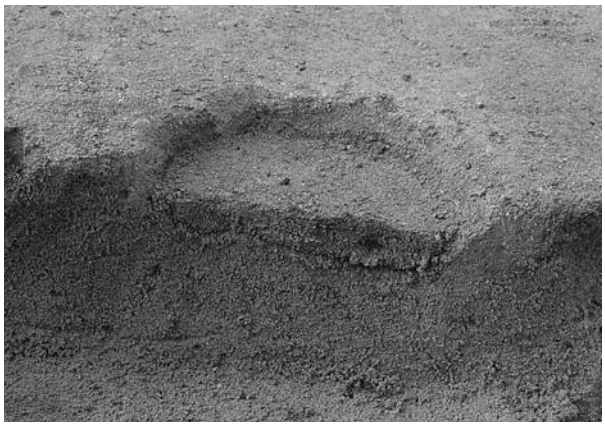


P246（SB10）　北から

P571（SB10）　西から

P164・P165（SB10）　南から

P345（SB10）・P344　北から



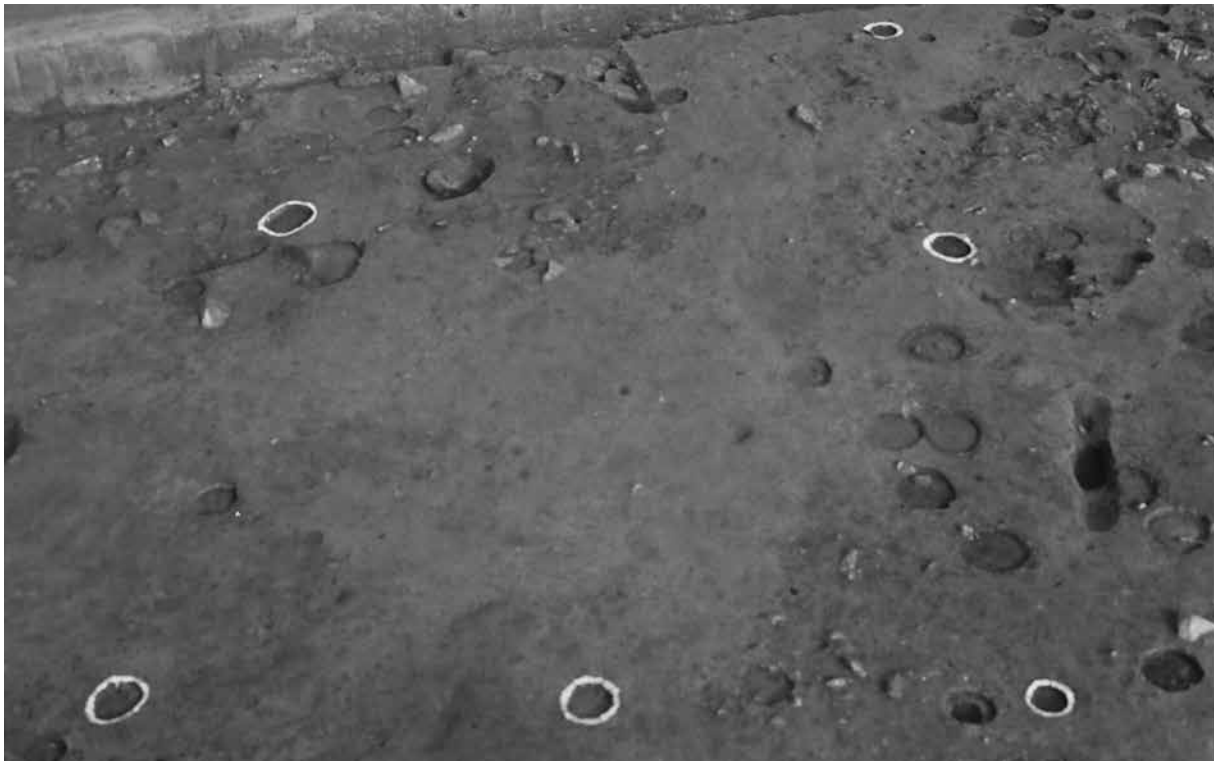
P375（SB10）　南から

P490・P491（SB10）　西から

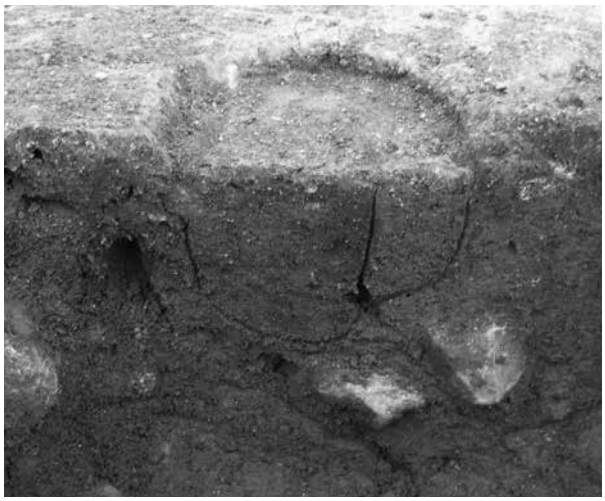
P184（SB01）・P183（SB10）　東から

P229（SB10）　東から

P477（SB10）　東から



SB11　南から



P608（SB11）　西から

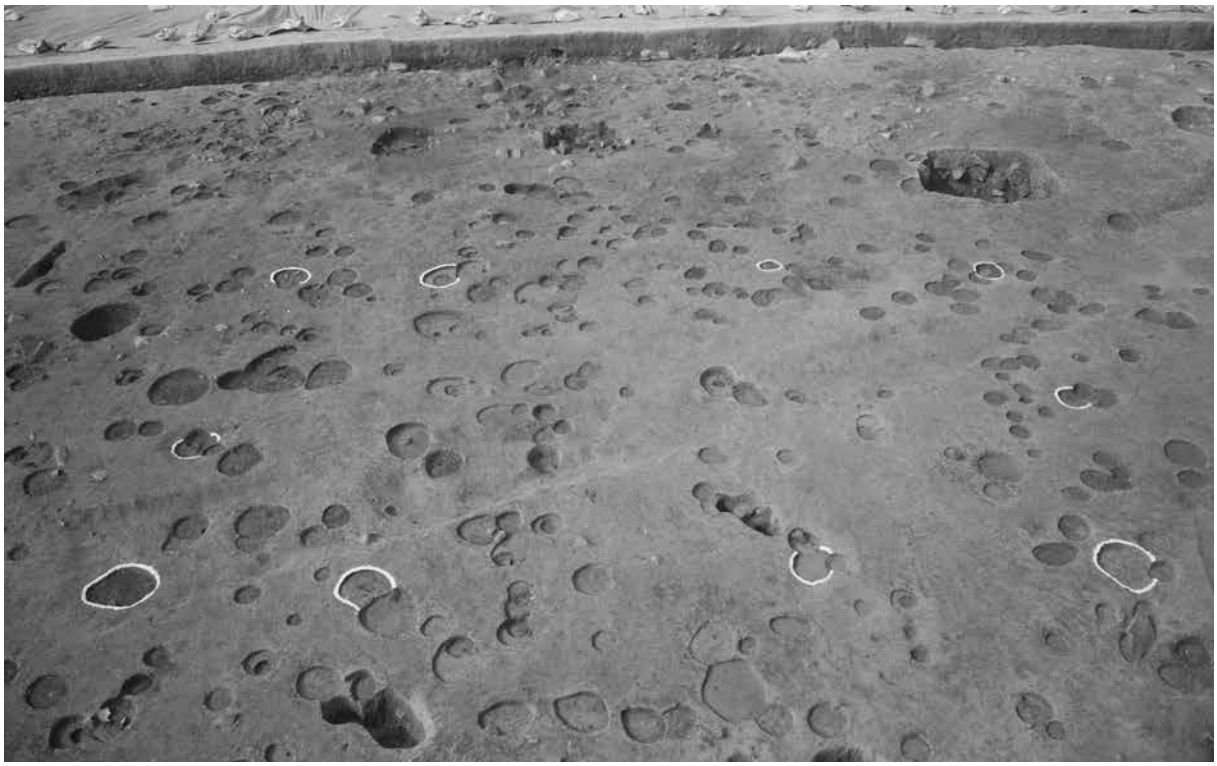
P591（SB11）　西から

写真図版22　遺構

P569（SB11）　西から

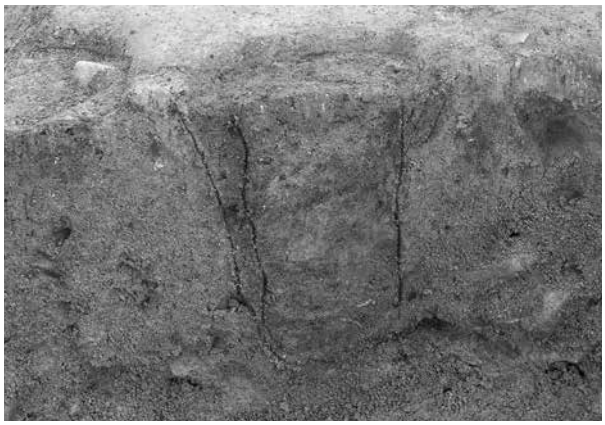
P630（SB11）　南から

P566（SB11）　南から



SB12　南から

P231（SB01）・P232（SB12）　北から

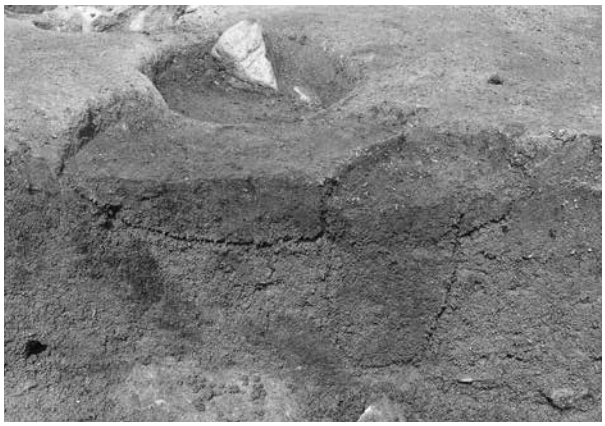


P243（SB12）　北から

P434（SB12）・P433（SB08）　北から

P440（SB12）・P441　西から

P227（SB12）　東から



P889（SB12）・P192　南から

P317（SB12）・P318　南西から

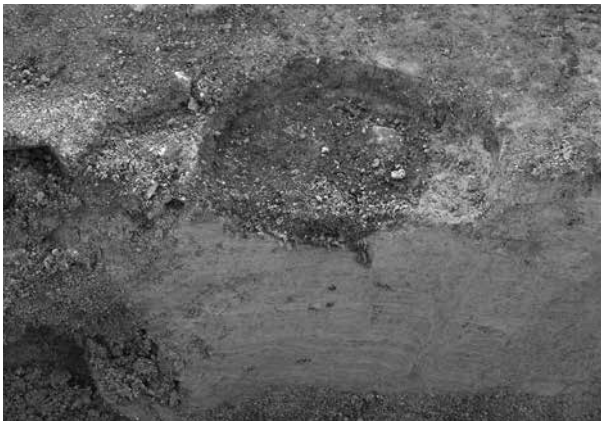
P401（SB12）　南から

写真図版24　遺構

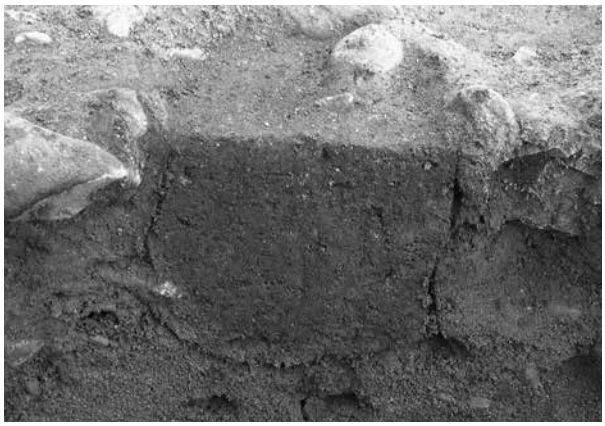
P201（SB12）・P203　南西から

P404・P405（SB12）　北西から

P284（SB13）　東から



P473（SB13）　北から



P595（SB13）　西から

P247・P250（SB13）・P251　北から

P424（SB13）　北から

P438（SB01）・P437（SB13）　北から

P287（SB13）　東から

P588（SB13）・P587　北西から

SB14　東から

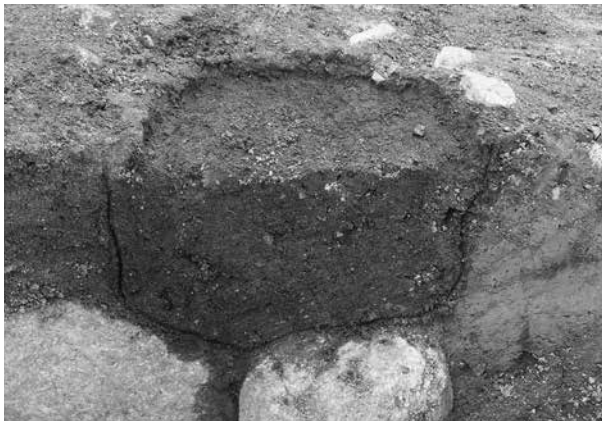
P468（SB14）　西から

P431（SB04）・P430（SB14）　北西から

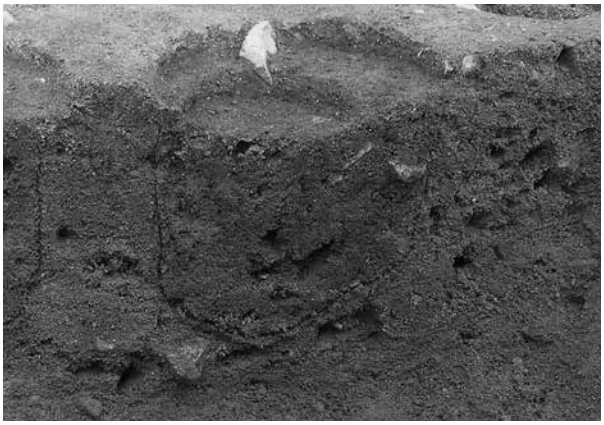
写真図版26　遺構

P306・P307（SB14）　北から

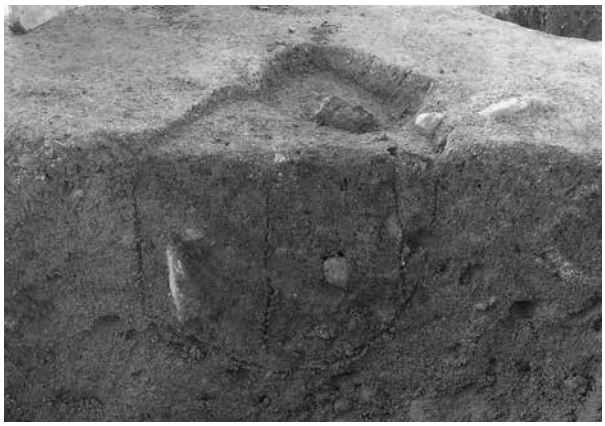
P599（SB14）　西から



P590（SB14）　東から



P575（SB14）　西から

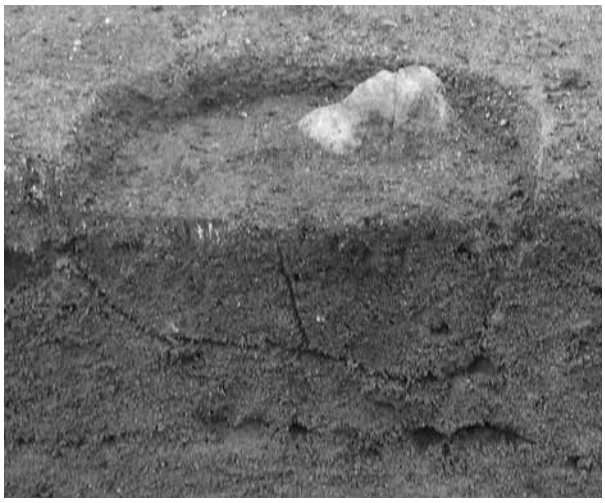


P475（SB14）　東から

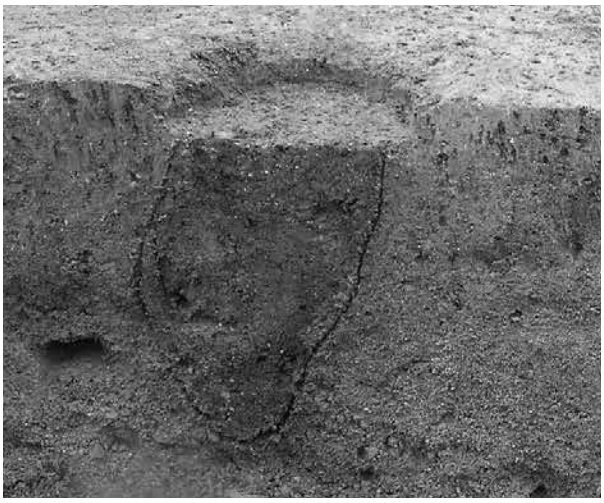
P471（SB14）　北から

P402（SB14）　西から

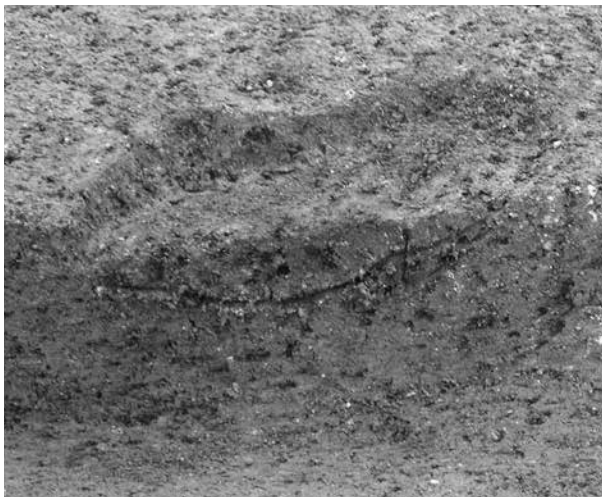
SB15　南から



P457（SB15）　北西から



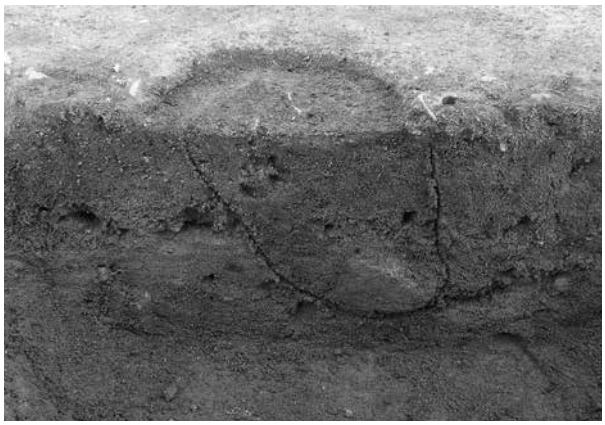
P419（SB15）　北から



P313（SB15）　東から

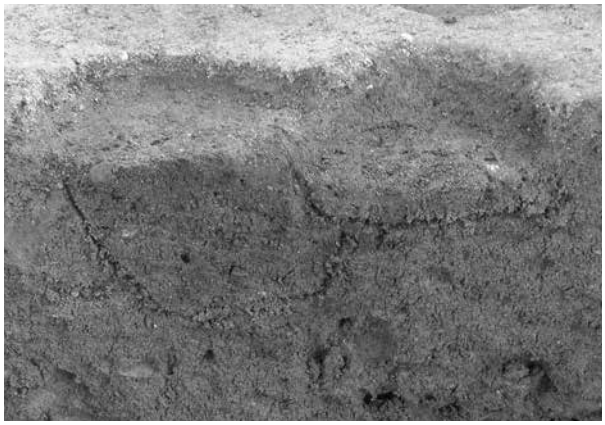
P335（SB15）　南から

写真図版28　遺構

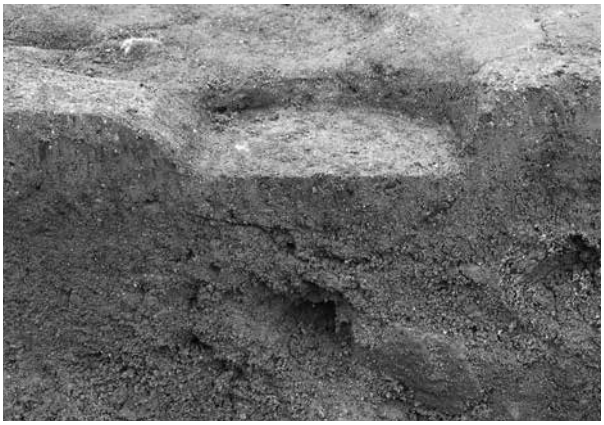


P589（SB15）　西から

P565（SB15）　西から



P538・P539（SB15）　北から

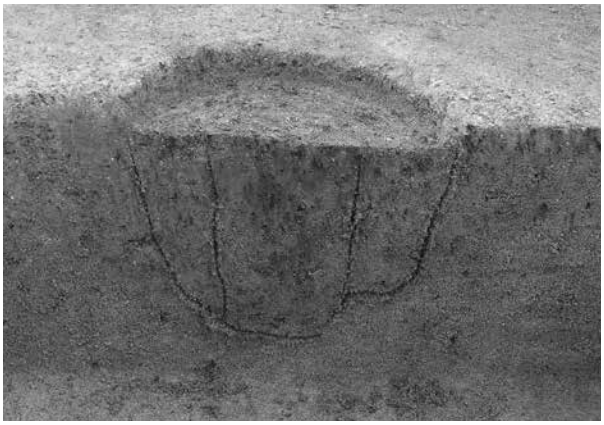


P518（SB15）　西から

P444（SB15）　北から

P384（SB15）・P385　南から

P97（SB16）・P98　南から



P101（SB16）　北から

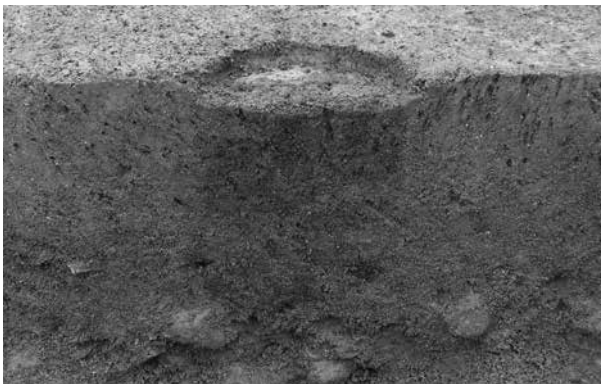
P182（SB16）　北から

P196（SB16）　東から

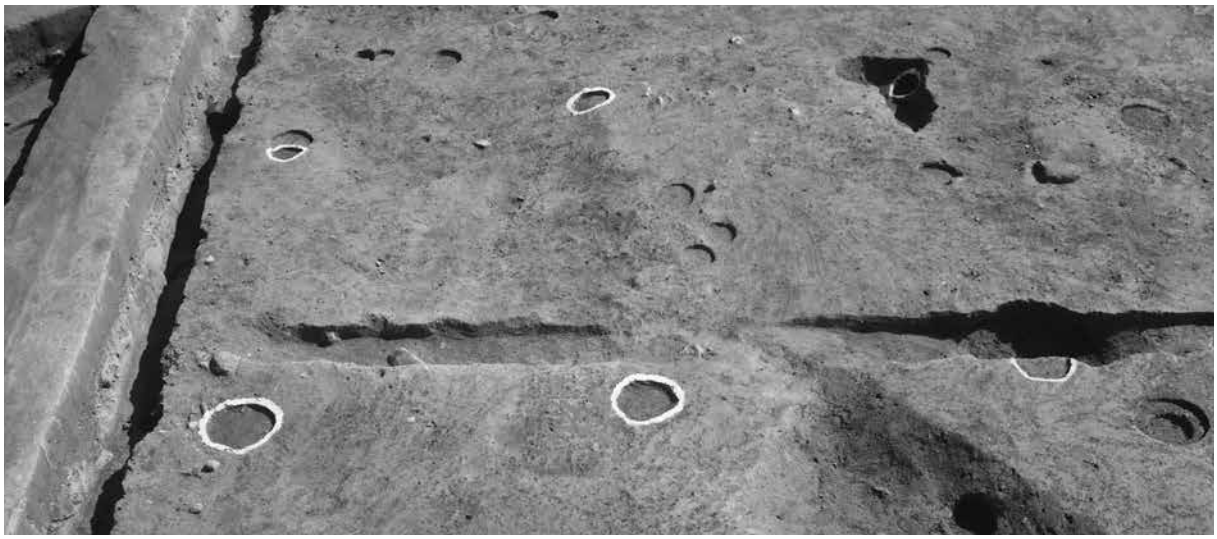
P145（SB16）　南から

P153（SB16）　南から

P121（SB16）　東から



P223（SB16）　西から



SB17　西から

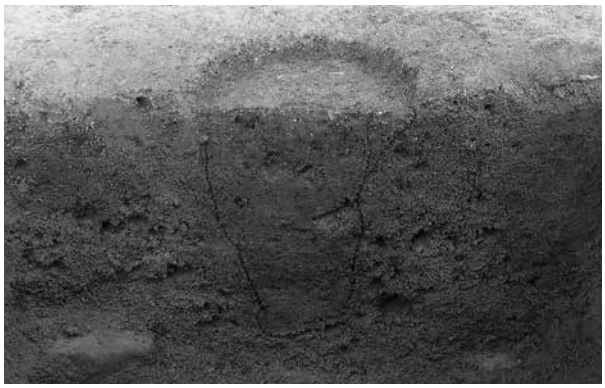
写真図版30　遺構

P50（SB17）　東から

P44（SB17）　西から

P63（SB17）　東から

P53（SB17）　西から



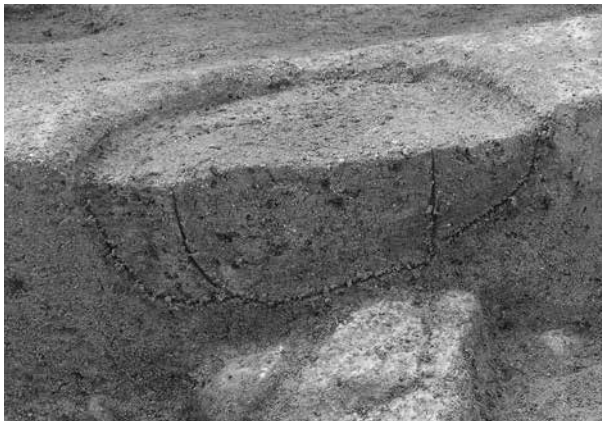
P52（SB17）　西から

P38（SB17）　東から

SB18　東から

P141（SB18）　東から

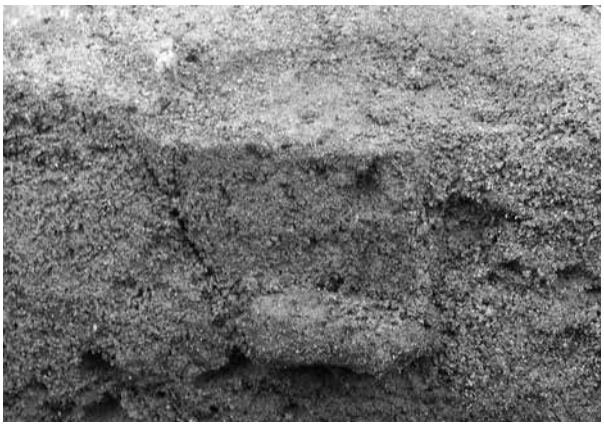
P123（SB18）　東から



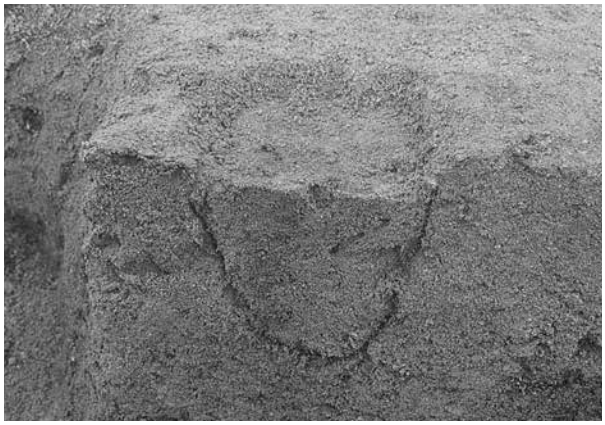
P234（SB18）　北から

P195（SB18）　東から

P176（SB18）　東から



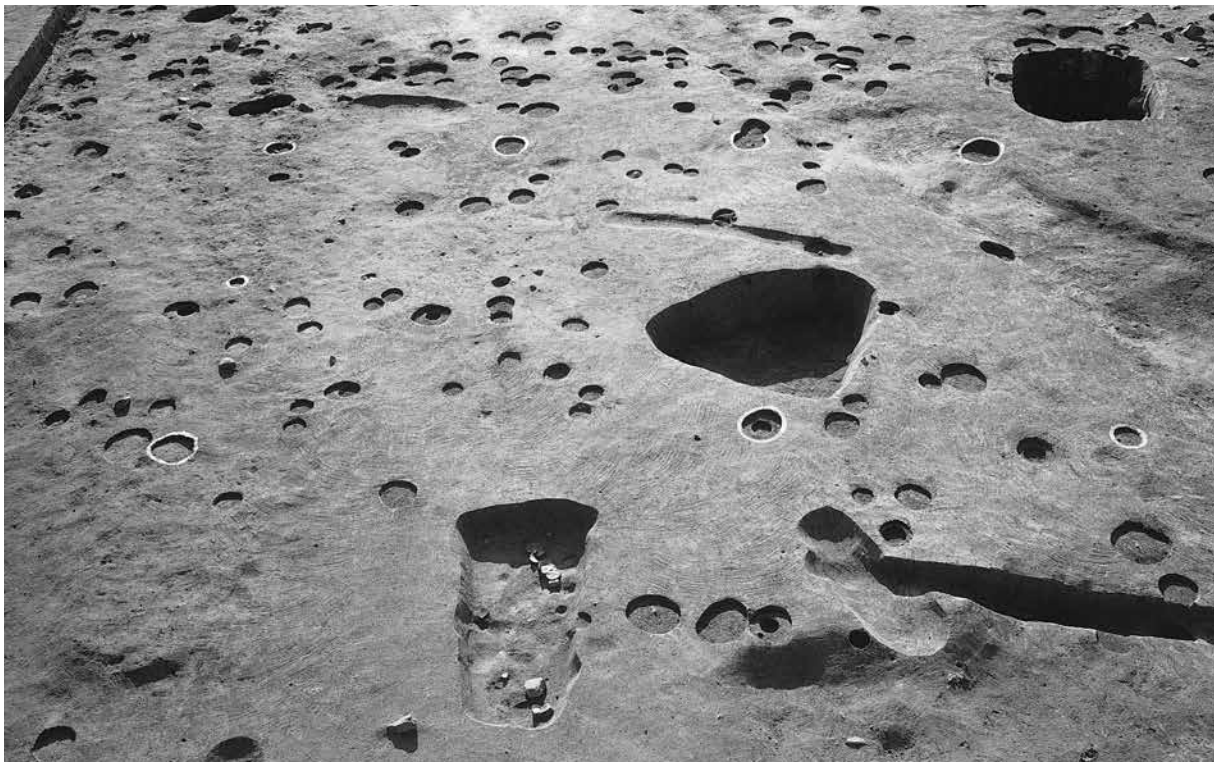
P152（SB18）　南から



P146（SB18）　南から

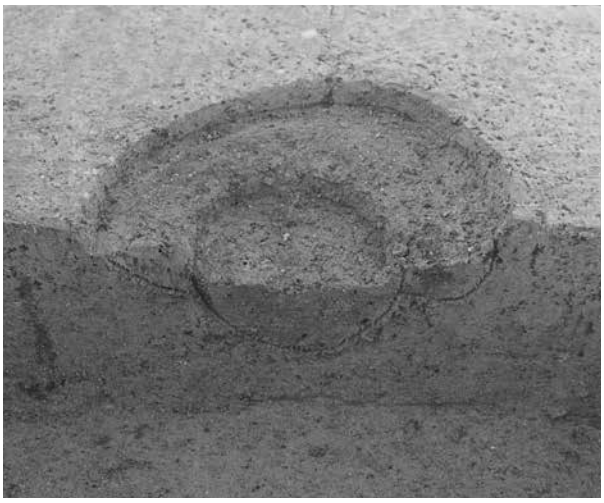
P129（SB18）　南から

写真図版32　遺構



SB19　東から

P32（SB19）　東から



P58（SB19）　東から

P117（SB19）・P118　東から

P68（SB19）　東から

P84（SB19）・P83（SB06）　北から

P103（SB19）　北から

P134（SB19）　東から

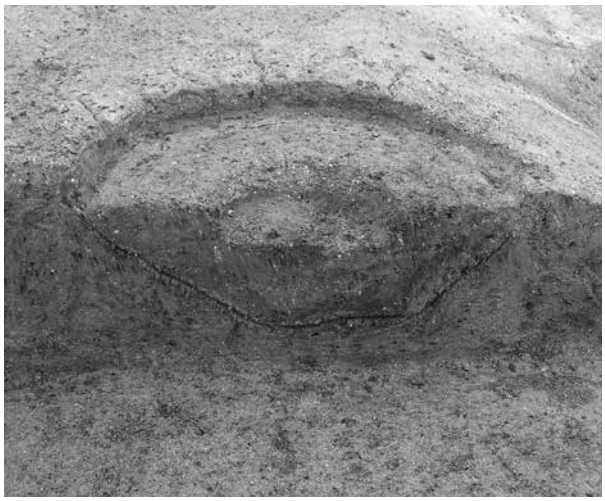
P143（SB19）　東から

SB20　北から

P39（SB20）　南から

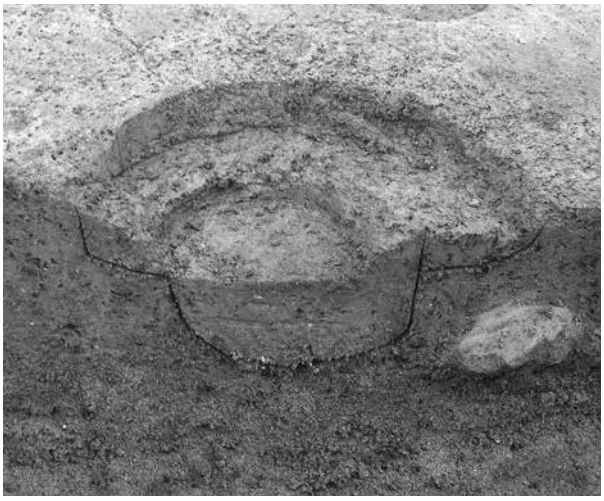
P34（SB20）　西から

写真図版34　遺構

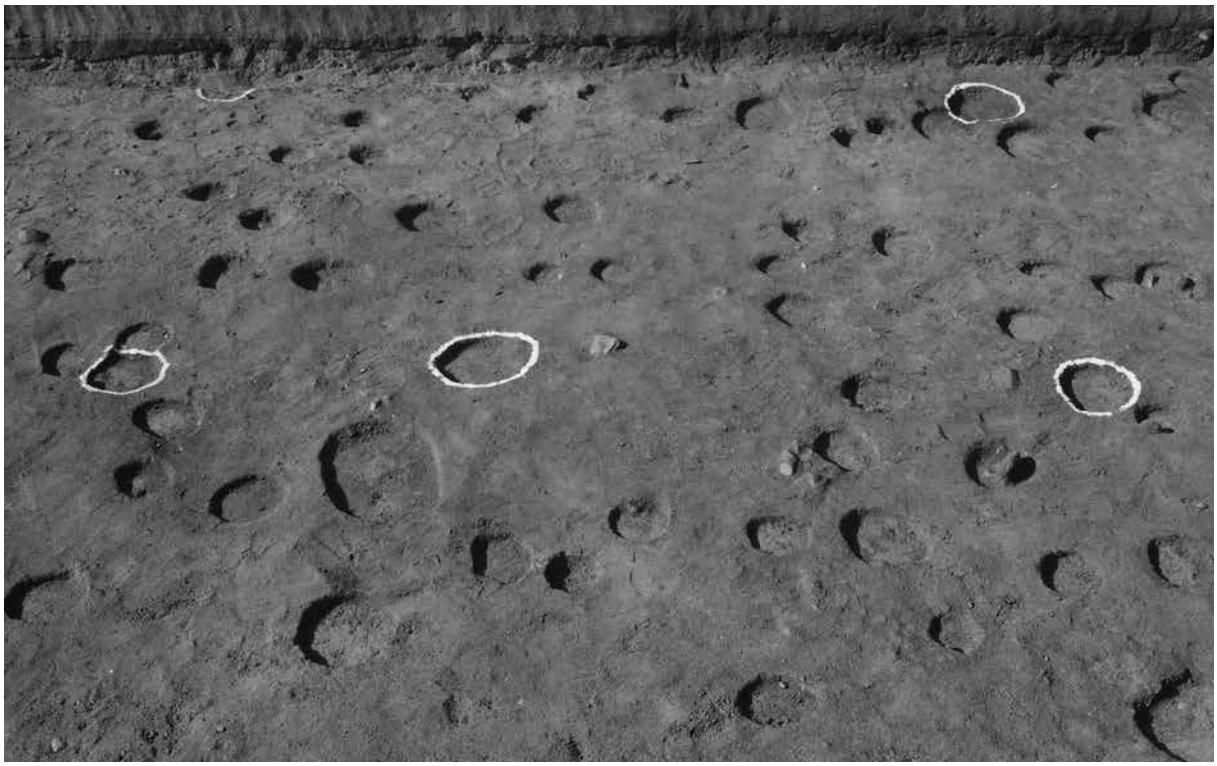


P26（SB20）　南から

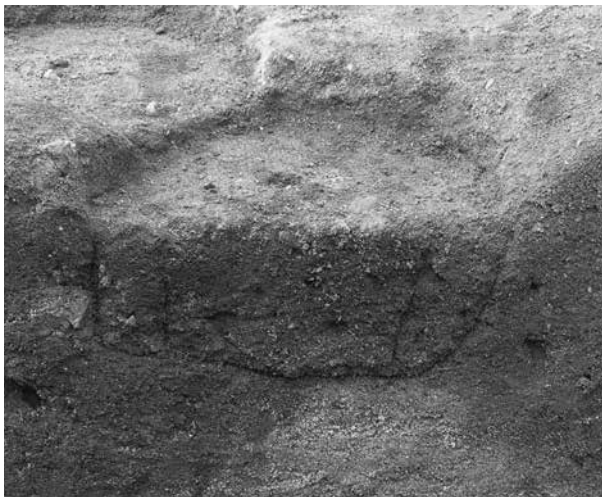
P23（SB20）　南から



P17（SB20）　南から



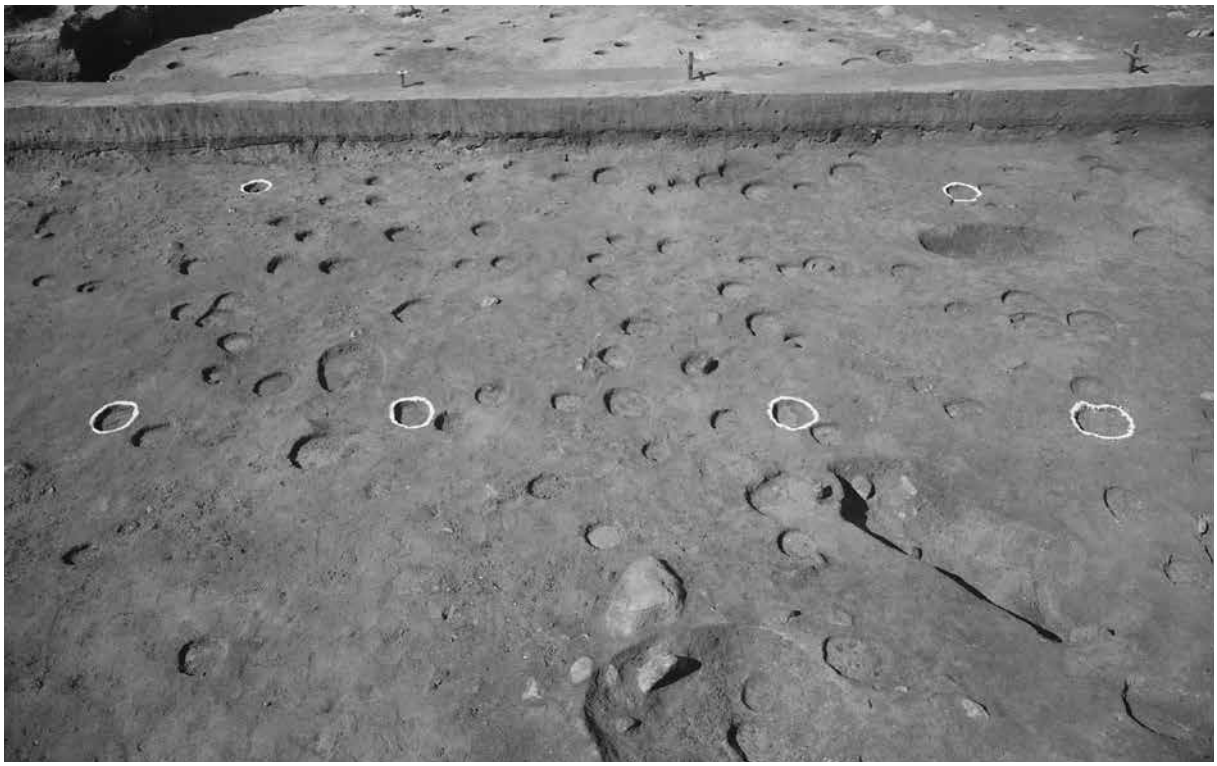
SB21　南から



P650（SB21）　東から

P716（SB21）　東から

P683・P682（SB21）　西から



SB22　南から

写真図版36　遺構

P741（SB22）・P742　東から

P745（SB22）　南から

P700（SB22）・P701　南から

P680（SB22）　西から

P665（SB22）　西から

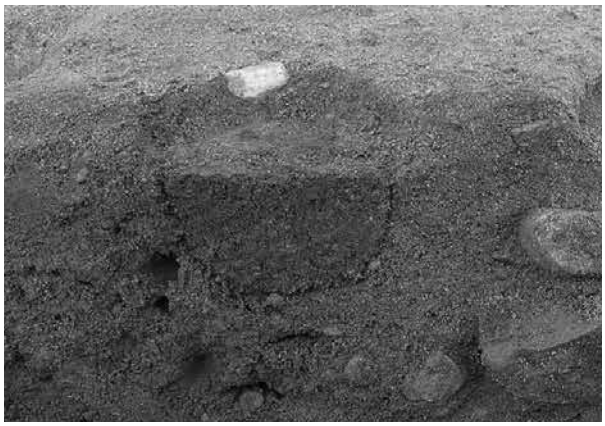
SB23　南東から

P638（SB23）　東から

P724（SB23）　東から

P735（SB23）　東から

P654（SB23）　西から

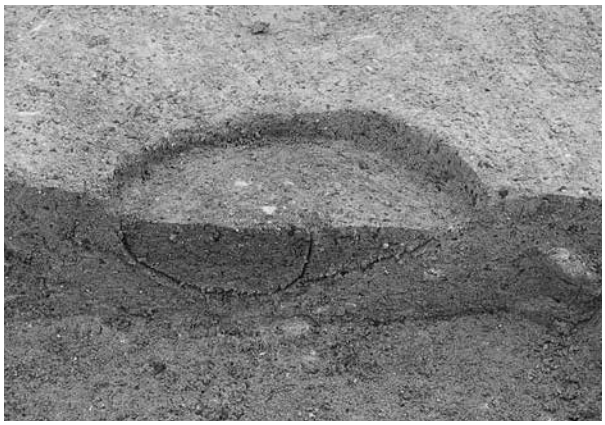


P709（SB23）　西から

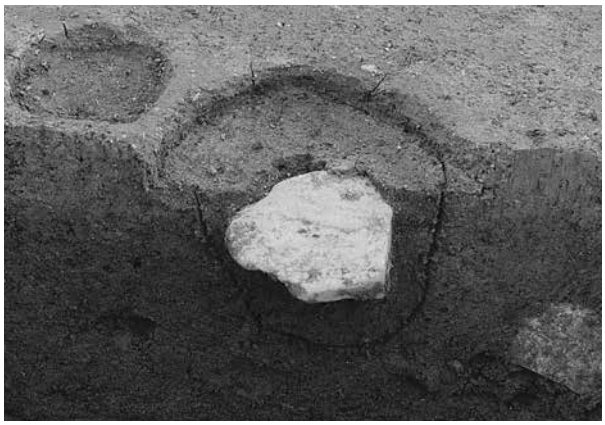
P705（SB23）　西から

P646（SB23）　南から

写真図版38　遺構

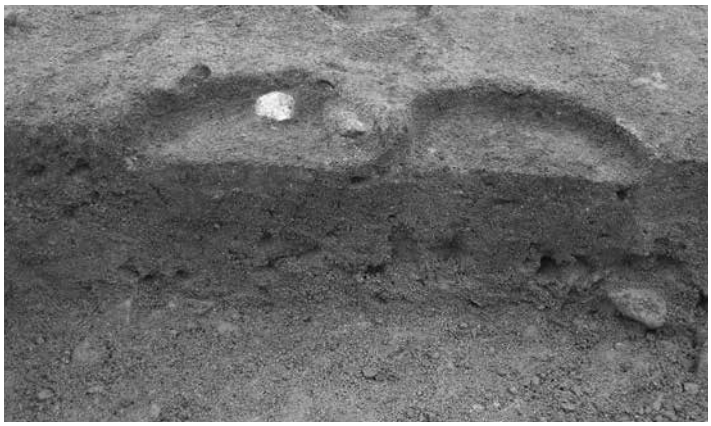


P823（SB24）　北から



P820（SB24）　北から

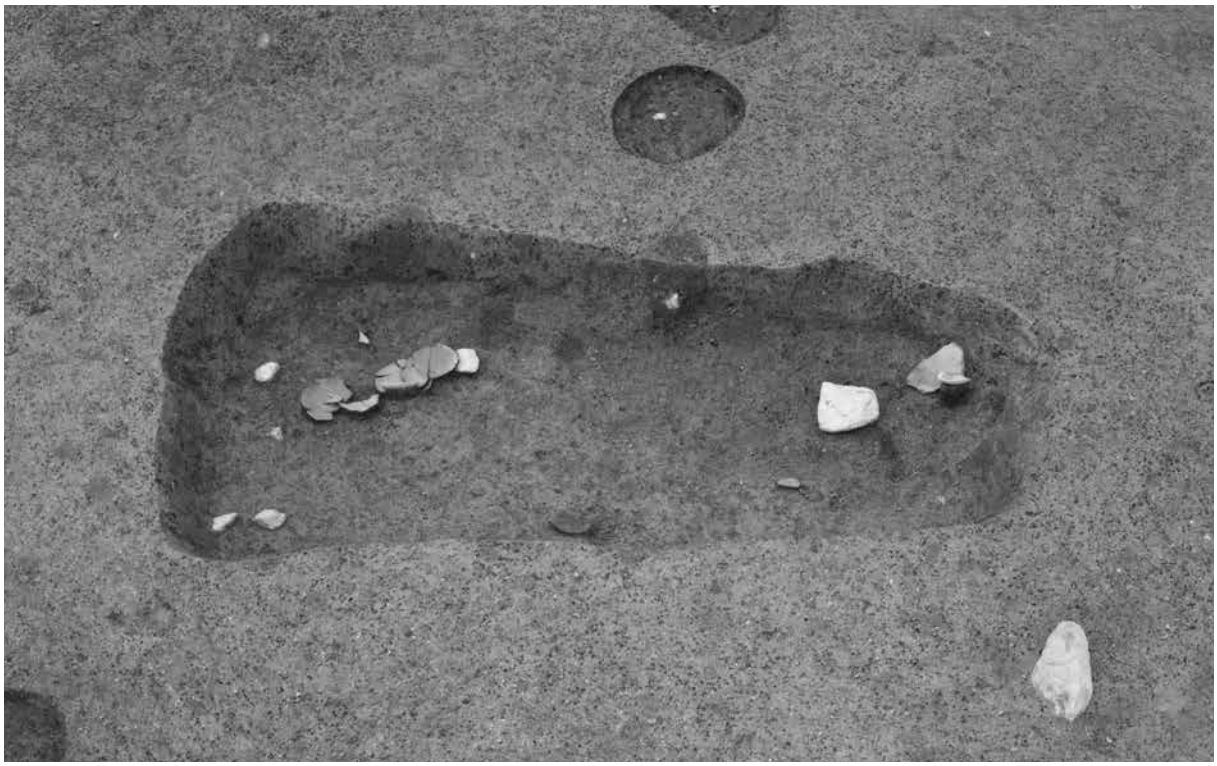
P815（SB24）　北から



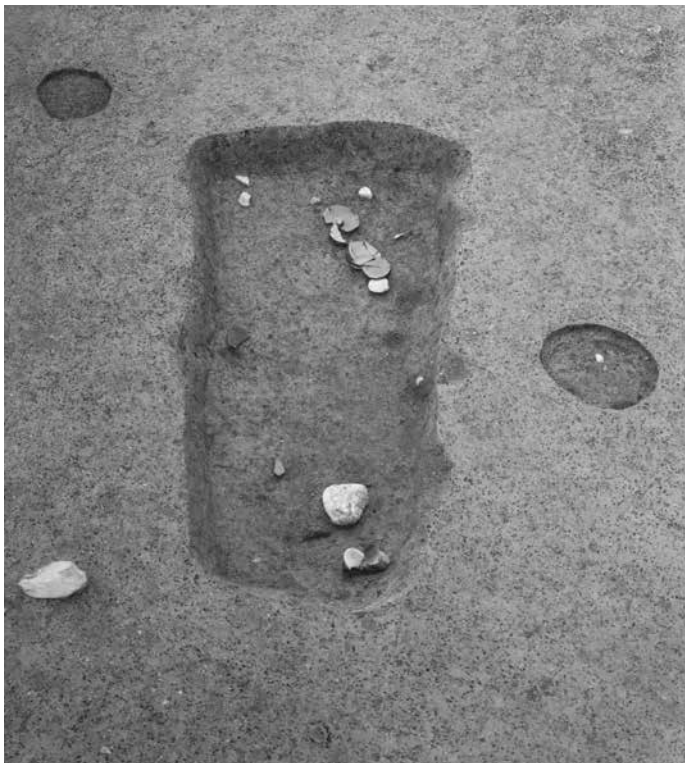
P723・P721（SB25）　東から

P708（SB25）　西から

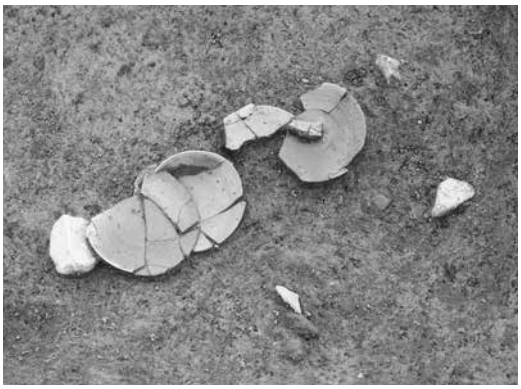
P799（SB26）　東から



Ⅰ区　SK04　南から



Ⅰ区　SK04　東から



Ⅰ区　SK04　土器出土状況　東から

写真図版40　遺構

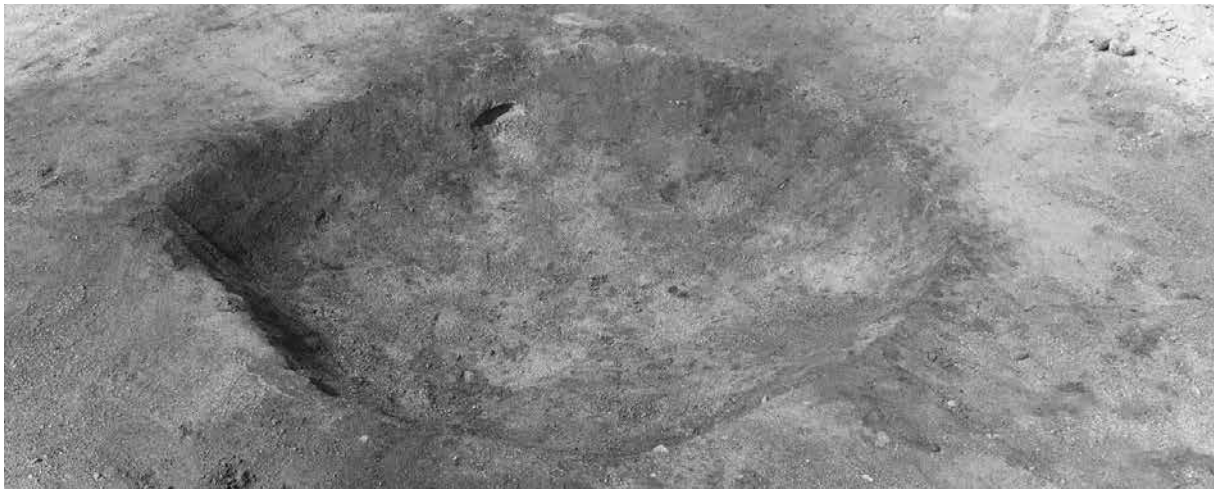
Ⅰ区　SK21　東から

Ⅰ区　SK21　南から

Ⅰ区　SK21　土器出土状況　東から

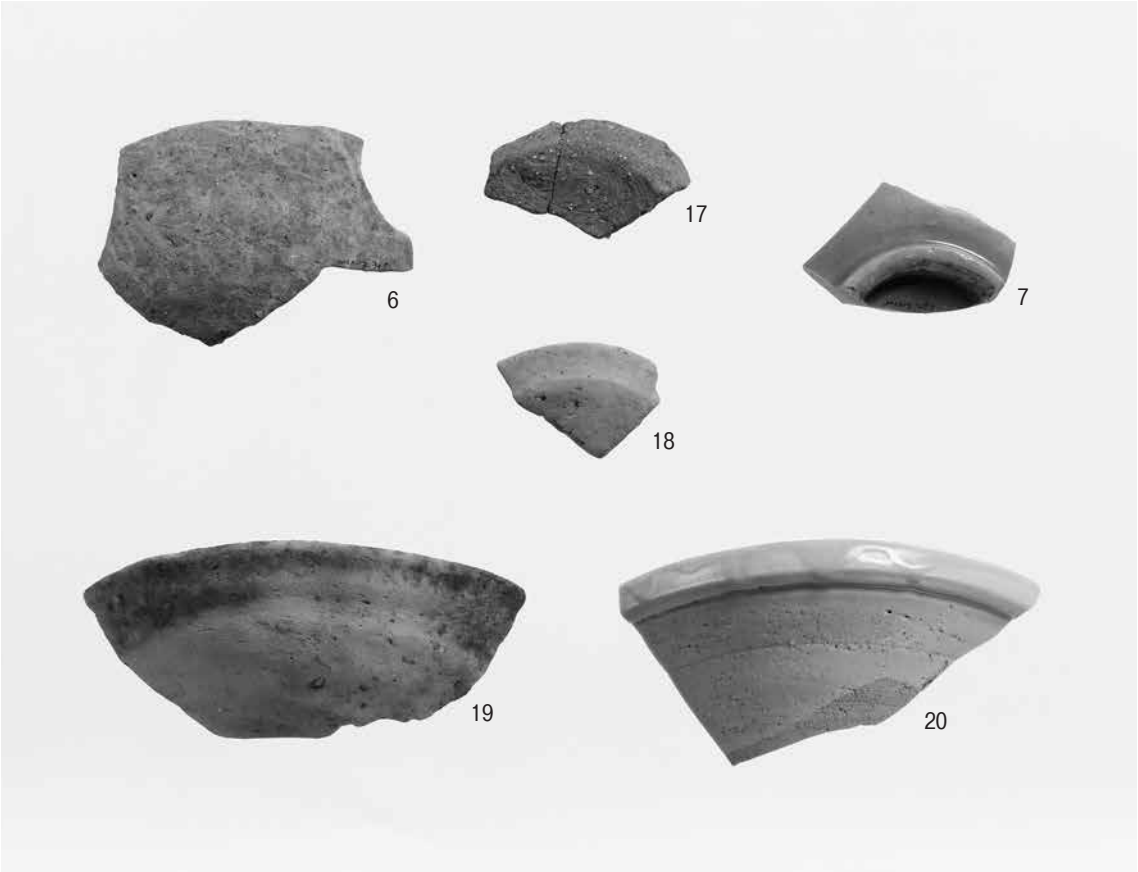
Ⅱ区　SK04　東から

Ⅱ区　SK04　南から

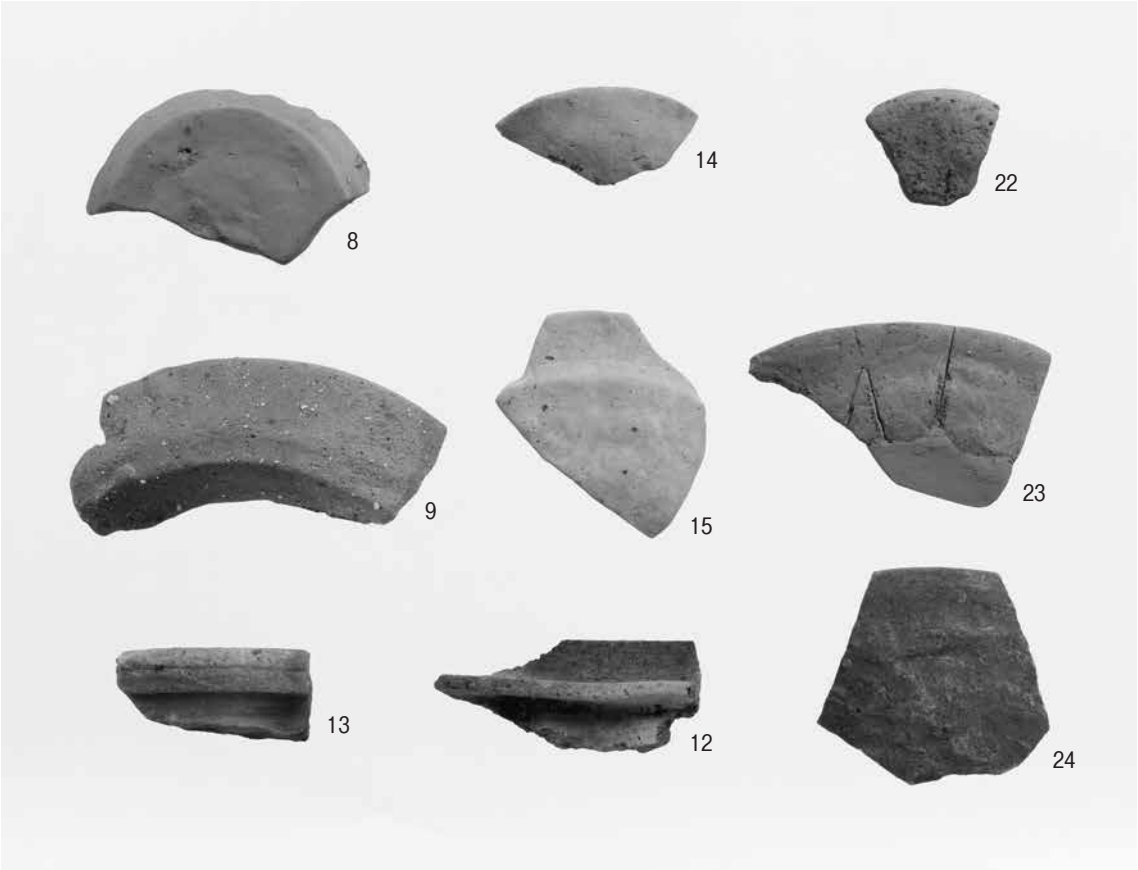


Ⅱ区　SK04完掘　南から

写真図版42　遺物

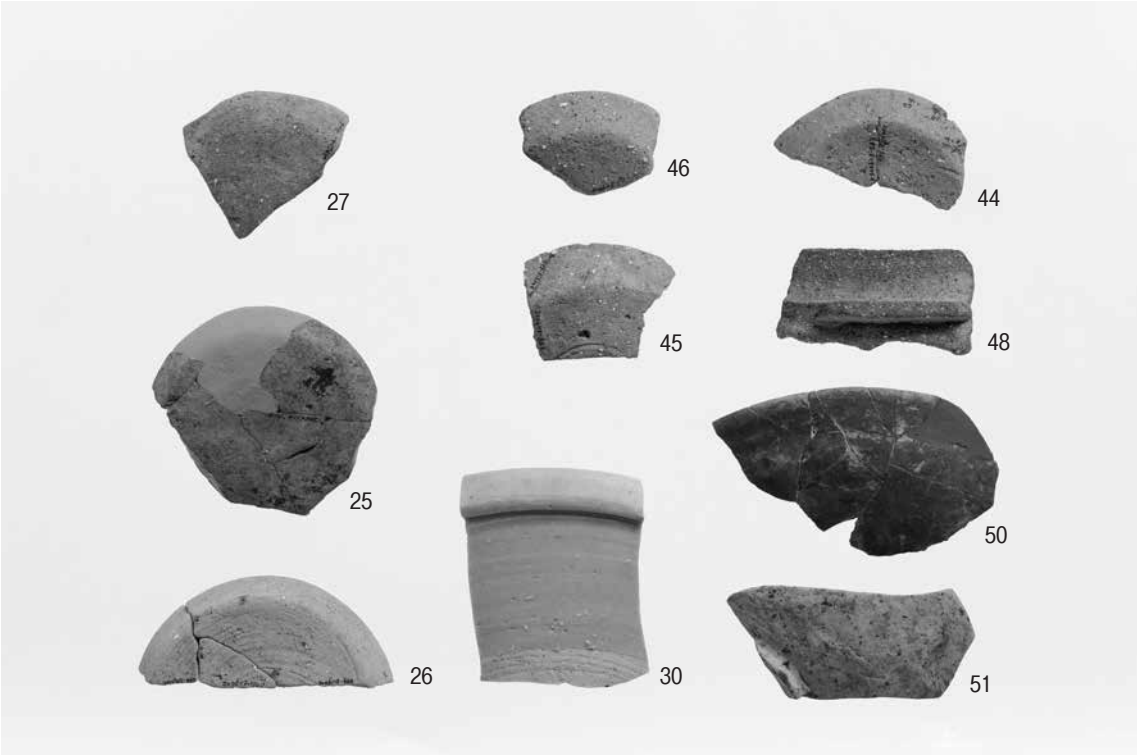


出土土器（1）

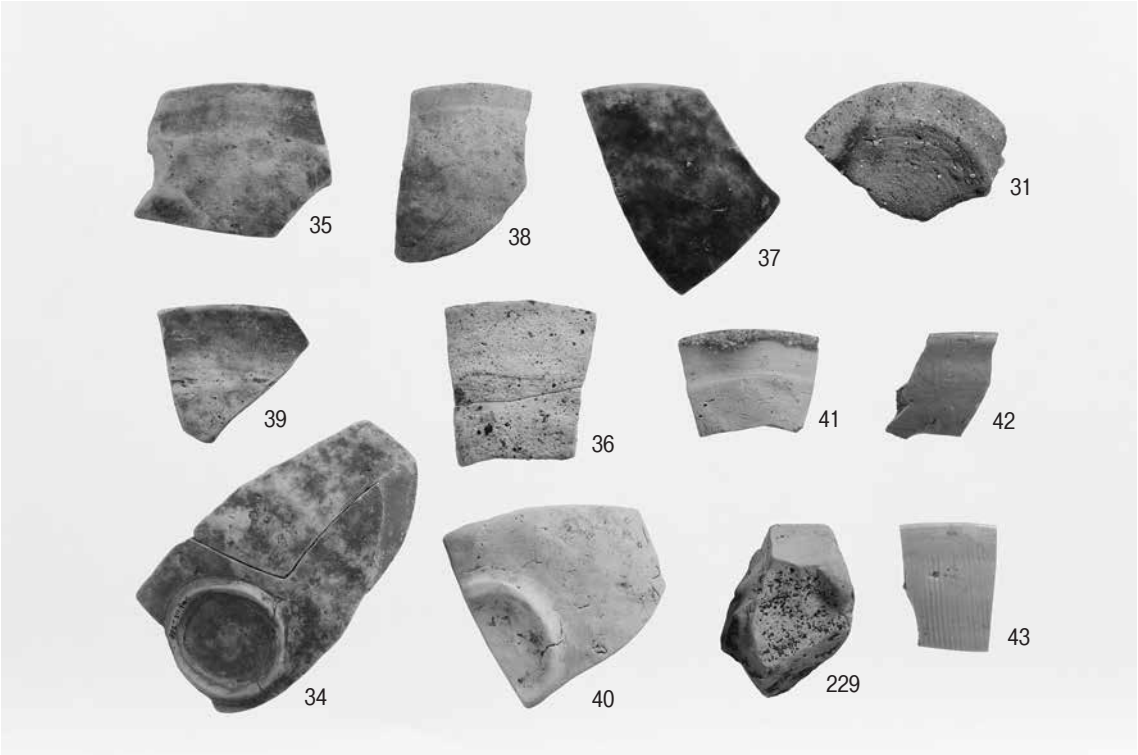


出土土器（2）

写真図版44　遺物



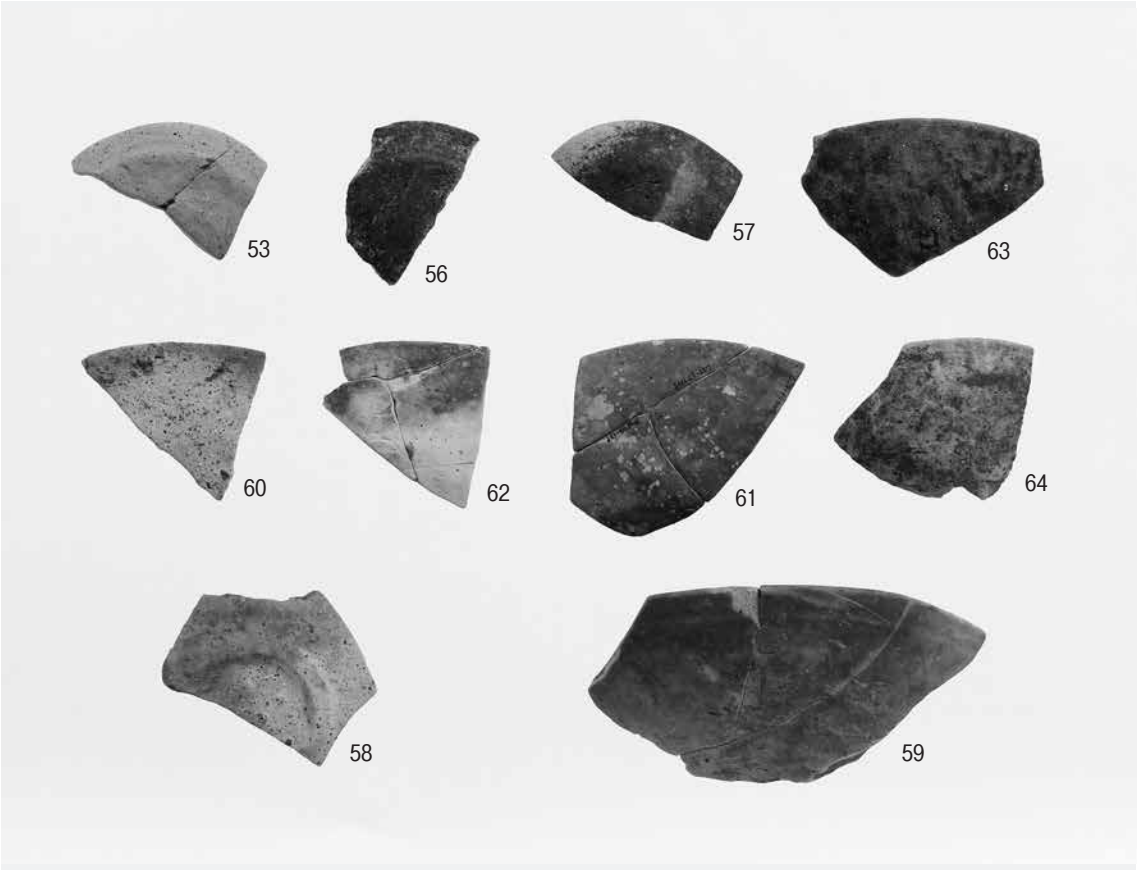
出土土器（3）

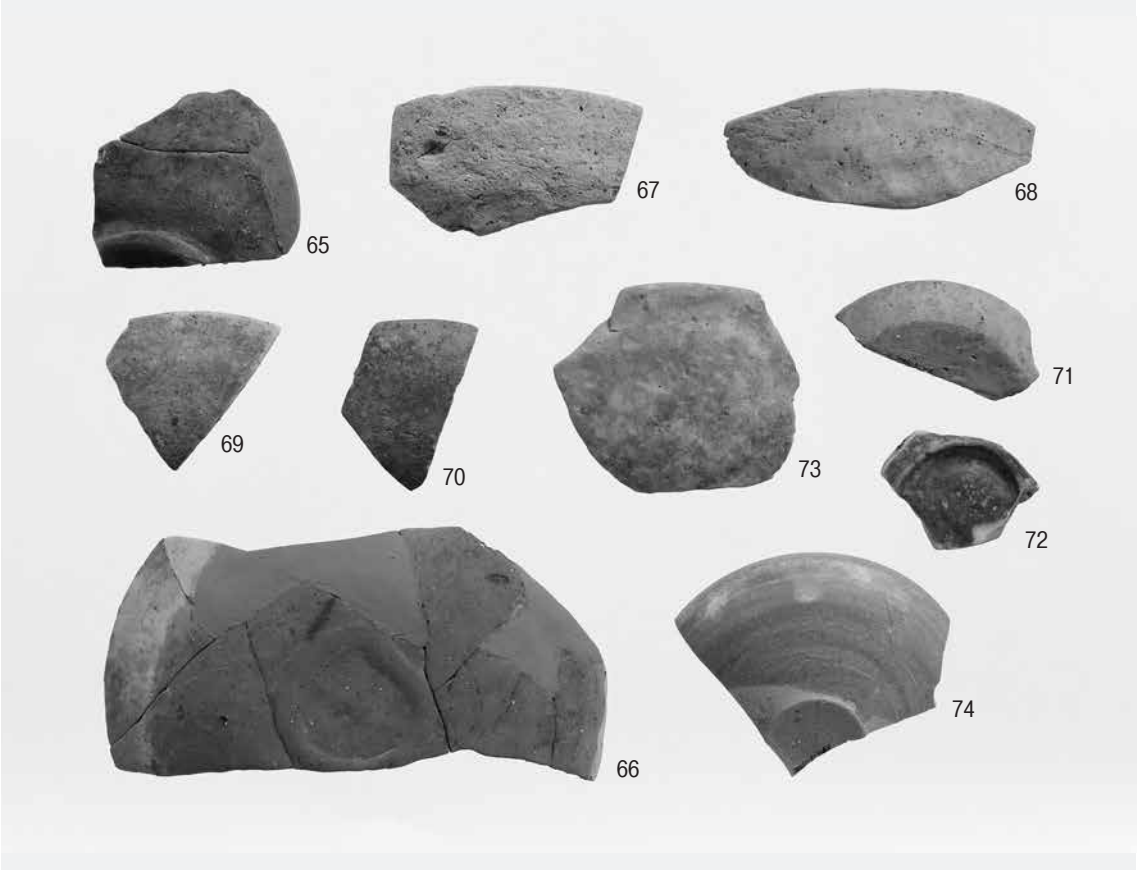


出土土器（4）

写真図版46　遺物

出土土器（5）

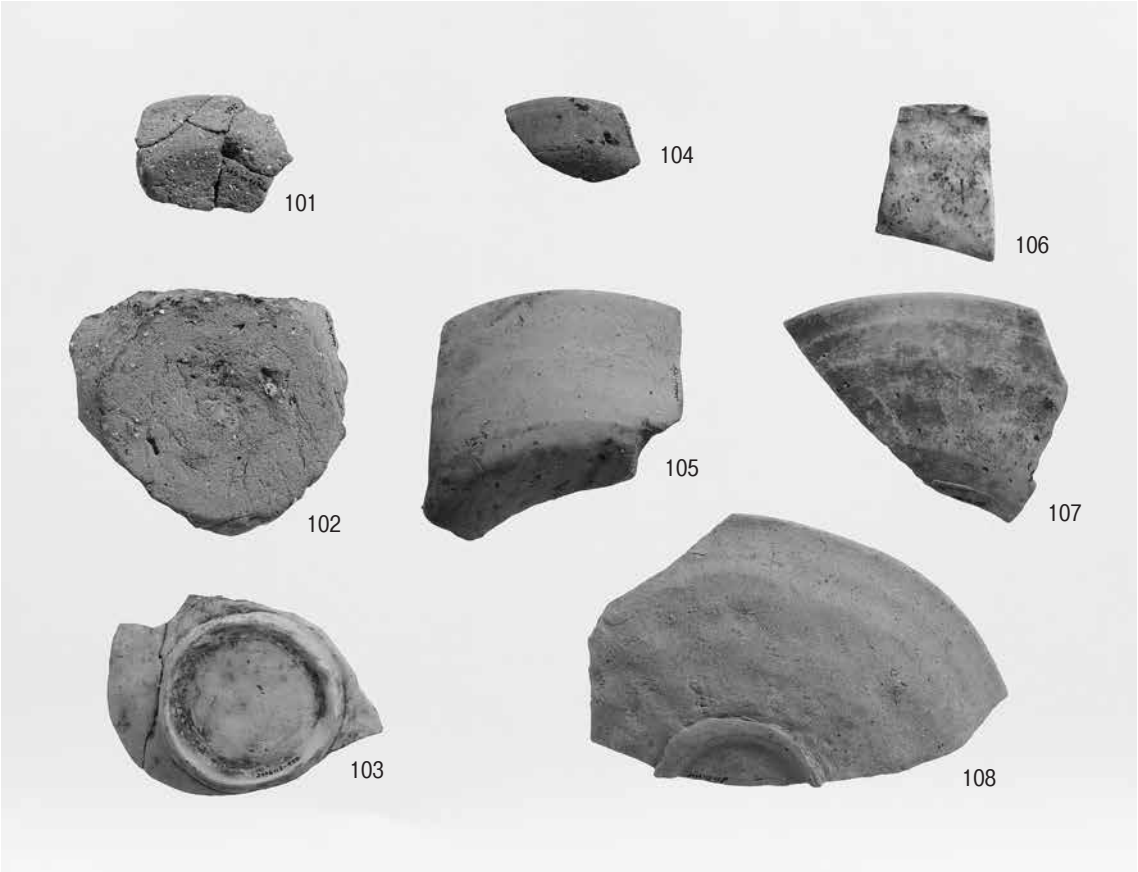




出土土器（6）

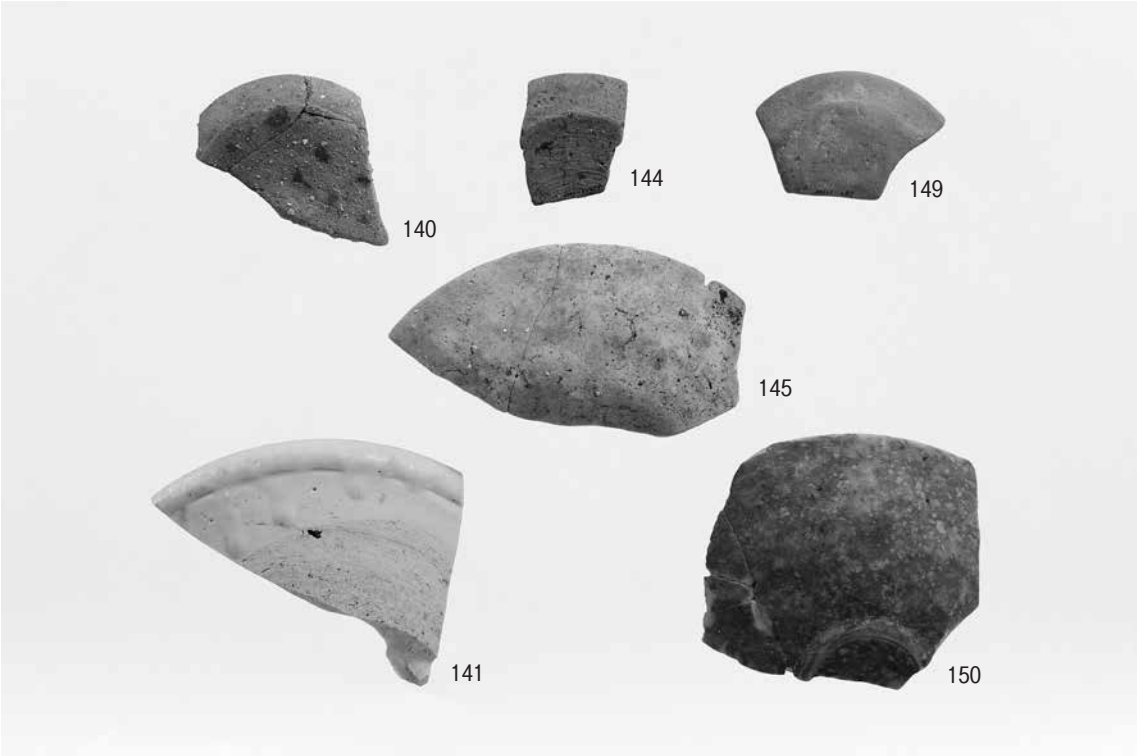
写真図版48　遺物

出土土器（7）

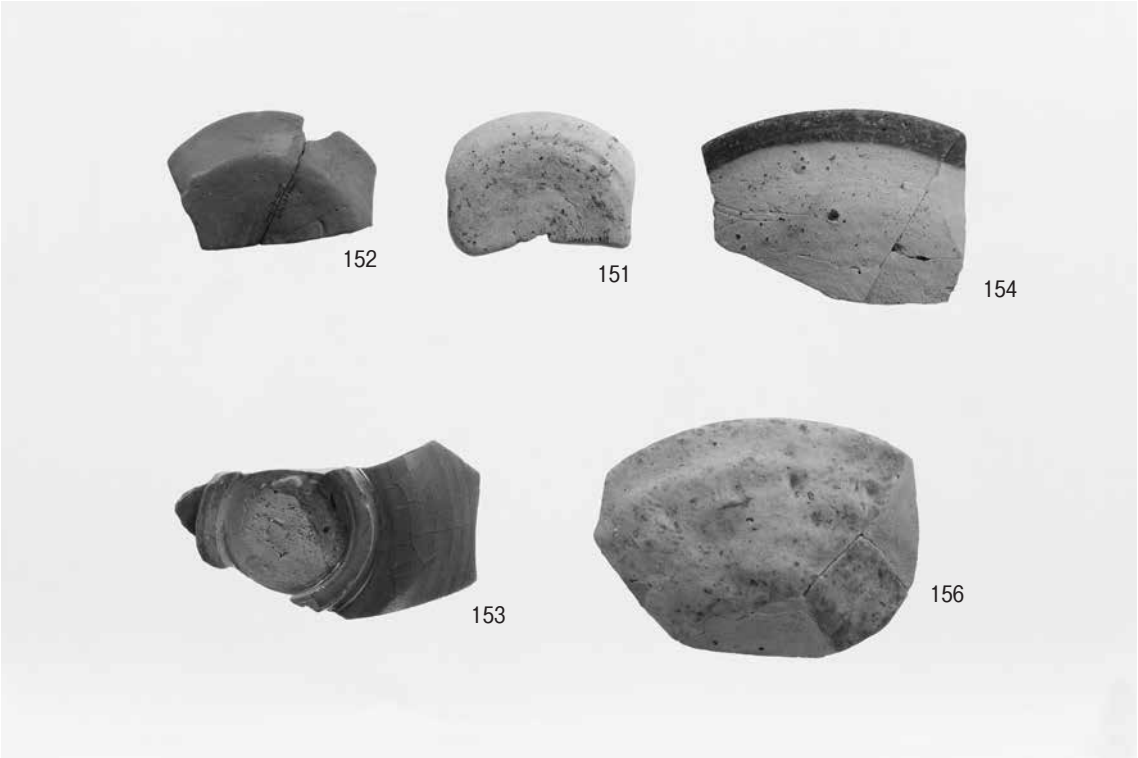


出土土器（8）

写真図版50　遺物

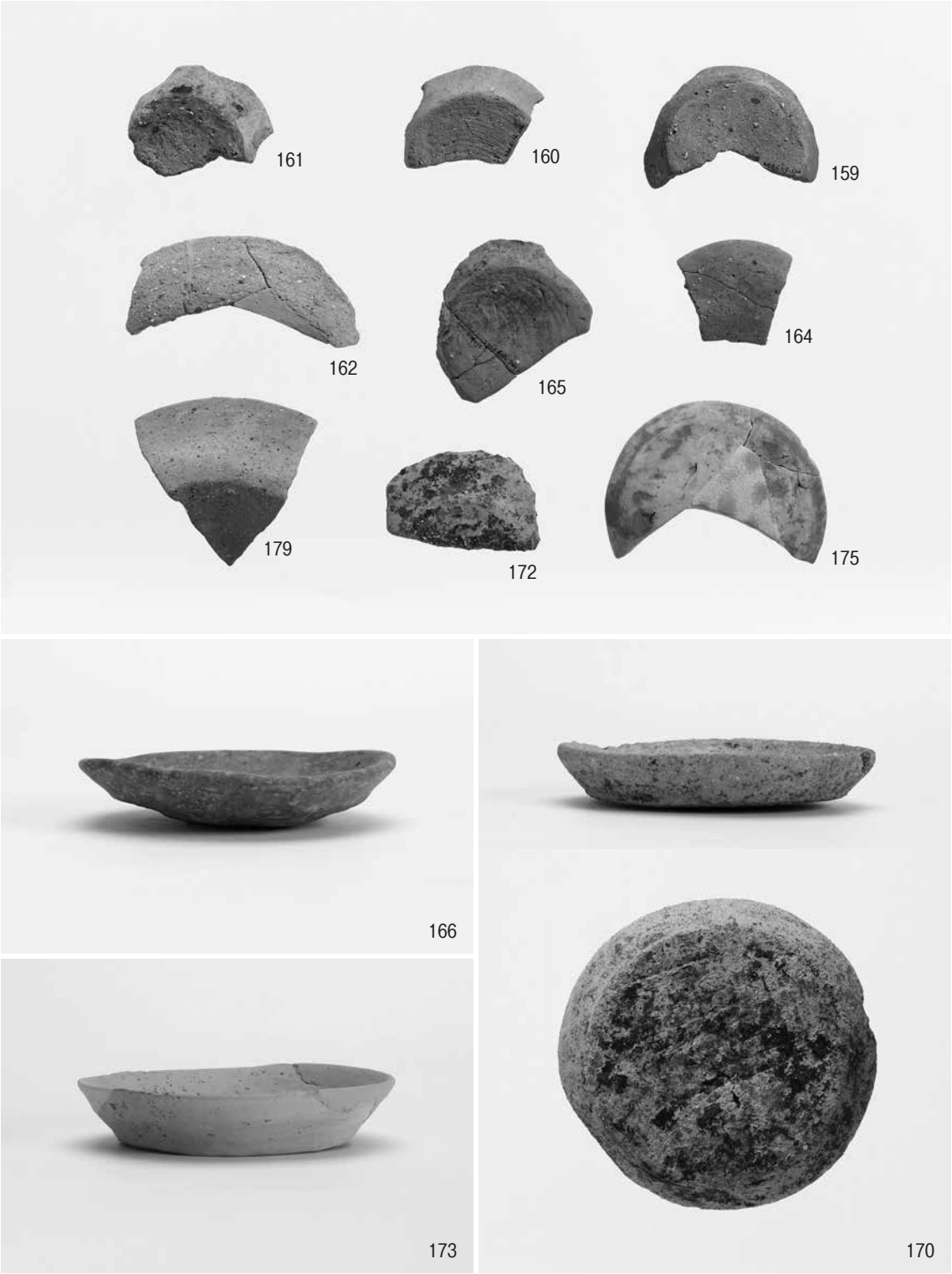


出土土器 (9)



出土土器（10）

写真図版52　遺物



出土土器（11）

171

181

176

183

180

184

出土土器（12）

写真図版54　遺物

185

189

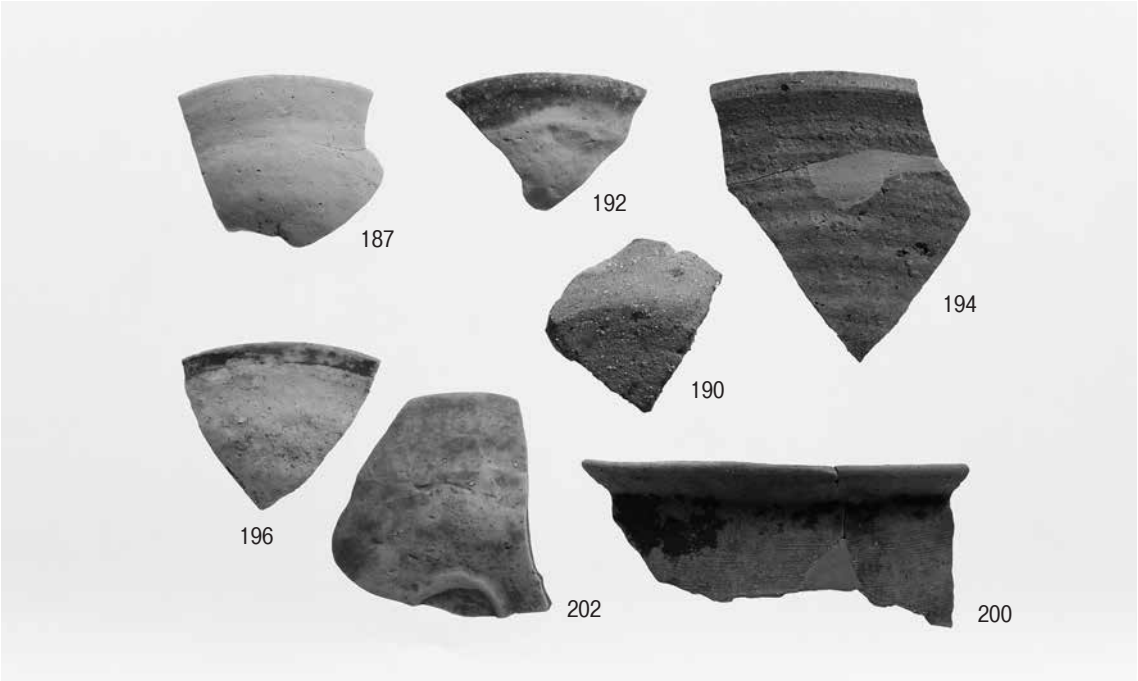
186

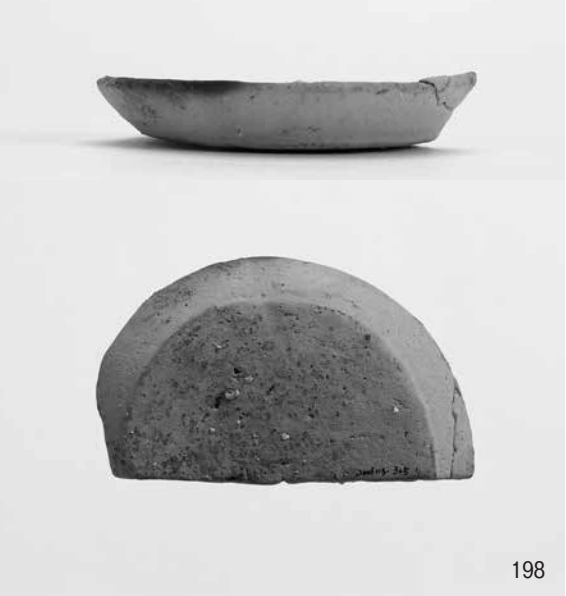
191

188

193

出土土器（13）





出土土器（14）

写真図版56　遺物

207

210

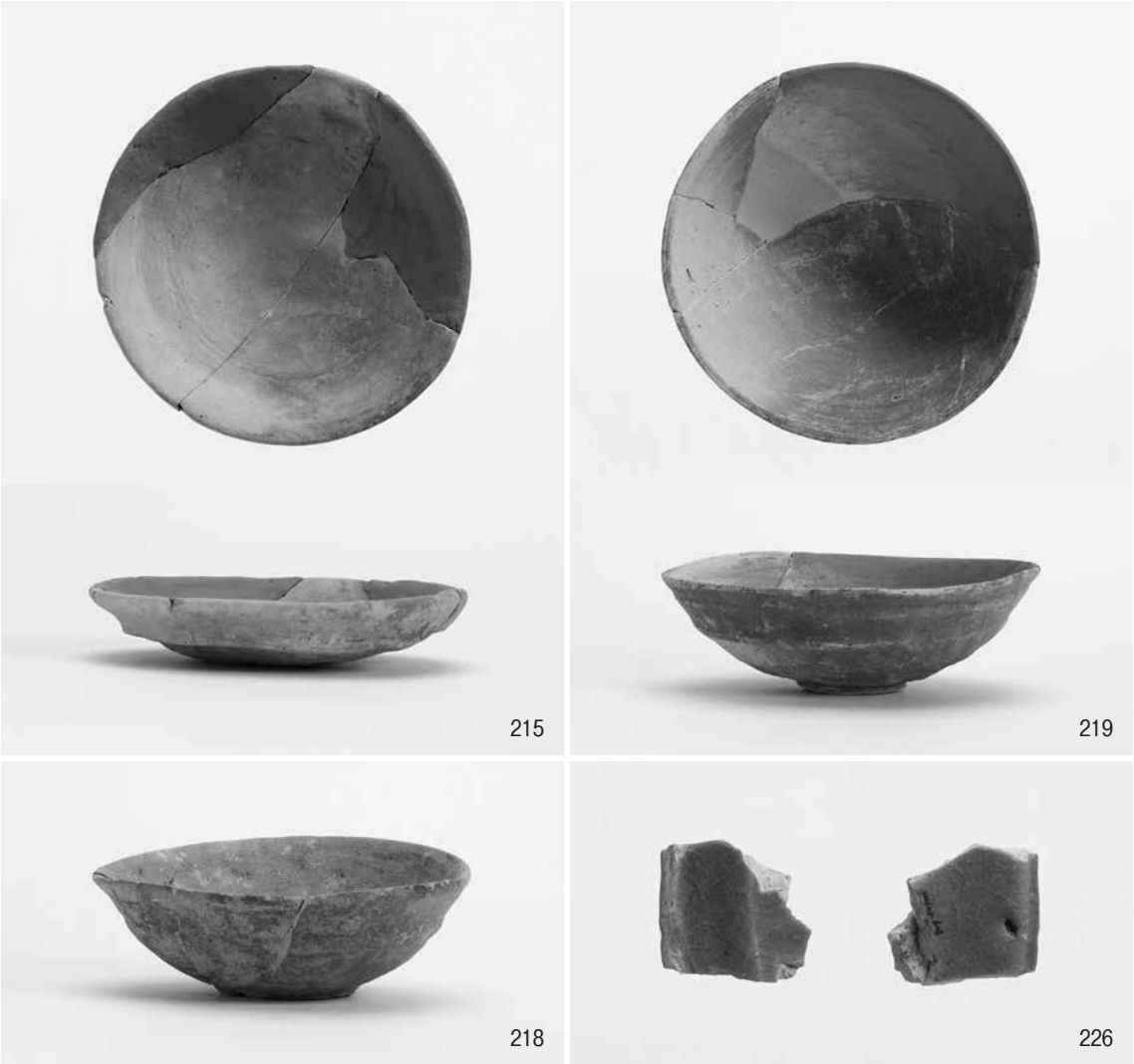
208

211

209

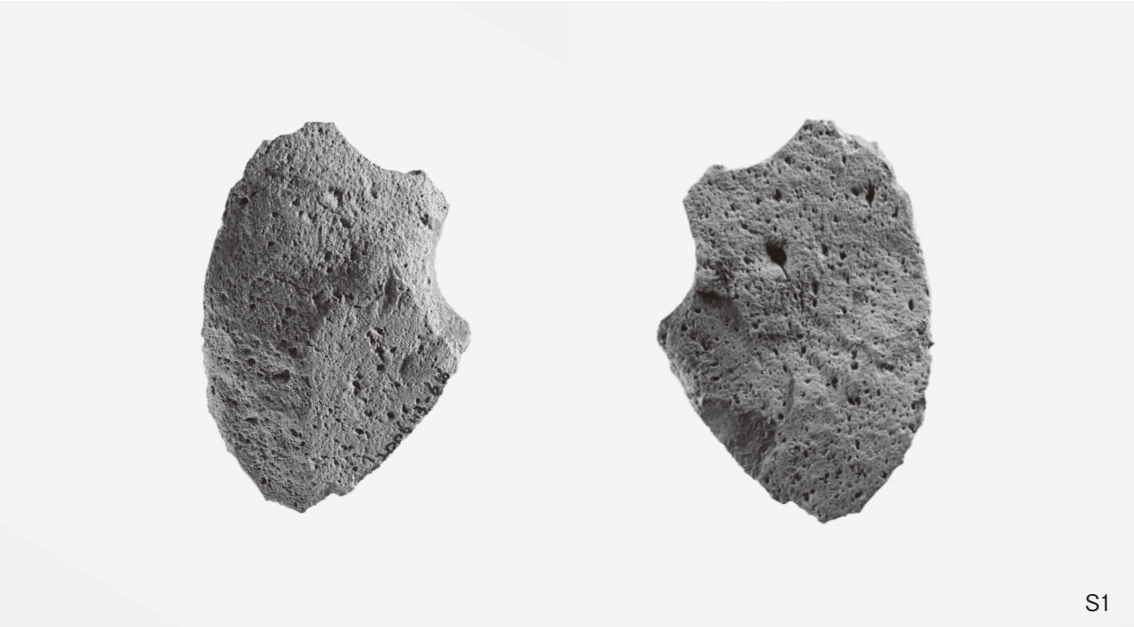
212

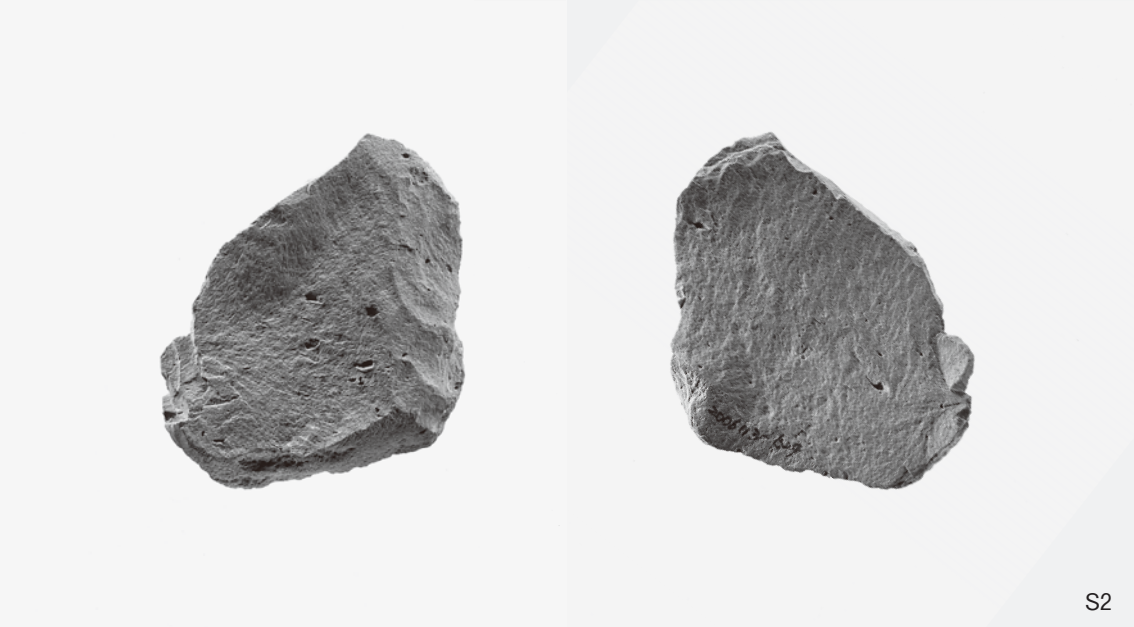
出土土器（15）



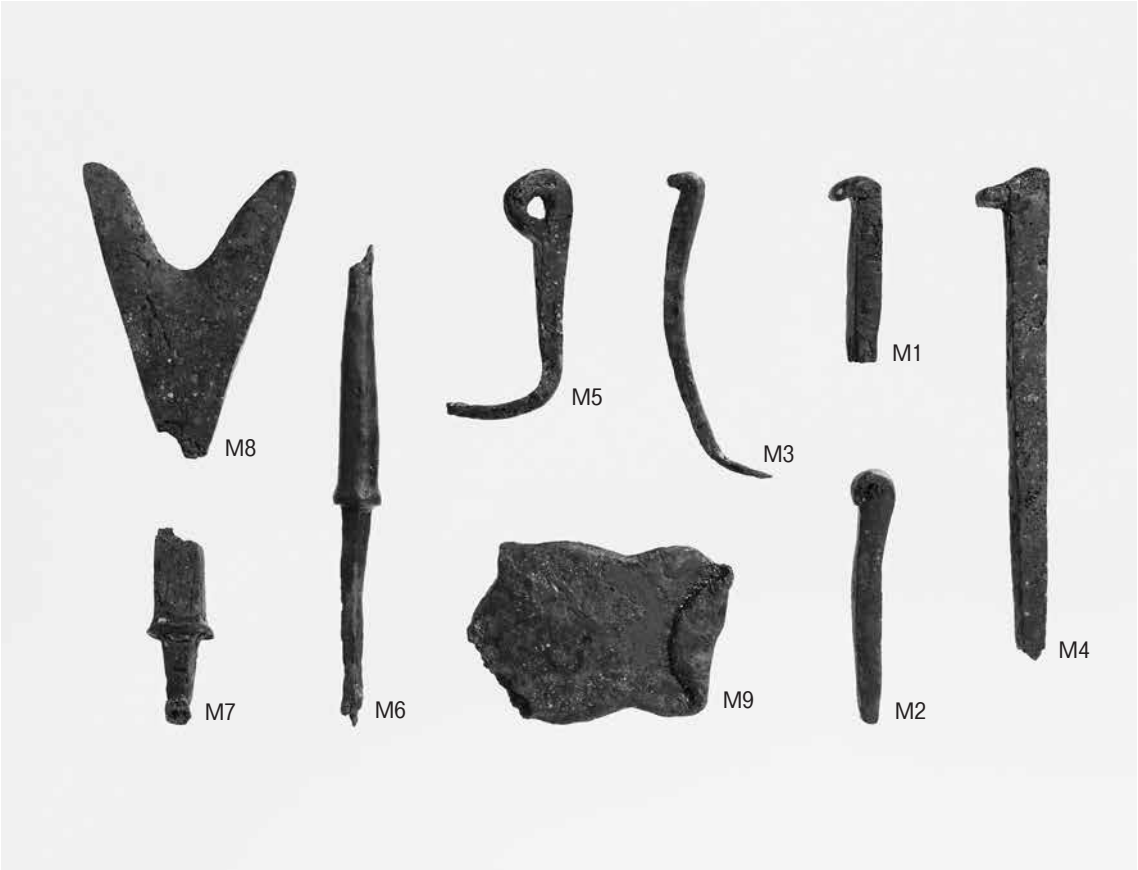
出土土器（16）

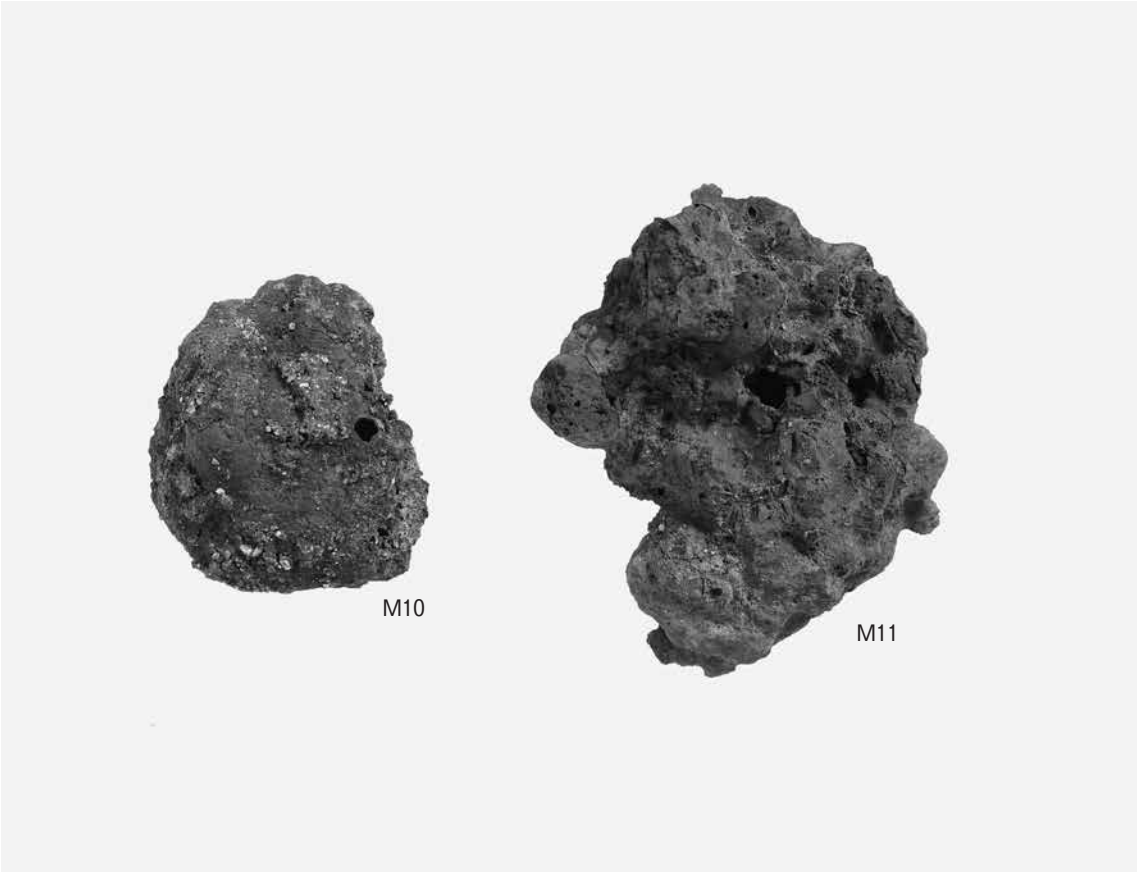
写真図版58　遺物





出土石器・石製品





出土鉄器・スラッグ

報　告　書　抄　録

ふりがな	くぼのむかいいせき
書　　名	久保ノ向遺跡
副　書　名	(二)都志川農業構造改善等関連河川事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告
シリーズ番号	第475冊
編著者名	鐵　英記・山田清朝
編集機関	公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
所　在　地	〒675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中１丁目１番１号(兵庫県立考古博物館内)　TEL 079-437-5561
発行機関	兵庫県教育委員会
所　在　地	〒650-8567　兵庫県神戸市中央区下山手通５丁目10番１号　TEL078-362-3784
発行年月日	平成27(2015)年３月23日
資料保管機関	兵庫県立考古博物館
所　在　地	〒675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中１丁目１番１号　TEL079-437-5589

所収遺跡名	所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間(遺跡調査番号)	調査面積(㎡)	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
久保ノ向遺跡	洲本市五色町鮎原三野畑	28205	920127	34° 23′ 40″	134° 49′ 20″	20070115～20070320(2006113)	1,544㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
久保ノ向遺跡	集落	鎌倉時代	掘立柱建物26棟、柱穴800基、墓３基、など	土師器、瓦器、須恵器、輸入陶磁器(白磁、青磁、染付)	

要　　約	鎌倉時代前半の集落を検出した。検出された掘立柱建物柱建物は出土遺物から見て短期間に何度も立て替えが行われている。 出土遺物は土師器・瓦器を中心とした在地の土器に輸入陶磁器を含むもので、龍泉窯系の優品も含まれることから、一般の集落ではなく、当時北野天満宮領鮎原庄として開発が進んでいた当地の庄官層の屋敷地であった可能性が指摘できる。

※１「遺跡番号」は「兵庫県遺跡地図－第２分冊－(遺跡地名表等)」(兵庫県教育委員会　2011年３月31日発行)による

※２「発掘原因」は地方公共団体が実施する場合、分布調査、試掘・確認調査、保存目的調査、記録保存調査、活用目的調査のいずれかとなる。

※３「種別」は以下を参考にして記入する。
集落・洞窟・貝塚・宮都・官衙・城館・交通・窯・田畑・製塩・製鉄・その他の生産遺跡・墓・古墳・横穴・祭祀・経塚・社寺・散布地・その他

兵庫県文化財調査報告　第４７５冊

洲本市

久保ノ向遺跡

－(二)都志川農業構造改善等関連河川事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成２７（２０１５）年３月２５日　発行

編集：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
〒675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中１丁目１番１号
（兵庫県立考古博物館内）

発行：兵庫県教育委員会
〒650-8567　兵庫県神戸市中央区下山手通５丁目10番１号

印刷：デジタルグラフィック株式会社
〒650-0043　神戸市中央区弁天町１－１